令和２年度 「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰　事例集

No	都道府県市名	市町村名	活動名	活動内容
1	北海道	奥尻町	奥尻町地域学び支援ネット	ふるさとに学ぶ～島民みんなで育てる奥尻の子～
2		士別市	士別市地域学校協働活動	住民と学校と行政が適切な役割分担のもと、 一体的に取組む地域学校協働活動
3		北広島市	放課後子供教室	子どもの学びと安心をみんなで生み出す、支える 「学校と地域は運命協働体」
4	青森県	六戸町	七百中学校学校運営協議会	お年寄りと共に農業体験を通して育つ ～地域を知り、地域とつながり、地域から学ぶ～
5		つがる市	青森県立森田養護学校 コミュニティ・スクール	～太陽に向かってひまわりのように～ 森養コミュニティ・スクールの歩み
6	岩手県	普代村	普代村学校支援地域本部	学校・家庭・地域が連携して子どもを育む ～学校を核とした地域づくりを目指して～
7	宮城県	気仙沼市	津谷中学校学校運営協議会 津谷中応援隊	H29.4　小泉中学校と統合し，コミュニティ・スクールとして 誕生した新生津谷中学校！～津谷中応援隊～
8	秋田県	鹿角市	花輪北小学校地域学校協働活動	子どもは地域の宝，地域とともに育てる学校づくりを目指して
9		井川町	井川町地域学校協働本部	あたたかな心　夢ときめく　ひとづくり ～地域に根ざしたたくましい子どもの育成～
10	山形県	鮭川村	鮭川村地域学校協働本部	子供も大人も共に成長し、地域コミュニティの活性化へ ～一体的な地域学校協働活動～
11		長井市	致芳小学校地域学校協働本部	社会で輝く子供を致芳から～地域で育てる致芳っ子～
12	福島県	天栄村	天栄村地域学校協働本部	ふるさと教育で地域と学校が共に学べる村づくり！
13		会津若松市	大戸地域学校協働本部	地域と学校の効果的な連携による地域学校協働活動
14	茨城県	牛久市	岡田小学校学校運営協議会	地域総ぐるみで子供たちを支え，すべての子供を幸せに！ ～　学校と地域が連携した協働活動を通して　～
15	栃木県	壬生町	羽生田小学校放課後子ども教室	子どもの安全安心な居場所を設け、地域全体で心豊かで 健やかな子どもを育む
16	群馬県	藤岡市	小野連携型小中一貫校地域学校協働本部	「夢に向かってかがやく子」の育成 ーコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の 充実を通してー
17		伊勢崎市	剛志学府	剛志学府　ー地域とともにある学校づくりを目指すー
18		高山村	高山村地域学校協働本部	地域人材を生かし、学校と連携した外国語教育の 充実と国際交流

令和２年度 「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰　事例集

No	都道府県市名	市町村名	活動名	活動内容
19	埼玉県	新座市	野寺小学校学校応援団	「誇り」「共感」「信頼」　地域とともに一人一人が輝く学校づくり ～学校運営協議会を核とした野寺っ子の成長をみんなで支える学校応援団活動～
20		上里町	上里町立長幡小学校　学校応援団	子供・保護者・地域みんなで「学校大好き１００％」
21		上尾市	上尾市立上尾中学校学校運営協議会	市民・県民に誇れるコミュニティ・スクール　上尾中
22	千葉県	多古町	多古高等学校学校運営協議会	高校の魅力アップで存続をめざす。 ～地域で支えるコミュニティスクール～
23		市川市	Firstnik☆ふぁ～すとにぃく☆	夏祭りで“つなぐ”地域の力で子どもたちのために！
24		我孫子市	布佐中学校区地域学校協働本部	子どもたちの豊かな学びを様々な形で地域がサポート ―学習習慣の定着や授業支援から生涯学習の基礎づくりまで―
25	東京都	文京区	駒本小学校学校支援地域本部	「どの子も安心して学校へ通い、学びへの意欲を伸ばすことが出来る」インクルーシブ教育環境を目指して
26		杉並区	杉並和泉学園学校支援本部 ーいずみんなー	「子供が育ち、人が活きる地域」づくり ー学園を支える応援団ー
27		三鷹市	三鷹の森学園 コミュニティ・スクール委員会	地域は学びのキャンパス：子供たちの生きる力を学校と地域で育んでいます
28		板橋区	舟渡小学校支援地域本部	ここから始まる新しい学校 ～地域が全力で応援し、学校の可能性を拓く～
29		多摩市	多摩市立豊ヶ丘小学校地域学校協働本部	緑豊かな学校林でかかわり、つながりを大切に！ ～考え実行する子どもの育成を目指して～
30	神奈川県	鎌倉市	放課後かまくらっ子	「出あう、つながる、ふるさとで自ら育つ」をテーマに、 街の歴史と伝統文化を活かし、地域とのつながりを創る!!!
31	新潟県	村上市	金屋小学校学校運営協議会	地域の特色・地域の力を生かした持続可能で豊かな学びを子供たちに ー　地域も学校も保護者もwin-winな活動を目指して　ー
32		湯沢町	湯沢学園地域学校協働本部	湯沢町を誇りに思い、次代を担う、たくましく生きる子どもの育成 ～オール湯沢で取り組む学園支援～
33		上越市	城北中学校区子どもを育てる会	城北「愛」-Partnershipで地域を笑顔に-
34	石川県	能美市	福岡小学校学校運営協議会	「子供は地域の宝」 ～学校は地域と共に！地域は学校の応援団～
35		珠洲市	三崎地区学校運営合同協議会	三崎の豊かな自然・人・結びつきを生かして ～学校・家庭・地域の強い絆づくり～
36		かほく市	高松中学校学校運営協議会	ふるさとに愛着と誇りを持ち、人と地域を愛する生徒の育成

令和２年度 「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰　事例集

No	都道府県市名	市町村名	活動名	活動内容
37	長野県	阿智村	阿智村 小中学校コミュニティ・スクール	阿智村に育つすべての子供たちに「確かな学力」と「未来を切り拓く生きる力」を！
38		大町市	八坂学校協働隊	地域で学ぶ、地域を学ぶ、地域の人とともに学ぶ八坂の子どもたち
39	岐阜県	揖斐川町	地域で育て、地域に戻り、地域を支える揖斐高生	「おらが町」がONE TEAM　～ふるさとで生きる力を育む～
40		土岐市	土岐市立妻木小学校「地域・学校づくり協議会」	ふるさと大好き　妻木っ子～地域と学校が連携し、よりよい地域社会人を育てる～
41		高山市	東山校区つながりの会	共に生きる東山
42		多治見市	土岐川及びその支流の小さな自然再生	地域の教育資源を活用した「地域課題探究型学習」
43	静岡県	掛川市	桜が丘中学校区子ども育成支援協議会	中学校区学園化構想のもと、地元を愛する子どもの育成活動
44	愛知県	北名古屋市	北名古屋市立師勝北小学校地域学校協働本部	地域とともにある学校づくり～子どものよさを伸ばす地域学校協働活動～
45		半田市	半田市放課後子ども教室さくらっ子クラブ	「子供たちと地域の大人がふれあう、安心・安全な居場所づくり」子供も大人も笑顔で楽しく！
46		あま市	あま市地域学校協働本部	地域とつながる学校づくりをめざして
47	三重県	名張市	南中学校区地域学校協働活動	次世代を担う小・中学生が地域を活性化していく
48		木曽岬町	木曽岬町学校支援地域本部	木曽岬子ども未来塾を中心とした地域の力による「明日への希望プロジェクト」
49		四日市市	四日市市立四郷小学校コミュニティスクール運営協議会（くろがねもち協議会）	ふるさと「四郷」を誇れる子どもの育成～人・伝統・自然から学ぶ～
50	滋賀県	近江八幡市	老蘇小学校地域学校協働本部	もっと老蘇を好きになる老蘇っ子の「ふるさと学習」
51		高島市	新旭地域学校協働本部	地域と学校がつながり響き合う教育を目指して～新旭地域学校協働本部～
52		草津市	老上ふれあい農業合校	手をつなぎ、心通わす　誘（ゆう）・融（ゆう）（とけ合う）老上
53	京都府	京田辺市	京田辺市立普賢寺小学校　なのはな委員会	地域と学校が協働して創る、子どもたちを心豊かで健やかに育てる環境づくり～「地域を誇れる子ども」「自分の学校を誇れる子ども」の育成を目指して～
54		南丹市	美山地域学校協働本部	地域みんなで美山の子どもたちの未来を考える～「地域とともにある学校づくり」を通して～
55	大阪府	堺市	堺支援ふれあい広場	歴史ロマンの街、堺でつくろう！共に生きる社会を！～地域・関係団体・学校とのつながりを育みながら～

令和２年度 「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰　事例集

No	都道府県市名	市町村名	活動名	活動内容
56	兵庫県	播磨町	地域の教育力向上事業運営委員会	″つながる地域 が/を 育む子ども″まちぐるみで子どもの育ちを！
57		稲美町	母里小学校地域学校協働本部 （もりっこ本部）	人と人をつなぐ　「母の里」から未来へつなぐ 「もりっこ本部」 ～レッツ母里っ子未来塾と土曜体験活動～
58	奈良県	生駒市	壱分小学校地域学校協働本部	心豊かにたくましく生きる子を育む地域学校協働の輪 -地域とともに育つ子ども・学校をめざして-
59		五條市	牧野小学校コミュニティ協議会	地域とつながるクラブ活動
60		奈良市	地域と共にある学校づくり	ここにあってよかった奈良西養護学校 -児童生徒・保護者・教職員・奈良西帝塚山地域の人々、 皆がこう思える学校-
61	和歌山県	橋本市	橋本高等学校・古佐田丘中学校 中高一貫学校地域連携推進委員会	中高一貫教育校としての地域貢献 （橋本高等学校・古佐田丘中学校コミュニティースクール）
62		海南市	ななさと共育コミュニティ	北野上の未来を担う子供たちの育成
63		みなべ町	清川地域・学校協働活動	地域が子供を守り、学校が地域を動かす力になる
64		新宮市	神倉小学校運営協議会	ヤタガラス子ども未来プロジェクト ～ふるさとの未来を託せる子供の育成～
65	島根県	大田市	志学小中学校　地域学校協働活動	まちづくりの一躍を担う　地域学校協働活動
66	岡山県	美作市	【美作市】ハートフルＡＩＤＡ ～１５年を見通した持続可能な取組～	コミュニティスクールと保幼小中一貫教育！ ～連携と協働による学校経営～
67			学校と地域の協働による“閑谷學”	地域と県立高校の協働による魅力化 -持続可能な地域の形成を目指して-
68	広島県	大崎上島町	広島県立大崎海星高等学校 魅力化プロジェクト	輝志海星！”教育の島”発，地域と協働した高校魅力化の実現
69		府中市	栗生小学校学校運営協議会	子供も地域も輝くクリティー・スクール ～自ら開こう　未来の扉～
70	山口県	光市	島田川協育ネット協議会	めざす子ども像～地域とつながり、感謝や思いやりのある 島田川っ子～
71		防府市	防府商工高等学校運営協議会	シビック・プライドの醸成 ～まちの課題を「自分ごと」としてとらえるために～
72		和木町	和木町放課後子ども教室 「わきあいキッズ」	町ぐるみ「和木学園構想」における放課後子ども教室 「わきあいキッズ」の取組
73	徳島県	勝浦町	勝浦町学校支援地域本部	地域ではぐくむ「勝浦っ子」 ー地域の宝は地域で守り、育てるー

令和２年度 「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰　事例集

No	都道府県市名	市町村名	活動名	活動内容
74	愛媛県	西条市	田滝地域学校協働活動	田滝だからできる　田滝にしかできない教育を地域とともに！
75		宇和島市	城南中学校地域学校協働活動	光り輝け　城南プライド ～地域住民とともに～
76		大洲市	平野小・中学校地域学校協働活動本部	地域とともにある小中一貫教育の推進 ～地域とともにある学校・学校とともにある地域づくりを目指して～
77	高知県	黒潮町	三浦の子どもを育てる会	学校・家庭・地域の協働を基盤に地域を担う人材育成
78		香南市	東の子ども応援隊	安心安全な学校・地域づくり ーできる時に できる人が できることをー
79		土佐市	波介小学校地域学校協働本部	学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供たちを見守り育てる
80	福岡県	春日市	須玖小学校　地域学校協働本部	「みとめ　はげまし　ほめる」　須玖小学校区 ～地域学校協働活動推進員がつなぐ， コミュニティ・スクールと協働活動の一体化
81		宗像市	日の里学園運営協議会	地域を愛し，自分で考え自分で行動する子どもの育成 ～小中一貫コミュニティ・スクールの推進を通して～
82		桂川町	桂川町学校支援地域本部	みんなで支える桂川の学校 みんなで育てる桂川の子ども
83	長崎県	壱岐市	志原っ子育成協議会	みんなで育てる志原っ子　～地域の子どもは地域で育てる～
84		五島市	一歩前の会	生きる力を身に付けた笑顔あふれる岐宿っ子の育成 ～家庭・地域・学校の連携・協働を通して～
85		佐々町	佐々小応援団	みんなでよってたかって笑顔輝く佐々っ子を育てよう
86	熊本県	氷川町	氷川町立竜北東小学校 学校運営協議会	「ふるさとを愛し、夢をもって学び続ける児童の育成」 ～学校運営協議会の活動を通して～
87		菊池市	菊池市立菊池南中学校地域学校協働活動	「未来創造」持続可能な社会を目指し行動する生徒の育成 ～五者連携の構築～
88		玉名市	玉名市立玉陵小中学校 学校運営協議会	『玉陵は一つ』　未来へつなぐ！地域学校協働活動 ～地域の教育力を生かした小中一貫教育～
89	大分県	佐伯市	本匠地区協育ネットワーク会議	ふるさとの伝統芸能で学校と地域をつなぐ取組み
90		宇佐市	西馬城放課後チャレンジ教室	地域が学校と子どもを支える! ～笑顔と元気をもらいながら～
91	鹿児島県	志布志市	蓬原小学校運営協議会	故郷「蓬原」のよさを未来につなぐ「よもぎっ子」の育成
92		指宿市	今和泉小学校区地域学校協働活動	地域の中に学校，学校の中に地域を！！ ～地域ぐるみによる子どもの育成～
93		伊佐市	牛尾校区コミュニティ協議会	地域のあたたかい見守りで，安心・安全・牛尾っ子

令和２年度 「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰　事例集

No	都道府県 市名	市町村名	活動名	活動内容
94	沖縄県	名護市	緑風学園学校運営協議会	笑顔と緑と夢のある学校　信頼される学校を目指して ～地域と共にある学校の推進～
95		名護市	屋我地ひるぎ学園学校運営協議会	地域に誇りと愛着を持ち、 たくましく生き抜く屋我地っ子の育成を目指して
96		うるま市	南原小学校地域学校協働本部	学校と家庭と地域が協働し、地域の子供とともに再発見！ ～人と人がつむぐきずなの実感～
97	埼玉県 さいたま市	さいたま市	谷田小学校 スクールサポートネットワーク	豊かな心と豊かな学びを育む地域学校協働活動 ～スクールサポートネットワークを活かして～
98		さいたま市	さくら草 スクールサポートネットワーク	さくら草　明日に夢ネット！ ～ノーマライゼーション社会の基点として，地域との 共生意識の涵養～
99		さいたま市	桜山中学校 スクールサポートネットワーク	学校運営協議会を核とした地域の絆づくり活動
100	神奈川県 横浜市	横浜市	西が岡小学校地域学校協働活動	地域と学校をつないで西が岡の子どもたちに大きな心の 財産を！ ～色とりどりの豊かな活動「地域交流室」～
101		横浜市	下野谷小学校地域学校協働活動	地域や保護者の想いを集めた「したのやおひさまクラブ」に よる教育の創造
102	新潟県 新潟市	新潟市	臼井小学校地域学校協働本部	「臼井のいいね！」を発見・体験・実感して発信しよう ～臼井小だからこそできる特色ある教育活動の推進～
103		新潟市	小須戸中学校地域学校協働本部	小須戸チャレンジ 地域に貢献 ～中学生の私たちも地域の一員～
104	京都府 京都市	京都市	山階学校運営協議会 「あいあい山階」	創立１５０年　山階地域の底力 ～「であい・ふれあい・ささえあい」　すべては地域の 子どものために～
105		京都市	京都大原学院学校運営協議会	「結いの里」大原で，子どもたちと地域の未来をつくる ～「ふるさと」と「つながり」をキーワードに～
106	青森県 青森市	青森市	三内中学校区地域学校協働本部	学校と家庭・地域をつなぎ合わせてつくる教育環境
107	群馬県 高崎市	高崎市	えのきコミュニティ	子どもを見守る５部会による「えのきコミュニティ」
108	埼玉県 川口市	川口市	幸町小学校・学校応援団	SSSによる地域の教育力UP -学校で学んだことを生かして地域に参画する児童の育成-
109	石川県 金沢市	金沢市	金沢市立城南中地域学校協働本部	地域みんなで学び支えあう　地域学校協働活動
110	兵庫県 尼崎市	尼崎市	浜小学校地域学校協働本部	地域の学校、地域も学校 学校・家庭・地域がひろげる「はまっこ　まんまるねっと」
111	香川県 高松市	高松市	鶴尾校区学校運営協議会	子どもたちに朝食を！「しらさぎキッチン」 ～地域ぐるみでゲーム依存を予防し、「早寝・早起き・ 朝ごはん」の生活習慣づくり～

こんな活動です

ふるさとに学ぶ～島民みんなで育てる奥尻の子～

北海道奥尻町	●活動名	●関係する学校名
	奥尻町地域学び支援ネット	奥尻町立奥尻小学校 奥尻町立青苗小学校 奥尻町立奥尻中学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―		
ボランティアの数	延べ登録人数 184人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	―				
●連絡先	奥尻町教育委員会社会教育係	☎ 01397-2-3890			

●活動の概要・経緯

奥尻町における地域学校協働本部である「奥尻町地域学び支援ネット」は、社会教育関係団体及び北海道家庭教育サポート企業等（令和2年5月現在63社）、行政機関等から構成され、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるネットワークを形成しながら、奥尻らしい「学校づくり」と「地域づくり」を目指した地域学校協働活動を推進する体制として、平成29年に設置された。

平成30年には小学校2校、平成31年には中学校1校に学校運営協議会を設置し、「ふるさとに学ぶ～地域が育てる奥尻の子」を各校共通のテーマに掲げ、地域住民や保護者の意見を反映した島の特色を生かした地域学校協働活動を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○「奥尻町地域学び支援ネット」の事務局を町教育委員会（事務局社会教育係）に設置するとともに、社会教育主事を地域コーディネーターとして配置し、学校と社会教育関係団体や北海道家庭教育サポート企業等の様々な地域人材が連携することにより、奥尻の子どもたちを島全体で育てるとともに、地域の取組を島の活性化につなげる体制を整えた。

○土曜日等の教育支援活動として、「奥尻町地域学び支援ネット」の人材を活用し、島の豊かな自然をフィールドとした自然体験活動や過去の津波災害を教訓とした防災教育など、島の人材・資源・歴史に学ぶ「おくしりチャレンジスクール」を年間8回程度実施し、子どもたちの体験活動を推進している。

【実施に当たっての工夫】

○各学校において、授業や学校行事、環境整備等で地域人材と円滑に連携を図ることができるよう、地域コーディネーターが調整役を担うとともに、学校ボランティアや北海道家庭教育サポート企業等、社会教育関係団体等の情報をまとめた「学校支援ボランティアリスト」を作成・配布している。

【関係機関・団体等との連携状況】

○地域コーディネーターが各学校を訪問し、地域学校協働活動に関する情報提供を行うとともに、学校運営協議会へ参加し活動の状況を把握したり、連携に必要な情報を聞き取ったりしている。

○活動内容をまとめた「奥尻学び支援ネットだより」を作成し、「奥尻町地域学び支援ネット」構成員に配布し、情報共有している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○地域人材や地域資源を活用し、子どもたちへ「本物」に触れることのできる体験活動の機会を創出することを通して、生きる力や自己肯定感を育むとともに、子どもたちのふるさとへの愛着をより一層高めることができた。

○「子どもたちのために」という地域住民の思いを、子どもたちの体験活動につなげることを通して、新しい地域人材の発掘を行うことができた。

○地域学校協働活動の取組を通して、島民みんなで子どもを育てる気運が醸成され、地域や団体の活性化につながっている。

● その他

北海道家庭教育サポート企業であるハートランドフェリー奥尻支店と協力し、島の大切な交通の要であるフェリーについて親子で学ぶ機会を提供した。また、学校運営協議会委員が調整し、島の特産物であるスルメイカを調理する食育の授業を食生活改善推進協議会と連携して行った。

島の重要な交通の要であるフェリーについて親子で学ぶ機会の提供

食生活改善協議会の協力を得て行った特産物のスルメイカを調理した食育の授業

こんな活動です

住民と学校と行政が適切な役割分担のもと、一体的に取組む地域学校協働活動

北海道士別市	●活動名	●関係する学校名
	士別市地域学校協働活動	士別市立士別小学校 士別市立士別中学校 士別市立士別南小学校 士別市立士別南中学校 士別市立上士別小学校 士別市立上士別中学校 士別市立多寄小学校 士別市立温根別小学校 士別市立糸魚小学校 士別市立朝日中学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成31年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 15人		
ボランティアの数	延べ登録人数 ―	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	―				
●連絡先	士別市教育委員会　生涯学習部社会教育課	☎ 0165-26-7308			

●活動の概要・経緯

士別市では、平成30年度から、郊外地区と中央市街地の中学校区に学校運営協議会を設置し、現在は市内全域に設置している。また、教育委員会に統括コーディネーターと全ての学校運営協議会に地域コーディネーターを配置し、公民館や団体等との連携を推進しているほか、各学校運営協議会と地域学校協働本部を一体的に運用して、地域学校協働活動を充実させている。

さらに、コミュニティ・スクールの合同研修会を定期的に実施し、情報の共有と関係者の理解促進を図っている。地域の限られた教育資源を有効活用した具体的な地域学校協働活動としては、市教育委員会が学校支援サポーターを募集し、市内全小中学校の水泳・スキー授業を支援する学校支援サポート活動や、地元企業と地域人材を活用して子どもの活動を充実させる「土曜子ども文化村」等を、全市的な地域学校協働活動として実施している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○全ての学校運営協議会に地域コーディネーターを配置し、市街地は小中学校共通で週に2回ずつ学校に勤務している。授業支援のコーディネートを主たる業務として、合同の学校運営協議会を通じて小中連携の見守り活動やあいさつ運動等を支援している。
○水泳・スキー授業を支援する学校支援サポーターを募集し市内全小中学校に派遣している。
○地域人材である地元企業や団体が講師となり、様々な体験活動を行う「しべつ土曜子ども文化村」を開催している。
○多寄地区学校運営協議会は、公民館や地域の団体等と連携し、マスク作りや旧多寄中学校の花壇整備、伝統芸能の伝承等、地域課題に積極的に取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

○統括コーディネーターを配置し、将来的な見通しを持ち、市全体で計画的に地域学校協働活動を実施している。
○教育委員会が、市内の学習サークルや各種団体等の一覧、市内職場体験受入企業一覧、地域コーディネーターマニュアルを作成し、それらを共有することで地域コーディネーターと地域連携担当教職員の連携を支援している。
○地域コーディネーターを学校運営協議会委員として委嘱し、積極的に参画できるようにしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

○学校運営協議会委員には、自治会長、PTA役員、地域住民など様々な立場の方がいる。委員が所属する関係機関・団体と積極的に連携することで地域学校協働活動を推進している。
○「しべつ土曜子ども文化村」では、地元企業や文化団体が講師となり、職場体験や文化体験を複数年実施している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○それぞれの地域の特性を生かした地域学校協働活動を実施することで、市全体の教育活動が充実している。
・農村地域の農業学習では、作付けから収穫まで日常的に支援活動を実施し、年間を通して充実した学習が行われている。
・水泳・スキー授業では、令和元年度延べ220人の学校支援サポーターが指導し、児童生徒の技術向上につながった。
・多寄地区のマスク作りでは、公民館や地域住民と連携・協力し255枚を小学校と保育園に寄贈し安全な学校環境に寄与した。
・地域コーディネーターが各自治会に交通安全見守り活動の協力依頼を行い、80人を超える地域住民の見守り活動が実現した。
・「しべつ土曜子ども文化村」では、全体の6割以上の活動が地元企業や文化団体が講師を担い、地域との連携を深めている。

● その他

「しべつ土曜子ども文化村」では、地元協会（協同組合士別建設協会、士別塗装組合青年委員会など）や文化団体が講師を務め、各企業が工夫を凝らした内容を計画、指導している。

多寄地区学校運営協議会委員によるマスク作り

自治会に協力依頼をし、実現した地域住民による交通安全見守り活動

こんな活動です

子どもの学びと安心をみんなで生み出す、支える「学校と地域は運命協働体」

北海道北広島市	●活動名	●関係する学校名
	放課後子供教室	北広島市立大曲小学校 北広島市立双葉小学校 北広島市立東部小学校

協働活動開始年度	平成　24　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 4人		
ボランティアの数	延べ登録人数 ―	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	―				
●連絡先	北広島市教育委員会社会教育課	☎ 011-372-3311			

●活動の概要・経緯

放課後に学校の余裕教室等を活用し、地域の多様な方々の参画を得て、児童に学習やスポーツ、文化活動等の取組の機会を提供し、放課後の子供の安全安心な居場所づくりとともに、基礎的な学力・体力等の向上を図ることを目的として、活動を行っている。

平成24年から北広島市立大曲小学校を皮切りに、平成28年には双葉小学校、平成31年（令和元年）には東部小学校で放課後子供教室を開設した。

現在は、事業を実施している3校にコーディネーターを配置し、教育委員会が主導しながら体験活動等の企画運営を行い、学童クラブとも連携を取りながら事業を実施している。また、地域の人材や団体（NPO、北海道警察など）と連携し、体育や文化活動、学習（算数・国語・英語など）、手話などの活動にも積極的に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

1　実施している3校にコーディネーターを配置し、教育委員会だけでなく学校間の連携を取りながら、企画運営を行っている。
2　放課後子供教室の当日には、学校教諭からも児童に声掛けがなされ、放課後における児童の居場所づくりに貢献している。
3　学校の授業で受ける内容だけでなく、日常的に体験しにくい活動を行うことで、児童の新たな学びの場を提供している。
4　長期休業又は学校行事以外の毎週水曜日に実施することで、家庭学習の習慣付けに貢献している。
5　地域の人材や団体を活用することで、地域住民の協力意識を醸成している。

【実施に当たっての工夫】

1　教育現場経験者などを指導者として活用することで、学習や体験授業を通し、児童の生活指導を実施している。
2　参加児童を完全登録制とし、学童クラブの入退所情報を共有するなど、児童の居場所の把握に努めている。
3　事業終了時（年度末）に参加者を対象にアンケートを実施し、次年度以降の企画立案・運営に活用している。
4　市教委の担当者が変更になったとしても、安定した学習環境を提供できる体制づくりを目指している。

【関係機関・団体等との連携状況】

市内の活動団体と連携し、特色を持った体験学習を行っている（H31：ひろしま音頭、H30：HIPHOPダンス、各年：手話　など）。また、学童クラブ諸室を使用して事業を実施しており、関係機関及び関係者が一体となって教育活動を行っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

協働活動支援員の多くは、現役を引退した方であるが、学校支援及び放課後子供教室での活動が生きがいになっている方も多い。また、本事業の話を協働活動支援員から聞いた地域の方が登録を行うなど、横のつながりから支援員の数は増加している。このことから、地域と学校が協力して教育活動を行う環境の醸成がなされている。

また、市が子育て世代へ実施したアンケートにおいて、「放課後に過ごさせたい場所」の回答が「放課後子供教室」となっているものが、全体で1割程度あったことから、放課後子供教室を実施している市内の市立小学校が33％であること、実施校において参加率が全体の25％程度であることを考慮すると、児童の保護者からの認知は進んでいると考えられる。

● その他

令和2年度においては新型コロナウイルス感染拡大の情勢を受け、回数を減らして実施（基本的には各校年20回）

空手体験授業

手話授業

こんな活動です

お年寄りと共に農業体験を通して育つ
～地域を知り、地域とつながり、地域から学ぶ～

青森県六戸町	●活動名	●関係する学校名
	七百中学校学校運営協議会	六戸町立七百中学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成31年4月1日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 8人		
ボランティアの数	延べ登録人数 22人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	―				
●連絡先	青森県六戸町立七百中学校	☎ 0176-55-2641			

●活動の概要・経緯

七百中学校は農業が中心産業の地域に所在しているが、宅地開発や生活形態の変化により、地域の子どもたちの生活に距離感が見られ、生活経験も不足していると感じていた。そこで、隣接する社会福祉法人もみじ会との連携により、総合的な学習の時間に行っている農業体験や行事などを充実させることによって、地域を知り、地域とつながり、地域から学ぶ取組を進めることになった。特に、高齢者と交流することにより人とのつながりを学び、土に接し作物を作ることにより地域を愛し生きることを意識させた。もみじ会の理事長が学校運営協議会の会長、常務理事が地域コーディネーターを務め、学校・地域・関係団体等のつなぎ役として活動している。

本校ともみじ会とは地域行事への参加、職場体験、夏休みのボランティア体験活動等で以前から交流があり、連携を深めたことで、より充実した活動となっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①総合的な学習の時間に農業体験、花植や草取り作業等の環境整備を行っている。
②農業体験では、施設利用者も一緒に作業しており、施設利用者にとっては生徒との会話や農作業がリハビリの一環となっている。
③農業体験で収穫した野菜は、学校では文化祭で活用したり、もみじ会では施設利用者の食事として提供している。
④農業体験以外にも、部活動の大会結果を報告したり、職場体験を行ったり、夏休みにはボランティア活動に参加するなどしている。
⑤運動会や文化祭などの行事に、施設利用者を招待し、交流を図っている。
⑥野球部やソフトボール部の部活動では、練習や対外試合で地域の方々の指導補助により、充実した活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

〇学校ともみじ会とは互いに「地域貢献」を目的の一つとしており、双方にとってプラスとなる地域学校協働活動となっている。
〇地域学校協働活動としての特徴的な取組を「校長室だより」で紹介したり、地方紙にも掲載されるなど、地域に広く知ってもらえるよう努めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

農業体験に必要な人材や用具、用地の確保に当たっては、地域コーディネーターが地域の方々への協力依頼や借用手続き等の窓口となっている。そのため、依頼文書作成・発送など渉外が簡略化され、教職員の負担軽減につながっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

農業体験や高齢者との交流だけでなく、振り返りの場を設定することで、生徒が地域を見つめ直すきっかけとなり、郷土の「人」「もの」「こと」に対する愛情が深まってきた。また、高齢者だけでなく、友達や地域の方々にも元気と笑顔を与える思いやりの言動ができるようになるなど、良い面が多く見られるようになった。活動が充実してきたことにより、地域の営農者の方々からは快く協力を得られ、施設利用者からは交流が深まってきたとの声が多く聞かれるようになるなど、地域活性化の取組の一翼を担っている。

● その他

学校の文化祭へ関係者を招待して、生徒が行った活動の成果についての発表会を開催している。そして、文化祭では収穫したサツマイモやジャガイモを地域の方へ販売したり、施設利用者の食事の食材にしたりするなど、学校と地域が連携・協働して行う活動となっている。

地域の営農者の指導を受けて農業体験（サツマイモ収穫）

学校近隣施設での花壇の花植

こんな活動です

～太陽に向かってひまわりのように～

森養コミュニティ・スクールの歩み

青森県つがる市	●活動名	●関係する学校名
	青森県立森田養護学校コミュニティ・スクール	青森県立森田養護学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定･設置日 平成30年5月10日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―		
ボランティアの数	延べ登録人数 25人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.morita-shien.asn.ed.jp				
●連絡先	青森県立森田養護学校	☎ 0173-26-2610			

「森養ひまわり応援隊」のロゴマーク

●活動の概要・経緯

平成30年度に青森県内の県立学校で初めてコミュニティ･スクールを導入した。初年度は、学校運営協議会委員の委嘱、コミュニティ･スクールの理解、啓発に関する講演会を含む研修会の開催、他県の先進校視察など、教職員も含めてこの活動に対する共通理解を図ることが大きなテーマであった。また、保護者や地域の方々による様々な学校行事への支援や、周辺地域の学校との交流等も並行して行われた。令和2年度は、学校運営協議会委員や保護者、地域の方々をメンバーとする「森養ひまわり応援隊」が結成され、年間スケジュールに沿って定期的な地域学校協働活動が行われるようになってきている。森田養護学校は、本県西北地区2市5町の中にある唯一の特別支援学校として、地域で果たす役割が年々大きくなっている中、それぞれの地域とのつながりの構築に向けて、今後も地道な取組を継続していく。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

学校運営協議会が設置された平成30年度より、学校所在市と隣接する鰺ヶ沢町の総合防災訓練に毎年参加し、令和2年7月、同町と「災害時応援協定」を締結し、災害発生時、支援を必要とする方の二次避難所の役割を担うこととなった。

令和2年度には「森養ひまわり応援隊」が結成され、市立図書館から児童生徒がリクエストした図書の借り受けや本校のブックトラックへの本の入れ替え、本校周辺の花壇の整備等を行っている。

また、学校側からの地域貢献として、高等部生徒による福祉施設等への移動喫茶サービス、社会福祉協議会と連携した高齢者世帯対象の雪かきボランティアを行っている。

【実施に当たっての工夫】

活動内容を紹介する「森養コミュニティ･スクールだより」を作成し、関係機関及び保護者、地域住民に配布している。また、活動の様子を随時学校ホームページに掲載することで、活動の輪が広がっていくよう工夫している。学校運営協議会のコーディネート担当者と学校担当者との連絡は主にメールを活用し、活動日等の調整を効率的に行っている。

【関係機関・団体等との連携状況】

令和2年度は、小中高各学部の校内研究のテーマを「地域との連携」とし、各学部が地域の人材資源を活用し、授業研究を進めている。その中に、地元の商工会議所と連携しながら、地域の祭りへの理解を深める取組があり、祭りについて講話を聞いたり、お囃子を披露してもらうなど、児童生徒に自分たちの暮らす地域を身近に感じてもらう活動となっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

令和2年4月、地域学校協働活動を進める組織として「森養ひまわり応援隊」が結成された。それまでは、学校担当者が様々な学校行事毎に保護者や周辺組織に足を運ぶ等、直接支援を依頼していたが、応援隊ができてからは、メンバーの方が日程や人数等の連絡調整役として活動している。また、教職員だけでは難しい教育活動に対して、ボランティアの支援が得られるようになってきており、教職員の負担軽減につながっている。

応援隊の組織としての取組は、まだ始まったばかりであるが、応援してくれる方が徐々に増え、地域ネットワークが広がってきており、学校運営協議会においても生徒の就労について熟議を行っており、今後、進路開拓等の支援の拡がりが期待される。

● その他

今後は学校運営協議会において、学校から地域への貢献の在り方について、熟議を重ね、活動の幅を広げていきたい。

鰺ヶ沢町との合同防災避難訓練の様子

地元の社会福祉協議会と連携した雪かきボランティア

こんな活動です

学校・家庭・地域が連携して子どもを育む
～学校を核とした地域づくりを目指して～

岩手県普代村	●活動名	●関係する学校名
	普代村学校支援地域本部	普代村立普代小学校 普代村立普代中学校

協働活動開始年度	平成　21　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成25年1月21日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 72人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://www.vill.fudai.iwate.jp/				
●連絡先	普代村教育委員会事務局　生涯学習係	☎ 0194-35-2711			

●活動の概要・経緯

学校支援地域本部では、村内小中学校に地域コーディネーターを配置し、子どもたちにより良い学習環境を提供するため、学習支援や環境整備、安全支援等を行っている。学校の要望に応じて地域ボランティアを募り、住民や企業・団体の協力を得て各種支援を行うことで学校と地域が連携して子どもたちを守り育てている。

放課後子ども教室では、子どもたちの安心安全な居場所を提供し地域の大人たちとかかわる機会を設けることを目的に、学習機会の提供のほか、創作活動、スポーツ活動、地域交流活動等を行っている。

普代村学習塾では、村内中学生を対象に学習塾を実施し、基礎学力の定着及び高校入試対策を行っている。村内に民間の学習塾がなく、村で唯一の学習塾となっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

学校支援地域本部の活動内容は、地域コーディネーターが作成する広報誌を村内全戸に配布し、村民への周知を行っている。活動内容を村内に周知することで、地域ボランティアの方々のやりがいにも繋がっている。

村内には放課後児童クラブがないため、放課後子ども教室が放課後児童クラブの役割も兼ねている。午後7時まで運営し、共働き世帯やひとり親世帯の支援に繋がっている。

村内唯一の学習塾である普代村学習塾は、前年度からのリピート率が高く、中学3年になると、学年の約半数が利用している。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターの勤務場所を学校にすることで、必要があれば随時相談や打ち合わせを行うことができる。また、村出身者やPTAのOBが地域コーディネーターを務めることにより、学校からの要望に対して的確なコーディネートを行うことが可能となる。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域コーディネーターは学校運営協議会の委員となっており、学校と地域の意見を反映しながら活動している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校支援地域本部では、年々ボランティア登録者が増加しており、地域住民の生きがいづくりにつながっている。学校関係者からのアンケート結果では、回答した全ての教職員が「教職員の負担軽減につながっている」と回答し、子どもや地域だけでなく、学校からも期待を寄せられている。放課後子ども教室のアンケート結果では満足度が90%となっており、子どもたちは楽しみに通っている。また、午後7時までの利用が可能なことから共働き世帯やひとり親世帯の支えとなっている。普代村学習塾のアンケート結果からは「テストの点数が上がった」、「長文（英語）を理解できるようになった」等、生徒自身が効果を実感している。

● その他

地元住民や企業・団体の協力により、学校行事にたくさんの地域の力が加わっている。大漁旗、新巻き鮭づくり体験、塩の寄贈等は地元漁業協同組合。社会科見学、町探検、職場体験等は地元の小売店、精肉店、製菓店、水産加工会社等の村内各商店及び事業所。

運動会では万国旗の代わりに漁協や漁師の方からお借りした大漁旗で装飾

新巻き鮭づくり体験は捌き・塩漬け・洗い・乾燥の一連の流れを体験

こんな活動です

H29.4　小泉中学校と統合し，コミュニティ・スクールとして誕生した新生津谷中学校！～津谷中応援隊～

宮城県気仙沼市	●活動名	●関係する学校名
	津谷中学校学校運営協議会　津谷中応援隊	気仙沼市立津谷中学校

協働活動開始年度	令和　元　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		1人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
	14人				
参考URL	http://www.kesennuma.ed.jp/tsuya-cyuu/html/htdocs/				
●連絡先	気仙沼市教育委員会生涯学習課	☎ 0226-22-3442			

●活動の概要・経緯

平成29年4月に気仙沼市立小泉中学校との統合に当たり，小泉中学校区の保護者や地域住民から，これまでの小泉中学校及び小泉地区の良さを津谷中学校の教育活動に取り入れて欲しいという要望があったため，気仙沼市教育委員会からの指定を受け，コミュニティ・スクールとして出発した。学校運営協議会から，「各地域に伝わる伝統行事としての太鼓を各学年で継承してほしい」，「地域の人的資源を学校教育活動の場で生かすべき」という意見を生かしながら協力体制を整えた。また，あと23年すると本校創立100周年になることから，同協議会によるソフト，ハードに関する「津谷中学校 長寿命化計画」を策定し，気仙沼市教育委員会と設置者である気仙沼市に対し，意見書として令和2年3月に提出するなど，正に地域学校協働活動としての機能も有する団体である。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

過疎化による後継者不足が心配されている川内，馬籠，小泉の各地区に伝わってきた太鼓を中学生が継承するため，気仙沼市が推奨するSDGsの11「住み続けられるまちづくり」を本校の「総合的な学習の時間」のテーマに掲げ，各学年毎，地域から講師を招き，年間を通して学習する時間を設定すると共にその成果を披露する場とする各種発表会を設けた。また，太鼓のほか，地域住民が昔取った杵柄を子供たちのために役立てたいとの願いから，学校と相談の上，「津谷中応援隊」を結成し，音楽の箏や三味線の学習，習字の指導，クロス刺繍の補助など教育活動への支援や草刈りや花壇づくりなどの環境整備や駅伝練習や部活動支援などに協力をいただいている。

【実施に当たっての工夫】

支援する方々が，協議や準備，休憩できる場所として，校内の余裕教室に「地域連携室」を設けるとともに，いつでも気軽に来校できるように支援者を登録制にして，傷害保険を整備すると共に，靴箱やネームプレート，在籍札などを教職員及び生徒が見えるよう掲示する工夫をした。また，各教科担任等の要望に応じるため，地域連携担当教員が窓口となり連絡調整を行っている。

【関係機関・団体等との連携状況】

太鼓の講師に当たっては，太鼓の代表の方が学校運営協議委員になっていることから，連絡調整が図りやすい。また，気仙沼市本吉総合支所及び振興会や自治会とも連携し，地域のお祭りや催し物等に生徒たちの各太鼓の発表の場を設定していただいている。1学年が実施している職場体験学習においては，学校運営協議委員の協力も有り，積極的に受け入れていただいている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域に伝わる太鼓を学習し発表したことは，太鼓の良さを知ると共に，自分たちが継承し，後継者となって後世に伝えていきたいという意識付けにつながっている。このことから地域の歴史や産業，伝統などを調べる学習に意欲的に取り組むようになるなど効果を発揮している。また，駅伝練習においては，地域指導者の方が担当教師と役割を分担しながら，その専門性を生かした指導を行い，生徒の内面だけではなく技術力の向上にもつながった。今年度は，コロナ禍にあって津谷中応援隊の要請が思うようにできていないが，今後地域の感染状況の実情を鑑みつつ，社会に開かれた教育課程の試みも視野に入れ，取り組んでいきたいと考えている。

● その他

令和2年3月に同協議会が気仙沼市教育委員会と設置者である気仙沼市に提出した意見書「津谷中学校 長寿命化計画」は，同年4月に気仙沼市教育委員会教育長から前向きな回答をいただき，今後取り組むべき課題が見えてきた。

3年生が外部講師をお招きして「御嶽太鼓」の練習に取り組んでいる様子

1学年学級づくりのため津谷中応援隊の阿部さんをお招きしてのＭＡＰ体験学習

こんな活動です

子どもは地域の宝，地域とともに育てる学校づくりを目指して

秋田県鹿角市	●活動名	●関係する学校名
	花輪北小学校地域学校協働活動	鹿角市立花輪北小学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 14人		
ボランティアの数	延べ登録人数 128人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.ink.or.jp/~kitashou/				
●連絡先	鹿角市立花輪北小学校	☎ 0186-23-2603			

●活動の概要・経緯

花輪北小学校区では，本事業を実施する以前においても登校時のあいさつ運動を自治会や子ども会地区単位で行ったり，PTA会員が学校の環境整備をしたりするなど，地域が学校への協力を進んで行う雰囲気ができていた。地域と学校のより緊密な連携と学校支援活動の拡充を目指して，平成20年度から鹿角市が始めた学校支援地域本部事業に伴い，本校でも学校支援地域本部と連携した活動に取り組んだ。平成29年の社会教育法改正を受け，鹿角市においても地域学校協働活動を進めるため，平成30年度から鹿角市地域学校協働本部を立ち上げ，各中学校区単位に地区本部を設置し事業を展開している。平成31年度には地域学校協働活動推進員の委嘱を行い，鹿角市地域学校協働本部会議を定期的に開催している。本校は花輪地域学校協働本部に属し，地域学校協働活動推進員を中心に地域事業本部，PTA，地域住民が連携した学校支援を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

図書ボランティアによる学校図書館の蔵書管理や読み聞かせ活動の継続的な実施等に見られるとおり，学校と地域が連携・協働する体制が構築されている。

ふるさと教育・キャリア教育の一環で，EM(有機微生物群)を活用した環境保全活動と，年間を通した農園活動(りんご・米・桃・さつまいも)に取り組んでいる。各活動には，市民団体や地元の農家，生産組合，保護者等，様々な地域住民が参画している。また，収穫した農作物を料理して振る舞う「収穫感謝祭」や，地域の生活文化である「ワラ打ち・縄ない」を学ぶ「縄なり集会」を実施し，地域住民と交流を深めている。

【実施に当たっての工夫】

地域学校協働活動推進員が来校する時は，職員室の掲示黒板にその旨が分かるプレートを貼り，教職員へ活動の周知を図っている。また，学校行事等の際には，地域学校協働活動推進員が中心となり，保護者・地域住民に対して地域学校協働活動について周知している。さらに，学校ブログにおいても，地域学校協働活動について紹介することで幅広い世代の地域住民の参画につながっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

読み聞かせボランティア団体等と連携を図り，学校の実情に合わせた読み聞かせを実施している。環境保全活動は，市民団体「かづの21プラン」が講師を務める他，花輪ロータリークラブがEMの原液購入費を支援している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・学校評価保護者アンケートの「学校は，保護者や地域の人たちの協力を得て教育活動を充実させていると思いますか。」という項目において100%の肯定率である。
・子どもたちが地域住民と関わりを多くもつことで，校外においても地域の方に進んであいさつする姿につながっている。
・小学校が地域と連携を深めることで，地域の方の学校への関心が高まり，同地区の中学校においても，地域人材の活用が促進され，学習内容の充実につながっている。
・鹿角市地域学校協働本部が実施している「わくわく土曜教室」や「かづの未来塾」で，地域住民が講師として子どもたちと触れ合うことで，自らの生きがいづくりや生涯学習の意欲につながっている。

● その他

定期的な活動として家庭科の実習補助，総合的な学習の時間の支援を実施している。本校は令和2年度をもって閉校となるが(平元小学校と統合し，柴平小学校となる)，統合後も地域との連携を一層深めていけるよう，地域学校協働活動を推進していく。

ボランティアが製作した手づくりマスクの贈呈

ボランティアによる読み聞かせ活動

こんな活動です

あたたかな心　夢ときめく　ひとづくり
～地域に根ざしたたくましい子どもの育成～

秋田県井川町	●活動名	●関係する学校名
	井川町地域学校協働本部	井川町立井川義務教育学校

協働活動開始年度	平成　31　年度	学校運営協議会	指定･設置日 平成31年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 6人		
ボランティアの数	延べ登録人数 100人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.town.ikawa.akita.jp/gimu/index.html				
●連絡先	井川町教育委員会学務班	☎ 018-874-4424			

●活動の概要・経緯

旧井川小学校時代から長年にわたり，ふるさと教育等を通じて地域と学校との協働活動を行ってきた。平成29年度からは新たに「放課後子ども教室」に取り組んでいる。平成30年度に旧井川小学校と旧井川中学校が統合し，県内唯一の義務教育学校として井川義務教育学校が開校した。町でただ一つの学校となり，これまで以上に保護者や地域住民が当事者として関わることができるよう，平成31年度から井川町学校応援協議会（学校運営協議会）を設置した。設置初年度は熟議を行い，地域と学校が共通の課題や情報を共有し，よりよい学校運営及び協働活動ができるよう，様々な意見交換を行った。また同年度には，「わくわく土曜教室」をスタートさせ，地域学校協働活動推進員の委嘱も行っている。あらゆる活動を通して，井川で生きることに誇りをもち，明日の井川を拓く創造性豊かな児童生徒の育成に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成29年度から「放課後子ども教室」，平成31年度から「わくわく土曜教室」を実施している。放課後子ども教室では，主に「算数教室」及び「英語教室」を開催している。どちらの教室も教員OBである協働活動支援員が担当し，様々な工夫を凝らした教材を使い，参加児童に寄り添いながら実施している。「わくわく土曜教室」では，地域住民を講師に迎え様々な体験活動や創作活動を実施している。令和元年度は，町の婦人会の方々を講師に迎え，井川町独自の盆踊りの講習会を実施した。放課後子ども教室，わくわく土曜教室どちらについても，参加児童数は前年度より増加傾向にある。また，地域学校協働活動推進員と地域住民が協力し，町全体のつながりを大切にしながら実施している。

【実施に当たっての工夫】

・活動が地域に見えるように，教育委員会だよりや町の広報紙等を活用して情報発信をしている。
・地域住民の「得意なこと」を地域学校協働活動推進員同士で情報共有し，どんな教室が開催できるかを検討している。
・地域の資源（ひと･もの･こと）を最大限に生かし，子どもと大人が地域のよさを実感できる活動に取り組んでいる。

【関係機関・団体等との連携状況】

・放課後児童クラブと連携し，活動場所を共有し，互いの準備や企画を協力して行っている。
・地域学校協働活動推進員が学校応援協議会の委員になっていることから，情報共有や相互理解が図りやすい。
・町の婦人会員や公民館自主運営講座の方を講師に迎え，連携して教室を開催している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・「井川みらい学」やふるさと教育等を通して，井川町の自然や歴史、伝統文化等に触れることにより，ふるさとに関心をもつとともに，町の伝統を受け継ごうとする意欲が育っている。
・学校支援活動及び正課クラブ等において，地域住民の多様な学習支援により，子どもたち一人一人への手厚いサポートが行き届いている。
・継続的な取組により，子どもたちと地域住民が互いに顔見知りとなり，地域で声を掛け合うなど豊かなつながりが生まれている。
・日々の登下校の見守りにより，安全が保たれるとともに，子どもたち自身の安全に対する意識が高まっている。

● その他

「井川みらい学」の一環として，NPO法人「はちろうプロジェクト」等と連携し，井川の水生生物や八郎湖の植生を調べる活動等を通して井川町の環境学習に取り組んでいる。

各町内で老人クラブのみなさんと花壇の花植え

「井川みらい学」発表会の様子

こんな活動です

子供も大人も共に成長し、地域コミュニティの活性化へ
～一体的な地域学校協働活動～

山形県鮭川村	●活動名	●関係する学校名
	鮭川村地域学校協働本部	鮭川村立鮭川小学校 鮭川村立鮭川中学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定･設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 160人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.sakegawajh.com				
●連絡先	鮭川村教育委員会　教育課　生涯学習係	☎ 0233-55-3051			

●活動の概要・経緯

鮭川村においても少子高齢化に伴う人口減少、地域コミュニティの弱体化、学校に対するニーズの多様化･複雑化など、子どもを取り巻く課題が複数存在する。これらの課題に対し、鮭川村として一丸となった取り組みをするため、2つの協議会（地域学校協働本部協議会、放課後子ども教室推進事業本部協議会）を統合し、鮭川村学校･家庭･地域の連携協働推進協議会（以下、「協議会」という。）を設立した。また、鮭川村教育プラットフォームとして、学校支援、放課後子ども教室、家庭教育支援を3本柱と位置付け、多様な学びの提供に寄与している。これらにより横断的な情報交換をし、地域人材のネットワークが形成されることで、更なる社会教育の充実や学校教職員の負担軽減、ひいては地域コミュニティの活性化につながることを目的として、活動を継続している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

小学校では、総合的な学習の時間に伝統芸能学習を行っている。3年生から6年生は、「羽根沢節」「段の下田植え踊り」「鮭川歌舞伎」「清流さけがわ太鼓」といった伝統文化を、地域の方を講師として学んでいる。地域の方との交流の中で、大人とのかかわり方や挨拶、マナーなどといったことも学びながら、その学習の成果を学習発表会で披露し、保護者の方にも子どもの成長を伝えている。また、この事業で学んだ児童が大人になってからその団体に加入するなど、伝統芸能の保存会の後継者育成の側面もあり、村の伝統芸能等の継続的な活動にも寄与している。

【実施に当たっての工夫】

学校からの要望をワンストップで解決：以前まではそれぞれの事業本部に対し、「こんな授業をしたいが、詳しい方はいないか。」等、バラバラに相談を受けていた案件について、協議会が要望を一本化して集約･解決方法の提案･地域人材へ講師の依頼等を行っており、教職員の負担軽減に繋げている。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域人材のネットワーク形成：多様な関係団体が参加して協議会にて議論することで、地域人材の交流が生まれ、様々な角度や視点から意見を集約でき、それぞれの思いや現場の声を共有して事業に臨むことができる。地域の方へボランティアを依頼する際にも、思いの共有は重要だと考えている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

協議会として一本化し、ワンストップで解決できる体制を構築したことにより、効果的･効率的な連絡体制の確立と学校側の事務の負担軽減につながった。また、協議会において事業の評価や精査、改善策等について議論を行うことで「みんなで地域を良くする。」「地域に誇りを持てる子どもを育てる。」という共通認識を確認し、積極的な取り組みの原動力となっている。さらに、協働している地域の方についても、子どもとの触れ合いを通じてやりがいや楽しみを共有できるため、イキイキとした生活を送れるという意見もあり、地域一丸となって子どもを育てる意識が高まっている。今後も関係団体が一体となり、鮭川村に誇りを持てるような取り組みを継続的に行い、社会教育の更なる充実に寄与していく。

● その他

地域未来塾では、大学生が中学生に対して各教科の個別指導を行い、放課後子ども教室では、自然の中で体験し、生き物の大切さや暮らしの工夫などを学ぶ。

「生き物引っ越し大作戦」と題した自然保護活動

世界でたった一つの筆を作る藁筆作り教室

こんな活動です

社会で輝く子供を致芳から～地域で育てる致芳っ子～

山形県長井市	●活動名	●関係する学校名
	致芳小学校地域学校協働本部	長井市立致芳小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定･設置日 平成27年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 32人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.city.nagai.yamagata.jp/				
●連絡先	長井市教育委員会　文化生涯学習課	☎ 0238-84-7677			

●活動の概要・経緯

本地域学校協働活動では、学習支援や子供の見守り等に学校支援ボランティアを導入し、効果的な学習活動と地域教育力の活性化を目指している。主な取り組みとしては、①地域伝統芸能伝承活動、②学校行事協力、③学習支援、④放課後子供教室、⑤登下校安全指導、⑥環境整備がある。それぞれの活動において、地域の方々の協力を得て上記の目的に沿った活動を行っている。

致芳小学校では、平成26年度から「学校支援地域本部」として事業を開始し、社会教育法の改正を受けて平成30年度から「地域学校協働本部」とするとともに「地域コーディネーター」から「地域学校協働活動推進員」として委嘱し、地域と学校をつなぐ役割としての位置づけを確かなものにしている。また、平成27年度には、市内で一番最初に学校運営協議会を設置し、より地域住民と学校の連携協働を進めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

致芳小学校の特色ある活動の一つに「少年少女五十川(いかがわ)獅子踊り」がある。この活動は40年以上続いており、年4回、保存会の方々をお師匠様として迎え練習会をしている。毎回10名ほどの指導者が熱心に子供に教えており、それに応えるように子供も真剣に学ぼうとする姿が見られる。10年前に元々の「五十川獅子踊り」の奉納は途絶えていたが、保存会が児童への指導を絶やさなかったことで気運が高まり、若い世代が加わった地域の団体により「五十川獅子踊り」も昨年復活している。5年生が行う葉山登山は、地元の山岳会の協力を得て行っている。片道2時間以上かかる険しい山だが、山岳会の協力のもと毎年、安全に実施されている。他にも、月1回程度、地元語り部の会からの昔語りや「放課後致芳っ子ひろば」なども行っており、児童は頻繁に地域の方々との関わりを持つことができている。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては、地域学校協働活動推進員が子供たちの実態を把握し、活動のねらいを確認して学びの向上を図っている。また活動の始まりの経緯や歴史的な背景について代表の方々に来ていただき事前学習を行ったり、活動の後には感謝の会をしたりするなど継続的に活動ができるように心掛けて取組んでいる。このような事前事後までの指導を地域学校協働活動推進員の連絡調整のもと一貫して行われ、子供たちの郷土愛を育むことにつながっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会において前年度の活動の報告や情報の共有、次年度に向けての意見交換等を行い、学校側の意見のみならず地域の方々からの意見も反映させることで、さらに良い活動になるようにしている。また、地区のコミュニティセンターとも日頃から連携を図ることで、学校と地域の結びつきがより深まるよう取り組んでいる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

年間を通して保護者、祖父母の協力や地域団体、警察などと幅広く連携しながら活動を行ってきたことで、より一層学校と地域の結びつきを強めることが出来ており、地域の方々も充実感を得ることができている。また、放課後子供教室や伝統文化継承活動等で専門の知識や技能を持っている方を講師に迎えることで、教師では指導の難しいところや学校ではなかなか体験できない活動の機会を提供することができている。さらには地区コミュニティセンターに児童たちの活動の様子をパネルで展示し、学校に直接関わりがない地域の方にも子供たちの様子を伝えることで、地域に開かれた学校となっている。

● その他

スキー教室、あいさつ運動、授業補助など

地元語り部の会による昔語りの様子

登下校時の見守り隊による見守りの様子

こんな活動です

ふるさと教育で地域と学校が共に学べる村づくり！

福島県天栄村	●活動名	●関係する学校名
	天栄村地域学校協働本部	天栄村立天栄中学校 天栄村立湯本中学校 天栄村立大里小学校 天栄村立牧本小学校 天栄村立広戸小学校 天栄村立湯本小学校

協働活動開始年度	平成　19　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年5月25日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子ども教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 46人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	―				
●連絡先	天栄村教育委員会教育課	☎ 0248-82-2504			

ブリティッシュヒルズでの小学生英語研修

●活動の概要・経緯

天栄村地域学校協働本部として、3つの活動（学校支援活動、放課後子ども教室、地域学校協働活動）を実施している。それぞれのコーディネーターが地域と学校を繋ぎ、活動を行っている。学校支援活動では、学校の要望に地域ボランティアを派遣し、多忙化解消を図っている。放課後子ども教室では、地域ボランティアの協力により、安全な放課後の居場所作りとして、様々な体験活動を実施している。地域学校協働活動では、「英語の村てんえい」の実現を目指し、幼児から大人までを対象とした英会話教室を実施するなど、地域人材を最大限に活用し、子どもへの支援だけでなく、地域人材も一緒に学べる機会を提供することで、共に学ぶ村づくりに取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①放課後子ども教室における多様な学習機会の提供：1年生から6年生が一緒に活動し、情操教育の一環を担っている。
②英語の村てんえい：英語を共通のツールとし、子どもから大人までが一緒に学ぶことが出来る体制を整備している。
③村ならではの学校支援：自然豊かな村の特色を生かし、農業や産業など安定的な支援体制を整備している。
④ARガイドマップの作成：中学生が地域を取材し、最新技術であるARを活用したグルメマップを作成している。

【実施に当たっての工夫】

それぞれのコーディネーターが教育課を中心として、同じフロアで活動し、互いに連携をしながら活動を行っている。これにより、人材の手配や問題の解決に向けた意見を、様々な角度から集約出来るため、幅広い支援が実施できている。また、英語という共通のツールを用いることで、学校と地域が同じ方向性を向いて事業に取り組むことで、地域に一体感が生まれている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会が地域学校協働本部推進委員会を兼ね、より一層地域と学校の協働による「地域とともにある学校」づくりを推進している。また、小学校の長期休暇中の子ども教室では、村内のスポーツ団体との交流事業を実施し、世代を超えた地域での交流を図っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域の特色を生かした様々な支援がふるさと教育の充実と、教員の多忙化解消に寄与している。また、地域が子どもたちを支援する体制を整備することで、やりがいが生まれ、地域の活性化に繋がっている。地域と学校の距離感が縮まることによって、学校が地域に出来ることも発見され、子ども達の積極的な活動に繋がっている。

● その他

ふるさと教育を推進するため、三事業にすべて取り組むことで、子どもへの支援だけでなく、地域ボランティアにも学習する機会を提供し、学校と地域が共に学べる体制を目指している。

中学生が記者となり取材し、地域のグルメマップを作成した。

中学生が作成したグルメマップ

こんな活動です

地域と学校の効果的な連携による地域学校協働活動

福島県会津若松市	●活動名	●関係する学校名
	大戸地域学校協働本部	会津若松市立大戸小学校 会津若松市立大戸中学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和元年8月30日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 51人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://www.city.aizuwakamatsu.fukushima.jp/				
●連絡先	会津若松市大戸公民館	☎ 0242-92-2373			

●活動の概要・経緯

大戸地域においては、地域の人口減少と併せ、小中学校の児童生徒数も減少傾向にあり、教育環境を含む地域全体の活力低下が懸念されている。このような中、地域活力の活性化を目指すべく、平成30年4月より「大戸地域学校協働本部」を設置し、地域学校協働活動を実施している。

大戸小学校児童の放課後の生活・活動状況把握のためのアンケートや大戸小・中学校の支援ニーズの把握など学校との調整を行うほか、大戸地区区長会やPTAなど関係団体の参加協力を求めながら、地域ぐるみで事業を推進する体制を構築している。地域住民2名に両事業のコーディネーターを依頼するとともに、放課後子ども教室の活動指導員や安全管理員、学校支援ボランティアを募集し、人員を十分に確保しながら事業を実施している。また、公民館だより等の広報を活用し、事業への理解と協力を求め、地域と学校の連携・協働を推進するための地域人材のネットワークづくりに努めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

放課後子ども教室においては、毎回、教室開始時に、児童、活動指導員、安全管理員、コーディネーターの全員で「あいづっこ宣言」の唱和を行い、道徳心を育んでいる。また、夏休みを利用し、公民館を会場に、レクリエーション、模型作り、英会話教室、パソコン教室などの「夏休み勉強会」を開催した。

地域学校支援活動において、 地域住民によるボランティアの協力を募り、地域内の豊かな自然と触れ合う「田植え」や「稲刈り」、「川遊び」、地域の高齢者から学ぶ、伝統行事「だんごさし」やコマ回し等の「昔遊び」、その他「プール清掃」、「花壇作業」などの学校支援を実施した。

【実施に当たっての工夫】

地域学校協働本部は、区長会をはじめとした各種団体等を本部員とし、本部長には区長会長が就任して設立されている。

事業概要と地域協力者の募集について記載したチラシを作成し、区長会の協力を得て全世帯へ回覧している。また、毎月地区の全世帯に配布している「公民館だより」に、協働本部のコーナーを設けて活動状況やボランティアの日を広報し、地域ぐるみで学校を支援し、子どもを育てる意識の高揚に努めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

令和元年8月に、大戸小・中学校運営協議会が設置され、大戸地域学校協働本部との連携体制が構築された。学校運営協議会で課題として挙げられた「大戸小おはやしクラブ」の指導者不足について、公民館報等を通じて募集協力を行うなどの取組を行った。

放課後子ども教室においては、公民館を会場に夏休み勉強会を開催し、子どもたちの居場所づくりに取り組んだ。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

放課後子ども教室は2年目を迎え、登録児童数とともに、活動指導員、安全管理員としての地域参加者数も前年度比増となった。本事業を通して、子どもや参加者同士の交流が促進され、地域ぐるみで学校を支援する機運が醸成された。

地域学校支援活動においては、地域住民の協力による学校環境の整備と併せ、子どもと地域住民の世代を超えた交流が図られた。ボランティアの確保についても、コーディネーターが主体となり地域指導者の開拓や広報等による募集を継続して行い、令和元年度の協力者数は、前年度を上回った。

大戸小学校における学校支援として、花壇づくり、苗植え、除草等の活動に、地域の方が積極的に参加している。大戸小学校は、県の緑の少年団活動コンクールで最高賞を連続で受賞し、子どもたちから地域ボランティアの皆様へのお礼の手紙を届けたことは、地域住民の大きな励みとなっている。

● その他

地域住民の指導と見守りの中、田植えや稲刈り、川遊びなど、子どもたちが大戸の豊かな自然に親しむ取組を行っている。 また、地域の方々に、子どもたちが感謝の気持ちを伝える催しが定期的に開催されており、子どもたちが作った芋汁の振舞いや、花束贈呈、おはやしや合唱披露などが行われている。

地域の清流での川遊び（大戸小川遊び）

子どもたちからの感謝の花束を手にする地域の方々（大戸小お花見給食）

こんな活動です

地域総ぐるみで子供たちを支え，すべての子供を幸せに！
～　学校と地域が連携した協働活動を通して　～

茨城県牛久市	●活動名	●関係する学校名
	岡田小学校学校運営協議会	牛久市立岡田小学校

協働活動開始年度	平成　27　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年5月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 50人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.ushiku.ed.jp/page/page000254.html				
●連絡先	牛久市教育委員会　生涯学習課	☎ 029-871-2301			

●活動の概要・経緯

平成27年度から市主催の養成講座を受講した地域学校協働活動推進員（以下，推進員）が地域学校協働活動である「うしく放課後カッパ塾」「うしく土曜カッパ塾」の企画・運営に携わり，地域住民の協力を得て，体験活動や学習支援を実施している。平成30年度には学校運営協議会が設置され，地域総ぐるみで子供を支える仕組みを構築している。協働活動を実施するにあたり，保護者や地域住民はもとより地区社会福祉協議会や企業などの幅広い団体と連携している。特に，働き方改革の視点から学校運営協議会委員が中心となり，保護者や地域住民に呼びかけ，下校時の見守り活動や特別教室やトイレ等の清掃・消毒作業，教員研修会時の自習の見守り活動等を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①働き方改革に伴う地域住民や保護者による学校支援（教員研修会時の自習時間に子供を見守る活動，教職員に代わって下校時の子供の安全を見守る活動）
②地域住民ボランティアによるコロナ感染防止対策（学校運営協議会委員の呼びかけによる特別教室・体育館・トイレの清掃及び消毒。）
③地域人材を活用した学習支援（琴の演奏体験，昔の遊び，町探検，米づくりや野菜づくり等）や高等学校と連携した協働活動（読み聞かせ・うしく放課後カッパ塾）を実施。

【実施に当たっての工夫】

推進員や行政区長が学校運営協議会委員となり，学校の教育方針や目指す児童像を共有化した上で学校運営に沿った地域学校協働活動を展開している。餅つきなどの体験学習では推進員が教員と学習内容を協議し，計画づくりに携わっている。学習のねらい等を明確にした上で保護者や地域住民に呼びかけ，具現化している。

【関係機関・団体等との連携状況】

・地域団体（地区社会福祉協議会等）と連携し，地域住民に広く呼びかける連携体制を構築している。
・推進員が教職員の声や学校が抱える課題を把握し，学校運営協議会で協議した上で協働活動に繋げている。
・市役所の生涯学習課や健康づくり推進課等と連携し，多様な体験活動を展開している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・保護者や地域住民にとって，協働活動を通して学校に来る機会ができたことで学校への理解が深まり，様々な活動に協力してくれる方が増えた。
・教職員にとっては，現場の声を聞き取り具現化してくれ，教職員の下校指導時間の削減やコロナ対策時の消毒作業などの働き方改革につながった。
・子供たちは，保護者や地域住民が自分たちのために行っている活動を実感でき，感謝の気持ちが育ってきている。

● その他

・放課後の学習支援「うしく放課後カッパ塾」，土曜日の体験活動「うしく土曜カッパ塾」では平成27年度から現在まで継続した協働活動を行っている。

教員研修会時に自習している子供たちを優しく見守るボランティア

教職員に代わり子供たちの下校を見守るボランティア

こんな活動です

子どもの安全安心な居場所を設け、地域全体で心豊かで健やかな子どもを育む

栃木県壬生町	●活動名	●関係する学校名
	羽生田小学校放課後子ども教室	壬生町立羽生田小学校

協働活動開始年度	平成　31　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年9月20日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 21人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.mibu.ed.jp/eshanyuda/				
●連絡先	壬生町教育委員会事務局生涯学習課	☎ 0282-81-1873			

●活動の概要・経緯

令和元年5月より始まり、週に2回実施している。同年、放課後児童クラブも設置され、放課後における子どもたちの安全安心な居場所を作るとともに、体験活動の場となっている。
町全体としても平成29年度に学校運営協議会を設立し、令和2年度からは地域学校協働本部を設立する等、学校・地域住民や保護者・行政・関係機関や団体等がパートナーとして互いに連携・協働していけるよう教育体制の構築を図っている。また、地域と学校がそれぞれの活動を統合化・ネットワーク化し、組織的で安定的な活動を推進する体制の構築も行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〇平日は集団下校を行っているため、放課後子ども教室は16時ごろまでの実施となるが、基本的に全ての児童が参加するため、毎回の出席率が90～100%となっている。また、見守りとして保護者が中心となって関わっているため、子どもたちも活動に対して積極的に取り組むことができている。
〇活動には地域の方が積極的に参加し、学校だけでは学べないことが多く学べるため、地域と学校とのつながりも強くなっている。
〇児童から学習の時間を設けて欲しいとの声があり、体験活動の場というだけでなく、学習支援の場にもなっている。

【実施に当たっての工夫】

放課後子ども教室終了後、集団下校を引き続き実施することで、活動にメリハリをつけることができるとともに、児童の高い参加率に繋がっている。また、放課後児童クラブとの連携を図ることで、放課後子ども教室の終了からスムーズに移行することができている。

【関係機関・団体等との連携状況】

・放課後児童クラブとの一体型の取り組み
・町内施設職員による講座

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・毎回の児童の出席率が90～100%。
・地域住民の参加率が増加。
・みんなで宿題をすることで、学力の向上につながる。
・運動会のような学校行事においても自治会や保護者の協力のもと、地域が一丸となって学校行事を盛り上げるようになっている。

● その他

町内の地域おこし協力隊や地域住民の協力のもと、幅広い活動を行っている。

スラックライン

先生の肉筆のお手本を見ながらの書道

こんな活動です

「夢に向かってかがやく子」の育成
ーコミュニティ・スクールを基盤とした小中一貫教育の充実を通してー

群馬県藤岡市	●活動名	●関係する学校名
	小野連携型小中一貫校地域学校協働本部	藤岡市立小野小学校 藤岡市立小野中学校

協働活動開始年度	平成　31　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成31年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	ー			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 431人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://10209.schoolweb.ne.jp/swas/index.php?id=1020003				
●連絡先	藤岡市教育委員会　学校教育課	☎（0274)50-8212			

「おのハンモック」シンボルマーク

●活動の概要・経緯

藤岡市では、平成26年度より中学校区ごとの小中学校が連携型小中一貫校として教育課程を編成・実施し、「学びのつながり」と「生徒指導の継続」をキーワードとした小中一貫教育を推進している。そして、平成31年度より一貫校区毎にコミュニティ・スクールとしての取組を始めるとともに地域学校協働本部も立ち上げ、各学校における教育活動の一層の充実を図っている。

すでに行われていた保護者や地域の方による学校支援活動の一層の充実を図るため、平成29年度に地域コーディネーターを複数名配置し活動を始めた。地域コーディネーターが学校運営協議会や学校とのつなぎ役となり、「学校ボランティアのつどい」開催による緩やかなネットワークづくりや学校ボランティアのメール登録による組織づくりなどを進め、地域学校協働活動の質的及び量的な充実を目指している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

① 小野連携型小中一貫校（小野小、小野中）として学校運営協議会を設置し、9年間を見通して学校教育目標「夢に向かってかがやく子」の育成を目指している。地域学校協働本部も一貫校として立ち上げ、学校ボランティアが小中学校を行き来することにより小中9年間の教育課程のつながりを強くしている。② 地域学校協働本部の愛称「おのハンモック」を公募により設け、シンボルマークの原画を小学生から募り、全保護者の投票により決定した最優秀作品を中学生の美術部員がデザイン化してシンボルマークを完成させた。地域学校協働活動に多くの人が親しみをもって参加できるようにしている。③「できる人が、できる時に、できることを」を合い言葉とし、子供の成長を第一に考えて活動している。

【実施に当たっての工夫】

・活動の様子を地域コーディネーターが「おのハンモックだより」にまとめ、域内全家庭（約4,500戸）に回覧・広報している。
・地域学校協働本部主催による学校ボランティアのつどいを開催し、様々な学校ボランティアの顔と顔をつなぎ緩やかなネットワークづくりを行うことにより、多くの学校ボランティアの参加につながった。

【関係機関・団体等との連携状況】

・4名の地域コーディネーターのうち2名を学校運営協議会委員に任命し、学校課題の解決に向けた取組が行えるようにしている。
・小野地区区長会、民生委員児童委員小野地区協議会、更生保護女性会小野支部等関係団体との連携が強化され、地域の子供を地域で育てる雰囲気が醸成されつつある。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

これまで行われてきた児童生徒の登下校の見守り、読み聞かせ、家庭科の指導補助などの活動に加えて、小学校では運動能力テストの実施補助、クラブの指導など、中学校では補充学習指導、漢字検定の実施補助、高校入試に向けた面接練習等の新たな取組が始まった。学校ボランティアの参加により、子供が専門的な指導を受けられたり、学校の業務改善が図られたりと、授業の質的向上や安心安全な学校づくりに成果が見られている。また、学校ボランティアからは、「地域の学校や子供のために協力したい」「子供から元気をもらえてありがたい」などの声が聞かれ、学校の依頼を受けて取り組む支援から、保護者、地域、学校がそれぞれの立場で主体的に取り組む協働へと意識が高まってきた。

● その他

学校ボランティアのつどい：約80名が参加し、学校ボランティアの心構えや具体的な活動について情報交換を行った。
学校ボランティアによる教科指導補助：年間を通じて、授業の指導補助等に学校ボランティアが参加している。

学校ボランティアのつどいグループ協議の様子

学校ボランティアによる図工科指導補助の様子

こんな活動です

剛志学府　ー地域とともにある学校づくりを目指すー

群馬県伊勢崎市	●活動名	●関係する学校名
	剛志学府	伊勢崎市立境西中学校 伊勢崎市立境剛志小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	ー		
	ー	ー			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 11人		
ボランティアの数	延べ登録人数 178人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.isesaki-school.ed.jp/sakainishichu/				
●連絡先	伊勢崎市立境西中学校	☎ 0270-74-1068			

●活動の概要・経緯

伊勢崎市立境西中学校は、平成29年度に伊勢崎市教育委員会からコミュニティ・スクールの指定を受けた。そこで、境西中学校学校運営協議会(以下、学校運営協議会)を設置し、境西中地区(剛志地区)全体の子供たちの健全育成を目指した運営を通して、家庭や地域社会と連携して地域における教育の活性化に努めている。令和元年度に、剛志地区の学校・家庭・地域が目指す子供像や目指す地域像(目標)について熟議し、目指す子供像を「自ら考え、判断し、決定し、行動する子供」、目指す地域像を「『自律』した大人が暮らすまち」と決め、剛志学府として地域と学校の連携・協働を推進している(「学府」とは、中学校区を単位として学校と地域が連携・協働し、目指す子供を育てていこうとする伊勢崎市独自の教育施策)。また、令和元年度末に「『剛志学府』目指す子供像」ののぼり旗を作成し、目指す子供像が地域に浸透するように取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①西中生がつくる弁当の日の実施：年4回実施した。そのうち1回は、夏季休業中の公民館主催による「子供クラブ　お弁当づくり教室」において、小学生に協力しながら一緒に弁当づくりを体験した。弁当の日の実施に当たり、西中の美術部員がポスターを作成した。
②地場野菜生産者との交流：年8回実施した。地場野菜生産者による講話や、農家やJA、食生活改善推進員、伊勢崎ブランド「農＆食」戦略会議等からの協力を得て、農業体験や郷土料理づくり(地元のごぼうを題材としたふるさと学習)を実施した。
③地域への食育活動の啓発：公民館にて「いただきます　その後のはなちゃんのみそ汁」の上映会を実施し、のぼり旗を作成した。

【実施に当たっての工夫】

・境西中学校長をはじめ境剛志小学校長、境剛志公民館長、地区区長会代表、青少年育成推進員代表、民生児童委員代表、保護者代表等が学校運営協議会のメンバーになっており、この組織が地域学校協働本部を兼ねている。そして、保護者や地域、小学校や公民館と連携を密にとりながら推進している。

【関係機関・団体等との連携状況】

・弁当の日の開始時に「いのちをいただく」の読み聞かせや、弁当の日の食材購入に向けたポスター掲示等において、株式会社フレッセイ(地域のスーパー)の協力がある。
・地場野菜を使った郷土料理の調理実習で、食生活改善推進員や伊勢崎ブランド「農＆食」戦略会議の協力がある。
・地域ブランド野菜農家の方を講師に招いた講演会を実施している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・学校運営協議会が中核となり、剛志地区全体の子供たちの健全育成を目指した食育活動を推進することで、地域全体で子供たちを育てていこうとする気運が高まってきている。
・活動について回覧板等を通して地域に広く周知を図ったことで、多くの地域人材が地域学校協働活動に関わるようになった。
・生徒たちは、自分で弁当をつくることを実践し、自己の価値を認め、働くことの意味を知り、家族への思いやりをもつことができた。
・生徒たちは、地場野菜生産者との交流や農業体験を通して、地域の特産品の味や生産者の思いを知り、地域への愛着を深めることができた。

● その他

地元企業の専門家による講義や食材の提供を受け、調理実習などを実施した。また、「弁当の日」を年4回実施し、自分たちで食材の準備や調理など、苦労して弁当をつくり、その弁当を楽しく食べながら、日々つくってくれている親に感謝の気持ちを持つことができた。

弁当の日の様子。この日は全校一緒に食堂で会食をした。

本校美術部が作成した弁当の日のポスターの一枚

こんな活動です

地域人材を生かし、学校と連携した外国語教育の充実と国際交流

群馬県高山村	●活動名	●関係する学校名
	高山村地域学校協働本部	高山村立高山小学校 高山村立高山中学校

協働活動開始年度	平成　17　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―		
ボランティアの数	延べ登録人数 296人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://vill.takayama.gunma.jp/soshiki/06kyouiku.html				
●連絡先	高山村教育委員会	☎ 0279－63－3046			

●活動の概要・経緯

平成17年より「地域子ども教室推進事業」が始まり、学校と地域が連携・協働して子ども達の豊かな体験活動を育んでいる。平成26年より村の方針で英語教育に力を入れるため「小学生土曜英語クラブ」と、中学生の海外派遣に向けた「英会話教室」が始まった。この「英会話教室」は、後に英会話を中心とする「中2英語塾」と、授業補助を目的とする地域未来塾「中1英語塾」に発展し、在籍する対象生徒のほとんどが参加している。英会話の学習と学校の授業補助の両方を担う事業になっている。

令和元年度より、学校と地域の連携・協働をさらに強めるため「地域学校協働活動推進員」を委嘱し、ネットワーク機能・多種多様な活動・継続的な活動の充実を図っている。本推進員が学校支援活動として、小・中学校での体験活動外部講師として地域人材をコーディネートしたり、英語が堪能な地域人材を講師として登用し英語活動を充実させる環境整備や教材準備をしたりしている。さらに、英語検定受検を推進する「英検チャレンジ塾」を開講するなど、活躍を広げている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

「地域人材を生かし学校と連携した、外国語教育の充実と国際交流」

高山村では、平成12年より中学2年生の希望者全員がオーストラリアにホームステイする海外派遣事業を行っている。充実したホームステイにするため、学校の授業にプラスする形で地域の人材を活用した放課後英会話教室を始めた。「地域学校協働活動推進員」のコーディネートで外国人のゲストティーチャーからネイティブな英会話を教えてもらうこともある。中学生で英会話を学び、海外でのホームステイを経験した子ども達の中には、留学したり海外に進学したり、英語を使う職業に就いたりするなど、グローバルな活躍が見られる。

【実施に当たっての工夫】

ホームステイのためだけの英会話教室とせず、中学1年生には学校の授業にあわせた予習・復習を、中学2年生には受験に向けた英語学習を学校と連絡調整を図り、通年にわたり実施している。また、ALTが学校の授業と放課後英会話教室の両方に講師として参加することで、生徒は抵抗感なく英語活動に取り組むことができる。小学生には「土曜英語クラブ」で体験的に楽しい英会話を学べるようにしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域住民の文化交流団体である「TEACH(Takayama English Activity＆Culture Hour)」や、地域の専門学校に通う外国人留学生、農業を学びに来ている外国人など、地域の人材と積極的に連携して、子どもたちの英語活動や国際交流の環境を整えている。また、村の外国語補助教員と連携して小・中学校のみならず、幼稚園での英語活動にも活躍の場を広げている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

中学校の授業に加えて、より実践的な英会話を学び、多様な外国人と英語による国際交流を重ねることで、生徒が自信をもって積極的に英語を話す機会を増やすことができ、中学2年生でのオーストラリア・ホームステイがとても有意義なものとなっている。これらの経験をきっかけとして、英語力だけでなく、様々な人々との交流によるコミュニケーション力の育成、子どもたちの物事への視野の広がりを図ることができ、グローバルに活躍の場を広げられる人材の育成につながっている。「地域学校協働活動推進員」の活躍により、地域の子どもたちの英語を学ぶ機会の増加、地域人材の活用、子どもたちの地域理解など、地域と学校の協働活動として素晴らしい効果をあげ始めている。これらのことは、高山村の子どもたちにとって、これからの社会へ向けた「生きる力」の育成につながっている。

● その他

地域のネットワークが広がり、学校における地域人材による学習支援・体験活動が充実している。

小学2年生が、種まきと収穫体験、おいしい農作物の育て方を教わった。

土曜英語クラブ（右）と、小学3年生の外国語活動の授業（左）の様子。

こんな活動です

「誇り」「共感」「信頼」 地域とともに一人一人が輝く学校づくり
～学校運営協議会を核とした野寺っ子の成長をみんなで支える学校応援団活動～

埼玉県新座市	●活動名	●関係する学校名
	野寺小学校学校応援団	新座市立野寺小学校

協働活動開始年度	平成　17　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 5人		
ボランティアの数	延べ登録人数 973人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.c-niiza.ed.jp/e-nodera/				

●連絡先　新座市教育委員会学校教育部教育支援課　☎ 048－477－7142

学校運営協議会の様子

●活動の概要・経緯

平成17年度から、学校・家庭・地域が一体となって子供たちを育成することを目的に始まった。学校応援コーディネーターとふれあい地域連絡協議会代表、各中学校区で選出された地域コーディネーターを中心とした学校応援団を、平成20年10月の「新座市学校応援団推進事業実施要項」を基に、市内すべての小・中学校に組織した。事業実施13年目となった本年度も、各学校で、保護者や地域の方々の御理解と御協力をいただきながら、様々な取組を行っている。野寺小学校においても、地域学校協働活動推進事業とコミュニティ・スクール推進体制構築事業を一体的に推進し、学校を核とした地域力強化が進められている。現在、新たに組織した「野寺オヤとも会」も含め10団体が精力的に活動しており、学校運営協議会を核として個々の活動を取りまとめ体系化し、より充実させていくために組織を整備しているところである。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・学校応援コーディネーター2名と保護者、地域の方々816名で運営。様々な行事が中止になっているコロナ禍において、「野寺オヤとも会」が組織され、児童の父親が中心となり、子供たちのために様々なイベントを計画している。
・学校運営協議会委員である長谷川氏が、地域学校協働活動の中心となり、学校と地域のパイプ役を果たしている。特に平成29年に敷地内に水田を設置して以来、水の管理や防鳥ネットの設置等、継続して管理に携わっている。総合的な学習の時間では、長谷川氏を含めた地域の方々をゲストティーチャーに専門的な知識を学び、地域と学校が一体となって、苦労を実感しながら米づくり進めている。収穫の際は、感謝の会を開き、共に喜びを味わい、お世話になった方々へ感謝の気持ちを伝える中で、学校と地域の連携は強固なものになっている。

【実施に当たっての工夫】

・学校の情報を効果的に迅速に、そして魅力的に伝えていくことを工夫している。学校に興味をもってもらうことで幅広い地域住民・団体に参加をいただいている。
・地域の拠点として、子供たち、保護者、地域の方々にとって、「自分たちの自慢の学校」となることを目標として共有することで、学校・家庭・地域が一体となり活動をすることができている。

【関係機関・団体等との連携状況】

・現在ある団体とは密に情報交換を行い、連携をとることができている。
・PTA会長がコーディネーターであるため、学校に来る機会が多く、その都度要望等を聞くことができている。
・団体同士の横のつながりや、一堂に会しての会議を今後開催し、より連携を強化していく。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・コミュニティ・スクールと連携することで保護者や地域の方の学校への関心が高まっている。特に「学習補助制度」において、日常の授業サポートが充実してきて、教職員の負担軽減を図ることができた。
・児童や保護者、地域の方々双方から、活動を通して関係が深まったという喜びの声が寄せられている。本事業を通して児童、教職員の笑顔が増え、地域の活性化につながっている。
・学校が地域の方々にとって「自分たちの自慢の学校」となることを目標としている。臨時休校期間中において、学校のために何かできることがあれば協力したいという声がたくさんあり、保護者中心のボランティアの方々に消毒作業を手伝っていただいた。

● その他

・野寺小学校では、埼玉県環境アドバイザーをはじめ、地域の方々と共に、総合的な学習の時間において環境学習「地球に優しく生きよう」を実践している。専門的な知識をもったゲストティーチャーと共に、様々な視点から自分たちが住んでいる地域の環境について学習を深めている。

野寺小田んぼを活用した学習の取組

環境学習に地域の方がゲストティーチャーとして参加

こんな活動です

子供・保護者・地域みんなで「学校大好き100％」

埼玉県上里町	●活動名	●関係する学校名
	上里町立長幡小学校　学校応援団	上里町立長幡小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年10月28日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 6人		
ボランティアの数	延べ登録人数 104人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://nagashou.nc-edu.net/				
●連絡先	上里町立長幡小学校	☎ 0495－33－0907			

●活動の概要・経緯

長幡小学校は、学校運営協議会、学校応援団コーディネーター、学校応援団連絡会議を受け、学校応援団が組織的に活動を行っている。大きく6つの分野に分かれた学校応援団は①梨栽培②安全③読み聞かせ・図書運搬④学習支援⑤学校農園⑥環境整備・緑化があり、幅広い地域住民の参画を得て運営が行われている。年5回の学校運営協議会を受けて、学校応援団連絡会議を年2回開催している。会議では分野ごとに課題を出し合い、活動計画や活動内容の見直しを行い、改善や工夫を加えて次年度の取組に生かしている。多くの地域住民が参加することで様々な視点から意見を出し合い、地域の子供の成長や地域づくりに向けて広い視野で情報の共有を図ることを大切にしている。地域の特産品である梨の栽培活動では、地元梨農家の協力を得て、学校近くの梨畑の一部を「長幡小学校梨園」として提供してもらっている。毎年3月には学校応援団の方々を学校に招き、全校児童参加による「感謝の会」を実施している。地域住民の思いである地域愛や地域への誇りを子供たちがに感じてもらうことで地域を担う子供たちのよりよい成長に向け、学校運営協議会が子供・保護者・地域をつなぐ役割を果たしている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

地域学校協働活動として、長幡小学校の特徴的な取組は、学校応援団の「梨栽培隊」が挙げられる。梨栽培隊は、上里町の特産物である「梨」の栽培を通して、自然・地域・人とのふれあい体験を豊かにさせることをねらいとして活動している。梨の受粉、摘果、収穫及び剪定の作業を学校行事・総合的な学習・特別活動・理科の学習として計画し、学年に応じた体験活動を全校児童にさせている。指導者は地元農家の方々に依頼し、上級生が下級生をサポートする体制を整え、長幡小学校の伝統として受け継がれている。梨の収穫では,全児童が収穫した梨と併せて梨栽培についての経緯を知らせる保護者宛の手紙を持ち帰る。その手紙の裏面は返信用の記述欄があり,指導者である地元梨農家の方々へメッセージを書いてもらっている。メッセージには、地域の特産品である梨の美味しさはもちろん,梨栽培活動を通して学んだ地域の素晴らしさや感謝の言葉が綴られている。それらの感謝の言葉は学校から学校応援団に伝達している。

【実施に当たっての工夫】

各分野の活動では、それぞれ事前の打ち合わせや準備などを計画的に行い、安全面に配慮したり、児童の実態に合わせたりして、よりよい活動が展開されるように留意している。次年度に生かすため、活動中の様子について画像記録に残したり、改善点をメモしたりとPDCAサイクルを活用して継続的な活動をしている。特に梨栽培では、地域の特産品である梨に1年生から関わることで、地域に対する愛着が深まるように工夫している。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会では、地域の方々の子供たちや学校に対する願いが話し合われている。地域の方々の願いを実現できるよう、学校応援団連絡会議に学校運営協議会メンバーが参加し、学校の教育ビジョンと地域住民の思いがつながるように意見を出してもらい、よりよい活動になるよう取り組んでいる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校応援団連絡会議や各分野の活動を通して、登録ボランティアどうしの協力体制の輪が広がったり、新規登録希望者への声かけ等が積極的に行われたりしている。また、地域の特産品である梨の栽培活動を全校で取り組む中で、異学年の児童の交流が活発になったり、伝統を受け継ぐ意識の向上が図られたりしている。地元梨農家の方々をはじめ、保護者や地域の方々も校区内にある梨畑を見守り、活動の支援をしている。3月には各分野の学校応援団の方々を招いて、「感謝の会」を実施している。伝統ある長幡小学校を卒業する6年生が中学生になっても引き続きその成長を見守ることや、4月から新たに入学する新1年生を温かく迎え入れ、在校生とともに子供たちの育成につながっている。

● その他

学習支援では、生活科（昔の遊び）や総合的な学習の時間（地域の伝統的な踊り）等での充実した学習のため、地域の方々に指導者を依頼し、豊かな体験活動を行っている。

学校応援団のみなさまを招いた「感謝の会」代表児童による感謝の言葉

地域の特産品である梨の収穫。上級生が下級生にアドバイスをしている。

こんな活動です

市民・県民に誇れるコミュニティ・スクール　上尾中

埼玉県上尾市	●活動名	●関係する学校名
	上尾市立上尾中学校学校運営協議会	上尾市立上尾中学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 194人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://www.city.ageo.lg.jp/site/ageo-juniorhighschool/				
●連絡先	上尾市教育委員会　学校教育部指導課	☎ 048(775)9672			

●活動の概要・経緯

1. 上尾中は平成30年にコミュニティ・スクールが導入された。従来の学校応援団やPTA活動に加えて、学校運営協議会の委員が中心となって各団体と連携を取りながら新たなイベントに取り組んだ。
2. 学校支援という視点だけでなく、地域と共にイベント等をつくりあげていくという視点で活動することで学校・地域双方に活力が生み出されている。
3. 「市民・県民に誇れるコミュニティ・スクール上尾中」としてより活気ある活動を継続していこうと取り組んでいる。
4. コミュニティ・スクールマークは、令和元年度に地域に募集をかけて投票で決まったシンボルマークである。
5. 令和2年度から地域住民・商店と一緒に地域清掃活動や、地域書店での図書紹介活動等に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

1. みんなで語ろう（上尾中学校区　地区懇談会）

学校運営協議会の委員がコーディネーターとなり、共通テーマ「学校が地域にできること」「地域が学校にできること」を中心に、保護者、PTA役員、学校応援団、本校職員、区長で懇談会を実施した。当日は15名程度のグループに分かれ、学校運営協議会の委員が進行役となり、テーマに沿ってそれぞれの立場で意見交換を行い有意義な協議となった。

地域の課題と学校の課題を共有することができ、今まで以上に地域と学校が協働していく雰囲気が醸成され、「学校を核をした地域づくり」に近付けることができた。

【実施に当たっての工夫】

1. 平素からの地域とのコミュニケーションが大切。「学校だより」を配布する際、管理職で直接区長等の所まで持って行き、挨拶をかねて、イベント等の協力を要請する。
2. 「みんなで語ろう」では主のテーマを決め、その他地域の方々が関心の持てるようなテーマを設定し、時間内で活発な懇談が行えるように工夫する。

【関係機関・団体等との連携状況】

1. 学校運営協議会がコーディネーターとなり、各イベントに取り組む。校長の案を運営協議会で練り上げ、具体的なものにしていく。
2. 学校運営協議会の委員がコーディネーターとなり、PTA本部、おやじの会、区長等が主体となって各イベントを行う。
3. 参加者等の募集などの広報活動は、校区内各小学校や事務区長等の協力を得て行う。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

市民・県民に誇れるコミュニティ・スクールとして成長し続けている学校と自負できる。取組についても、学校運営協議会で熟議し様々なことに取り組むことで、地域学校協働活動が活性化し、地域への理解が深まり、ともに活動する機会が増えた。例えば、従来から学校・保護者で行っていたあいさつ運動、リサイクル運動、クリーン活動等についても地域の方々の協力が今まで以上に強くなった。

● その他

本校で取り組んだ「みんなで合唱！」「みんなで語ろう」の様子。

令和元年十一月十六日、みんなの歌声が一つになりました。

令和元年七月三十日、地域の方々七十数名が参加しました。

こんな活動です

高校の魅力アップで存続をめざす。
～地域で支えるコミュニティスクール～

千葉県多古町	●活動名	●関係する学校名
	多古高等学校学校運営協議会	千葉県立多古高等学校

協働活動開始年度	平成　24　年度	学校運営協議会	指定・設置日	地域学校協働本部	有	
			平成24年4月1日指定			
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成			
	―	―				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	―		1人			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無	
	130人					
参考URL	https://cms2.chiba-c.ed.jp/tako-h/					
●連絡先	千葉県立多古高等学校	☎ 0479－76－2557				

●活動の概要・経緯

本校では、平成24年に県からの指定を受け、15名の委員で学校運営協議会を構成しており、併せて地域学校協働本部の機能ももたせている。学校運営協議会は、年に4回90分を目安とした会議を行っており、会長として本校での勤務経験もある元高校校長、委員として多古町教育長、小中学校長、多古町総務課長などの行政関係者や地元企業や成田空港(株)などの民間企業、地域からは町議会議員や住職にも地域住民代表として参加してもらい、それぞれの立場から活発な意見をいただいている。校内委員としては、主任等12名が会議に参加している。
「地域の少子化」を学校関係者と地域住民とが問題意識として共有しプロジェクトチームを立ち上げて活動している。地域ぐるみの「あいさつ運動」は発足当初から取り組んでいる活動で大きな成果を上げている。今後は、キャリア教育を中心に据えた教育力の向上について注力し、「魅力ある多古町・多古高校」を築いていく。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

本校では、「生徒指導」「進路・学習指導」「小・中・高・地域連携」の3つのプロジェクトチームを立ち上げ活動している。「生徒指導プロジェクト」の主たる活動は、「朝のあいさつ運動」である。生徒が登校する日は、毎朝行っている。委員だけでなく地域の方や町役場の職員が参加してくださり、あいさつや生徒一人一人に応じた声かけ等が行われている。「朝のあいさつ運動」は、生徒が登校する8時から8時40分まで、毎日校門近くで行われる。生徒指導プロジェクトから1名、その他のプロジェクトから1名が当番として割り当てられている。月・水・金曜は町役場の方が2名ずつ協力している。元本校職員や元CS委員であった地元の方がボランティアで毎朝参加している。

【実施に当たっての工夫】

「朝のあいさつ運動」は、生徒指導プロジェクトのリーダーである住職が中心となり、CS委員を輪番制で割り当てている。また、多古町役場総務課長の声掛けで、役場職員も協力してくれる。地域と学校とのつながりが深いため、地域にお住いの元職員や元CS委員が率先して活動を支援してくれている。

【関係機関・団体等との連携状況】

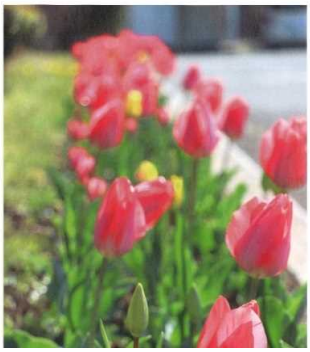
学校運営協議会に地域学校協働本部の機能をもたせることで、地域や関係機関との連携がスムーズに行われている。町主催のイベントである「あじさい祭り」や「いきいきフェスタTAKO」には本校の生徒が多くボランティアとして参加している。また、本校OBを中心として発足した「多古高校CSジュニア」の意見も定例会議で取り上げている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

多古町に高校があることの意味を地域の人々と共に問い直し、学校と行政(町)との関わりを検討する機会が得られたと考えている。
本校の生徒にとっては、学校だけでなく地域の中で育まれることで、自己有用感を高めることができている。地域の方からは「若い人といると元気が出るわ」という声を聞くことができ、地域の方の生きがいづくり・地域の活性化につながっている。
今後も、学校運営協議会と地域学校協働活動を連携させることを通じて、地域社会とタッグを組んで教育活動の充実に取り組んでいく。

● その他

「進路・学習指導」プロジェクトでは成田国際空港株式会社と、「小・中・高・地域連携プロジェクト」では地域のこども園・小学校・中学校と連携した取組みを行っている。また、情報誌「TAKOかわら版」を年2回発行して情報発信を図っている。



コミュニティスクール情報誌「TAKOかわら版」は、各家庭や町民等に配付し、情報を発信

こども園の園児とトウモロコシの栽培

こんな活動です

夏祭りで“つなぐ”地域の力で子どもたちのために！

千葉県市川市	●活動名	●関係する学校名
	Firstnik☆ふぁ～すとにぃく☆	市川市立第一中学校 市川市立市川小学校 市川市立国府台小学校 市川市立中国分小学校

協働活動開始年度	平成 27 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 8人		
ボランティアの数	延べ登録人数 438人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://ichikawa-school.ed.jp/dai1-chu/				
●連絡先	市川市教育委員会　学校地域連携推進課	☎ 047-383-9386			

●活動の概要・経緯

平成27年度より「学校支援コーディネーター」を配置し、地域と学校の連携・協働を推進してきた。コミュニティ・スクール（学校運営協議会）を平成29年度に設置し、地域とともにある学校づくりを目指している。平成30年度には、「学校支援地域本部」から「地域学校協働本部」へ名称を変更し、『Firstnik（ふぁ～すとにぃく）』という愛称で地域と学校をつなぐ機能を果たしている。令和元年度に5回目を迎えた地域の夏祭り『こうのとり祭り』は、国府台小学校の校庭で開催している。この祭りは、一度廃止になってしまった地域行事を復活させるために、統括推進員を中心に、地域の諸団体が協力・出店し、子どもたちの笑顔のために力を合わせている。地域学校協働活動推進員や地域ボランティアが力を合わせ地域のつながりづくりを積極的に行っていることが、地域と学校の連携・協働へ発展している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○「こうのとり祭り」の開催（平成27年度から5年連続開催。令和2年度は中止）
○「道徳実践講座」の開催（4校全てで開催している地域ボランティアとの「考え、議論する道徳」を実践している）
○「コミュニティカレンダー」の発行（4校の学校行事や地域の諸団体の行事を一つのカレンダーにまとめて発行している）
○和洋女子大学・千葉商科大学生へのボランティア募集（小学校へのボランティア派遣をしている）

【実施に当たっての工夫】

統括的な地域学校協働活動推進員を中心に、役割分担しながら取り組んでいる。グループLINEを活用し素早い意思疎通ができている。また、各学校運営協議会でも活動の共有を図り、中学校ブロック内のビジョンの共有が図られている。

【関係機関・団体等との連携状況】

第一中学校区の各学校運営協議会（4校）、県立国府台高等学校、和洋女子大学、千葉商科大学、中学校区内の各自治会、中学校区内の各PTA本部、コミュニティクラブ、えのきの会、おやじの会、子ども会、青少年相談員、スポーツ推進員、PTA野球部、社会福祉協議会、敬老会、国府台病院、消防団、神輿の会等

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「こうのとり祭り」を継続開催する中で、個別の団体同士がつながりを強めていった。統括的な地域学校協働活動推進員を中心に、地域のネットワーク化が図られている。第一中学校で毎年行っている「職場体験」の受け入れ先等を教諭に代わり推進員が担うようになってから、新規の受け入れ先が増え、約200人の生徒が豊かな体験学習を行うことができている。地域支援者による「道徳実践講座」では、4校・15学級に延べ87名のボランティアを派遣し、子どもとともに「考え、議論する道徳」を実践し地域人材育成につながっている。子どもを楽しませることに重点を置いた祭りを開催するためにつながった地域の絆は、様々なところへ波及・発展している。

● その他

第一中学校・国府台高校の生徒会が中心になり、毎年クリスマスカードを地域の敬老会へプレゼントしている。

こうのとり祭り「子ども神輿」地域の神社が協力

道徳実践講座で児童の発言に耳を傾ける地域支援者

こんな活動です

子どもたちの豊かな学びを様々な形で地域がサポート
―学習習慣の定着や授業支援から生涯学習の基礎づくりまで―

千葉県我孫子市	●活動名	●関係する学校名
	布佐中学校区地域学校協働本部	我孫子市立布佐中学校 我孫子市立布佐小学校 我孫子市立布佐南小学校

協働活動開始年度	平成 26 年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 11人		
ボランティアの数	延べ登録人数 245人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://schit.net/abiko/fusa-jh/ https://schit.net/abiko/fusa-minami/ https://schit.net/abiko/fusa/				

●連絡先 我孫子市教育委員会指導課 ☎ 04－7185－1367

●活動の概要・経緯

江戸時代より利根川の舟運で栄えた歴史と文化の薫り高い布佐の町の人々に支えられ、150年の歴史を誇る布佐小学校や、生徒や教職員・町民総出で田を埋め立て開校した布佐中学校、そして高度経済成長に合わせて開発された住宅地に開校された布佐南小学校の学区を基盤としている。30数年前より始まった中学校のクラブ活動（茶道・華道・書道・琴・三味線・郷土芸能・柔道等）の地域住民講師による活動を母体として、児童生徒の学びに合わせて学校支援ボランティア活動も多様化し、地域学校協働活動へと発展してきた。東日本大震災では被災地となり、地域と学校が連携協力し復興に携わり絆が深まるとともに、我孫子市による小中一貫教育の推進に合わせて、小中地域連携運営協議会が設置された。また、平成26年度から総合的な学習の時間の小中一貫カリキュラム「郷土学習・ふさカリキュラム」も実施された。平成28年度からは地域住民による児童生徒の家庭学習・学習習慣の定着、形成を目的とする「ふさ子ども学習室」の運営も開始された。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

全ての活動は、子ども達の豊かな学びを様々な視点から支援していくために、学校だけでなく地域（家庭）と学校が一体となり「市民・地域社会の担い手の育成を地域が行う」という先人の教えや行いを伝承・発展させていく必要があるという確固たる地域の意志に支えられている。また「ふさカリキュラム」の取組は、地域と共に歩む学校づくりを積極的に地域と関わり推進することで、地域人口の減少や高齢化、過疎化が緩和されるとともに、新しい時代をたくましく生きる人間を育成するために、地域の人的・物的教育資源の活用は不可欠であるという意識を、地域と学校で共有・共通理解したことが原動力となっている。郷土の誇りや伝統文化の断絶という危機感も共に認識され、ふさ子ども学習室等の新しい取り組みに繋がっている。

【実施に当たっての工夫】

長年の地域と学校との様々な人的な学習支援を中心とする関わりの中で構築された繋がりや仕組みを、カリキュラム・マネジメントの視点から整理・統合する必要があり、総括的なコーディネーターと共に学校が丁寧に進めていくことが大切であると認識し進めている。行政との関わりも、制度や支援体制の変化に対応できるよう関係者と共通理解を図るようにしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域学校協働活動への移行をスムーズに行うため行政・関係団体との連携は丁寧に進めている。我孫子市のCS制度の導入（令和4年度）に向けて学校評議員会議と小中地区連携運営協議会を廃止・統合し、市内他中区に先行し令和3年度からの学校運営協議会を発足する。各小中コーディネーターを構成員として連携を図り、放課後児童クラブや未来塾との一体的な取組も推進していく。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「おらが学校」という住民意識も強く、学校の為ならと協力を惜しまない住民も多い一方で、東日本大震災による液状化による被害、住民の減少・高齢化等地域の課題も多くある。学校が積極的に学校を開放し、施設の住民の利用や児童生徒の地域行事（学区寺社の祭礼参加や合同避難訓練等）への参加を積極的に行うことは、地域の人的・物的な教育的資源の活用にもつながり、互いに笑顔で、子どもたちの学びのために尽力し、子どもたちの笑顔が地域を活性化するという関係が構築された。また、地域（家庭）でできることは地域で行うという発想もうまれ、放課後の「子ども学習室」（空き店舗や自治会館等利用）の企画・運営はすべて地域住民により推進されている。

● その他

ICT支援員を活用してICT機器活用推進やICT教育の充実を図っている。また、我孫子市ボランティアセンター「てとりあ」、NPOあびこ自主夜間中学校「プラス・ワン」などの関係団体とも情報の共有を図っている。

「ふさタイム」は３０数年間地元講師により実施されている。

地元偉人の生き様を知る「ふさカリキュラム」のコーナーを図書室に設置し資料収集を進めている。

夏休みの学習会には元教員や地元塾講師や高校生・大学生も無償協力している。

こんな活動です

「どの子も安心して学校へ通い、学びへの意欲を伸ばすことが出来る」インクルーシブ教育環境を目指して

東京都文京区	●活動名	●関係する学校名
	駒本小学校学校支援地域本部	文京区立駒本小学校

協働活動開始年度	平成　20　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月2日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	ー	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 6人		
ボランティアの数	延べ登録人数 475人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://ja-jp.facebook.com/komamotoshien				
●連絡先	文京区　教育総務課　地域教育支援担当	☎ 03-5803-1306			

●活動の概要・経緯

学区内にマンションが増え、地域のお祭り、町会活動への関心が薄れるなか、地域や住民の繋がりの希薄に問題意識を持つ声も芽生え始めていた。その住民の声を学校のPTA役員が中心となり拾い上げ、学校を基盤とした課題解決を詰み重ねる地域活動が始まった。そのベースから平成20年度に①小学校を核とした活動を通じて地域の繋がりを再構築すること、②将来世界で活躍する人材をこの地域で育てていくことの目標が共有され、駒本小学校支援地域本部が立ち上り、平成29年度に東京都教育委員会から感謝状を受ける積極的な活動を行ってきた。

そして平成29年度に学校運営協議会が設置されてからは、学校運営・教育活動の方針がより強く共有され、地域の子供の課題、学校運営の課題、地域社会の課題を俯瞰する視点から、解決に向けた有機的協働が本格化し、学校と地域社会が目標を共有し、一体となって協力するパートナーへと成長し成果を出してきた。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

特別支援学級の障害を抱える児童を対象としたインクルーシブ教育環境ではなく、全児童一人一人に充分な合理的配慮が提供される教育環境「どの子も安心して学校へ通い、学びへの意欲を伸ばすことが出来る」を目指して、学校と地域が協働する取組を行っている。
ボランティアが、担任教師との連携のもと、学級運営の支援として児童への声かけなどの関わりを意図的に増やし、関係性を深め、得た児童の情報を積極的に教職員と共有し、学校と協働した活動に結びつけている。更に子育ての孤立化など課題のある児童には、学校と地域が連携し、地域での親子支援を目指した受け皿「子ども食堂」の運営など、外にない地域づくりを行っている。

【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会を積極的に活用し、学校運営の方針や課題の共有を進め、学校と地域を俯瞰する視点から、協働の方向性を明確化している。年間教育計画立案段階からコーディネーターが関わることで、詳細な学校や教職員の真のニーズが把握できるため、最適な支援の提案、提供を学校全体での連動も視点も入れて行っている。

【関係機関・団体等との連携状況】

●学校運営協議会…子ども食堂の運営、●町会や商店街…お店体験、町調べなど、●大学…外国語活動（留学生）、お琴の指導など、●社会福祉協議会…障害者理解や高齢者理解教育など、●企業やNPO…ICT教育、キャリア教育、家庭科（服育・住環境）、オリパラ教育など、●行政…防災教育、土器を調べる授業、薬物乱用防止教育など

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

●地域と学校が協働して問題解決に関わる意識の高まりが実感できている。
・校内や地域の行事への参加者が増えている。また通学路の安全対策や配慮が必要な子育て世帯への対応策など、地域と学校が協働して問題解決ができている。
●学級運営へのボランティアの支援が入ることにより、学級運営の質が向上している。
・研修を行い、配慮が必要な児童への対応を学んだボランティアが支援に入ることで、担当が学級運営に注力できている。
●学校支援地域本部の活動が、教員の働き方改革に繋がっている。
・外部団体との交渉の多くをコーディネーターが担う他、ICT教材準備、補助教材の作成等の支援も行うことで、担任の教職員の負担が軽減している。

● その他

地域や企業・NPO等の教育資源を活用する際は、教職員から得ている学習のめあてを共有し、授業プランの提案を行うなど、負担の軽減に努めると同時に、授業の質の向上、児童の学びの意欲向上につなげている。また外部講師等にもメリットのあるアレンジを行い、継続したい協力となるよう努めている。

お店体験の様子

聴覚障害者理解の授業風景

こんな活動です

「子供が育ち、人が活きる地域」づくりー学園を支える応援団ー

東京都杉並区	●活動名	●関係する学校名
	杉並和泉学園学校支援本部ーいずみんなー	杉並区立小中一貫教育校 杉並和泉学園

協働活動開始年度	平成 20 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成27年10月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 12人		
ボランティアの数	延べ登録人数 417人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://shinsen-izumi.sakura.ne.jp/				
●連絡先	杉並区教育委員会学校支援課学校支援係	☎ 03-5307-0758			

月１回のコーディネーター会議にて

●活動の概要・経緯

〇本学園の学校支援本部は、旧和泉中学校を拠点に、統合の予定されていた和泉小学校、新泉小学校の3校の支援を目的に平成20年3月に発足する。
〇平成27年4月に3校が統合され施設一体型小中一貫教育校「杉並和泉学園」が創立した後は、9年間を通して進める教育課程内活動(キャリア教育、国際理解教育、日本の伝統文化理解教育にかかわる授業支援や家庭科等での授業支援・校外行事等の引率補助等)や教育課程外活動(放課後学習、英語・漢字検定の合格サポート等)の支援に力を尽くしている。
〇平成27年10月に学校運営協議会が設置された後には、学校支援本部長及びコーディネーターが協議会の委員となり、学校経営方針や教育課程等と連動した支援が行われている。また、平成30年4月には、学校支援本部長を会長とする「杉並和泉学園校区地域教育推進協議会」が設置され、エリア内の大学、高校、NPO等との人的交流・人材発掘も活性化されている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

① 小・中学部(1学年から9学年)の9年間の教育を一括して支援している。
② 学校運営協議会と一体となった地域学校協働活動が行われている。
③ 教育課程内活動(キャリア教育、国際理解教育等)と教育課程外活動(補習、検定、部活動等)の両方を支援している。
④ サポートする人の数、支援時間、支援内容等が年々、増加・充実している。
⑤ 校区内の0歳から15歳までの子供たちの健全育成等を目指して設立された「杉並和泉学園校区地域教育推進協議会」に加盟する校区内の大学、高校、幼稚園・NPO法人等との連携を図った活動を進めている。
⑥ 校内に設置されている小学部生対象の「放課後居場所事業」にも支援・協力している。

【実施に当たっての工夫】

① 12名のコーディネーターが小・中学部、取組ごとの担当となり、講師斡旋、ボランティア派遣等の支援活動を行っている。各支援活動については、月1回の「コーディネーター会議」で情報共有がなされ、絶えず改善等を図っている。
② 学校支援本部長、コーディネーターが学校運営協議会の委員となり、学校運営に参画している。

【関係機関・団体等との連携状況】

① 定期的な区所管課等との情報交換の機会が設けられ、他学校支援本部の先進的取組の情報が得られている。
② 地域教育推進協議会の設置により、エリア内の大学、高校、幼稚園、福祉施設等との互恵的な関係が構築されている。
③ コーディネーター、ボランティアに町会関係者が属する為、地域との連携も図られている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇キャリア教育、国際理解教育等の教育課程を進行するにあたり、コーディネーターの献身的なマネジメントにより、教員が児童生徒の指導に専念し、余裕のある中で質の高い体験や専門家等による指導の機会を作ることができた。
〇両学部において実施される補習等により、児童・生徒の学習面での躓きや学びたいという思いに応えることができた。結果、参加者の学習面の課題の改善が見られた。
〇校外行事での教員の引率等の補佐により、児童・生徒の安全を確保することができた。
〇学習支援を行ってくれた方々と児童・生徒との関係が深まり、地域で挨拶を交わすようになった。児童・生徒も地域の中で安心して過ごすことができるようになった。

● その他

〇校内にコーディネーターが常駐に近い状況で執務できる部屋を設定しており、教員と日常的なコミュニケーションが図られる状況にある。関係性の深まりが支援回数増や支援内容の充実に繋がっている。また、執務室がPTA室に隣接することから、保護者との協力関係が深まっている。

低学年の昔遊びを地域の方々と実施

地域の講師による茶道の授業（一～九年で実施）

こんな活動です

地域は学びのキャンパス：子供たちの生きる力を学校と地域で育んでいます

東京都三鷹市	●活動名	●関係する学校名
	三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会	三鷹市立第五小学校 三鷹市立高山小学校 三鷹市立第三中学校

協働活動開始年度	平成　21　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成21年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 156人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.mitaka-schools.jp/mitakanomori/index.html				

●連絡先　三鷹市立第三中学校　☎ 0422－44－6181

令和2年7月オンラインCS委員会で撮影（CS委員会HP）

●活動の概要・経緯

平成21年4月に、三鷹市立第五小学校・高山小学校・第三中学校の3校が、コミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育校「三鷹の森学園」として開園した。同時に設置された、三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会は、地域・サポート部、評価部、広報部で構成されている。

学園開園10周年にあたる令和元年度には、三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会による様々な記念事業企画の実施により、幅広い地域人財とのつながりづくりと支援が得られるとともに、地域からの学校への協力体制の広がりが見られた。また市の研究協力校としての学園の研究活動に、熟議等を通してコミュニティ・スクール委員会が大きく関わり、地域に開かれた教育課程の実現に向けた取組を前進させた。

※三鷹市では、通常使われる「人材」ではなく、「財産」「宝」を意味する「人財」という言葉を使っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

地域学校協働本部として、三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会地域・サポート部が、地域人財による学園サポート、地域ボランティアの把握を行っている。平成30年度から「学園サポーター」の組織化の取り組みをスタートし、学習補助や見守り活動、地域学習等校外学習サポート等、学校間の枠組みを越え学園全体で子どもたちの学びをサポートするしくみづくりをおこなっている。

【実施に当たっての工夫】

学園やコミュニティ・スクール委員会の取組みへの保護者や地域の理解を深めるため、コミュニティ・スクールガイドやコミュニティ・スクールだより、ホームページ等により、積極的に情報を発信している。ボランティア登録やボランティア活動への参加についてインターネットを活用した仕組みづくりに取り組んでいる。

【関係機関・団体等との連携状況】

・地域人財・地域商店等と連携した職業人の話を聞く会、職場体験授業（中学生）
・英語交流活動（イングリッシュ・クリスマス・パーティ）等を、地域人財や近隣高等学校と連携して実施

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域人財による授業サポートや子どもの安全確保、教育環境の整備など学園サポート、サポート隊の組織化、地域でのボランティア活動の促進、健全育成・安全指導の活動等こうした様々な取り組みを推進することで、地域や保護者と協働して行う学習指導等の充実を図っている。学校支援ボランティア参加実績は、令和元年度は1年間で延べ2,661人となり、平成22年度からの10年間で、ボランティアとして活動される方の数は、3.9倍となっている。

● その他

令和2年度からは、スクール・コミュニティ推進員（地域学校協働活動推進員）を導入し、ボランティアの管理・確保、学園・学校・地域との連絡・調整機能をさらに充実させ、多様な取り組みを継続的に行えるよう取り組んでいる。

平成30年4月始動の学園サポーターによる学習支援

三鷹の森学園コミュニティ・スクール委員会による熟議

こんな活動です

ここから始まる新しい学校
～地域が全力で応援し、学校の可能性を拓く～

東京都板橋区	●活動名	●関係する学校名
	舟渡小学校支援地域本部	板橋区立舟渡小学校

協働活動開始年度	平成　26　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 100人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.ita.ed.jp/edu/hunades/				
●連絡先	板橋区教育委員会事務局　地域教育力推進課	☎ 03-3579-2619			

●活動の概要・経緯

地域が責任をもって子どもたちを育てる心意気を示す「舟渡の子は舟渡で育てる」は、地域の合言葉となっている。校庭が会場となっての盆踊り、町会の運動会が開催されるなど、学校がコミュニティのプラットフォームとなってきた。町会が主体となって全校の子どもへの「舟渡ラーメン」の会食会の開催など、学校支援の伝統は脈々と受け継がれてきた。また、平成18年から土曜日の子どもの居場所づくり活動「舟っこクラブ」は、地域の方々が企画運営を担ってきた。

学校支援の組織化を図るため、平成26年に学校支援地域本部、さらに平成30年に板橋区のコミュニティ・スクール導入推進校となった。さらに令和2年度からは、学校支援地域本部とコミュニティ・スクール委員会が両輪となって、新しい時代の学校の可能性を拓くための挑戦をしている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

本校では、2年生生活科の「まち探検」、3年生社会科の「工場見学」、4年生社会科の「リサイクルセンター見学」は学区内で行われ、引率はクラスごとに地域ボランティアが付き安全確保を担っている。

平成29年からのキャリア教育は、NHKの人気番組「プロフェッショナル仕事の流儀」の地域版といえる総合的な学習の時間のプログラムである。地域コーディネーターが講師のリストアップや交渉を担い、様々な職種の方を招いている。さらに大学教員であるコミュニティ・スクール委員の協力のもと、毎年6名の早稲田大学の学生に来てもらい、交流を深めている。自己の将来を描くことにつながるこのプログラムは、保護者や高学年の子どもたちに大変に好評である。

【実施に当たっての工夫】

活動を充実させるためには、ボランティアのすそ野を広げ、多様な方の参加が重要である。冬季に学校の周りをイルミネーションで飾る活動では、男性のボランティアが活躍してくれるようになった。また、イルミネーションを鑑賞するため学校に足を運んでくださる地域住民が多くなり、学校への関心が高まってきた。

【関係機関・団体等との連携状況】

コミュニティ・スクール委員会では、学校支援活動の報告が行われ、課題についてはその場で解決に向けた協議が行われている。夏休みのサマースクールは地域図書館や企業と連携してワークショップ型の体験教室を毎年開催し、多様な人材に活躍いただくことによって、社会に開かれた学校づくりに寄与している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

活動のエンジンは、3名の地域コーディネーターであり、主任児童委員・青少年委員・本校の元校長と多彩な顔ぶれである。毎月のミーティングで、教員からの支援依頼を振り分け、1年生の下校支援、校外学習の引率、キャリア教育の講師依頼、読み聞かせ、栽培活動など、活動への人選をきめ細かく行っている。

また、地域の印刷会社が無償で発行してくださる「学校支援ボランティア通信」はA4版両面カラーの本格的な広報誌であり、活動内容を地域・保護者に知らせ、理解を深めることにつながっている。現在は49号を数えている。

● その他

コミュニティ・スクール委員会は校舎の大規模改修の基本設計から参画し、学校が教育のみならず、防災やコミュニティのセンター機能も有するように提案するなど、新しい学校づくりに地域の英知を結集している。

冬休み学習会を運営する地域ボランティア

設計案を検討するコミュニティ・スクール委員

こんな活動です

緑豊かな学校林でかかわり、つながりを大切に！
～考え実行する子どもの育成を目指して～

東京都多摩市	●活動名	●関係する学校名
	多摩市立豊ヶ丘小学校地域学校協働本部	多摩市立豊ヶ丘小学校

協働活動開始年度	平成　24　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 69人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://schit.net/tama/estoyogaoka/				
●連絡先	多摩市立豊ヶ丘小学校	☎ 042-371-3341			

●活動の概要・経緯

平成24年度に豊ヶ丘小学校支援地域本部を立ち上げ、2名の教育連携コーディネーター（多摩市版地域コーディネーター）を配置し、学校支援活動を開始した。東京都内最大の学校林が校内にあり、1年生から6年生の全校児童が授業や課外活動等で活用していることが最大の特色であり、地域と学校がともに学校林を次世代につなぐためにできることを考え、実行している。他にも、ユネスコスクールとしてESDの視点から、地域貢献の芽を育てる活動や交流活動を通じた持続可能な社会の担い手育成に取り組んでいる。平成30年度からは、地域住民と大学生の協力の下週3～4日地域未来塾の活動を開始した。学校・家庭・地域の更なる連携・協働を進めるため、令和2年度に地域学校協働本部に名称を改めるとともに学校運営協議会を設置したコミュニティ・スクールとして、地域と学校の特色を活かしながら多種多様な活動を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〇学校林…持続可能かつ地域の宝としての学校林にしていくために、地域と学校が協力して学校林の整備・活用・再生について話し合い、作業計画を立てて活動している。子どもたちは植物・生物の観察をはじめ、希少植物の保護について考えたり、設置したアスレチックで遊んだり、さらには市内大学の協力を得て学校林の中で宿泊する「自然学校」等の体験学習活動を行っている。

〇地域…地域での清掃活動やどんど焼き、ニュースポーツ大会等、様々な地域行事のボランティアを通じてボランティアマインドを醸成し、子どもたちの地域貢献・社会参画の芽を育てるとともに、地域と学校との協力体制を構築する。

〇食育…市内農家や地域人材の協力・指導の下、夏・冬野菜の栽培や収穫等の農業体験を通じて地産地消について学ぶことや、地域の伝統食である麦そばの麦の育成、そば打ち体験等の体験学習、また栄養教諭と連携して食育を推進している。

【実施に当たっての工夫】

地域学校協働活動推進員が、地域学校協働本部、学校林活用・再生プロジェクト委員会、学校運営協議会等団体の橋渡し役や、ボランティアと学校をつなぐ役割を担い、情報共有、連絡・調整を行うとともに活動内容を積極的に家庭や地域に向けて情報発信することで活動の理解が得られ、多くのボランティアが活動を支えている。また、活動に関連する手続・調整を行うことで教職員の負担軽減につながっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域学校協働本部定例会、学校林活用・再生プロジェクト委員会、学校運営協議会において活動を報告し、関係者間で意見交換を行い、活動の改善や工夫に努めている。特に、学校林活用・再生プロジェクトにおいては、地域で緑を守る活動を行っているボランティア団体とも連携を図っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇特色ある教育活動である「学校林を活用した取り組み」を通じて、学校（児童・教職員）、家庭、地域が活動目標や育みたい子ども像を共有し、協力体制を構築するとともに、子どもたちに体験学習の場を提供して、課題解決に向けた主体的・協働的な学習を促すことができた。

〇地域とのつながりやボランティアマインドの醸成を意図して地域貢献活動を推進する「地域の伝統文化など人とのつながりを重視した取り組み」では、地域人材や専門的な知識・技能を有する人材を効果的に活用し、地域とともに持続可能な社会の担い手としての子どもたちの育成を図った。

● その他

地域の協力を得て実現した教育活動が全学年の教育課程に含まれている他、継続的に登下校の見守り活動や地域の清掃活動等を行っている。

【学校林整備作業】児童・保護者・地域の方が草刈り、枝拾い等を行う

【落ち葉拾い集会】児童が学校内や学校周辺の遊歩道の落ち葉を拾う

こんな活動です

「出あう、つながる、ふるさとで自ら育つ」をテーマに、街の歴史と伝統文化を活かし、地域とのつながりを創る!!!

神奈川県鎌倉市	●活動名	●関係する学校名
	放課後かまくらっ子	鎌倉市立深沢小学校 鎌倉市立富士塚小学校 鎌倉市立小坂小学校 鎌倉市立関谷小学校 鎌倉市立御成小学校 鎌倉市立第一小学校 鎌倉市立第二小学校 鎌倉市立大船小学校 鎌倉市立七里ガ浜小学校

協働活動開始年度	平成 30 年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和4年4月1日設置予定	地域学校協働本部	無
活動区分	ー	地域課題解決学習	地域人材育成		
	ー	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 13人		
ボランティアの数	延べ登録人数 103人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.city.kamakura.kanagawa.jp/seisyo/kamakurakko2020.html				

●連絡先 鎌倉市こどもみらい部青少年課青少年担当 ☎ 0467-61-3886

※新型コロナウイルス感染拡大前の写真です

●活動の概要・経緯

「子どもたちにより豊かに放課後を過ごしてもらいたい」という思いから、市内2か所で実施していた放課後子ども教室を全市域に広げ、放課後児童クラブと一体となった「放課後かまくらっ子」が立ち上がった。現在は教育委員会との連携を強化し、放課後教育でできることについて、有識者からなる推進部会を設置し、「出あう、つながる、ふるさとで自ら育つ」をテーマに、多様な地域住民や、市内のNPO、大学生、さらには中高生の協力も得て、鎌倉らしさを重視した活動を展開することに努めている。また、支援員やボランティアなど多くの地域人材への研修を月に一度程度開催しており、地域人材の育成にも力を入れている。

令和2年3月からは、新型コロナウイルス感染症対策の一環として、オンラインでの体験活動の展開の在り方について、コーディネーターが中心となったプロジェクトチームを結成し、コロナ禍でも子どもたちの体験の場を提供できるよう、オンラインプログラム実施に向けて取り組みを進めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①放課後子供教室の体験活動の充実…普段の体験活動に加え、学校休校時も魅力ある体験活動が展開できるように、オンラインでの体験活動に向けた準備を積極的に推進。
②地域の人材を活かした活動…鎌倉という歴史や文化を生かした体験活動や、お寺での合宿体験など、地域に根差した活動を展開している認定NPO法人「鎌倉てらこや」や令和元年11月には鎌倉女子大とも協定を結び、鎌倉につながりのある大学生との関わりも重視している。
③市内の中学校、高等学校の部活動との連携…ボランティアとして活動してもらうだけでなく、JAXAと提携したプログラムを実施した際は、事前に中高生だけを対象とした研修会も実施し、これからの地域を担う人材として計画的に育成。
④保護者や地域住民との連携…放課後子供教室での講師等の関わりだけでなく、部活動支援、登校時の見守りや美化活動も各学校で実施。

【実施に当たっての工夫】

各小学校区における特徴を活かしつつも、コーディネーターや現場責任者だけでなく、職員を対象とした意見交換会を積極的に行うことで、横のつながりを強化している。また、外部から推進参与職と推進部会を設置し、毎月、助言を受けるとともに、調査研究を行うことで、成果や課題を明らかにし、広く発信している。このような取組により、地域だけでなく家庭の理解も大きく進んでいる。

【関係機関・団体等との連携状況】

各施設において、放課後児童クラブと一体的に実施しているため、両者に関わるスタッフの連携の充実を重視しており、さらに保護者会との連携に努めている。また、運営主体である指定管理者との情報交換を定期的に行うほか、地域のNPO団体等と協定を交わすなど、連携を強めている。今後、コミュニティスクールに向けて、教育委員会や学校側との連携をさらに図っていく予定である。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・放課後かまくらっ子についてのアンケート調査
令和元年度に6校において実施した調査（回収数：子ども 451、保護者305）では、次のような成果が明らかとなっている。（一部抜粋）
「いろいろな体験ができてよい（70.2%）」、「異学年の友だちが増えた（53.0%）」、「家でも話題として出ている（85.5%）」、「家で地域の人から習ったことを家族とやっている（33.5%）」、「学校にいくのが前よりも楽しみになった（43.6%）」、「地域で地域の人とあいさつなどをすることが増えた（34.5%）」、「地域のお掃除などに以前よりも参加するようになった（26.6%）」、「保護者自身も子どもの居場所づくりに対する意識が高くなった（51.5%）」

● その他

地域に根差した活動を展開している認定NPO法人「鎌倉てらこや」と連携し、鎌倉につながりのある大学生との関わりも重視している。

「鎌倉てらこや」の学生に来ていただき、活動を行っている

中高生を対象に、プログラム実施前に子どもへの教え方の研修を行っている

こんな活動です

地域の特色・地域の力を生かした持続可能で豊かな学びを子供たちに
ー 地域も学校も保護者もwin-winな活動を目指して ー

新潟県村上市	●活動名	●関係する学校名
	金屋小学校学校運営協議会	村上市立金屋小学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和1年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	ー	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ー	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 352人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.kanayasyou.com/				
●連絡先	村上市教育委員会 学校教育課	☎ 0254－72－6882			

●活動の概要・経緯

村上市では平成20年度から中学校区毎に「郷育会議」という学校支援の体制を整え、協働活動を進めてきた。「地域の子供を地域のみんなで育てる教育」はそれまで培ってきた地域とのつながりをさらに強固にし、ボランティアの確保、教育活動への支援が充実した。当校では、総合的な学習の時間に「金屋っ子タイム」として地域の特色を生かした「ふるさと学習」と地域の人たちと触れ合う「ボランティア体験活動」に取り組み、地域と連携して学ぶ喜びを確かめていく子供たちを育んでいる。特に平成10年度から続く全校児童による体験的学習「青空教室」は保護者・地域・関係機関・学校が一体となって行う一大行事である。

コミュニティ・スクールの導入により、学校と地域の関係がより密接になった。学校を応援する校区住民によるネットワークも形作られ、学校運営協議会と連携して学校運営を支援し、教育活動と協働する動きがさらに広がっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

(1)青空教室(全校):荒川を会場に平成10年から続く体験的学習。保護者・地域・関係機関と一体となった活動を実施。
(2)荒川調査(3年生):荒川の自然に関わる活動。鮭の稚魚への餌やり・観察・放流、水質調査、水害の歴史調べ。
(3)米作り(5年生・全校):JA、隣接農家及びボランティアが支援。全校で田植(苗作りから)・稲刈り・収穫祭。
(4)老人会との交流(1・2年生)、福祉施設訪問(4年生):地域の高齢者や福祉施設入所者との交流。
(5)つどい場「おらだり」:6年生が自分たちの考えた地域活性化案を地域の大人と協議。地域との協働で提案実現。

【実施に当たっての工夫】

地域との連携・協働による取組及び支援のネットワークがコミュニティ・スクールに受け継がれ、学校運営協議会委員を関係機関・団体にも依頼することで多くの協力を得ている。地域コーディネーターが活動の様子等をボランティアだよりで地域全戸に発信し、学校と地域を強く結びつけている。地域ボランティアを卒業式に招待し、地域みんなで卒業を祝うことを大切にしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

体験的活動の中心に位置づけている「青空教室」では、荒川に関わる諸団体・地域住民が専門性や得意分野を生かしてワークショップを開いた。特に地元の協力による川船体験は全児童にとって貴重な体験となった。学校運営協議会とつどい場「おらだり」が目的を共有し補完し合うことで、地域との連携が充実し、協働活動が豊かになった。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

保護者・地域・関係機関・学校が一体となって活動することで、地域に根ざした教育活動が展開された。子供たちが自ら考えた計画の実効性を大人と話し合うことで主体性や異なる意見を受け入れ尊重しようとする資質・能力が育まれた。福祉施設や高齢者との交流活動では共生することの大切さに触れ、地域の一員であることを自覚するようになった。地域の中心産業である米作りを一から体験することで地域に対する関心が高まり、収穫祭では学びを地域に還元することができた。どの活動も子供たちの成長と関わった地域住民の生きがいにつながるかけがえのない活動となった。つどい場の肯定的評価98%には地域の関心の高さ、期待が伺え、協働活動の力になっている。

● その他

JA、東北電力は出前授業で学習を支援し、NPO法人都岐沙羅パートナーズセンターはボランティアの育成に関わっている。地域理解や地域への発信にパソコンを活用している。ボランティアによる図書室等の整備は教員の負担軽減・時間確保につながった。

6年生が地域活性化について提案。地域の大人と実現に向けて話し合う

つどい場「おらだり」青空教室をどう支援するか意見を交わすメンバー

こんな活動です

湯沢町を誇りに思い、次代を担う、たくましく生きる子どもの育成
～オール湯沢で取り組む学園支援～

新潟県湯沢町	●活動名	●関係する学校名
	湯沢学園地域学校協働本部	湯沢町立湯沢小学校 湯沢町立湯沢中学校

協働活動開始年度	平成　26　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成26年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	ー	地域人材育成		
	地域未来塾	ー			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 6人		
ボランティアの数	延べ登録人数 248人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.town.yuzawa.lg.jp				
●連絡先	湯沢町教育委員会　子育て支援課　地域交流センター	☎ 025-784-3033			

●活動の概要・経緯

湯沢町内には、湯沢中学校と、三国、三俣、土樽、神立、湯沢の5つの小学校があったが、平成26年4月にこの5小学校を統合して湯沢小学校とし、湯沢中学校と併せて小中一貫教育を開始した。その後、平成28年に町内5つの保育園を統合して湯沢認定こども園とし、保小中一貫教育を目指す湯沢学園となった。この統合を機に、湯沢町は「湯沢町を誇りに思い、次世代を担う、たくましく生きる子ども」の育成を目指し、「オール湯沢」を合言葉に湯沢町総がかりで子どもたちを育む体制を整えた。保小中一貫教育を実現するために、統合前の各小中学校の学校運営協議会を、平成26年度から湯沢学園学校運営協議会として1つにし、保護者、地域住民と学校とが熟議をし、学園と地域の両方を元気にする活動を展開している。さらに、一体型校舎の一角には、学園と地域との交流拠点となる地域交流センターを併設している。この地域交流センターには、社会教育指導員を配置し、5人の学園支援コーディネーターと協力して学園支援ボランティアの活動をコーディネートしている。学園支援活動を中心に、学園と地域住民、地域住民同士をつなげている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

学園支援ボランティア活動
① 学習支援【教師が行う日常の授業を支援補助するもの】書道、家庭科（ミシン）、体育（スキー・ダンス）、読み聞かせ　等
② 学習参画【授業計画の段階から連携し授業づくりを行うもの】総合的な学習の時間や社会科で地域を学ぶ学習、クラブ活動　等
③ 支援活動【教育環境の向上に寄与するもの】見守り、図書整備、校舎清掃、植栽、卒業生による学習支援、ものづくり　等

地域連携活動
① あいさつ運動支援活動・・・湯沢学園学校運営協議会の目指す「あいさつあふれる湯沢町」と連携
② 湯沢っ子絆活動・・・町内会と連携した、地域住民と児童・生徒による町内ごとの奉仕活動・体験活動

【実施に当たっての工夫】

「地域交流センター」が協働活動の中核を担い、人材の確保、スムーズな連絡・調整が行われている。また、年3回行われている「湯沢町学園支援コーディネーター連絡会」（社会教育指導員、学園支援コーディネーター、教育委員会子育て支援課職員、認定子ども園長、小学校教頭・中学校教頭）により、内容の改善・充実が図られている。

【関係機関・団体等との連携状況】

「オール湯沢」での取組であり、湯沢学園学校運営協議会をはじめ、湯沢町ボランティア連絡協議会、湯沢町公民館、湯沢町スポーツ推進委員会、体育協会等と連携をしており、学園のニーズに対応した支援をしている。また、地域交流センターの担当者や学校運営協議会のメンバーが様々な団体に所属しており、横の連携も取りながらのタイムリーな支援体制が構築できている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

協働活動の要になっているボランティアの窓口を地域交流センターに一本化したことで、協力する側も、支援を求める学校も、相談しやすく活用も広がっている。また、ボランティア同士の情報交換会を定例で実施したり、学びあう研修会を実施したりするなど、活動が広がっている。

教員だけでは十分な指導ができない技能教科のミシンやスキーなどの技術的な指導や、茶道・華道・和楽器といったクラブの指導などが、継続して行われ、児童も興味をもって取り組んでいる。これらの指導に関わる教職員の準備の時間減や負担の軽減になり、子どもと向き合う時間の確保につながっている。また、支援に関わった人たちからは、「子どもと触れ合う時間が楽しい」「もう少し活動の機会を増やしてほしい」という声が上がっている。

● その他

地域交流センターと、こども園、小学校、中学校、そして町教育委員会が一体型の施設にあることで、日常の互いの姿や生活の様子を感じながら、活動が推進できるメリットがある。

ボランティアと生徒による朝のあいさつ運動の様子

卒業生ボランティアによる夏季休業中の小中学校生を対象にした学習支援

こんな活動です

城北「愛」 -Partnershipで地域を笑顔に-

新潟県上越市	●活動名	●関係する学校名
	城北中学校区子どもを育てる会	上越市立城北中学校 上越市立東本町小学校 上越市立飯小学校 上越市立大町小学校

協働活動開始年度	平成 21 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成24年4月1日設置	地域学校協働本部	有	
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成			
	―	―				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	―		8人			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無	
	50人					
参考URL	http://www.johoku.jorne.ed.jp/					
●連絡先	上越市教育委員会 社会教育課	☎ 025-545-9245				

●活動の概要・経緯

城北中学校区子どもを育てる会は、平成21年6月9日に設立し、地域が学校と連携して主体的に地域の子どもの健全育成について考え、その推進に寄与することを目的に活動している。

育てる会の構成員は、町内会や子ども会、PTA、小・中学校の教職員、主任児童委員会、保護司会等の様々な団体が参画していることから、地域と学校との活動を行う上で、円滑に連絡・調整ができる体制となっている。

平成24年4月からは小・中学校に学校運営協議会が設置され、その設置当初から、育てる会の委員や地域コーディネーター（平成31年4月からは地域学校協働活動推進員）が学校運営協議会委員として参画しており、学校運営協議会と育てる会が両輪となって地域の子どもを育てる活動を推進している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①青少年演劇集団「スタートライン」…地域で組織される「城北中学校区子どもを育てる会」が主催となり「演劇」を公演している。演者は城北中学校の生徒希望者で、演劇指導は城北中学校の卒業生である地域住民の方が行い、保護者や中学校卒業生は公演当日の受付や駐車場整理に当たる。公演は城北中学校体育館で3日間行われ、多くの地域住民等が観覧に訪れるなど、城北中学校の文化・伝統になっている。また、学区内の小学校6年生が観覧し先輩の演劇に直接触れることで、「中一ギャップ」解消の一助になっている。

②あいさつ運動…育てる会が主体となって地域と学校にあいさつを行う日を呼びかけ、最寄りの小・中学校や主要な交差点などに地域住民や教職員、児童・生徒が集い、地域と学校が一体となってあいさつを行っている。

【実施に当たっての工夫】

青少年演劇集団「スタートライン」の開催にあたっては、城北中学校の卒業生でもある地域住民の方が指導者となり、中学生のために本番までの約2ヶ月間、演劇指導を行っている。毎年、育てる会の委員だけではなく、保護者や中学校卒業生も「スタートライン」の企画・運営に協力し、地域と学校が一体となって取組を進めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

育てる会の委員や地域学校協働活動推進員が関係する各校の学校運営協議会の委員として参画しているとともに、幼保園長や小・中学校長、教職員が育てる会の構成員として参画していることから、地域と学校の連絡調整を円滑に行われている。また、育てる会の構成員に町内会や子ども会、主任児童委員会、保護司会等の多くの団体が参画しており、地域が一体となって子どもの成長を支える体制となっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「スタートライン」は、演者となる中学生をはじめ、運営に携わる中学校卒業生や保護者、教職員など、城北中学校を舞台として地域と学校が一体となって行われている活動である。この積み重ねにより、城北中学校の文化・伝統として地域と学校の中に活動が根付いており、それが起点となって、育てる会の他の活動である「あいさつ運動」や「大人のための学習会」等への地域住民や教職員への参加が広がっている。特に「あいさつ運動」では、運動開始当初に比べ、町内会からの関心が高まり、運動に参加された方が次の運動の際には他の方にも参加を呼びかける等、参加者が年々増加している。

● その他

育てる会とPTAが連携して、防犯や性教育、健康、アウトメディア等の講習会を開催することで、子どもたちの健やかな成長を支えている。また、学校運営協議会で学校・地域協働の教育課程を検討し、地域人材や地域教材の積極的活用による学習支援を行っている。

「あいさつ運動」は地域住民と小・中学生、教職員が一緒に取り組む

「大人のための学習会」で地域の大人と教職員が一緒に学ぶ

こんな活動です

「子供は地域の宝」
～学校は地域と共に！地域は学校の応援団～

石川県能美市	●活動名	●関係する学校名
	福岡小学校学校運営協議会	能美市立福岡小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 45人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://cms1.ishikawa-c.ed.jp/~fukuoe/NC2/htdocs				

●連絡先　能美市教育委員会　学校教育課　☎ 0761-58-2271

「丸いもづくり」地域の特産物の体験学習

●活動の概要・経緯

・平成29年から能美市コミュニティ・スクール事業が始まり，市内全小学校8校に学校運営協議会を設置。福岡小学校においてもコミュニティ・スクールディレクターを中心に学校支援活動とともに，学校と家庭，地域による協議を実施。
・運営協議会の中に評価部，学校支援部，広報部の3つの部会を組織し，協働的に取り組んでいる。
・年度初めに協議しながらアクションプランを立て，「知・徳・体・地域」の調和のとれた取組を行っている。
・町内会とつながりを深め、地域全体で子供の安全を守るための取組や学校支援を試みている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・ふれあいラジオ体操を町内会、PTA,児童会、学校と協働して夏休み中に開催した。児童達が地域住民に呼びかけを行い、運営を担うことができた。地区懇談会ではPTA，町内会長、民生委員、学校職員、運営委員が参加し、児童を取り巻く課題の解決に向けて協議した。
・学校運営協議会で子供たちの安全を守るためにどうするかを話し合い、その結果を町内会に反映させたり、子供視点での防災訓練を行い、地域の防災訓練に親子で参加する機会を持った。地域の方の指導を受けて、地域の特産物の体験学習を年間を通して行っている。

【実施に当たっての工夫】

・授業などに必要な学習支援のサポーターはコミュニティ・スクールディレクターが中心となって連絡・調整し、教員の負担を軽減した。特に、企業訪問では、運営委員の人脈から依頼することで、訪問が実現したところもある。話し合いの充実のために定例会を開催したり、学校行事ごとに集まるなど日頃のコミュニケーションを密にし、課題解決の糸口をもつようにしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

・年に2回程度、町内会長会を学校で行っている。学校の現状や課題など共有し、地域全体の理解と協力を得ることができる。
・学校運営協議会委員に町内会長等を委嘱し、地域とのつながりを深めた。町内会長との懇談会も調整・推進役となった。地域の防災士や環境推進の方との連携を持ち、授業などに生かしている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・ふれあいラジオ体操は、学齢期の子供がいない家庭の方が「参加することで元気がもらえた」と好評だった。ふるさと学習では、専門的知識を持った方が指導することで、児童の学びも確かになり、地域のよさを知り、地域に誇りを持つことができる機会になっている。
・町内会とつながることで、地域ぐるみの活動が可能となっている。さらに地区懇談会に運営委員も参加したことで、地域の多くの方が参加し、取組が浸透した。アクションプランを各家庭が掲示することで「見える化」が図られ、各家庭で意識的に話題にする光景が見られた。

● その他

朝の読み聞かせ，見守り活動，クラブ活動の指導，地区懇談会，町内会長との懇談会，地域の音楽バンドとともに学校の歌を作成しコンサートで披露など、学校とともに地域住民が主体となった様々な活動を展開

地区懇談会で参加者が子供の安全のために自分達のできることを協議

地域の方の多くの参加があったラジオ体操

こんな活動です

三崎の豊かな自然・人・結びつきを生かして ～学校・家庭・地域の強い絆づくり～

石川県珠洲市	●活動名	●関係する学校名
	三崎地区学校運営合同協議会	珠洲市立みさき小学校 珠洲市立三崎中学校

協働活動開始年度	平成　31　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年7月3日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 110人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/misake/（みさき小） https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/misakj/（三崎中）				
●連絡先	珠洲市教育委員会事務局	☎ 0768-82-7826			

●活動の概要・経緯

三崎地区には、小学校1校と中学校1校があり、学校運営協議会の発足前から「学校」「地域」「家庭」が連携した取り組みや長年引き継がれている地域学校行事が活発に行われている。しかし、近年は、少子高齢化に伴い、児童生徒数の減少や住民のつながりの希薄化など地域社会を取り巻く環境が厳しい状況に置かれている。こうした中、地域とともにある学校づくりをより強固に推進していくために、平成31年度から地区住民に呼びかけて、三崎地区の教育について意見を交換する「熟議」を開催してきた。「熟議」で地域住民の意見を参考にしながら、学校運営協議会の基本方針を作成し、令和2年度に、みさき小学校、三崎中学校各々に学校運営協議会を設置した。また、両校の学校運営協議会の連携を図るとともに、小中連携教育をより一層推進するため、三崎地区学校運営合同協議会を設置し、「学校」「地域」「家庭」の強い絆づくりに努めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

小学校では、各学年で魅力的なふるさと学習を行っている。代表的な取り組みは、郷土民話さんにょもん語り伝承教室。三崎町に残る文化財産であるが、知らない地域住民が増えている。そこで、毎年、公民館とさんにょもん保存会が連携して、4年生を対象に教室を実施している。教室で作成した紙芝居は、文化祭、老人会など様々な地域行事で児童が発表しており、地域への学びの還元にも繋がっている。中学校では、珠洲市がSDGs未来都市に選定されたことを契機に、持続可能な三崎地区の将来について考える学習を行っている。昨年度は、三崎地区の各集落の祭礼について聞き取り調査を行い、継続困難であるという課題と向き合った。生徒は、地域づくりの当事者の一人として、この課題を真剣に考えて研究し、文化祭において、研究成果の発表と課題解決のための提言を行った。小学校では地域を知り学ぶこと、中学校では地域づくりに参画することを目標に取り組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

以前より、地元公民館をはじめ、町内会や各種団体が連携を密にして、学校や地域における課題やニーズを捉えながら活動を展開している。平成31年度には、活動のみならず目的を共有化するために、コミュニティ・スクールの専門家を招聘して「熟議」を3回行った。子どもたちにどんな大人になってほしいのか、互いの願いや考えを率直に話し合うことで、目標の共有化や役割意識の醸成を図った。今後も「熟議」は毎年開催する予定である。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会において、地域学校協働活動の報告や検証を行う。また、月一回、地域全戸配布の「学校だより」のほか、コミュニティ・スクールに関する情報を地域住民に周知し、コミュニティ・スクールへの理解や参画の意識醸成を図るために、「コミュニティ・スクールだより」を年数回発行している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

豊かな里山里海のフィールドや歴史ある伝統文化など地域の特色を活かした活動が、地域の方の工夫により効果的に行われ、子どもたちの地域への愛着心と地域づくりの担い手意識を高めることができた。平成31年度からは、小学校の空き教室を活用して放課後子ども教室を開設し、多くの地域住民や地域団体の参画を得ながら、子どもたちに多様な体験プログラムを実施している。「熟議」の開催に加え、放課後子ども教室の開設により、地域で子どもたちを育てる意識の高揚をより一層図ることができた。

● その他

「熟議」で三崎地区の教育について活発な意見交換を行う地域住民

郷土民話さんにょもん語り（紙芝居）を地域住民の前で披露する児童

こんな活動です

ふるさとに愛着と誇りを持ち、人と地域を愛する生徒の育成

石川県かほく市	●活動名	●関係する学校名
	高松中学校学校運営協議会	かほく市立高松中学校

協働活動開始年度	平成　28　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成28年4月1日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 72人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	cms1.ishikawa-c.ed.jp/~takamj/NC2/htdocs/				
●連絡先	かほく市教育委員会事務局生涯学習課	☎ 076-283-7137			

●活動の概要・経緯

子どもたちや学校、地域がより元気に明るく暮らせる方策を学校運営協議会で協議、検討し、学校運営や地域行事に反映している。高松中学校には市教育委員会が学校コーディネーターを1名配置し、学校と地域との間の連絡・調整や事業の企画・運営を行っている。
学校の授業のゲストティーチャーや学習支援、授業のサポートとして地域住民の協力を得ているほか、学校行事やPTA活動、部活動やボランティア活動などでも協力し交流をしている。
学校運営協議会の委員やPTA役員が地域人材を把握しており、学校コーディネーターと連携することで、さまざまな活動に地域から多くのサポーターの協力を得ている。また各教職員と学校コーディネーターのコミュニケーションが取れているため、調査や準備などの対応が早くできている。市内のほかの学校コーディネーターとの定期連絡会でお互いの活動について情報交換をし、活動の充実に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①学校運営協議会の中で、地元の特産品である「高松ぶどう」を中庭で育て、生徒たちにその良さを知ってほしいという案から、平成29年に中庭にぶどう棚を設置した。栽培には高松ぶどう生産組合の方が協力して下さっている。1年生が「高松ぶどう」について半年かけて重点的に学んでおり、育成方法や流通の仕方、加工製品、ぶどう農家や後継者問題などぶどうにまつわることについて調べ、学習成果を文化祭などで発表している。
②校区内で実施しているPTA活動の資源回収作業で、民生委員の協力を得て、希望する高齢者宅の回収物を中学生が結んだり運び出したりしている。
③社会福祉協議会で中学生の希望者を対象に、ボランティアサークル「絆」を組織している。生徒と社会福祉協議会との連絡調整を学校コーディネーターが行い、毎月1回のミーティングをしている。民生委員・主任児童委員・社会福祉協議会職員の助言のもと活動内容や参加人数など生徒自身で考え、実施している。

【実施に当たっての工夫】

〇生徒たちが、「生育」「流通」「食」などさまざまな視点から高松ぶどうについて学習することで理解を深めるようにしている。
〇資源回収作業の中で、中学生に自身が地域の一員として活躍することができることを体験でき、また地域住民との交流も図れた。

【関係機関・団体等との連携状況】

高松ぶどう生産組合やJA石川かほくの職員と連携し、授業の中でぶどう学習を進めるだけでなく、教育課程外でも発表や活動の機会を実施・検討している。ボランティアサークルの活動については、毎月のミーティングで社会福祉協議会の職員や民生委員・主任児童委員と生徒の打ち合わせに出席し、生徒たちの支援に努めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校のさまざまな場面で地域住民などの協力・支援があり、生徒たちは多くの体験をできている。またボランティア活動では生徒それぞれが社会の一員であり、地域に対して協力しお互いに住みよいまちづくりをすることの大切さを学んでいる。生徒や学校と共に活動した地域住民からは「学校へ行って中学生と関わるのが楽しい」「普段していることが役に立ってやりがいがある」「中学生から元気をもらっている」などの声を聞いている。学校コーディネーターが地域と学校の連絡・調整や情報収集を行っていることで教職員の負担軽減につながっている。

● その他

新春の全校生徒参加のカルタ大会では、競技かるたの選手を招いて全国レベルの技術を見せていただいた。また人前での話し方、自分の言葉をどう伝えるかをプロの芸人から教わる「表現力アップ教室」を実施した。

こんな活動です

阿智村に育つすべての子供たちに「確かな学力」と「未来を切り拓く生きる力」を！

長野県阿智村	●活動名	●関係する学校名
	阿智村 小中学校コミュニティ・スクール	阿智村立阿智中学校 阿智村立阿智第一小学校 阿智村立阿智第二小学校 阿智村立阿智第三小学校 阿智村立浪合小学校 阿智村立清内路小学校

協働活動開始年度	平成 30 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成31年4月1日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 6人		
ボランティアの数	延べ登録人数 55人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://www.vill.achi.lg.jp/				
●連絡先	阿智村教育委員会学校教育係	☎ 0265-45-1231			

●活動の概要・経緯

以前から村内の数校を対象とした「放課後学習教室」や，浪合地区では「放課後子ども教室」が実践されていたが，村内の5小学校・1中学校を繋ぐ核となる活動は十分ではなかった。そこで，平成31年4月に「地方教育行政の組織及び運営に関する法律（第47条5）」に基づく「学校運営協議会」を村内全校に設置，コミュニティ・スクールに指定した。従来，各校で取り組んできた活動を大切にしつつ，コミュニティ・スクール指定を一つの機会として，子どもたちに「確かな学力を身に付けること」を基盤に「未来を切り拓く逞しい成長」を願って、地域の理解と協力の下、中学生を対象とした公営学習塾「若駒アカデミー」、高学年児童を対象とした「放課後学習教室」の整備を進めた。また、地域の「ひと・こと・もの」を題材とした質の高いふるさと学習の実現、中山間地小規模校のハンディキャップを克服し、より充実した教育活動・学校運営の在り方を研究・検討する活動にも取り組み始めた。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・「未来を切り拓く逞しい成長」の基盤に「確かな学力の獲得」を据え，地域・学校でこの価値観が共有できるよう取り組んでいる。
・学力の3つの側面（知識・技能，思考・判断・表現，学びに向かう力・人間性）をバランスよく育てるには，授業改善は勿論であるが，児童生徒が主体的・自立的に学習する場も必要と考え，地域の協力を得ながら，「放課後学習教室（小）」・「公営学習塾”若駒アカデミー”（中）」の実践を進めた。
・地域・学校の関係者からなる「ふるさと学習カリキュラム作成委員会」を組織し，小中9年間のふるさと学習を通して付ける力を具体化し、地域のひと・こと・ものに深く関わる実践を積み重ねている。地域の人々を招いた「ふるさと学習発表会」を開催し、実践集も発刊した。また、「小規模校学校課題研究委員会」も立ち上げ、中山間地小規模校における学校教育・学校運営の在り方を”地域・学校の協働”の視点を大切に研究している。

【実施に当たっての工夫】

・上記の活動がそれぞれ繋がった活動となるよう地域コーディネートの役割を教育委員会事務局の学校教育専門主事が務めている。
・どの活動も「地域の理解と支援」が鍵となる。関係者連絡会議や委員会では，地域の声が反映されるような運営や委員の人選に努めている。また，主にふるさと学習では，学習支援者の登録（阿智村版人材バンク）活動を進め，現在55名の登録者がいる。

【関係機関・団体等との連携状況】

・地域関係者へのアンケート等による活動の成果や課題の洗い出しを大切にし，それを翌年の活動計画に生かすようにしている。また，良い活動例などを資料として関係機関・関係者へ配布し（必要に応じ視察も実施），関係者の意識が高まるように工夫している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・学校教育の具体的な内容や児童生徒の成長に関心を持つ地域の方々が増えている。特に少子高齢化やAI技術の急速な進歩により，今後の社会が見通せない状況となっているが，だからこそ児童生徒と地域の「これから」を考えたいとする見方が生まれている。
・地域関係者の中に，学力の向上，ふるさと学習，小規模校学校課題研究のいずれもが児童生徒の成長と今後の地域社会にとって大切な課題であるとの認識が広がっている。

● その他

・支援者・関係者の高齢化等による人材不足・持続可能性も今後懸念される。そうした課題をICT機器等の活用でどのように補えるか，検討課題である。

若駒アカデミー（中三）（国語の授業）

小規模校学校課題研究委員会（校長の話を聞く委員）

こんな活動です

地域で学ぶ、地域を学ぶ、地域の人とともに学ぶ八坂の子どもたち

長野県大町市	●活動名	●関係する学校名
	八坂学校協働隊	大町市立八坂小学校 大町市立八坂中学校

協働活動開始年度	平成 25 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成27年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		1人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
	160人				
参考URL	http://yasakasho.city-omachi.ed.jp/ http://yasakachu.city-omachi.ed.jp				

●連絡先 大町市立八坂小学校 ☎ 0261－62-2010

●活動の概要・経緯

学校教育目標「やさかの心」の具現、「学び合いの里 八坂」の実現を目指し、平成25年から信州型コミュニティスクールがスタートした。平成27年4月に「八坂学校運営協議会」を発足させ、八坂コミュニティ・スクールとなった。これにより、地域の方々が八坂小・中学校の学校づくりに参画するとともに「八坂学校協働隊」の活動をより活性化させるための組織整備を行いつつ、様々な学校支援ボランティア活動が充実した。その結果、学校が「子どもの学びの場」という位置づけに留まらず、「社会人の学びの場」「地域づくりのハブ」としての役割を果たす場となり、児童・生徒・教職員・保護者・地域住民が、助け合い、励まし合い、地域コミュニティの発展・成長のための一端を担う場として位置づいていった。

児童は、地域の方への取材、情報整理、発信を目的とした活動を重ねるなかで地域への愛着を深めていき、地域住民は、学校行事への支援活動を通して結びつきを深めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

【学校運営協議会研修会】松本大学総合経営学部 向井健先生を招き、地域と学校の連携についての講演会を実施。地域人材育成に取り組んでいる。【コミュニティ・スクールの集い】協議会委員、地域住民、保護者、教職員、小・中学生、高校生が集い、グループに分かれて「小規模校の特色を活かした学校づくり」について熟議を行っている。【学校協働代表者会】学校協働コーディネーターが招集し、定期的に会議を行い、ボランティア活動の調整を実施。課題解決に向けて協議をしている。【学校支援活動】遠足ガイド、地域探検講師、ガードレール磨き、音楽会・運動会支援、通学合宿、郷土学習交流会、かるた・餅つき大会、読み聞かせ、教科学習・クラブ活動補助、登下校見守り等を行っている。

【実施に当たっての工夫】

コミュニティ・スクールの集いでの児童や教職員と支援ボランティアの熟議を通して、それぞれの立場で何ができるかを考えて取り組むようにしてきた。学校のためだけでなく、ボランティアの方が「自分自身の学びを広げたい」と願い、「子どもの課題解決する姿を見守り育てていこう」と思えるように様々な場で投げかけてきた。

【関係機関・団体等との連携状況】

【学校運営協議会との関係強化】学校運営方針の承認、年間支援計画検討、研修会・コミュニティの集い開催、学校運営評価と反省
【学校協働代表者会による連携・協力】学校協働コーディネーターが招集し、2ヶ月に1回開催。ボランティアに関する調整、支援活動の課題等があればその場で協議し、解決の方法を協議している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校運営協議会・学校協働代表者会と連携し、様々な学校支援活動に取り組んだ結果、学校が「子どもの学びの場」という枠組みに留まらず、「社会人の学びの場」としての役割を果たす場となり、地域に関わる人々が、助け合い、励まし合い、地域コミュニティの発展・成長の一端を担う場として位置づいてきた。

児童・生徒は、地域への取材、情報整理、発信といった活動を重ねるなかで地域への愛着を深め、地域住民は、学校行事への支援活動を通して結びつきを深めている。児童も地域住民も、所属する集団における他者との関係のなかで、自分自身の価値を再認識し、「自己有用感」を伸ばし、よりよく生きようとする姿が見られつつある。

● その他

学区内に公益財団法人育てる会が運営する「山村留学 八坂美麻学園」があり、全国から山村留学を希望し、学園から本校に通う児童が18名います。八坂美麻学園との結びつきも強く、様々な面で学校支援活動に大きく関わっていただいている。

郷土学習交流会。地域の方々にご指導いただき、わら細工・そば料理・茶道・干し柿作り・おやき作りの講習会を行っている。

支援ボランティアの皆さんと記念撮影

昭和五十七年から続く、通学路のガードレール磨き。生徒数は減っていますが、地域の方々の支援を得てずっと実施している。

こんな活動です

「おらが町」がONE TEAM　～ふるさとで生きる力を育む～

岐阜県揖斐川町	●活動名	●関係する学校名
	地域で育て、地域に戻り、地域を支える揖斐高生	岐阜県立揖斐高等学校

協働活動開始年度	平成　28　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	―	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 9人		
ボランティアの数	延べ登録人数 1800人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://school.gifu-net.ed.jp/ibi-hs/				
●連絡先	岐阜県立揖斐高等学校	☎ 0585-22-1261			

●活動の概要・経緯

本校は、大正8年に揖斐郡立農林学校として創立され、地域社会の要望と期待に応えながら、令和元年度に創立100周年を迎えた歴史と伝統を誇る高等学校である。平成16年度より連携型中高一貫教育校となり、揖斐川町立中学校との中高連携による6年間の学校生活の中で、きめ細かい進路指導や生徒指導を実践している。平成26年度より2年間の「飛び出せスーパー専門高校生推進事業」指定や、平成27年度の学校設定科目「デュアル実習」開設、平成28年度の「揖斐川町との連携・協力に関する協定書」締結など、揖斐川町との結びつきはますます強固なものとなっている。また、平成29年度に3年間の「地域連携による活力ある高校づくり推進事業」の指定を受けて以降、「地域で育て、地域に戻り、地域を支える人材育成」に向けて取り組み、平成30年度に導入した学校運営協議会を核として地域との連携を深化させている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①地域を知ろう･･･子どもたちが地域の大人から学ぶ揖斐ジモト大学、キャリア意識を高める地域医療講座、徳山ダム見学会
②地域の文化を学ぶ･･･伝統行事「いび祭り」講演会、伝統文化「草木染」講習会
③地域とつながる･･･デュアル実習で職業人の育成、地元企業とのコラボ企画
④地域貢献･･･生徒会による地域貢献、家庭クラブによる地域貢献、MSリーダーズによる地域貢献
⑤地域との交流･･･幼児園との交流、地元介護施設との交流、連携中学校との交流や出前授業、学習成果発表会へ招待
⑥地域に発信･･･JA揖斐川や地元企業との連携や共同での商品開発･販売、本校生徒が講師となって地元公民館で講座を開講

【実施に当たっての工夫】

講習会や地元企業との連携は生活環境科、「デュアル実習」は普通科と進路指導部、「揖斐ジモト大学」は教頭を総括とした地域連携チーム、その他の地域連携行事については生徒会や家庭クラブ、MSリーダーズ、というように校内組織で役割を決めて地域連携に携わることで、継続的･発展的な取組が可能である。

【関係機関・団体等との連携状況】

以下の関係機関の方に、本校の学校運営協議会に関わっていただくことで、地域学校協働本部のような役割を担っている。
･揖斐川町･･･揖斐ジモト大学、地域医療講座、いびがわマラソンなど行事への参画
･中学校･･･連携型中高一貫交流事業
･揖斐川町商工会、揖斐厚生病院、介護施設･･･デュアル実習、地元企業とのコラボ企画
･JA揖斐川･･･地元企業との連携や共同での商品開発

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

･学校評価アンケートによると、「地域のボランティア活動に協力し、人材育成に努めている」という項目について、80%以上の高評価となっている。
･中学生に「デュアル実習」が浸透し、本校への入学志望理由に「デュアル実習をしたい」と答える生徒が増加した。また2年次からの系列選択において「デュアル系列」を選択する生徒が昨年比5倍に増加している。
･学習成果発表会に連携中学校の2年生全員を招待することで、本校の特色や学習内容の理解が深まり、連携中学校からの進学希望者が全体の30%近くを占めている。

● その他

本校の活動を地域社会に理解していただくことで、平成31年3月JAいび川との協定締結が実現した。

揖斐川町で採れたタマネギの商品開発をおこない、JAいび川の喫茶店で提供した。

揖斐川町主催「ジモト大学」に参加

こんな活動です

ふるさと大好き　妻木っ子
～地域と学校が連携し、よりよい地域社会人を育てる～

岐阜県土岐市	●活動名	●関係する学校名
	土岐市立妻木小学校「地域・学校づくり協議会」	土岐市立妻木小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 4人		
ボランティアの数	延べ登録人数 240人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://tumagisho.cocolog-nifty.com/blog/				

●連絡先　土岐市教育委員会　生涯学習課　☎ 0572-54-1111

●活動の概要・経緯

平成29年度より、土岐市教育委員会よりコミュニティ・スクールのモデル校としての指定を受け、2年間かけて準備を進めてきた。人選、組織作り、スケジュール調整を行う過程で、地域と学校との協働とは何か、目指す姿を話し合ってきた。具体的には、学校評議委員会を運営協議会の準備委員会として、地域の中核として活動する人々を委員に選出した。また、公民館運営協議会の協力を受けて、地域の歴史、自然、文化、産業などの分野で、地元の団体・組織と連携を進めてきた。さらに、地域の方々と、将来のふるさとや子ども達への願いを交流する場を設け、コミュニティ・スクールが目指す姿を共有してきた。平成30年度より、学校運営協議会が設置され、正式に12名の委員のもと、地域の10の支援団体を3部会に整理した。各部会のコーディネータが中心となり、「ふるさと大好き妻木っ子」を合い言葉に、ふるさとを愛し、地域に誇りをもって生きる子ども達の育成に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・行事の精選・スリム化を意図して、PTAの授業参観と重ねて、年4回の学校運営協議会が位置付いている。授業の子どもの姿を通して、学校の教育活動への評価、次年度の重点、改善点等を地域の方と共有するサイクルが確立されている。
・組織化された3つの部会で効率よく充実した活動が継続されている。第1部会では、子ども達が地域指導者に登録した住民より、「ふるさと学習」の指導を受け、6年間通して地元の宝物を学んでいる。第2部会では、防災、交通安全、施設整備など、子ども達の命に関わる支援を通して、学校環境が整備されている。第3部会では、地域の高齢者の方との交流やボランティア活動の機会を多く設け、子ども達の地域貢献の意識を育てている。

【実施に当たっての工夫】

・各部会3名のコーディネータが中心となることで、住民が主体的で、効率的に活動できる体制が確立された。
・学校内のワークルームを整備したことで、会議、資料の保管など利用しやすい環境が整い、協議会の活動拠点となった。
・学校のPTA活動と運営協議会の活動日程をリンクさせて、行事の精選を図ったことで、教職員の働き方改革にもつながった。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域の10の団体を整理して、3つの部会に組織化した。第1部会（生活・学習支援）・第2部会（安全・環境整備）・第3部会（地域交流・ボランティア）の各コーディネータが指南役を務め、外部機関との窓口となり、連携・協力が円滑に行われている。また、学校報「しろやま」に学校運営協議会のコーナーを設けて、毎月の活動の様子について、妻木地区の全家庭に周知を図っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・運営協議会長の言葉より。「妻木地区は公民館を中心にまとまっていた。当初は、『コミュニティ・スクールは本当に必要なのか？』という思いであったが、3年目を迎え、いつでも集まり、話し合い、地域の情報が入りやすくなった。参加する地域の高齢者は知恵や経験を子ども達に伝承する機会を通して嬉しさが生まれ、労を惜しまず、積極的に関わる姿が生まれている。こうしたやる気が創生されていることが財産であり、学校職員の異動に関わらない持続可能な体制が確立された。」
・地域学習での子どもの声より。「製陶所の人たちは、道具の手入れ・丁寧な作業をして外国のものに負けない『メイドインジャパン：世界に誇れる妻木町』へのこだわりを持って作業をしていることを知って、嬉しく思いました。」
このように、地域の人、産業、自然のよさを、体験を通して段階的に学び、子ども達は地域で豊かに成長し、ふるさと妻木を知り、地域への愛着を深めている。

● その他

・第1部会（生活・学習支援）は、「ふるさと学習」を行っている。どの学年も知識、技能面でのインプットの支援に留まらず、地域の方に喜んでもらおうと活動の出口に、学んだことを用いて感謝の会等を位置づけ、地域貢献の体験を増やしている。

指導者の方がパイプ役を務め、地域の企業（JA）の支援を受けて野菜の栽培

公民館・青少年健全育成会のスタッフの方達と地域の花壇でボランティア活動

こんな活動です

共に生きる東山

岐阜県高山市	●活動名	●関係する学校名
	東山校区つながりの会	高山市立東山中学校 高山市立東小学校 高山市立岩滝小学校

協働活動開始年度	平成　27　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		3人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
	111人				
参考URL	https://daihachi.page/				
●連絡先	高山市教育委員会学校教育課　協働推進課	☎ 0577－32－3333			

●活動の概要・経緯

2つの小学校の卒業生全員が同じ中学校へ進学するつながりから、小中連携しての授業研究会、道徳公開等を実施してきており、平成27年からはまちづくり協議会とも連携し、行事日程の調整（カレンダー）、地域講師・人材の登録、情報交流を行ったのがはじまり。翌年からは3校がそれぞれに実施していた事業を、合同企画運営による防災訓練、家庭教育研修会へと発展統合。以降、まちづくり協議会と学校による地域ふれあい祭り、合同運動会、また放課後児童クラブ支援、子ども食堂などボランティアを拡充しながら多岐に展開。推進員が学校と地域のパイプ役となり、夏休みの寺子屋学習会、地域人材・体験を生かした総合的な学習、郷土の未来を語る会等、協働体制が整備されている。そこでは児童生徒の学びの保障だけでなく、地域の力と知恵を総動員し、地域課題「共生」を大人も一緒に考える「学びの場」を創出している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

H28より大八まちづくり協議会が「寺子屋in大八」と称し、東小学校5、6年を対象に夏休みの学習支援、科学実験教室を、H29には放課後児童クラブ高学年を対象とした学習支援を始めた。H30からは地域講師による体験活動を中心としたプログラムを実施し、さらに中学生を対象とした地元産業の木工体験をメニューに入れることで、東山中学校の総合的な学習「郷土の未来を考える」の先行体験として一部希望者ではあるが系統的な学びが位置づいた。この取組は空町、岩滝まちづくり協議会にも広がり、車いすバスケットの選手を招いての体験学習や公民館での継続的な学習支援等、推進員がコーディネートをして多くの地域住民が関わり児童生徒の学びを充実させている。

【実施に当たっての工夫】

事業内容が子どものニーズに合致しているか等の吟味を重ね、従来の計算・書き取り等の学習補充の面と、地域課題や地域教材、講師を生かした体験活動の両面が必要であるという認識を共有している。中学校での地域課題解決学習につながるように、小学校児童対象には「ふるさとを知る」ための多様な体験活動（田植え・ツリーイング等）を実施している。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会を核にして3つのまちづくり協議会と学校が連携し、学校関係者と推進員が企画運営の中心となり、推進員が地域住民をコーディネートしている。また地元のネットワークを生かした「ものづくりワークショップ」等は地域の活性化にもつながっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

まちづくり協議会と学校が話し合いを重ね、それぞれの目的意識や強み、ニーズが明らかになり、理解が深まった。教育課程外の地域行事や夏休み中・放課後の子ども支援からスタートし、現在では総合的な学習等の授業にも協働参画している。事業が話合いによって年々修正され、無理のない継続的な活動になっていることやその目的や方法が共有され、主催者側だけでなく、参加者や保護者、地域の方々にも周知されてきていることで、地域や学校になくてはならない活動になっているといえる。中学校生徒の質問調査「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えている」は53％であり、全国平均を大きく上回る。

● その他

令和2年度「郷土の未来を語る会」は、東山中学校を中心に地域内の公民館5か所とオンラインでつなぎ、3密対策を施すと同時に、地域住民の参加を促す試みがされる予定。

郷土の祭礼での獅子舞とお囃子を披露する中学生

高齢者から紙飛行機の折り方を教わる小学一年生

こんな活動です

地域の教育資源を活用した「地域課題探究型学習」

岐阜県多治見市	●活動名	●関係する学校名
	土岐川及びその支流の小さな自然再生	岐阜県立多治見高等学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	無
活動区分	―	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 7人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://school.gifu-net.ed.jp/tajimi-hs/26_furusato.html				
●連絡先	岐阜県立多治見高等学校	☎ 0572-22-4155			

●活動の概要・経緯

本活動は、本校生徒が地元を流れる川の生物多様性を豊かにすることを目指して、平成29年度より開始した。当初は自然再生活動の許可を多治見市より得ることが難しかったが、土木研究所の協力と活動の効果を科学的に証明することで実現した。その後も調査活動やイベントへの参画を通して、川に携わる方々との協力関係をさらに深め、魚類調査への協力も得られるようになった。さらに、本校の自然再生手法の研究成果が認められ、岐阜県より自然再生活動の許可を得て、令和2年度からは土岐川の支流の笠原川でも活動を行っている。本校は平成31年度より、岐阜県が推進している「ふるさと教育」の一環として、「地域課題探究型学習推進事業」の指定を受けている。地域連携による生徒の主体的な学びを推進するために「ふるさと協議会」を立ち上げ、学識経験者や自治体関係者からの指導・助言を受けながら、「地域で学ぶ」をモットーに事業を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

本校は、活動の科学的根拠を示し、地域の理解を得ながら、国や地方自治体、研究施設、NPO法人、漁業協同組合等の様々な関係機関との協力関係を継続・発展的に築いており、本校の自然再生手法は、高校生のエコ活動を評価する「イオンエコワングランプリ」の全国大会で内閣総理大臣賞を受賞するなど、学術的評価を得ている。また、市の自然科学館のイベントにおいて、地元の小中学生にも本校の自然再生手法とその意義を広めており、学校だけでなく、地域ぐるみでの継続的な環境保全活動に貢献しているといえる。また、河川の生態系の評価や自然再生の手法について、本校生徒が関連学会で研究成果を発表し、研究者らと熟議を重ねるなどして学びを深めている。

【実施に当たっての工夫】

川底に手で運べる大きさの石を積み、川の流れを多様にして生物の住処を作るという、高校生だけでも継続可能な自然再生の手法を実施しており、関係機関の協力を得て、実験河川で石積みの形などを研究している。また、研究記録の蓄積や報告・発表資料の作成だけでなく、オンラインで研究者との意見交換を行うなど、ICTの活用を進めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

本校生徒が河川に関する団体を訪れ、生態系の保全について提案したり、環境保全活動に参加することで、協力関係を築いている。また、これまでの活動が認められてNPO法人やロータリークラブからも支援を得たり、「ふるさと協議会」を通じて関係各所との連携が進んだことにより、地域全体での取組に発展している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

本活動を通して、生徒たちが漁業協同組合や多治見市の環境調査にボランティアスタッフとして継続的に参加するなど、学校と地域との新たなつながりを構築できた。市の自然科学館では小中高生向けの自然再生イベントが年に4回行われ、本校生徒もスタッフとして企画・運営補助に関わっている。本活動に参加したすべての生徒が地元に生息する魚類を識別できるようになり、地元の河川やその特徴を知ることで、地域への理解を深め、愛着をもつことにつながっている。また、本活動での研究手法は、「地域課題探究型学習推進事業」の他の取組にも生かされており、「ふるさと協議会」を核として、さらに地域の教育資源を活用した探究活動の深まりが期待できる。

● その他

主な連携・協力団体等：国土交通省庄内川河川事務所、岐阜県土整備部、多治見市、市立土岐川観察館、国立開発研究法人土木研究所自然共生研究センター、河川財団、多治見ロータリークラブ、NPO法人リバーサイドヒーローズ、川に学ぶ体験推進協議会、岐阜大学

自然再生活動前の魚類調査の様子

魚類の個体数調査の様子

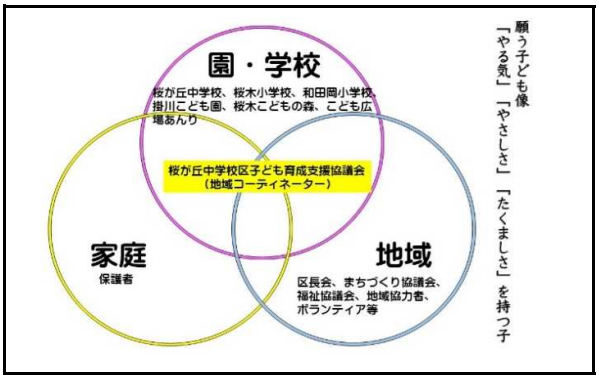
こんな活動です

中学校区学園化構想のもと、地元を愛する子どもの育成活動

静岡県掛川市	●活動名	●関係する学校名
	桜が丘中学校区子ども育成支援協議会	掛川市立桜が丘中学校 掛川市立桜木小学校 掛川市立和田岡小学校 桜木こどもの森 掛川こども園 こども広場あんり

協働活動開始年度	平成　25　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成31年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 5人		
ボランティアの数	延べ登録人数 12740人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.city.kakegawa.shizuoka.jp/life/kosodate/kyoikuiinkai/kyouiku/sakuragagokagakuen.html				

●連絡先　掛川市教育委員会　教育政策課　社会教育室　☎ 0537－21－1157



●活動の概要・経緯

平成25年度に,掛川市中学校区学園化構想が始まり,市内9中学校区全てに「子ども育成支援協議会」が設立され,中学校区を学園と見立て,学園内の保幼小中の連携強化と,地域の教育力を園・学校教育に取り組むことを目的として活動している。
その中でもここ桜が丘中学校区子ども育成支援協議会では,願う子ども像として『「やる気」「やさしさ」「たくましさ」を持つ子』を,活動方針として「家庭で育て,学校で鍛え,地域で磨く人づくり」を掲げ,日々の活動を行っている。
3人の地域コーディネーターと放課後子ども教室コーディネーター、それから多くの地域の人を中心として,学校支援,放課後子ども教室,青少年健全育成事業等の多彩な事業を実施している。
学校運営協議会が設置されてから1年が経ち,学校と地域の連携,協働についてますます強固なものになってきている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①学校支援…自治会,まちづくり協議会,シニアクラブ,地元の高校生など地域の多様な団体による学校支援活動を展開している。学校支援だけでなく,桜が丘中学校では,部活ごとに地域へ出向き,公園やふくし館の清掃を行うなどの地域貢献活動（一部一ボランティア）を行っている。また今年は「できるときにできることを」を大切に,コロナウイルス対策のための学校消毒を,地域の人や高校生ボランティアを中心に行っている。
②放課後子ども教室…桜木小と和田岡小で実施をしている。桜木小では,PTA総会や懇談会時に児童を預かる活動をしており,紙芝居を行ったり中学生が見守りを行っている。和田岡小では,折り紙教室や坐禅体験など地域の人材を活かした活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

学校消毒活動に当たっては,「できるときにできることを」を大切にボランティアを呼びかけたところ,多くの人の参加につながった。地域の方だけでなく,高校生ボランティアの人材を活用したことも多くの人の参加に繋がった要因である。
また,PTA総会や懇談会時に児童を預かる放課後子ども教室を行うことで,保護者が安心して子どもを預けることができる環境整備を行った。

【関係機関・団体等との連携状況】

コーディネーターが積極的に自治会やまちづくり協議会と関わることで,地域総ぐるみの子育てについて徐々に理解をしていただけるようになった。その他にも,地域貢献活動として行っている「一部一ボランティア」や自治会組織（まちづくり協議会）のイベントに子どもたちが参加をし、出店を手伝うなど、子どもと地域が積極的・相互的に関わり合っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

活動を始めた頃は,地域で子どもを育てる意識や,地域が園・学校を支援することに対する意識はあまり高くなかったが,地域に呼びかけを行うことで,地域と学校が協働することの大切さについて理解をしてくれる人が徐々に増えた。最近は,ボランティアの方がボランティア参加を呼びかけたり,高校生など若い方も学校や子どもたちのために活動を行ってくれており,ボランティアの年齢の幅が広がってきている。地域と学校がお互いにできることを行い，協力し合っている。
放課後子ども教室では,PTA総会や懇談会時の児童預かりを行うことで,保護者の会の出席率が高くなった。地域の方だけでなく先生も教室を見守ってくれているため,安心して児童を預ける保護者が増えた。

● その他

掛川市地域「eじゃん掛川」等を活用した情報発信を行っている。

桜が丘中学校 一部一ボランティア

桜木小 放課後子ども教室 わくわくコンサート

こんな活動です

地域とともにある学校づくり
～子どものよさを伸ばす地域学校協働活動～

愛知県北名古屋市	●活動名	●関係する学校名
	北名古屋市立師勝北小学校地域学校協働本部	北名古屋市立師勝北小学校

協働活動開始年度	平成　28　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成27年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 109人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.cnt.kitanagoya.ed.jp/shikatsukita-e/				

●連絡先　北名古屋市立師勝北小学校　☎ 0568-22-7338

●活動の概要・経緯

平成25・26年度に「学校運営協議会」設置に向けて2年間の研究指定を受けたことを機に、地域代表、歴代PTA役員、学識経験者、保護者代表とともに目指す子ども像を共有し、地域と学校が一体となって子どもたちの成長を支援できるよう、読み聞かせボランティア（平成15年発足）やスクールガード(平成18年発足）等既存の活動や組織を見直した。27年度には、正式に学校運営協議会の指定を受けた。学校運営協議会では、「地域学校協働本部」が実際に行う支援活動について熟議し、持続可能で、教育効果が高い活動ができるように支援体制を整えた。地域学校協働活動推進員がコーディネーター役を担い中心となって、活動の計画や、学校教育活動との連携を進めている。地域連携担当のコーディネーターを設置したことで、多様な地域人材の活用が可能となった。以来、「学校・保護者・地域」が一体となって活動を進め、地域とともにある学校づくりを推進している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①学校支援ボランティアの設置
　実習補助や校外学習の付添、安全見守りなどの授業支援活動。図書館整備、学級文庫の選定補助、読み聞かせの実施。
②「スクールガード」による児童登下校時の安全指導や行事における校内外安全見回り活動。
③自治会や熊之庄協働クラブよる盆踊り、もちつきなどの地域主催の活動や、除草作業等の環境整備活動。
④親の会（旧おやじの会）よる「夜の学校で遊ぼう」（避難所生活体験）や地域防災ボランティアによる防災マップづくり。
⑤放課後子ども教室と児童クラブの連携による多様な学習機会の確保、児童の居場所づくり。

【実施に当たっての工夫】

　活動を実施するあたり、企画・運営、連絡役を地域学校協働活動推進員が担当することで、教職員の負担軽減になっている。また、学校運営協議会委員・保護者と教員とのつながりを大切にし、地域とともにある学校づくりや教員の働き方について話し合う交流会を年2回開催している。ホームページやコミュニティ・スクールだよりを活用して、地域学校協働活動の見える化に努め、地域に回覧することで地域住民への情報提供に努めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

　学校運営協議会では、自治会、熊之庄協働クラブ、防災ボランティア、児童館等、各団体の代表者が学校のためにできることを積極的にアイデアを出し、有意義な活動になるように努めている。また、学校運営協議会が核となることで、各団体同士のつながりも強くなっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

　校外学習の引率補助や、学習支援ボランティア活動が充実し、児童の安全確保だけでなく学びが深まる一助となった。地域や保護者にも、児童の学習の成果を積極的に認めてもらうことで、児童の学習意欲の向上につながっている。
　学校運営協議会委員・保護者と教員との交流会を定期的に行うことにより、それぞれの立場で本音で話し合うことができるようになった。
　様々な活動を通して、地域住民と学校との連携強化が図られ、地域全体で児童を育てようとする意識が高まった。また、児童も地域の行事に参加する機会が多くなり、自身の地域に愛着がさらにもてるようになった。

● その他

　熊之庄協働クラブが中心となって企画する活動が、児童が主体的に地域の行事等に進んで参画し、地域の一員として役割を果たすことに寄与している。

学校運営協議会委員・保護者・教員との意見交流会

「夜の学校であそぼう」肝だめし、キャンプファイヤー後に一晩宿泊

こんな活動です

「子供たちと地域の大人がふれあう、安心・安全な居場所づくり」子供も大人も笑顔で楽しく！

愛知県半田市	●活動名	●関係する学校名
	半田市放課後子ども教室さくらっ子クラブ	半田市立さくら小学校

協働活動開始年度	平成　20　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和元年4月1日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 170人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://sakura-e.main.jp/				
●連絡先	半田市健康子ども部子育て支援課	☎ 0569－21－3111			

●活動の概要・経緯

半田市では現在、13ある小学校全てで放課後子ども教室を開設している。なかでも「さくらっ子クラブ」の歴史は2番目に古く、平成20年度に開設し現在に至っている。
小学校の1･2年生を対象に定員25名の登録制で、校舎に併設している生涯学習施設を活動場所として、平日週2日、地域の方々にご協力いただき、放課後の安心･安全な居場所を提供し、様々な活動を通じて子供たちの成長を支えていただいている。
活動内容は、ふれあいあそび、工作、紙芝居や絵本の読み聞かせ、体操教室や自由遊びと多岐にわたる。
年に3回は外部講師を招いて様々な体験を提供している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

毎年、活動の中で地域の区民展に出品する作品を制作している。区民展では、地域の方々に子供たちの活動の一端を紹介するとともに、子供たちも保護者と自分の作品を見に行くことで、地域の一員として地域活動に参加することに対する自覚も芽生える。
また、中心市街地のランドマークである商業ビルのイベントに協力し、参加児童全員で「ぬり絵作品」を制作し出品するなど、地域内の社会活動にも参加している。

【実施に当たっての工夫】

特に低学年の子供たちであるため、基本である挨拶やルールを守ることなどの指導から行っている。子供たちに集中することを身に付けさせるため、毎回活動の終盤には紙芝居や絵本の読み聞かせを行うことや、諺を覚えるゲームをさせるなど工夫している。また、参加する大人が楽しくなければ子供は楽しくないと、大人がそれぞれの得意なことを活かして参加できる工夫をしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

自治区はもとより、保護司、民生児童委員を始め、様々な役割を持つ地域学校協働活動推進員や協働活動サポーターが属しているため、それぞれの団体との連携も図れている。また、同施設内にてNPO法人が放課後児童クラブを運営しており、一体型の取り組みとはしていないものの、保護者の希望により放課後児童クラブの登録児童も放課後子ども教室に参加できている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

単発のイベント的な実施ではなく、1年間の登録制で実施することで、子供たちと地域の大人との信頼関係が構築される。
市内には中学校が5校あり、さくら小学校は半田中学校区に属するが、同中学校の地域ボランティア団体「半田中学校ちょボラの会」に所属している協働活動サポーターがいることもあり、同中学校の生徒で組織する「半田中学校街角ボランティア」と協働した活動も実施している。さくら小学校では、学校の側溝内の清掃（砂の除去）、運動場の石拾いや周辺の落ち葉の掃除を実施しているが、放課後子ども教室のOBやOGである生徒との再会し旧交を温めることがあるなど、子供の社会性を育てることにもつながっている。

● その他

登録制であるため年度当初の保護者説明会の開催から、年に数回保護者向けにお便りを発行するなど、顔の見える関係性も築いている。保護者から子育ての悩みを相談されることも度々あり、内容に応じた支援につなげる役割も果たしていただいている。

こんな活動です

地域とつながる学校づくりをめざして

愛知県あま市	●活動名	●関係する学校名
	あま市地域学校協働本部	あま市立七宝小学校 あま市立宝小学校 あま市立伊福小学校 あま市立秋竹小学校 あま市立美和小学校 あま市立正則小学校 あま市立篠田小学校 あま市立美和東小学校 あま市立甚目寺小学校 あま市立甚目寺南小学校 あま市立甚目寺東小学校 あま市立甚目寺西小学校 あま市立七宝中学校 あま市立七宝北中学校 あま市立美和中学校 あま市立甚目寺中学校 あま市立甚目寺南中学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 8人		
ボランティアの数	延べ登録人数 137人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://www.city.ama.aichi.jp/kurashi/iinkai/1005323/1005324.html				
●連絡先	あま市教育委員会生涯学習課	☎ 052-444-2511			

●活動の概要・経緯

あま市地域学校協働本部は、保護者、PTA、団体等幅広い地域住民の参画を得て、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行い、地域全体で子どもたちの学びや成長を支えるとともに、学校を核とした地域づくりを目指すため、平成30年7月に七宝地区をモデル地区として地域学校協働活動を開始した。令和元年度から市内を3地区（七宝・美和・甚目寺）に分けて各地区に精通した人材を地域コーディネーターとして委嘱し、担当する地区内各小中学校の支援要請に対し、地域学校協働本部に登録するボランティアとのマッチング等をはじめとする学校と地域のパイプ役として活動している。また、各学校運営協議会では委員として参加し、地域学校協働活動について積極的にPRしている。ボランティアの募集では、広報に合わせリーフレットの全戸配布を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

美和中学校では以前から「合唱コンクール」等、学校行事の中に「合唱」を取り入れている。卒業生の中には音楽の道に進んだ人もおり、また、市内には合唱団や交響楽団、吹奏楽団、コーラスグループ等音楽に関わる人が数多くいる。そこで中学校生徒と地域住民が参加して、令和元年12月に文化会館にてオーケストラの演奏をバックに合唱をする「音楽の集い」を開催した。開催にあたって、参加者の募集や本番までの練習、当日の受付・司会進行等を地域コーディネーター・ボランティアがサポートを行った。また、七宝中学校では環境整備活動として地域ボランティアやPTAが中学校敷地内の草刈りを行った。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターがボランティア登録の窓口のひとつとなっている市民活動センターへ合唱等に関係しそうな団体への参加募集依頼や地域の合唱グループへの声かけを行った。

【関係機関・団体等との連携状況】

「音楽の集い」の実施については中学校長をはじめ学校運営協議会が一体となって行った。地域学校協働活動として合唱練習のサポートに地域ボランティアが参加し、また当日の司会進行を地域コーディネーターが行い協力することで、「音楽の集い」の成功を収めるができた。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

市で一つの地域学校協働本部を設置しボランティア登録をしてもらうことで、見守り隊等個々で活動している人たちの把握をすることができるようになった。活動参加者はボランティア参加の意識が高く、学校からの支援要請に対し参加依頼をすることで現在活動していること以外の活動を知ってもらうができた。また3つの地区に分けて各地区に精通した人材を地域コーディネーターとして配置していることで、新たにボランティア参加者を募る際に身近な人が声かけをすることになるため参加意識のハードルを下げることができた。ボランティア登録者には「地域学校協働本部だより」を送付し、活動状況を把握してもらうことで、参加意欲の向上を図り、今後は研修会の開催を計画するなど更なる発展をめざしている。

● その他

地域ボランティアの登録者数が徐々に増えてきているのは、関心の高まりを感じるところである。今後も積極的にPRしていきたい。

中学校での環境整備活動（草刈り）

文化会館で開催した音楽の集い

こんな活動です

次世代を担う小・中学生が地域を活性化していく

三重県名張市	●活動名	●関係する学校名
	南中学校区地域学校協働活動	名張市立南中学校 名張市立つつじが丘小学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	ー	地域人材育成		
	地域未来塾	ー			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 8人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 138人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	ー				
●連絡先	名張市教育委員会　文化生涯学習室	☎ 0595-63-7892			

●活動の概要・経緯

南中学校区は、平成27年度から小中一貫教育を実施し、平成29年度のコミュニティ・スクール設置以降は、学校運営協議会についても合同で開催し、「学校運営への参画」「学校支援の充実」「地域貢献の場づくり」を柱に小・中学校と保護者・地域が連携・協働した活動を進めています。活動の特徴は、地域学校協働活動とコミュニティ・スクールが一体的に推進されていることと、活動の内容が地域の活性化に直結していることです。南中学校区の地域学校協働活動の原動力となるのが、「つつじっ子会議」です。南中学校区がさらに魅力ある地域になるよう、身近な課題を取り上げ、その課題解決に向けて児童・生徒が主体的に企画・発信しています。平成29年開設当初中学生2名のメンバーでスタートしましたが、3年目となる令和元年度は、中学生26名、小学生11名にまで増え、4つのグループを組織し活動しています。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

「つつじっ子会議」は、地域づくり組織「子ども育成部」と小学生のメンバーを加えた「拡大つつじっ子会議」、各グループ（中学生26名が＜あいさつ・ありがとうグループ＞＜イベント企画・交流グループ＞＜つつじっ子新聞発行グループ＞＜制作グループ＞の4つのグループに分かれて活動）の代表が集まる「代表者会」、南中学校で行う「校内つつじっ子合同会議」で組織されています。「拡大つつじっ子会議」では、自分たちの住む地域のよさ、課題について、地域の方々と小学生も交えて話し合います。話し合ったことを実践するのが、中学生です。地域の行事「子どもフェスタ」への参画や、地域を愛する気持ちを育むキャラクター『えみらる』の制作に取り組みました。

【実施に当たっての工夫】

・テレビ会議システムを活用することで、小学生が学校にいながら、会議に参加
・4つのグループを組織することで、それぞれが目的を持って活動

【関係機関・団体等との連携状況】

・南中学校区学校運営協議会との一体的推進
・つつじが丘春日丘自治協議会子ども育成部の活動の一つとして実施

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・子どもと地域の人たちが触れ合う場、多様な年齢層の人が参加できるイベントを企画することにより、イベントに参加する子どもの人数が増えた。（中学生が出店した「サンドイッチ」は、30分で完売。）
・地域を愛する気持ちを育むキャラクター『えみらる』の制作により、学校行事や地域のイベントが活性化した。
・地域づくり組織と学校が連携・協働して防災訓練を実施することにより、防災現場において中学生の活躍の場ができた。
・話し合われた内容が実現していく姿を見て、つつじっ子会議への参加者が年々増えている。
・つつじっ子会議のメンバーは、地域に愛着と誇りを持っている。

● その他

・ICT活用の有無：「有」（テレビ会議システムを活用し、小学生も参加した会議を実現）

つつじっ子会議の様子

「子どもフェスタ」への参画

こんな活動です

木曽岬子ども未来塾を中心とした地域の力による「明日への希望プロジェクト」

三重県木曽岬町	●活動名	●関係する学校名
	木曽岬町学校支援地域本部	木曽岬町立木曽岬中学校 木曽岬町立木曽岬小学校

協働活動開始年度	平成 28 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成28年4月1日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 14人		
ボランティアの数	延べ登録人数 24人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	―				
●連絡先	木曽岬町教育委員会	☎ 0567-68-1617			

●活動の概要・経緯

木曽岬町では、平成28年度より学校運営協議会制度を導入し、これまでの「開かれた園・学校づくり」から一歩踏み出し、地域と一体となって子どもたちを育む「地域とともにある園・学校づくり」の一環として、3つの事業を中心に取組を進めている。中学生対象の木曽岬子ども未来塾は、平成30年に青少年育成町民会議の家庭教育部会が、金曜日の夜間に図書館の学習室を利用して地元有志の方に講師をお願いし、中学生の学習支援に取り組んだことから始まった。現在は、運営委員会を立ち上げ、「現代の寺子屋」として活動している。小学生対象の土曜チャレンジスクール事業とホリデー教室は、平成19年の学校週5日制の導入により始まった。土曜チャレンジスクールは学校の教室を利用して学習支援を行い、ホリデー教室は休日の子どもたちの居場所づくりとして、社会教育指導員を講師に迎え、工作や料理などの様々なメニューを実施し、人気を博している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・木曽岬子ども未来塾学習支援：金曜日の夜に町立図書館の学習室で中学生対象の学習支援を行う取組
・木曽岬子ども未来塾体験活動：自然体験活動のプログラムを編成し、小・中学生や園児の多様な学びの場を提供する取組
・土曜チャレンジスクール・夏季学習会：土曜日や夏季休業中に、学校の教室を利用して小学生の学習支援を行う取組
・ホリデー教室：休日の子どもたちの居場所づくりの一環として、年間20回程度地域における体験活動の機会の提供を行う取組
※木曽岬子ども未来塾では運営委員会を実施し、事業の成果や課題の確認と意見交換を行う。

【実施に当たっての工夫】

子ども未来塾の学習支援では、自学に加え、英検チャレンジ事業として資格取得に向けた支援をしている。夏季休業中には町ALTを活用したオールイングリッシュの「英語力ブラッシュアップ講座」も実施している。子ども未来塾の体験活動では、「稲作体験」「巨大かぼちゃづくり体験」が小学校の学習として位置づけられている。また、中学生以下を対象に「きそさき星空観察会」を実施している。

【関係機関・団体等との連携状況】

子ども未来塾では、地域の有志の方を学習支援者として学習支援を行っている。また、地域の農家の方などに体験活動指導員として協力いただきながら体験活動を行っている。土曜チャレンジスクールでは、地域指導者や大学生を学習支援者とし、保護者に採点ボランティアを依頼している。ホリデー教室は、文化協会主催の秋の文化祭で、子どもの体験教室コーナーを実施している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

木曽岬子ども未来塾の学習支援では、中学校の定期テスト前には参加者が増え、学習意識の向上につながった。また、英検チャレンジ事業や「英語力ブラッシュアップ講座」も参加した生徒からは満足したという声がたくさん挙がった。体験活動では、小学校の稲作体験と巨大かぼちゃづくり体験や星空観察会において、プログラムに見合った地域人材や元教員を招聘し、豊かな体験活動につなげることができた。 土曜チャレンジスクールや夏季学習会では、地域人材を活用し、既習事項の復習を中心とした学習を通して基礎基本の定着を図ることができた。ホリデー教室では、工作教室や料理教室など、子どもたちの関心のあるプログラムを実施し、大変好評であった。

● その他

今後は、土曜チャレンジスクール事業や木曽岬子ども未来塾でタブレット端末を活用した学習を展開していくことも計画中である。

木曽岬子ども未来塾体験活動支援ボランティアによるきそさき星空観察会

木曽岬子ども未来塾体験活動支援ボランティアによる小学校稲作体験

こんな活動で

ふるさと「四郷」を誇れる子どもの育成　～人・伝統・自然から学ぶ～

三重県四日市市	●活動名	●関係する学校名
	四日市市立四郷小学校コミュニティスクール運営協議会（くろがねもち協議会）	四日市市立四郷小学校

協働活動開始年度	平成　22　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成22年4月1日指定	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	ー		
	ー	ー			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 13人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 47人		
ボランティアの数	延べ登録人数 40人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	ニ				

●連絡先　四日市市立四郷小学校　☎ 059－320－2070

５世伊藤小左衛門氏銅像

●活動の概要・経緯

○組織・運営　運営協議会　　年間5回開催

○活動内容　・四日市市立四郷小学校コミュニティスクール運営協議会委員及び地域の方、PTAの方による参加参画型教育活動。
・・・5つのボランティア組織体制の整備（学習支援・図書・クラブ・交通安全・環境）
・運営協議会による学校・通学路等、安全点検の取組。
・地域学校合同防災訓練の取組。
・学校・家庭・地域合同の夜間パトロールや地区行事への積極的な参加。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・人・伝統・自然をキーワードに、①ふるさと四郷の歴史や文化を知る②四郷の人々とふれあい、生きざまを見つめる③自然災害や交通事故から自分の命を守る、の3つの体験学習の充実を図っている。
・本校創始者である5世伊藤小左衛門氏の生きざまについて全学年で取り上げ、道徳科や社会科で学習している。
・地域の方々は、四郷っ子のために一生懸命かかわってくださり、登下校時や授業等を通して様々な人々とふれあうことができている。
例：3・4年生と四郷消防分団・四郷地区郷土資料館の皆さん、伝統芸能クラブの子どもたちと郷土資料館保存会の皆さん等

【実施に当たっての工夫】

・郷土資料館保存会の皆さんを講師に迎え、教職員対象の研修会を毎年資料館で開催し、まず教職員が四郷を知ることを大切にしている。
・本校は高台に位置しているため、災害時の避難所指定を受けており、昭和49年の水害以降防災訓練が盛んである。年1回、地域自治会と学校共催で、地域住民、本校児童、近隣園・中学校参画の合同防災訓練を行っているため、児童の防災・避難意識は高い。

【関係機関・団体等との連携状況】

・四郷消防分団、四郷地区郷土資料館の皆さんと3・4年生見学指導
・高齢者施設「四季の里オーロラ」の皆さんと2年生交流会
・四郷地区三大祭り保存会による伝統芸能クラブ指導
・交通ボランティアと1年生交流会と安全指導
・本校園芸委員会から、資料館等近隣施設へのお花寄付
・四郷消防分団の皆さんから教職員への救命講習指導

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・発足から10年が経過し、児童が地域の方から学び、地域とつながりを深め、地域を大切にする気持ちを育むことにつながっている。
「挨拶を進んで行う子」、「お礼の手紙を渡す子（卒業前に6年生より）」など、挨拶について全国学力・学習状況調査結果では肯定回答が増え、今年度も学校独自で6年生を対象にいじめ調査を実施したところ、いじめを肯定する児童は0%と、人を大切にする姿勢が見られた。
・通学路においては、自動車の通行数も多く危険な場所も多いが、幸い大きな交通事故もなく、大阪北部地震（平成30年）の際も、児童が「自分で自分の身を守ること」ができる児童の姿も見えてきた。
・夏休み自由研究では、地域をテーマ（伊藤小左衛門氏、三大祭り、あすなろう鉄道、交通安全等）に扱う児童が増え、力作も多い。

● その他

・教職員による校区の写真ガイドマップを作成・掲示したり、PTA広報部による地域をテーマにした特集記事掲載や表紙写真を飾ったりするなど、子どもを取り巻く周囲の大人がより地域を意識し、貢献し、自ら発信できるようになってきた。

地区・学校合同防災訓練

四郷地区郷土資料館見学

こんな活動です

もっと老蘇を好きになる老蘇っ子の「ふるさと学習」

滋賀県近江八幡市	●活動名	●関係する学校名
	老蘇小学校地域学校協働本部	近江八幡市立老蘇小学校

協働活動開始年度	平成　23　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 60人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.fureai-cloud.jp/oiso-es				

●連絡先　近江八幡市教育委員会事務局生涯学習課　☎ 0748－36－5533

●活動の概要・経緯

地域全体で学校の教育活動を支援すること、教職員が児童と向き合う時間を拡充することをめざし、平成23年に学校支援地域本部を立ち上げ、今に至っている。平成29年度からは、市内のモデル校として学校運営協議会を設置し、コミュニティ・スクールとして活動を始めた。現在では、地域学校協働活動推進員のコーディネートのもと、老蘇小学校PTAや老蘇学区まちづくり協議会、老蘇こども園、地元の企業や農家、NPO、地域住民と連携しながら、地域の教育力を活かした活動を活発に行っている。

もっとも特徴的なことは、ビオトープを活用した行事や活動を年間通して取り入れ、児童の豊かな体験活動を展開しているだけでなく、地域住民の活躍と交流の場として大きな役割を果たしていることである。近江八幡市内で先駆けて学校運営協議会を設置したことで、市内の幼稚園や小中学校が学校運営協議会を設置する際には、老蘇小学校の取組を参考にしている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

老蘇学区は、農業や畜産業が盛んな地域である。地域学校協働活動では、地元の畜産農家の協力のもと、地元のブランド野菜を始めとする様々な作物の収穫体験や見学を行っている。先進的な農業に取り組む農家もあり、ふるさと教育やキャリア教育にもつながっている。

平成14年に老蘇小学校の敷地内に造成されたビオトープを学習や体験、交流の場として活用している。日々の学習の場として活用しているだけでなく、「ビオトープまつり」や「ビオトープコンサート」などを開催し、地域住民と園児、児童生徒の交流の場となっている。

また、学校から遠い距離にある地域を中心に、スクールガードが組織され、登下校の安全を確保しているほか、校外の道路を使った持久走記録会などでも立哨をしていただいている。

【実施に当たっての工夫】

年間を通じ活動や学習で連携・協働する団体や企業などとの打ち合わせでは、年度始めに年間計画や学習および活動のねらいをていねいに説明し、学習のねらいを明確にして活動を展開できるように工夫している。また、各種打合せの際には地域学校協働活動推進員と担任だけでなく教務主任や教頭が同席している。

【関係機関・団体等との連携状況】

ビオトープをめぐる様々な活動の企画運営は、ビオトープ委員会を組織して行っている。ビオトープ委員会は、老蘇小学校、老蘇小学校PTA、老蘇こども園、老蘇学区まちづくり協議会の代表者から構成され、運営面や安全面などについて会議を重ねて、活動のねらいや役割分担、安全のための配慮を明確にして共有して事業の企画運営を進めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

老蘇小学校は小規模の学校であるため、教員の異動が学校運営にもたらす影響は大きい。しかし、各学年で行っている学習のめあてや活動の方法を地域学校協働活動推進員やボランティアが長年の経験により把握しているため、新しく赴任した教員や若い教員が担任しても、学習活動が明確なねらいを持って展開できる。また、地域の方々がボランティアとして教育活動に参画したり、ビオトープにかかわる様々な行事に参加したりすることで、地域住民と園児児童生徒が顔見知りになる。このことは、安心で安全な地域づくりにつながり、防犯上で大きな成果となっているほか、児童がふるさと老蘇を愛する気持ちの育成にも貢献している。また、大好きなふるさとで成長する自分や友だちのことを大切にできる心を育むこともできている。

● その他

農業については、農事組合法人「ファームにしおいそ」の協力のもと進めている。放課後子ども教室では、放課後の学習だけでなく、漢字検定の会場としての活動も行っている。児童だけでなく、保護者も参加し、親子合格をねらうことで、意欲的に基礎学力の向上に役立っている。

こんな活動です

地域と学校がつながり響き合う教育を目指して ～新旭地域学校協働本部～

滋賀県高島市	●活動名	●関係する学校名
	新旭地域学校協働本部	高島市立新旭南小学校 高島市立新旭北小学校 高島市立湖西中学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 138人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.scl.city.takashima.shiga.jp/kosei-jhs/information/gakuji.htm				

●連絡先　高島市教育委員会事務局　社会教育課　☎ 0740-25-8565

●活動の概要・経緯

旧新旭町出身の偉人「清水安三先生」（桜美林学園創設者）のように新旭地域の子どもたちが困難にめげず、たくましく優しく育つことを願って、協働本部の拠点を「学而事人（学んで人に事える）室」と名付け、地域の子どもは地域で育もうとボランティアを募り、学校ごとに組織化（湖西中の「むくげの花の会」、新旭南小の「夢の会」、新旭北小の「希望（のぞみ）の会」）した。会の名称を安三先生にちなんだものにすることで、地域住民や関係者が協働活動に親しみを持って関わり、学校ごとに目標を共有して特徴ある取り組みが行われている。学校支援の活動はこれまでにも単発的に行われていたが、支援組織が定期的に話し合いを持つことで年間を通じ継続した活動が行われている。また、組織のリーダーを学校運営協議会の委員に委嘱することで、CSと協働活動の連携が進み一体的な活動が展開されている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

小学校では『徹底した学校支援活動』を目指し、「下校見守り隊の結成」「校庭の草刈り･剪定」「図書室整備」などできることなら何でも学校の要請に応える。他にも調理･ミシン、電動糸ノコ、九九暗唱確認、学校行事の支援など毎日のようにボランティアが学校に出入りしている。また、「地域の人が校内に入って生徒に声をかけてほしい」との中学校の要請に応え、『学而事人おはようミーティング』をH30年度から1日も欠かすことなく続けてきた。会員が都合のよい日に、始業前に校門や昇降口、校舎内で挨拶･声かけをする。会員と生徒、教師と会員、会員同士の絆がより深まり、新しい「支援活動」がこの場で産み出されている。

【実施に当たっての工夫】

町内3校の教職員の共通理解が大切と考え、協働本部の方針や活動の計画や報告等を情報提供するため、推進員が「学而事人室の窓」を毎月2、3回発行した。また、推進員が中心となって各校に「支援の会」を結成し、月1回の定例会を開催し、前月の活動報告や学校の支援要請への対応等を協議するシステムを構築した。

【関係機関・団体等との連携状況】

・社会教育関係（社会教育委員、公民館、青少年育成学区民会議など）や福祉関係（社会福祉協議会、民生委員児童委員、日赤奉仕団支部など）の団体との連携･協働を進め、小･中学生の体験活動や地域貢献活動の場を広げる。
・今後は町内の保育･幼稚園や学童保育所にも支援･協働活動の輪を拡げ、地域ぐるみの子育てにつなげていく。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・学校の声　「学校の要請に、ほぼ100％応えていただけた」「教師の負担が減って、子どもに関わる時間が増えた」（いずれも小学校）、「生徒の聞く姿勢が良くなった、明るいあいさつが増えた、遅刻がほとんどなくなった、学習への構えが良くなった、保護者の苦情が減ったなど、大きく学校が変わってきた」（中学校長）
・地域の声　「学校に入りやすくなった」（地域ボランティア）、「地域の方の力を感じる1年でした。子どもが何事にも熱心に取り組む姿は素晴らしい。数年前よりむっちゃ素晴らしい雰囲気です。」（保護者）
・特に下校見守り活動が充実し、町内での不審者情報がなくなり、運転者の交通マナーも向上した。

● その他

【学習支援内容】小学校では日々の授業支援や低学年を対象とした週2回の学習支援、中学校では夏休み期間の補充学習や入試前の模擬面接など多様な支援活動を行っている。

昼休みを利用して九九道場（暗唱確認）を行っています。

コロナ休校明けに元気な子どもの姿が見られることを願い除草作業を行いました。

こんな活動です

手をつなぎ、心通わす　誘・融(とけ合う)老上

滋賀県草津市	●活動名	●関係する学校名
	老上ふれあい農業合校	草津市立老上小学校

協働活動開始年度	平成　12　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成28年4月1日	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	授業補助		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 １人		
ボランティアの数	延べ登録人数 １，０３５人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.oikami-p.skc.ed.jp				

●連絡先　草津市立　老上小学校　☎ 077－562－0440

●活動の概要・経緯

平成10年に、地域住民が、農業体験を通して青少年の健全育成を図る目的で「老上ふれあい農業合校」を設立し、当時の公民館活動から活動が始まった。平成12年度からは、学校の総合的な学習を中心とした地域連携の学習に関わっていただき、米作り、野菜作りを共に行うことで、自然体験学習や収穫の喜びを体験的に学ぶ活動が進められてきた。以後、20年にわたり本校の児童との連携事業が続いている。活動内容は、田植え、草取り、稲刈り、縄綯い、収穫祭と年間を通じた米作り体験、また、季節の野菜や果物の植え付けや収穫、そして地域の方を招いての交流事業などに及び、当該学年の子どもたちも毎年楽しみにしている。他にも、地域住民ボランティアによる花の植栽や、本の読み聞かせなどの学校支援や、学校と連携したまちづくりセンター主催の地域事業での防災学習やお茶体験事業への児童参加など、学校を核とした取り組みが地域全体で継続して行われている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成12年度から開始した「老上ふれあい農業合校」は、子どもたちの農業体験・自然体験をサポートすることで、米や野菜を作る楽しさ、収穫の喜びを知り、自分たちが口にする食材に感謝の気持ちが持てるようになることを目的に活動している。推進委員が積極的に取組を計画し、地域住民と協働する姿や、児童に対して丁寧に指導する姿に熱意が感じられ、農業の大切さを学ぶだけでなく、世代間の交流も図られている。学校では、単なる農業体験の活動だけで終わらせるのではなく、支援者を学校に招き、収穫した作物で一緒に調理したり、食したりする活動や、学習の成果や感謝の気持ちを表現する場を作っている。その活動を通して交流を深めることで、学習のみの関わりにとどめず、地域に戻った時にも声をかけあえる関係ができ、地域の活性化にもつながっている。そして、この取組の継続は、子どもたちがふるさとを愛し誇りを持つともに、豊かな人間性を育む貴重な場となっている。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては、地域コーディネーターが学校と連絡調整し、プログラムを作成している。その際、学校の授業内容やねらいなども意識することで学校と地域の取組がつながるようにしている。また、農業合校の畑には行事予定や年間の作業を掲示するホワイトボードが設置されており、いつでも地域住民が確認できるようになっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会での熟議により、学校と地域のテーマが統一され、毎年協議を深めながら活動についての見直しを図り、より良い活動にしている。結果、まちづくりセンター主催事業への子どもたちの参加率も高まり、大人と子どもが共に学び合い、交流を深め合う関係づくりが促進されている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

推進委員の代表は発足当時から22年間農業合校に携わっており、世代を超えて老上小学校の体験活動を支援してくださっていることから、親子間で農業合校の話ができるなどの、家庭教育的な要素も担っている。また、小学校の支援のみならず、畑で作った作物を毎週卸売りセンターで販売し、得た収益で畑を維持するための管理費や肥料購入等に充てている。退職後の楽しみとして児童の成長を見守る活動や、地域住民同士の交流の場となっていることもこの活動が20年間継続している要因と考えられる。また、子どもたちが地域の方の支援に触れる場面が増えることで愛着を感じ、郷土愛が醸成され豊かな人間性を養うきっかけになる取組となっている。

● その他

老上ふれあい農業合校は、まちづくりセンターでも活動し、未就園児から祖父母までの3世代交流の場ともなっている。児童は、米づくりを通して、情報収集・整理・分析などの過程の中で、他者との協働により社会を取り巻く課題を見つけ、解決する力を育んでいる。

熱心に縄ないを指導してくださる地域住民

地域住民と一緒に田植え体験

こんな活動です

地域と学校が協働して創る、子どもたちを心豊かで健やかに育てる環境づくり
～「地域を誇れる子ども」「自分の学校を誇れる子ども」の育成を目指して～

京都府京田辺市	●活動名	●関係する学校名
	京田辺市立普賢寺小学校　なのはな委員会	京田辺市立普賢寺小学校

協働活動開始年度	平成　8　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成27年5月19日指定	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		3人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
	71人				
参考URL	http://www.kyotanabe.ed.jp/nc21/fugenji-es/htdocs/				
●連絡先	京田辺市教育委員会社会教育課	☎ 0774-64-1394			

●活動の概要・経緯

平成27年5月19日に普賢寺小学校学校運営協議会（なのはな委員会）を立ち上げ、以前からあるふるさと普賢寺体験学習推進委員会とも連携し、地域住民等の参画を得て、地域全体で子どもたちの学びや成長を支える取組を実施している。「地域とともにある学校」「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動を行っている。活動については、3つの部会（学習部会、つながり部会、ふれあい部会）を設け、地域の方々の参画、協働、支援活動等を通して「地域を誇れる子ども」「自分の学校を誇れる子ども」の育成を目指している。地域社会の中で、子どもたちを心豊かで健やかに育てる環境づくりを推進している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

3つの部会を置き、活動を継続的・多面的・総合的に実施している。
・学習部会ー「地域の人財を子どもたちに」をテーマに取組を進めている。地域の方との協力を得て、子どもたちの学習の機会を設ける部会。環境学習で同志社大学エコプロジェクトと連携、キャンパス交流学習で同志社女子大学と連携、社会人講師によるお茶（お茶工場の見学）や書道等の授業を実施している。
・つながり部会ー「地域を学ぼう　地域で学ぼう」をテーマに取組を進めている。ふるさと普賢寺体験学習を中心に地域の良さを伝える部会。じゃがいもまつり　雲上大遠足等を実施している。
・ふれあい部会ー「地域の中に子どもたちを」をテーマに取組を進めている。子どもたちが地域の文化や伝統を学ぶとともに、地域活性化の一助となる活動に取り組む部会。大御堂観音寺のライトアップ　児童作品の地域展示　田んぼの学校（幼稚園とも連携）等を実施している。

【実施に当たっての工夫】

・学校運営協議会とともに地域学校協働活動を取り組む中で、PDCAサイクルを意識して活動することができる。
・ホームページを活用し、よりわかりやすく情報を発信し、子どもたちがどのように活動しているか、どんな方が社会人講師として学校へ来てくださっているのか等保護者とも情報共有できている。

【関係機関・団体等との連携状況】

・地域の方々を講師として招き学んだり、地域について学習したりするなど、地域と連携協働する学習に積極的に取り組んでいる。また、1回の授業で終わらせることなく、年間を通じて継続して実施するよう計画されていることで、より深く子どもたちと地域の方々が交流する機会となっている。そのことが社会全体で子どもをはぐくむ環境づくりの推進につながっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・地域の方が、子どもたちと一緒にふれ合い、活動することを通して、「自分たちの学校だ」という意識を更に強く持ったり、「子どもたちから元気をもらっている」と喜びの声があがったりしている。子どもたちにとってプラスになるだけでなく、地域の方にとっても、生きがいづくりにつながっている。
・地域の方と子どもたちの顔の見える関係を築くことが、子どもたちの安心・安全の確保につながっている。地域全体で子どもたちをはぐくむ環境づくりが進んでいる。
・コミュニティ・スクールと連携して取り組むことで、今まで実施してきた体験活動や行事の意義を再度振り返る機会となっている。

● その他

地域住民等の連携・協働により、「地域とともにある学校づくり」、「学校を核とした地域づくり」の具体的な活動が進んでいる。自分たちの地域や自分たちの学校を誇れる子どもたちの育成につながっている。

地域の文化・伝統を学ぶ体験学習

地域連携による特別授業

こんな活動です

地域みんなで美山の子どもたちの未来を考える ～「地域とともにある学校づくり」を通して～

京都府南丹市	●活動名	●関係する学校名
	美山地域学校協働本部	南丹市立美山小学校 南丹市立美山中学校

協働活動開始年度	平成　19　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 8人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.kyoto-be.ne.jp/miyama-es/cms/?page_id=21				
●連絡先	南丹市立美山小学校	☎ 0771-75-0017			

●活動の概要・経緯

これからの社会を担う確かな学力・生きる力を育むために、小学校再編により広大となった校区の教育資源を最大限生かした「美山学」を、小中9年間を見通した教科横断的な学習内容・カリキュラムとして整備した。同時に、コミュニティ・スクールの導入を見据えた新たな学校づくりを、美山まちづくり委員や閉校した各地域関係者、学識経験者や教育委員会事務局職員から構成した研究推進委員会を中心に研究を進めた。地域との協働により「美山学」の充実を図ることで、地域の歴史や伝統・文化等を、児童と地域住民が共に学び合うことを通して、教育文化活動の継承と推進を図り、ふるさと美山に対する愛着を深め、地域の活性化や発展に寄与しようとする意欲を高めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・第5学年町内ホームステイ（自分が住む旧小学校区外地域住民宅での一泊二日の体験学習）
・閉校後の旧小学校舎を会場としたサテライト教室（各地域の講師を招き、地域住民も一緒に学ぶ）
・島根県隠岐の島海士町小学校5・6年生とのweb交流を通した地域の見つめ直し
・防災無線を使った児童による学校教育活動の広報

【実施に当たっての工夫】

地域学校協働活動推進員（地域コーディネーター）が、美山学講師、見学先の紹介、日程調整、美山学だよりやホームページなどでの情報発信、新たなつながりの提案（美山アプリ）等を行って、地域と学校との橋渡し役になっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

美山学に関わる人達は延べ300名を超える。美山まちづくり委員、学校運営協議会委員、行政関係者、大学生、小・中学生の保護者・教職員等、幼児から高校生も含め美山で育つ子供への願いや、その実現に向けて大人にできることを一緒に考える基盤が構築されている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「美山学」を通した児童の地域への関心と愛着の高まりが児童アンケートの「地域への誇りや関心」の項目で100%に近づく大きな伸びを示した。
熟議には、美山まちづくり委員、学校運営協議会委員、行政関係者、大学生、小・中学生の保護者・教職員等、延べ300名を超える参加者を得て、幼児から高校生も含め美山で育つ子供への願いや、その実現に向けて大人にできることを、一緒に考えようとする当事者意識が高まり、さらなる取組へ発展しつつある。

● その他

学校・保育所だけでなく、スポーツ少年団や各地区振興会の予定などをリアルタイムで情報共有する「美山アプリ」（デンソー株式会社の協力による、京都府・南丹市の協働事業）を立ち上げている。

「町内ホームステイ」

ゲストティーチャーによる体験活動「かやぶき職人さんに見て、聞いて、さわって体験してみよう」

こんな活動です

歴史ロマンの街、堺でつくろう！共に生きる社会を！
～地域・関係団体・学校とのつながりを育みながら～

大阪府堺市	●活動名	●関係する学校名
	堺支援ふれあい広場	大阪府立堺支援学校

協働活動開始年度	平成　24　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 160人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://www.osaka-c.ed.jp/sakai-y/HOME.html				

●連絡先　大阪府立堺支援学校　☎ 072－241－0288

●活動の概要・経緯

○大阪府立堺支援学校は、昭和31年 4月、全国初の公立の肢体不自由養護学校として開校した。地域とのつながりも長年に亘って築き上げてきたものがあり、そのひとつの象徴が「福祉盆踊り大会」である。この「福祉盆踊り大会」は教職員、地域住民、福祉事業所が中心となって企画運営し、30年以上もの長きに亘って継続しているイベントであり、令和元年度より「福祉秋祭り」として実施している。この取組みが基礎となって、地域住民との関わりが日常的な学習支援や行事等での交流に発展し、「堺支援ふれあい広場」の活動へとつながっていった。また時おりしも「百舌鳥・古市古墳群を世界遺産に！」という機運の高まりとも重なり、その実現に向けた協働した取組みを通し、学校と地域との関係がよりいっそう強固なものとなっていった。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○学校支援活動　：高等部「職業（園芸）及び「生活」の授業における花苗づくりや定植、水やりの指導等。
　　高等部「選択（陶芸）」の授業における陶芸の技術指導等。
○学習園開放　　：地域自治会による野菜収穫体験及び野菜の販売。
○環境美化活動　：地域ボランティアと協働での花壇整備、花苗づくり。「仁徳陵をまもり隊」主催の古墳清掃に参加。
○福祉秋祭り（平成30年度までは福祉盆踊り大会）
　　：学校、地域自治会、福祉事業所、学生ボランティア、各種団体と協働で祭りの企画運営。

【実施に当たっての工夫】

○教員OB等を活用し、児童生徒の実態に即した学習支援を行っている。園芸においては、地域自治会の方々を対象に、育てた野菜の収穫体験会を実施している。このことで相互の充実感が増し、活動の促進へとつながっている。
○地域住民対象のパソコン教室の開催、防災訓練の見学等、地域住民の方が来校する機会を増やし、学校理解・障がい理解を深める機会としている。

【関係機関・団体等との連携状況】

○学校運営協議会において、学校と地域との協働活動や連携の状況について報告している。委員の中に地域自治会代表の方がいるので、学校と地域双方の立場から報告や意見交換ができている。
○地域自治会とは、住民の来校機会を増やしたり、「学校だより」「自治会だより」を配付したり等、日常的に連携を図っている。
○福祉事業所とは、送迎時や連絡網を活用して、円滑な情報伝達に努めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○園芸や陶芸の授業は、職業・進路学習の一環でもあり、進路選択の際に大いに参考となるものである。また園芸や陶芸の技術習得が卒業後の生きがいとなり、QOLの向上にもなっている。
○農作物を育てる一連の工程を学習することで、農作物の基礎的な知識や技術を習得するのみにとどまらず、地域の方から指導いただいたことを目に見える形で還元できている。労働の対価として一定の収入が得られるという体験は、生徒のやりがいや達成感にもつながっている。
○地域自治会との協働が、他の援助や支援を受けることにつながっている。（例：地域在住の職人による門扉修理、ごみ収集箱の製作・設置等。）
○福祉事業所との協働が、本校保護者対象の事業所説明会の円滑な実施という進路指導の充実にもつながっている。

● その他

○本校の教育目標である『共生社会の中で、あかるく、ただしく、たくましく、生きていく子を育成する。』の実現・達成に向けて、学校、地域、関係団体が相互に理解を深め合うことができる協働活動を行っている。

福祉盆踊り大会（令和元年度からは福祉秋祭り）

高等部職業（園芸）の授業　定植

こんな活動です

”つながる地域が育む子ども” まちぐるみで子どもの育ちを！

兵庫県播磨町	●活動名	●関係する学校名
	地域の教育力向上事業運営委員会	播磨町立播磨小学校 播磨町立蓮池小学校 播磨町立播磨西小学校 播磨町立播磨南小学校 播磨町立播磨中学校 播磨町立播磨南中学校

協働活動開始年度	平成 28 年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和4年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 12人		
ボランティアの数	延べ登録人数 104人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	―				
●連絡先	播磨町教育委員会　生涯学習グループ	☎ 079-435-0565			

●活動の概要・経緯

播磨町では、平成27年度は「学校園・家庭・地域の連携協力推進事業」という名称で学校・家庭・地域の連携を図ってきた。28年度からは、これまでの学校支援地域本部事業、放課後プラン事業、社会教育活性化支援事業を統合し、事業名を「地域の教育力向上事業」とした。活動においては、「学校園支援」「放課後支援」「家庭教育支援」を3本柱として事業を展開し、学校園・家庭・地域が今まで以上に連携・協働しながら地域の教育力向上を図っている。そして、この「地域の教育力向上事業」を円滑に推進するために、「地域の教育力向上事業運営委員会」(地域学校協働本部)を設置した。播磨町は小学校4つ、中学校2つのコンパクトな町であり、町全体をまとめた形で事業を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

特徴的な取組として「学校園支援」「放課後支援」「家庭教育支援」を3本柱として事業を展開し、学校園・家庭・地域が今まで以上に連携・協働しながら地域の教育力向上を図っている。特に「家庭教育支援」の事業である「わくわく☆ふぇすた」では、盛大なイベントを開催することが目的の事業ではない。イベントの企画運営を進めるなかで、「地域の支援者同士のネットワークの構築」「支援者自身のスキルアップ」「支援者それぞれの活動の質の向上」を目的として事業を実施している。そして本事業が浸透していくことで、地域のつながりが深まり、地域全体で子育てをしていこうという気運が高まることを期待している。

【実施に当たっての工夫】

当運営委員会では、「学校支援」「放課後支援」「家庭教育支援」について総合的な意見交換をしている。参画する支援者の団体それぞれが多くのネットワークや人脈、ノウハウを持っている。それらを活用し、「一過性ではない地域ぐるみで子どもを支える文化」の創出をめざし、イベント実施自体を目的としない等、活動についての共通理解をよく図る。

【関係機関・団体等との連携状況】

図書館、放課後児童クラブ、地域のコミュニティーセンター、公民館、社会福祉協議会、連合PTA会長、NPOなど、それぞれの団体において重要な方々で運営委員会が組織されていることから多方面からの協力と連携が得られている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇学校園支援では、「サポートチーム播磨」に登録しているボランティアによる、授業補助や環境整備等の活動が定着してきた。
〇放課後子ども教室では、異学年間交流や、子どもたちと地域ボランティアとの人間関係の構築が見られる等、子どもたちのいい居場所になっている。
〇家庭教育支援における「わくわく☆ふぇすた」は、約800人以上の人たちが集う一大イベントであり、町民の大きな交流の場となっている。
〇本事業におけるイベントを企画運営することで、多くの支援者が顔を合わせ、相互理解を図り、ネットワークの基礎を築くことができた。

● その他

放課後子ども教室(左)で、地域で活動されている銭太鼓グループの方々が、交流を兼ねて子どもたちに指導している場面。右の写真は、「わくわく☆ふぇすた」で地域に住んでおられる外国の方に英語指導をしていただいている場面。

放課後子ども教室で地域の活動団体との交流

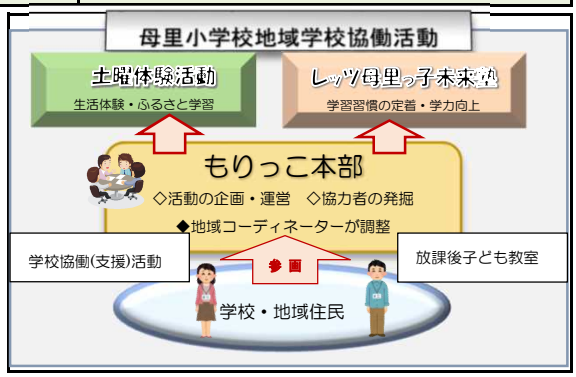
「わくわくふぇすた」の教室の様子

こんな活動です

人と人をつなぐ 「母の里」から未来へつなぐ「もりっこ本部」
～レッツ母里っ子未来塾と土曜体験活動～

兵庫県稲美町	●活動名	●関係する学校名
	母里小学校地域学校協働本部(もりっこ本部)	稲美町立母里小学校

協働活動開始年度	平成 29 年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 39人	企業・NPO等との連携	有	ICT機器活用	無
参考URL	https://www.town.hyogo-inami.lg.jp/0000004487.html				
●連絡先	稲美町教育委員会生涯学習課	☎ 079-492-2340			



●活動の概要・経緯

稲美町では地域で子どもたちの健やかな成長を支援する地域学校協働活動「いなみ いきいき共育ネット事業」を、平成29年度に開始した。小学校区単位で地域学校協働本部を立ち上げ、「地域の子どもと大人が共に育つ」「人と人のつながりネットワークをひろげる」をスローガンに活動を展開している。母里小学校地域学校協働本部(もりっこ本部)は、地域学校協働活動の主旨に賛同した地域住民有志と学校代表(教員)による、自主的・主体的な活動を実施している。学力補充と学習習慣の定着をめざす「レッツ母里っ子未来塾」と、生活体験不足を補ったり、ふるさとの特色を学んだりする「土曜体験活動」を二本柱としている。活動の企画・運営にあたっては、地域住民や児童の視点を大切にし、未来を担う母里っ子の育成と地域人材のつながりづくりに力を入れている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①わかる楽しさ、支援する充実感『レッツ母里っ子未来塾』・・・地域住民と教員の連携協働による、小学生対象の学習支援。
②ふるさとから学び、人から学び、ものから学ぶ『土曜体験活動』・・・・「地域の特色を理解する」「文化・伝統を次世代に伝える」「生活体験を豊かにする」といった地域の課題解決に取り組む土曜体験活動。
「水路探検～印南の道～」は、地域住民がボランティア講師となり、命がけで水路を築き水田地帯を広げていった先人の苦労や地域の歩みを伝えたり、地元自治会が水路沿いの草刈をして安全に配慮したり、趣旨に賛同した住職が水路探検後のイベントの場としてお寺を開放したりするなど、地域の協力を得た体験活動。

【実施に当たっての工夫】

・地域住民が「支援する充実感」を得られることも大切にした運営により、地域住民の積極的な参画を促している。
・人と人のつながりを活かして、学習支援員やボランティア講師などの協力者を発掘している。
・地域の特色や歴史について、クイズやゲームなどで大人も共に楽しみながら学べるよう、工夫を凝らした活動を企画している。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校協働(支援)活動・・・JA兵庫南の協力による小学校の花壇整備。
・地元のJA組合員の指導のもと、児童は完成した花壇に共に花の苗を植え、花が咲くのを楽しみに世話をした。
土曜体験活動・・・「饅頭づくり＆茶道体験」
・地元の「印南そば倶楽部」や「稲美町茶道協会」の協力のもと、文化体験活動を行った。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・地域未来塾実施後のアンケートでは、子ども、保護者とも「満足度」はほぼ100%であり、教員とチームで支援を行った学習支援員(地域住民)が、「支援の効果を感じている」と回答した割合も約90%と高い評価を得た。
・「地域の特色を理解する」「文化・伝統を次世代に伝える」「生活体験を豊かにする」といった地域の課題解決に取り組む土曜体験活動では、「知らないことばかりだったので楽しく学べた」「また参加したい」「地域への愛着が増した」という感想が寄せられている。また、もりっこ本部委員からも「こんなことをやってみたい」という意欲的な提案がみられるようになった。生活体験を豊かにしたり、地域のことを学んだりする活動を通して、子どもと大人の出会いも含め、地域の未来につながる新たな人と人とのネットワークが広がっている。

● その他

・『レッツ母里っ子未来塾』:長期休業中に実施。学力補充、学習習慣の定着、学ぶ意欲を高めることが目標。
・『土曜体験活動』:地域を学び、地域で体験し、スタッフも参加者も満足するプログラムを計画実施。

レッツ母里っ子未来塾子どもの自主的な学びを支援する。

土曜体験活動「水路探検～印南の道～」

こんな活動です

心豊かにたくましく生きる子を育む地域学校協働の輪
－地域とともに育つ子ども・学校をめざして－

奈良県生駒市	●活動名	●関係する学校名
	壱分小学校地域学校協働本部	生駒市立壱分小学校

協働活動開始年度	平成　24　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年6月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 17人		
ボランティアの数	延べ登録人数 117人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://www.city.ikoma.lg.jp/category/18-11-0-0-0.html				
●連絡先	生駒市立壱分小学校	☎ 0743-76-8615			

ニコニコあいさつデー

●活動の概要・経緯

本校は，「地域学校協働活動」事業に取り組む以前より，地域ボランティアによる登下校の見守りや学習支援等の活動が行われていた。そのような中，地域で子どもたちの命を守るために，「子どもを見かけたら優しく声をかけよう」という声が高まり，平成24年に「やまびこネットワーク」が発足した。平成28年には，生駒市最初の市民自治協議会に認定され，「あいさつ運動」を中心に，「まちづくりワークショップ」，「防災訓練」，「子どもフェスタ」等の活動を通して，学校と連携を取りながら，まちぐるみで児童生徒の育成に取り組んできた。このことは，地域にとっても，学校と協働して子どもの育成に関わることで，楽しみや生きがいを見つけることができるといった関係を築くことにもつながっている。

令和2年度より学校運営協議会を設置し，地域学校協働活動のさらなる充実・深化を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

毎月8日の「ニコニコあいさつデー」は，地域のコミュニケーションの深化と安心安全なまちづくりの実現を目的として，小学校の児童会，PTA役員，民生児童委員，老人会，自治会等，多くの団体が参画する「あいさつ運動」として，継続的に取り組んでいる。さらに，学校教育目標「自ら学び，心豊かにたくましく生きる子の育成」を地域と共有し，その具現化に向け，各団体の協力・支援を得て，学校の花壇・栽培園の整備，植栽の指導・支援，収穫祭等学校行事での交流，学習のゲストティーチャー、実習の支援等の活動を実施している。このような地域学校協働活動を通して、学校を核とした地域づくりの推進と，「社会に開かれた教育課程」の創造をめざしている。

【実施に当たっての工夫】

統括的な地域コーディネーターが，各団体との連絡調整を行い，各団体の代表及び世話役が，地域学校協働活動推進員として，支援員やサポーターと協議しながら実際の運営にあたっている。それにより，活動内容や日程の調整，情報交換等が，迅速かつ円滑に行われ，多様な活動の推進につながっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

○　生駒市生涯学習課，市民活動推進課，防災安全課等，行政機関と連携し，活動や運営への協力・支援を得ている。
○　令和2年度より設置した学校運営協議会では，各団体の代表が委員として参加し，学校との協働活動について成果や課題を共有することで，さらに横のつながりを強くしていくことをめざしている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○　「ニコニコあいさつデー」に継続して取り組んだことで，児童が自分からあいさつができるようになってきた。地域の方や来客者から，「元気な挨拶ができる子どもたちですね」という評価の声が多くなってきた。
○　地域の方との交流や活動を通して，会話をしたり招待状やお礼状を書いたりする中で，児童のコミュニケーション力が高まり，感謝の心や相手を思いやる気持ちが育ってきている。
○　地域の方からは，児童と交流することで，「元気をもらえる」，「学校に来るのが楽しい」等の声がある。地域学校協働活動を通して，「地域の宝である子どもを共に育てていく」という思いを学校と地域がしっかり共有できている。

● その他

令和元年度の夏期休業中に，生駒市教育委員会生涯学習課，家庭教育支援チーム「たけのこ」と連携し，「いきいきスクール」，「たけのこふれ愛in壱分小」を開催し，本校児童，保護者，地域の方など多くの参加者が集い，つながりを深めた。

「キッズクッキング体験」イワシのフライづくり

イワシのフライをお弁当にして、老人会のみなさんをおもてなし

こんな活動です

地域とつながるクラブ活動

奈良県五條市	●活動名	●関係する学校名
	牧野小学校コミュニティ協議会	五條市立牧野小学校

協働活動開始年度	平成 25 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成28年4月1日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	ー	ー		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 26人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.gojo-nar.ed.jp/makisho				
●連絡先	奈良県五條市中之町921番地	☎ 0747-22-2584			

●活動の概要・経緯

かつての牧野小学校は，児童数が少ない単学級の学校であり，地域との結びつきは大変強かった。平成元年に現在の中之町へ移転となり，新興住宅地を含む市内でも最も児童数の多い小学校となった。それに伴い，以前のような地域との結びつきは薄れつつあったが，学校創設当初から，学校ボランティアは各部署でそれぞれに活動してきた。平成20年度から学校支援地域本部事業に取り組んだことをきっかけにして，組織的な学校ボランティア活動がスタートした。その流れを引き継ぎ，平成28年度からは，牧野小学校学校運営協議会を軸として，地域学校協働活動が活性化している。

現在の主な取組として，「図書・植栽・見守り・学習支援」活動，「絵ごころ開発プロジェクト」，地域クラブ活動（地域住民や大学教員・学生を指導者としたクラブ活動），放課後子ども教室（地域の方の見守りによる自主学習教室）等を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

牧野小学校学校運営協議会で常に話題となっていた「地域の人への挨拶を積極的にしない」「地域の人との関わりが薄い」という課題から，人生のモデルとなる地域の大人たちと子どもたちを意図的に関わらせる必要があると考えた。そこで気軽に地域の方が学校に関われるよう，学校ボランティアの居場所づくりを進めた。かつて，学校地域支援本部のあった教室をリノベーションし，壁面デザインやネーミングに児童の意見を取り入れ「ふれあい教室」が完成した。その「ふれあい教室」を中心として，地域クラブ活動や地域との交流が進んでいる。「絵ごころ開発プロジェクト」は，この地域クラブ活動から派生した活動である。

【実施に当たっての工夫】

地域クラブ活動については，子どもの興味関心があるものだけでなく，論理的思考に必要なプログラミング，ニュースポーツであるスカイクロスやスポーツ鬼ごっこも取り入れた。また，地域の方だけでは指導しきれない専門的なクラブについては，畿央大学や奈良教育大学とも連携しながら活動を行ってきた。

【関係機関・団体等との連携状況】

イラスト工作クラブ：五條市田園絵画教室，卓球クラブ：野原卓球クラブ，囲碁将棋クラブ：社会福祉法人正和会，ホームメイドクラブ：奈良教育大学，ICTクラブ・サイエンスクラブ：畿央大学，スカイクロスクラブ：五條市スカイクロス協会，スポーツ鬼ごっこクラブ：チームミラクルメグ橋本

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「地域の方々との関わりが薄い」という課題を解消するために実施した「地域クラブ活動」は，当初の目的を果たすことができた。地域クラブ活動の日は，続々と地域の指導者が来校し，校舎内外を行き交うのが当たり前の風景になった。そして，児童は，指導者と楽しげに話をしている。そのような光景が「ふれあい教室」を中心に繰り広げられている。家族や友だち以外の人間関係，いわゆる斜めの関係が構築されたといえる。また，五條市教育委員会が行っている児童アンケートでは，「地域や社会で起こっている問題や出来事に興味がある」の項目について，肯定的な意見が，平成29年度56%に対して令和元年度は70%と大きく伸びる結果となった。

● その他

「絵ごころ開発プロジェクト」は，夏期休業中に実施しており，純粋に絵を描くことの楽しさを学ぶ場として設定している。また，地域クラブ活動の指導者が主催するニュースポーツの大会等に自主的に参加し，他地域の人たちと関わっていこうとする児童が増えた。

「卓球クラブ」～地域の方と真剣勝負～

「絵ごころ開発プロジェクト」～絵の描き方教わり中～

こんな活動です

ここにあってよかった奈良西養護学校

－児童生徒・保護者・教職員・奈良西帝塚山地域の人々、皆がこう思える学校－

奈良県奈良市	●活動名	●関係する学校名
	地域と共にある学校づくり	奈良県立奈良西養護学校

協働活動開始年度	平成　23　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和4年3月設置予定	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―		
ボランティアの数	延べ登録人数 40人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.e-net.nara.jp/sns/nishiyougo/index.cfm/1.html				
●連絡先	奈良県立奈良西養護学校	☎ 0742-45-1421			

本校のイメージマスコット
「ならにっしー」
創立10周年を記念してつくり，さまざまな行事・イベントに活用している。

●活動の概要・経緯

本校は，平成20年に，奈良市内の閑静な住宅地に，旧高等学校の校舎を改修して誕生した知的障害特別支援学校である。開校以来，住宅地内という立地の特徴を生かし，「ここにあってよかった奈良西養護学校」を学校スローガンに，地域と共にある学校づくりに取り組んできた。小学部・中学部は，居住地校交流の充実を目指して，同じ住宅地内にある小・中学校との学校間交流を継続して実施している。高等部では，家政・農業・工業の専門教科（校内では「しごと」という名称）において，地域教育協議会の協力により，ボランティアの方々とともに活動する機会を設けている。また，農作業に関わっては，近隣の大学の農学部と連携した取組を始めている。毎年11月には，地域の文化的行事である「ふれあい文化交流会」が学校を会場に開催され，高等部生徒が舞台発表や販売活動等に取り組み，地域の方々との交流を深めている。その他にも，地域内にある保育園・幼稚園，高齢者施設等との交流・ふれあい活動にも取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

高等部の「しごと」の学習は，7つの学習グループに分かれて，学習を行っている。この中で，「果樹園芸班」や「農場班」，「軽作業班」では，地域教育協議会の協力により，ボランティアの方々に学習に参加していただき，ともに活動をしている。「農作業班」では，近隣の大学と連携し，ユニバーサル農法を学習に取り入れている。「木工班」や「布・糸工房班」，「陶工房班」では，それぞれの班で製作したものを文化交流会や地域のカフェ等の店舗で販売することで，地域の方々とふれあい，活動を知っていただく取組を行っている。「メンテクリーニング班」は，地域からの依頼を受けて，障子紙の張り替え作業に取り組んでいる。また，「職業家庭」や「生活」の学習において，来校された方や高齢者施設の利用者の方に，喫茶サービス（コーヒーのおもてなし）の活動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

学習の際には，生徒に対してその日の学習の予定を視覚的な支援を行いながら確認するとともに，ボランティアの方々の紹介を行うことで，生徒が見通しをもって活動できるよう配慮している。販売活動やおもてなし活動については，生徒それぞれが担当する役割を決め，模擬的な練習も行いながら，主体的に取り組めるようにしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

ボランティアについては，地域コーディネーターを通じて依頼の連絡を行う。その際には，学習内容の概要を事前に知らせ，また年度末には，活動についての意見等をいただくことで，継続して取り組めるようにしている。大学に対しては，授業担当者と研究者が連絡をとり，生徒の活動内容や手順等についての相談を行っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

ボランティアの方々と活動をともにすることは，生徒にとっては，「友達でもなく先生でもない大人の方」との新たなふれあいの場となる。活動を続ける中で，生徒からボランティアの方に話しかける場面が増え，一緒に活動することを楽しみにするようになるなど，生徒の社会性やコミュニケーションの力を高めることにつながっている。一方，ボランティアの方々も，生徒たちとの交流を楽しみにしており，授業での活動支援を通じて，学校のさまざまな取組について，理解・協力を得ることにつながっている。また，販売活動などで多くの地域の方々とふれあい，頑張っている姿を評価されることで，生徒の達成感や自己肯定感を高めることができている。

● その他

小・中学部では，同じ住宅地内にある小中一貫校との交流・共同学習を行っている。一貫校の2年生が小学部児童と出会い，4年生は交流学習を楽しみ，7年生は中学部生徒と，「しごと」の学習をともに学んでいる。継続して取り組むことで，より豊かな関係づくりができている。

地域の文化的行事であるふれあい文化交流会で、授業でつくった製品を販売。

研究者の協力のもと、ユニバーサル農法によるポリエステル培地づくりを実施。

こんな活動です

中高一貫教育校としての地域貢献
（橋本高等学校・古佐田丘中学校コミュニティースクール）

和歌山県橋本市	●活動名	●関係する学校名
	橋本高等学校・古佐田丘中学校　中高一貫学校地域連携推進委員会	和歌山県立橋本高等学校 和歌山県立古佐田丘中学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		4人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
	60人				
参考URL	https://www.hashimoto-h.wakayama-c.ed.jp/				
●連絡先	和歌山県立橋本高等学校・古佐田丘中学校	☎ 0736－32－0049			

●活動の概要・経緯

平成30年度から学校運営協議会として、中高一貫学校地域連携推進委員会を立ち上げた。その中に「学校評価部会」「学習支援部会」「地域活動推進部会」を設置し、地域と学校の課題を互いに共有することで、具体的な取組を生み出す体制づくりを目指した。

令和元年度は、中高一貫学校地域連携推進委員会と地域共育コミュニティ（地域学校協働活動）との連携に重点を置いた取組を行った。中学校では「地域の方々から地域を知る」ことに重点を置いた「ふるさと学習」を、高校では地域に根ざしたボランティア活動を充実させながら、地域の課題に対する地域貢献活動へと広げる「地域学習」を実施している。「ふるさと学習」と「地域学習」は「学習支援部会」が支援し、「地域活動支援部会」では、ボランティア活動を中心とした地域貢献活動の機会の拡充を支援している。これにより、これまで長期休業中に実施されることが多かったボランティア活動が、年間を通した取組となった。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①橋本市内の小中学校、公民館、児童館、こども園の代表者が集まる「橋本地域共育コミュニティ本部会議（橋本市学校地域支援本部）」に参加し、各施設との連携を強化した。

②生徒会が運営するボランティアセンターに、生徒が登録する「ボランティアBANK」制度を設けた。高校生や中学生が、地域の小学校の児童に対し、夏期休業中の学習指導や科学実験教室、読み聞かせ等のボランティアを行っている。また、NPO法人が行う学習支援や体験学習にもボランティアで参加した。令和元年度は高校生・中学生合わせて57名の生徒が登録を行い、年間を通じて様々な形でボランティア活動を行った。

③橋本市の「アダプト制度（行政と市民が2人3脚で行うまちづくり制度の1つ）」に参加し、年間を通じた市内清掃活動を行った。また、「総合的な探究の時間」では、橋本市役所と連携し、SDGsの考えに立った橋本市の課題について、生徒が施策を提言する取組を行った。

【実施に当たっての工夫】

中高一貫学校地域連携推進委員会委員が中心となり、地域や関連機関との連携・協力体制の構築、強化を進めたことで、生徒の地域貢献活動の機会を広げることができた。また、「ボランティアBANK」を設置したことで、これまで長期休業中のみだった活動が年間を通して実施できるようになった。

【関係機関・団体等との連携状況】

橋本市役所、橋本市教育委員会、橋本市社会福祉協議会、橋本警察署、橋本市内の障害者支援施設、橋本市各地区、県立きのかわ支援学校、橋本市内の小学校　社会福祉法人「夢あじさい」「つくしんぼ園」「児童デイサービスこまどり」 ライフサポート「みのり」 特定非営利活動法人地域サポートセンター「ふれあい工房」 一般社団法人はしっこ笑顔サポート「ぽれぽれ」 等

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

コミュニティ・スクールの基本目標に向けて、これまで継続して取り組んできたボランティア活動等の地域学校協働活動の意義や内容を整理できた。特にボランティア活動は、「ボランティアBANK」の設置により、年間を通して対応できるようになった。また、中高一貫学校地域連携推進委員会が地域での活動を支援してくれたことで、生徒の地域貢献活動の機会が増え、生徒の活躍が地域に広く知られることにつながった。その結果、生徒の自己有用感が高まってきている。

● その他

地域に根ざした取組の一例

高野山外国人観光者ガイドに取り組み、国際交流の促進、地域文化の情報発信

土曜講座と称して、地域の方を講師に招き、生徒に学びの機会を提供

こんな活動です

北野上の未来を担う子供たちの育成

和歌山県海南市	●活動名	●関係する学校名
	ななさと共育コミュニティ	海南市立北野上小学校 海南市立東海南中学校

協働活動開始年度	平成 23 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 130人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.kita-sho.kainan.ed.jp/				

●連絡先 海南市教育委員会生涯学習課 ☎ 073-492-3349

●活動の概要・経緯

ななさと保育所が平成22年にきらら子ども園として統合したのをきっかけに、「保育所施設有効活用協議会」が発足、それをもとに平成23年度に「ななさとコミュニティ協議会」が発足した。本協議会は公民館、学校、連合自治会、老人クラブなど約20団体から構成されており、「楽しく安心して暮らせる北野上」をテーマに活動をスタートさせた。

さらに、和歌山県が平成20年から進めてきた「きのくに共育コミュニティ」構想のもと、「子供も大人も共に育ち、育て合う関係づくり」を目指して、平成23年度、学校・家庭・地域が連携し、取組を進める「ななさと共育コミュニティ」が本協議会の中に位置付けられた。

また、平成30年度に北野上小学校学校運営協議会が設置されてからは、本協議会と連携し、ふるさとを大切にすることを目標としたふるさと学習「ななさと学習」の実施に向けた取組を始めるなど、現状に満足することなく、新たな活動も開始している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①中野上地域、南野上地域と合同で三野上合同通学合宿を実施するとともに、三野上地域の共育コーディネーター会議を学期ごとに実施し、意見交換や情報共有を行っている。
②学校と地域が連携し、ふるさとを大切にすることを目標としたふるさと学習「ななさと学習」の実施に向けた取組みを開始した。
③地域の小学校・中学校のみならず、きらら子ども園においても学習支援や交流活動を実施している。
④公民館主催の文化祭や夏祭りに中学生がボランティアとして参加しており、幅広い年代の交流が行われている。
⑤地元のNPO法人「自然回復を試みる会・ビオトープ孟子」との連携により、子どもたちに自然環境について学ぶ機会を提供している。

【実施に当たっての工夫】

○三野上地域の共育コーディネーター会議や合同通学合宿を開催することで、大人も子供も地域の枠組みを超えた関係性を築くことができる。
○学校全体の行事のみならず、各学年ごとにきめ細かな学習支援を実施することで、より密接なつながりができた。
○地元で収穫した食材を利用したり、地元住民が講師を担ったりするなど、地元への愛着が湧くような事業を数多く実施している。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会では、主に通学路の整備や地震が起きた場合の対応、地域と連携した行事の改善について協議を深めた。

また、子供たちが自分の住んでいる地域の豊かな自然や文化・歴史を知り、人の温かさに触れることで、ふるさとに誇りや愛着を持ち、ふるさとを大切にすることを目標としたふるさと学習「ななさと学習」の計画立案について継続的に検討している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○ななさと共育コミュニティを基盤とし、学校・家庭・地域がそれぞれの役割について考え、実践するとともに、お互いが連携することにより、「地域とともにある学校」に向けた取組を実践できるようになってきた。
○新たに「ななさと学習」を取り入れることで、地域の豊かな自然や歴史・文化に触れるともに、地元住民との交流を通じ、ふるさとへのさらなる誇りや愛着を抱くことが期待できる。
○園児や児童に対し、幼いころから学習支援を行い、様々な行事を通して交流を深めてきたことで、地元への愛着を持った子供が成長し、中学生になってもボランティアとして地域行事等に参加するなどの効果が出ている。

● その他

地元のNPO法人「自然回復を試みる会・ビオトープ孟子」との連携により、自然観察等を通して子供たちが自然の仕組みや大切さについて学ぶ機会を提供している。また、地元のお寺「実相寺」での子どもお茶席や、地元のそば生産農家によるそばの栽培やそば打ち体験など、地域住民が主に講師を担った体験が行われている。

三野上合同通学合宿。小学校区を超えた地域同士の交流が深まりました。

地元で採れたよもぎともち米を使ったお餅つき。おいしくいただきました。

こんな活動です

地域が子供を守り、学校が地域を動かす力になる

和歌山県みなべ町	●活動名	●関係する学校名
	清川地域・学校協働活動	みなべ町立清川小学校

協働活動開始年度	平成　5　年度	学校運営協議会	指定・設置日	地域学校協働本部	有	
			令和2年4月1日設置			
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成			
	地域未来塾	―				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	1人		22人			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無	
	104人					
参考URL	http://www.town.minabe.lg.jp/docs/2013091300483/					
●連絡先	みなべ町立清川小学校	☎ 0739-76-2002				

●活動の概要・経緯

清川地域では、地域の人口減少にともない児童数も減少し、清川の将来を地域全体で考える必要性に迫られるなかで「地域全体で未来を担う子供たちを守る」「学校の困り事を地域でなんとかしよう」という理念に基づいて、平成5年に『清川を考える会』（以降『考える会』）が発足した。考える会は地域公民館、区長会、学校長、保護者、青年団、母親クラブ、老人クラブ等の代表者で組織されている。以来、考える会を基盤として地域から様々な支援を受け、学校は郷土学習や体験学習など充実した教育活動を展開することができてきた。学校運営協議会にも考える会の代表が参画している。近年では、地域と学校がより緊密な連携を図りながら、「地域に守られる学校」から、互いに助け合いながら「地域とともにある学校」に発展するための取組へと移行している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

◎地域の特産物と人材を積極的に活用した体験活動＜ゲストティーチャーによる梅干し作り、こんにゃく作り、茶摘み・製茶体験、陶芸教室など＞

◎保育所・小学校合同運動会から保・小・区民合同運動会へ（児童数が減少、小学校単独で運動会を実施することが困難になる）

①平成30年、約70年間開催してきた清川区民運動会との合同実施ができないか、学校から考える会及び運動会運営委員会（地域住民代表）に相談し、両会の了承を得る。

②保育所・小学校・区民三者の代表者による合同運動会検討委員会を立ち上げ、実施は可能か、種目数や時間配分はどうするか等の検討を重ね、実施計画案を作成。

③令和元年、検討委員会より考える会及び運動会運営委員会に計画案を提案、了承を得る。

④運営委員会（保・小代表も参画）による準備と運営により、11月に地域と学校が連携・協働した合同運動会を実施する。

【実施に当たっての工夫】

実施に当たって、地域と学校が互いにどのようなねらいや目当てを持っているか確認し合い、活動の進め方や方法を検討するようにしている。また、自然とふるさとを愛し、大切にする心を育むため、郷土学習や様々な体験学習を通して地域の方々とふれあい、地域の課題を共有する機会をできるだけ多く持てるよう工夫している。さらに、地域全戸に配布される学校だよりにおいて、連携活動を紹介している。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会で学校運営や必要な支援等について協議し、ふるさとを愛し、大切にする子供を育てるため、学校と地域にできる具体的な取組を計画し、実践している。また、放課後児童クラブの指導員が学校運営協議委員であるため、放課後の活動についても検討することができている。さらに、考える会の総会で学校の状況を報告し、地域からどのような支援を必要としているかを協議している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・近年参加者が減少していた区民運動会であったが、保育所・小学校・区民合同運動会となったことで参加者数が大幅に増加し、地域行事の活性化に寄与することができた。地域行事と学校行事が融合することにより人が集まり、地域住民の交流の一助となっている。また、地域の方々の学校への理解が深まり、地域とともにある学校づくり、学校を核とした地域づくりに取り組むことができた。

・地域の特産物や人材の活用により、子供たちの学びや体験活動が充実し、地域に対する関心が高くなってきた。また、子供たちにとってはたくさんの経験ができるとともに、家族以外の大人から大切にされて育つという経験もでき、安心感や信頼感が育まれ、心の成長につながっている。

● その他

清川小学校では、梅干し作り、茶摘み・製茶体験、こんにゃく作り、陶芸教室、昔の遊び体験、花の栽培、通学合宿、といった、多岐にわたる学校支援活動が行われている。また、敬老会で児童が敬老作文を発表するなど、世代間交流にも取り組んでいる。

クリーンクラブの皆さんと一緒に、二千個のチューリップの球根を植える

老人クラブの方から昔の遊び（あやとり）を教えてもらう

こんな活動です

ヤタガラス子ども未来プロジェクト
～ふるさとの未来を託せる子供の育成～

和歌山県新宮市	●活動名	●関係する学校名
	神倉小学校運営協議会	新宮市立神倉小学校

協働活動開始年度	平成　22　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	―	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 10人		
ボランティアの数	延べ登録人数 42人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.net-kumano.com/shingu/kamikura/				
●連絡先	新宮市教育委員会教育政策課	☎ 0735-23-3364			

●活動の概要・経緯

学校運営協議会にて、「地域行事の担い手が減ってきている。」「若い人が進学や就職で都会に出ていき、町の賑わいもなくなってきている。」などの話題が出され、地域の担い手となりうる子供たちに「この地域で育ってよかったと思ってもらいたい。」「ふるさとへの愛着や誇りを持ってもらいたい。」との思いから、地域の歴史や文化、学校の立地を生かして以下の2点を理念として取り組むこととした。
①ふるさとの未来を託せる子供の育成（地域とともにある学校づくり）
②コミュニケーション能力の育成（これからの社会の中で生き抜く力をつける）
また地域の人材を学校サポーターとして活用することで、地域に開かれた学校づくりと地域人材の育成をねらいとして実施した。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

校区には歴史的・文化的な遺産が数多くあり、その立地を生かした学びの推進について、学校運営協議会委員とそのプロジェクトにかかわる「サポーター」とで学校・担任と連携を取りつつ、子供の発達の段階に応じ、地域の文化を知る取組を推進している。これまで地域の文化（チャップマン邸、西村記念館、佐藤春夫記念館等）・伝説（徐福、丹鶴姫、おいの伝説、天狗伝説等）・祭り（お燈祭り、新宮祭り等）について、サポーターと共に調査し、発表会を行うことができた。また、2年生の地域の商店街調査ではサポーターと共に商店を訪問し、成果発表会を商店街で開催するなど、多くの地域の方の参加のもと実施できた。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては、学校運営協議会委員が中心となり、地域のサポーターを募った。多くのサポーターが協力くださったため、子供たちを少人数グループに分けることができ、充実した調査活動になった。事前に打ち合わせを行い、サポーターがコーディネート役となり、取組を推進した。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会が中心となり、学校とサポーターをつなぐ橋渡し役となって取組を推進することができた。また学校との連携を密にし、計画の取りまとめを行った。地域の公民分館委員が学校運営協議会委員であることから、公民館とも連携した取組を推進できている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・子供たちの「ふるさと学習」の内容が充実するだけでなく、発表を通じて、地域の中に子供たちの声を届け、地域の活性化にも一役買っている。
・委員やサポーターなど地域の人々と学校・子供たちとの関係が深まり、開かれた学校づくりにも寄与している。
・校区に世界遺産があることを知り、自分たちのふるさとについて改めて考え、誇りを持てるようになってきつつある。
・サポーター活動を通じて、地域の人々が学校への関心を高め、子供たちを共に育てるという意識ができつつある。

● その他

・学校の図書館のスペースを改造し、「ヤタガラス子ども未来ハウス」を設置し、本事業における取組を推進する場として活用している。

一年生「お燈祭りを知ろう」

三年生「しめ縄作り体験」

こんな活動で

まちづくりの一躍を担う　地域学校協働活動

島根県大田市	●活動名	●関係する学校名
	志学小中学校　地域学校協働活動	大田市立志学小学校 大田市立志学中学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 64人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://www.city.ohda.lg.jp				
●連絡先	大田市教育委員会　社会教育課	☎（0854)83－8125			

SST（志学最高［再考・再興］タイム）発表会の様子

●活動の概要・経緯

大田市では『地域の教育力向上』を目的に、平成26年度に「三瓶地区」学校支援地域本部事業を導入し、地域ぐるみで学校運営を支援する体制を整えてきた。志学小・中学校区では、平成20年度から学校と地域とで組織されてきた「志学三校園の教育を考える会」で「保小中連携と今後の育てたい志学の子ども」について話し合いを重ねてきた。令和2年度からは本会を「学校運営協議会」に位置づけ、育てたい子ども像を地域で共有する体制をさらに強化している。

また、中学校の総合的な学習の時間「SST（志学最高［再考・再興］タイム）」で学びを深めた中学生が「志学まちづくり協議会」が主催するワークショップに参画したり、協議会の部会の中で放課後の子どもの学びの場づくりについて話し合い、令和元年度に「SETにこにこ教室」（放課後子ども教室）を立ち上げるなど、まちづくりの一躍を担う地域学校協働活動が展開されている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

今年度で、18年目になるSST（志学最高［再考・再興］タイム）は中学校の総合的な学習の時間に行われる、地域課題探究学習である。各生徒が地域の課題を見出し、その解決に向けてどのような取り組みを行うことができるのかを町へ出かけて地域の方に聞き取りをしたり、資料を探したりしながらまとめ、年度末の発表会で地域住民に向けて発信している。平成29年度からは、志学小学校で「ミニSST」の学習が始まり、地域の人・もの・ことに触れて地域の実態を学んでおり、小学校と中学校とで系統的な学習カリキュラムの構築も行われている。最近では、市や県といった広いフィールドでの課題に目を向けた学びも展開されている。

【実施に当たっての工夫】

SSTの学習において専任CNは生徒の話を直接聞きながら、課題に応じた地域人材をコーディネートすることで、学習の充実と深化につなげている。また、公民館が「地域教育協議会」を開催し、三瓶地区の3名のCNのネットワーク化を図ることで、学校支援に関わる人材の相互交流や掘り起こしにつながっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

公民館職員、専任CN、放課後子ども教室の実施主体者といった協働活動に関わるメンバーが学校運営協議会に参画することで、「心身ともに健康をめざす」「学び続ける」「思いやり」「郷土を愛する」という志学の目指す子ども像の共有化を図り、活動を実施している。また、隣接する保育園も参画することで、保・小・中の縦の連携を図る場にもなっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

志学の全住民を対象にしたアンケート結果からは、「今後も志学に住み続けたいですか？」という問いに肯定的に回答した人の割合が約7割と高い水準にあるとともに、「志学のよさや地域の宝（誇り）は何だと思いますか？」という問いには、地域資源や住民同士の協力や助け合いと回答した人の割合も7割近くに達し、住民の志学に対する愛着や誇りの醸成が図られている。また、中学生がSSTの発表会で提案した内容や志学未来会議への参画を通して、子どもたちの思いを実現しようと、大人が地域資源の再活用や特産品開発に取り組もうとする「地域活性化」へ向けた動きにもつながっている。

● その他

「SETにこにこ教室」（放課後子ども教室）は地域住民で組織する「志学まちづくり協議会」での議論をきっかけとして立ち上がり、名称は中学生から募集した。公民館は子どもの育ちに関わろうとする大人の意識醸成を図る事業を展開しながら人材育成を図っている。

地域の方が毎回二名の体制で、放課後の子どもの学びの場づくりを行っている。（SETにこにこ教室）

子どもたちの育ちに関わろうとする大人の意識醸成を目的に公民館は地域の人材育成の下支えを行っている（公民館事業）

こんな活動です

コミュニティスクールと保幼小中一貫教育！
～連携と協働による学校経営～

岡山県美作市	●活動名	●関係する学校名
	【美作市】ハートフルＡＩＤＡ ～１５年を見通した持続可能な取組～	美作市立英田中学校 美作市立英田小学校 美作市立英田幼稚園

協働活動開始年度	平成　22　年度	学校運営協議会	指定･設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―		
ボランティアの数	延べ登録人数 93人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	―				
●連絡先	美作市教育委員会社会教育課	☎ 0868-72-2900			

●活動の概要・経緯

英田地域では中学校区内に幼稚園、小学校、中学校が1つずつのみ、という状況のため保幼小中で一貫した教育をすることが重要であったことや、平成22年度から導入している地域学校協働本部事業を核とした、保護者と地域の連携による「社会全体で子どもを育てる環境」づくりに取り組んでいた経緯から、平成29年度からコミュニティ･スクール（学校運営協議会）を立ち上げた。
　本校コミュニティ･スクールは学校及び地域の代表者らで構成されており、学校運営に関する検討事項を保護者や地域住民と共有し課題解決に向けて協議している。また、各学校園の担当教職員で構成する、学力向上部会及び子育て部会を下部組織として位置づけ、別個に問題へアプローチして学校運営協議会と連携しながら取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〇英田中学校生徒会が主導となって幼･小･中学校と地域ボランティアが合同で地域清掃活動を毎年実施している。
〇スマホ等の利用の方法について、児童生徒が主体的にスマホ･ネットとの上手な付き合い方を考えられるような取組や家庭での保護者の関わりについて今年度の学校運営協議会で協議する。また、中学生が利用の方法をまとめたスマホカルタを作成し、小学生を対象とした出前講座を毎年実施し、取組を通じて相互に学びを深めている。

【実施に当たっての工夫】

〇年度毎に保幼小中が共通のテーマを核にして研究を行うことで、様々な連携の形を模索している。令和元年度は「災害時対応」をテーマに研究を行い学校運営協議会において英田中学校区全体での合同避難訓練の実施が決まった。地域ぐるみで取り組むことにより普段は学校事業に関わることのない方々とも協力や交流の機会を得ることができた。

【関係機関・団体等との連携状況】

〇学校運営協議会が組織化されたことで、英田家庭教育支援チームと定期的な情報交換を行い保護者や児童の様子を把握するなど連携が進み、入学説明会でチーム員によるワークショップを実施し子育てについての意見交流を行ったり、入学後に家庭訪問を行い、保護者の不安解消に努めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇学校運営協議会と連携して地域ボランティアが学校で活動することにより、保護者や地域住民との情報や課題を共有することができ、社会に開かれた教育課程の実現に寄与している。
〇教育課程のことだけではなく、地域で15年間の学校生活を通して成長していく子どもたちの「心の成長」等についても学校、保護者、地域と3者の視点から語り合える場があることで子どもたちの学びの充実につながっている。
〇地域人材を活かした環境整備活動や学習支援、登下校見守りなど多様な取組が、子どもたちの規範意識や学習意欲の高まりにつながっており、参加ボランティアにとっても教えるのみの一方的な関係でなく互いの学びの場となっている。

● その他

〇夏休み中に宿題や自主学習を地域住民が講師として参加し支援する活動を行っている。令和元年度は公民館を会場に英田小学校の希望者を対象として開催し、夏休み後も月一回土曜日に同様の補充学習を継続している。

小中合同の啓発スマホカルタ

小中合同で地域住民と地域の清掃活動を実施

こんな活動です

地域と県立高校の協働による魅力化
-持続可能な地域の形成を目指して-

岡山県	●活動名	●関係する学校名
	学校と地域の協働による“閑谷學”	岡山県立和気閑谷高等学校

協働活動開始年度	平成　25　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和元年12月23日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	―	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 ―	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.wakesizu.okayama-c.ed.jp/				
●連絡先	岡山県立和気閑谷高等学校	☎ 0869-93-1188			

●活動の概要・経緯

少子化による地域の衰退を防ぐためには教育の充実が重要課題という和気町の思いと、特色ある教育活動によって生徒の学力・意欲を伸ばし高校の魅力化を図りたいという高校の思いが一致し、平成25年度から町内唯一の高校の魅力化を図る取組を開始した。平成27年度から学校評議員制度を活用し、地域関係者・和気町職員・近隣中学校校長らによる「和気閑谷高校魅力化推進協議会」を設置し、学校と地域が一体となって地域の活性化を図るとともに地域の担い手となる人材育成に努めてきた。

現在は、和気町及び近隣の備前市・赤磐市の行政・産業界、大学等を委員とする岡山県立高校で初めての学校運営協議会を設置（文部科学省事業「地域との協働による高等学校教育改革推進事業（地域魅力化型）」の指定を受けて設置したコンソーシアムを母体とした。）し、地域の多様な主体と協働する教育活動を進める体制を構築している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〇和気閑谷高校は、和気町をはじめとする2市1町（和気町・備前市・赤磐市）の行政・産業界等と連携した教育活動に取り組んでいる。特に和気町からは町が派遣する支援職員が、地域課題解決型探究学習である「閑谷學」をコーディネートするほか、町教委は小中学校での放課後学習支援、出前授業、社会教育等の担い手として高校生を受け入れ、商工会はインターンシップ、商店会は生徒の企画実現に協力するなど、町ぐるみで生徒の学びを支援してきた。
〇コミュニティ・スクールを構成している2市1町の行政や地域の企業、地域の小・中学校等が高校と協働して、放課後学習支援、イングリッシュキャンプ、各種ボランティア、長期インターンシップ等、子どもたちが学校での学びを実社会で体現する場を創出している。

【実施に当たっての工夫】

〇2市1町の首長、教育長、商工会長などの意思決定権を有するメンバーでコミュニティ・スクールを構成している。
〇また、それを実務的に支える下部組織として、小中高接続部会、産学官連携部会、高大接続部会を設け、実務的なレベルで、様々な具体的な方策をまとめ、コミュニティ・スクールでの協議、承認を経て実施している。

【関係機関・団体等との連携状況】

〇和気閑谷高校では、これまで和気町との間で行ってきた取組を、生徒の約8割が居住する2市1町での取組に拡充して、地域と学校が協働するカリキュラムを開発し、地域が考えるビジョンや人材について学校と地域が共有し、同じ方向性で教育活動の充実を図っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇高校生が地域課題解決型探究学習を通して地域の活性化に取り組むことで、高校と地域が互恵的に協働していくことができるようになった。
〇地域の大人に、総合的な探究の時間や専門教科・科目の講師となる経験等を通じて、高校教育の一部を積極的に担っていこうとする機運が高まるとともに、地域の大人と触れ合った高校生の学習意欲や主体性の向上へもつながっている。
〇地域の高等学校の取組を行政、地元企業等が地域ぐるみでサポートし、小・中・高等学校で一貫した取組とするための体制が構築できた。特に、地域の小・中学生に対する放課後学習支援等は、高校生のキャリア形成に効果が高く、また、高校生のかかわりが小・中学生のキャリア形成支援となっている。

● その他

・生徒一人1台ずつ配付しているiPadを活用し、閑谷學をはじめとする探究学習や各教科・科目の学習の充実を図っている。
・地域と協働する探究学習等で得た知見を課外活動で地域に還元したり、地域の企業やNPO等が学校行事に参加する取組を積極的に行っている。

和気町の次期総合計画作成に係るワークショップに参加し、高校生の視点から提言

文化祭に地域の企業が参加し、自社の魅力を高校生や地域住民にアピール（和気商工会等）

こんな活動です

輝志海星！”教育の島”発，地域と協働した高校魅力化の実現

広島県大崎上島町	●活動名	●関係する学校名
	広島県立大崎海星高等学校魅力化プロジェクト	広島県立大崎海星高等学校

協働活動開始年度	平成　27　年度	学校運営協議会	指定･設置日 平成31年4月1日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 22人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.osakikaisei-h.hiroshima-c.ed.jp/				
●連絡先	広島県立大崎海星高等学校	☎ 0846-64-3535			

●活動の概要・経緯

大崎上島町は瀬戸内海の中心部に位置する広島県の離島である。平成27年，島唯一の県立高校を廃校にさせないために，高校と地域，自治体が一体となった「大崎海星高校魅力化プロジェクト」を始めた。「地域に開かれた学校」として様々な人材と連携するために町がコーディネーターを学校に配置し，地域の資源を生かした総合的な探究の時間「大崎上島学」の計画･実施，地域人材を活用した公営塾の運営，全国から入学する生徒のための教育寮の設置等を行っている。

生徒は，地域行事，ボランティア活動等にも積極的に参加している。特に大崎上島伝統の「櫂伝馬競漕」の主要な担い手となっており，少子高齢化により存続が危ぶまれている櫂伝馬競漕をPRするための「旅する櫂伝馬」（1泊2日で宮島まで約90kmを櫂伝馬で航海する）には学校行事として参加している。郷土愛を育むとともに，地域の活性化にもつながっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

「大崎上島学」において，1年次「羅針盤学」では，地域人材による出前講座の聴講や地域活動への参加を通して自分の特性や興味を知る。2年次「潮目学」では，地元企業でのフィールドワークにより，その企業が抱える課題や解決策などを学ぶ。3年次「航界学」では，生徒自ら地域課題を発見し，解決策を提案する。これらの活動を通して生徒達は地域と密接に関わることにより，島の魅力に気付くとともに，自らの生き方を考える契機となる。

島伝統の「櫂伝馬競漕」への取組は，地域の行事に参加するだけでなく，学校でも学びの素材として扱っている。また，町民有志による「旅する櫂伝馬」の取組では漕ぎ手としてはもちろん，陸上でのサポートなど生徒が運営に協力している。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては，コーディネーターと学校が連携し，年間のプログラムを作成している。その際，生徒が地域の多様な職種･年齢層の人材と出会えるよう地元企業（農業，漁業，造船，福祉施設等）とのマッチング等を行っている。部活動「みりょくゆうびん局」，広報誌，書籍の発行等によって，取組全体に係る情報発信も進めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会，学校活性化地域協議会等において活動の報告や検証などを行い，学校と地域の双方の意見を聞きながら毎年より良いものにできるよう取り組んでいる。

また，大崎上島町商工会とも連携し，地域学習や職業講話などを実施している。「大崎上島学」での成果を生かし，町商工会による冊子「島の仕事図鑑」の編集に生徒が関わっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

生徒は，教師だけでなく，地域の様々な大人から話を聞いたり，地元企業でのフィールドワークで直接現場を見て，さらに受入企業に学びの成果を発表することを通じて，郷土愛だけでなく，地域のことを学びながら自ら課題を考え，解決していく力を身に付けることができた。

また，地元企業にとっても，高校生に自分の仕事や考え方を話すことは，刺激や励みになり，継続してやりたいとの声も多い。この取組をきっかけに生徒が開発した商品を町のイベントに出品する，農家のマルシェを高校の文化祭で開くなど交流が深まり，地域全体の盛り上がりに繋がっている。

高校の魅力化は全国から注目され，生徒数が増加した。県外から生徒がくることで，島内生徒も刺激を受けている。

● その他

公営塾では，地域スタッフが生徒の学習支援やICT環境の整備を行う中で，教科指導のみならず，キャリア教育「夢★ラボ」で，将来の目標探求や学習意欲向上，志の育成に取り組んでおり，オンラインを活用した外部講師の授業や交流を行っている。

地域の伝統を受け継ぐ「旅する櫂伝馬」

地域人材による出前講座「働くを考えるフェア」

こんな活動です

子供も地域も輝くクリティー・スクール
～自ら開こう　未来の扉～

広島県府中市	●活動名	●関係する学校名
	栗生小学校学校運営協議会	府中市立栗生小学校

協働活動開始年度	平成　27　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成27年4月1日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 358人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://edu.city.fuchu.hiroshima.jp/~kuribu-shou/				
●連絡先	府中市教育委員会学校教育課	☎ 0847-43-7178			

●活動の概要・経緯

平成27年4月，学校運営協議会が設定され，「自ら開こう　未来の扉」をコンセプトに学校、家庭、地域が「子供を育てる」という共通目標をもち，取組を進めてきたコミュニティ・スクール。あらゆる角度から子供達が輝くことのできる「チャンス」という光を当てることによって，全ての子供たちに自己達成感を味わわせる様々な活動に取り組んできた。その結果，学習支援等の地域ボランティアの数も年々増加し，令和元年度に学校教育に携わった人は，延べ2，233人にのぼる。

多くの地域の方が教育活動に関わり，米作り，読み語り，昔遊び等の授業補助やサマースクールでの補助的な学習支援，放課後子供教室における季節の行事に係る遊びや体験活動を実施しているが，平成30年度から「広げようあじさいの街～あじさい祭り盛り上げ隊～」や「栗生の町を守り隊」のカリキュラム開発を行い，地域の方々と連携した課題発見・解決学習に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

子供たちは，「あじさい祭り盛り上げ隊」の学習として，地域にある「あじさい寺」の草取りや学校にあじさいを植え，ボランティアの人に教えてもらいながら，剪定，水やり等の世話をするとともに，実際に祭りに出向いて，来ている人にあじさいのことを説明をしたり，学校運営協議会が主催したあじさい絵画コンクールに参加したりした。このことにより，郷土愛が育つとともに，地域のために自分たちができることを考えて，実行する力がついた。

また，防災学習「栗生の町を守り隊」では，子供たちが防災士をはじめ町内会長や地域の方と一緒に西日本豪雨前に作成した防災マップと実際の被害の状況を比べながら実地調査をして最新の防災マップを作成し，全校児童と保護者・地域の方に発表した。

【実施に当たっての工夫】

〇持続可能な取組にするために，各活動を教育課程に位置づけることで，年々，取組を深化させている。
〇各活動の様子をSNSを使い，リアルタイムに発信することで，多くの保護者や地域の方が学校の取組に関心をもち，ボランティア増加につながった。

【関係機関・団体等との連携状況】

〇学校運営協議会において，各活動の報告を行い，成果・課題を共有し，次の活動につながるアイデアを出し合っている。その結果，子供の学びを教室の中で閉じるのではなく，社会とのつながりを意識した学びを実践することができている。
〇放課後子供教室の実施場所である公民館の職員が学校運営協議会委員を兼務することで，活動について学校運営協議会と共有することができている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇地域の方が多くの教育活動に参加し，子供たちと関わり，あらゆる角度から評価することで，子供一人一人が地域の一員としての自覚を持ち，様々な活動に自信をもって取り組むことができるようになった。
〇平成31年度全国学力学習状況調査児童質問紙において、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」、「地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがありますか」の肯定的回答の割合が，それぞれ90．4％（全国平均＋22．4）、61．9％（全国平均＋7．4）と本取組の成果が表れている。

● その他

夏休みに「栗ティ・サマースクール」を地域の方が中心となって実施し、子供たちの夏休みの宿題等の学習支援を行っている。

「広げようあじさいの街」で、子供自ら、あじさいの剪定を行っている様子

「栗生の町を守り隊」の防災学習で、災害場所の実施調査の様子

こんな活動です

めざす子ども像～地域とつながり、感謝や思いやりのある島田川っ子～

山口県光市	●活動名	●関係する学校名
	島田川協育ネット協議会	光市立島田中学校 光市立島田小学校 光市立上島田小学校 光市立三井小学校 光市立周防小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成24年4月1日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 171人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://shimata-j.bulog.jp/				
●連絡先	光市教育委員会　文化・社会教育課	☎ 0833-74-3604			

●活動の概要・経緯

平成29年に「島田川協育ネット協議会」が発足し、島田中学校区で地域学校協働活動がスタートした。島田中学校区には島田中学校、島田小学校、上島田小学校、三井小学校、周防小学校の1中4小がある。構成委員は地域学校協働活動推進員、各学校の学校運営協議会会長、PTA会長、校外コーディネーター、校長、校内コーディネーターに、4地域のコミュニティセンターの主事を加え、地域との連携を強化している。さらに、5校CSの連携も推進している。島田川協育ネット協議会は5月と1月に実施している。5月は年度当初の確認事項や年間の活動について協議する。1月は島田川っ子サミットを受けて子どもたちの意見を反映しながら、よりよい運営に繋げている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

島田川っ子サミットは8月と12月に実施している。平成29年・30年・令和元年度は、「あいさつ」「地域貢献」、令和2年度は「地域防災」「いじめ防止」をテーマに児童生徒が各校の現状と取組を報告し協議した。そこで出た意見を島田川協育ネット協議会で反映している。また、5校親睦球技大会・島田川協育ネット親睦会・島田川協育ネットピカピカデイ等の行事を主催するなど、学校と地域が連携して「地域とつながり、感謝と思いやりのある島田川っ子」の育成に努めている。令和2年度は地域ぐるみ防災キャンプを協育ネット主催で取り組み、中学生が考える地域のための避難所設営やこれからの地域防災を考えたり、体験したりすることで、地域と生徒たちの将来的なWin-Winを目指した活動に取り組んだ。

【実施に当たっての工夫】

島田川っ子サミット、島田川協育ネットピカピカデイ、地域ぐるみ防災キャンプの実施で、児童生徒と地域との連携が進んだ。5校親睦球技大会・島田川協育ネット親睦会で保護者と地域の連携が進んだ。島田川協育ネット協議会と島田中学校区の小中一貫教育の両方が育てたい子ども像を共有することで、地域と学校、家庭のめざすものが明確になった。島田中学校CS会長が島田川協育ネット協議会会長を兼務することで、島田川協育ネット協議会における各校のCSと協育ネット協議会の連携がスムーズになった。

【関係機関・団体等との連携状況】

島田中学校では、学校運営協議会で各地域のコミュニティセンター主事から情報提供やアドバイスを受けて、生徒会主催のボランティア活動であるSHP（しまたハッピープロジェクト）の地域貢献活動を進めている。地域の祭りや文化祭のボランティアに多くの生徒が参加し、いきいきと活動した。また、島田人形浄瑠璃芝居保存会と連携し、県総合文化祭や中学校での文化祭で生徒による発表を行った。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域学校協働活動に取り組むことで、「地域とつながり、感謝や思いやりのある島田川っ子」の育成に向けて、島田中学校区の1中4小と「地域とのつながり」が深まっている。CSの地域ボランティアの活動では、生徒の下校時に合わせて、ごみ拾いや見守りをする「見守り隊」、テスト前の「学習会」、地域の方がご自宅から花を持ち寄り、学校中に生け花を飾る「花の日」、これらの活動に対して生徒達は地域の方に「感謝」の気持ちを強く抱いている。生徒会主催のボランティア活動SHP（しまたハッピープロジェクト）で地域の行事にボランティアとして参加したり、「島田川協育ネットピカピカデイ」として地域の福祉施設や公共施設などの掃除をしたりすることで、地域の方から「感謝」の言葉をもらうことが増えた。そして、地域や地域の方を「思いやる」気持ちと共に自己有用感が高まってきた。

● その他

地域ボランティアと生徒が協働して、NPO法人「チームふくしま」が主催している「福島ひまわり里親プロジェクト」に賛同し、県道沿いにひまわりを植え、地域や通行する方に楽しんでもらっている。また、種は地域ボランティアの方と採取し、福島県に送っている。

テスト勉強会

ひまわりプロジェクト

伝統文化に親しむ参観日～島田人形浄瑠璃～

見守り＆清掃活動

ピカピカデイ

ピカピカデイ

SHP～福祉施設訪問～

花の日

こんな活動です

シビック・プライドの醸成
～まちの課題を「自分ごと」としてとらえるために～

山口県防府市	●活動名	●関係する学校名
	防府商工高等学校運営協議会	山口県立防府商工高等学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 ―	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.hofu-ct.ysn21.jp/				
●連絡先	山口県立防府商工高等学校	☎ 0835-22-3790			

●活動の概要・経緯

本校は前身の防府商業高校時代から「社会人基礎力の育成」を重点目標とし、「シビック・プライド」の醸成に向けて、教育活動の柱に地域連携教育を位置づけ、地域を学びのフィールドにした「イベント企画」「コンテンツ開発」「オリジナル商品開発」等を実施してきた。こうした実践的活動は、高い職業意識・職業観と規範意識、コミュニケーション能力を育みながら、社会の様々な変化に積極的に向き合い他者と協働して課題を発見・解決する力を育成している。平成24年度から校務分掌に地域連携を担当する「未来デザイン部」を設置して、地域連携教育の体系化と組織的・継続的な取組を行うことが可能な体制を整備している。最大の学校行事となっている「天神まちかどフェスタ（写真はオープニングセレモニー）」は、毎年10月に全校生徒が地元商店街を中心に行う販売実習で、第17回となる令和元年度の「防府スイーツマルシェ」では大勢の人でにぎわった。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

山口県の方言である「幸せます」を地域ブランドとする企画を提案し、地元の防府市と連携して「幸せますのまち防府」をスローガンにまちづくりを進めるために、学校内に「知財マネジメント研究センター」を設置し、防府商工会議所や地元企業等、関係機関と連携しながら実践的活動や人材育成を行うための仕組みを構築した。3年商業科120名が25グループを形成して年間を通じて地域の事業所の模擬社員として活動を行い、3年情報処理科40名が防府市高校生職員として、来年度の施策を企画・提案している。また、ふるさとパワーアップ班は、「カメラ女子部」として防府のまちの幸せ再発見をInstagram等で情報発信している。

【実施に当たっての工夫】

地域から学校に対して、三つの課題「継続性はあるのか・生徒にどのような力が身に付くのか・地域は活性化するのか」が提起されたことを機に、毎年、地域の課題解決のための具体的な取組や、生徒の「シビック・プライド」醸成に向けた実践的活動の改善・充実を図っている。

【関係機関・団体等との連携状況】

本校は、平成29年度から学校運営協議会を設置するコミュニティ・スクールの仕組みを生かし、首長部局・防府商工会議所の職員、地元企業等の経営者を運営協議会の委員として委嘱し、地域連携教育をはじめとする学校運営に関する意見交換、提案等を踏まえながら、学校と地域が連携・協働した取組を計画的・系統的に実践している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

上記の仕組みや体制の整備を通じて、組織的・継続的な取組が可能となるとともに、計画的・系統的かつ実践的な教育活動を展開することによって、「社会人基礎力」で示されている「前に踏み出す力」、「考え抜く力」、「チームで働く力」の3つの力を育むことにつながっている。これらの一連の実践は、人口減少・地方創生という我が国が抱えている今日的な課題の解決に大きく貢献する取組であり、地域振興や人材育成の面でも実績を高く評価され、地域社会からの期待も大きい。

● その他

山口県が掲げている「社会総がかりによる『地域教育力日本一』の取組」の代表的なモデル事例として、適宜、情報発信を行っている。

地域のイベント企画・コンテンツ開発・オリジナル商品開発

防府市高校生職員として次年度の施策を企画・提案

こんな活動です

町ぐるみ「和木学園構想」における放課後子ども教室「わきあいキッズ」の取組

山口県和木町	●活動名	●関係する学校名
	和木町放課後子ども教室「わきあいキッズ」	和木町立和木小学校 和木町立和木中学校

協働活動開始年度	平成 20 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成25年3月26日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	―	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子ども教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 4人		
ボランティアの数	延べ登録人数 5人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~wakisho/				
●連絡先	和木町教育委員会事務局	☎ 0827-53-3123			

●活動の概要・経緯

コンパクトで連携しやすいことから町全体を1つの学び舎とみなし、生涯学習に力を入れる中で町全体の活性化をめざすのが「和木学園構想」である。和木町コミュニティ・スクール委員会では各団体や学校の代表者が集い、共に「めざす子ども像」を考えると同時に、連携することで何かできることがないかを話し合う。「子どもたちに豊かな学びと体験学習を」という思いで生まれたのが、「わきあいキッズ」の活動である。地域人材が指導者やサポーターとなり、昔あそび、スポーツ体験（ソフトボール、野球、サッカー、ミニバス、剣道、バレー、弓道）、造形遊び、自然観察（海・山）、ちぎり絵、歴史教室、販売体験等を行っている。地域協育ネットの仕組みを生かして、学校や指導者と連携し保護者の協力も得ることで、活動の充実を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・昔あそびの取組では、毎週水曜日、約50人の小学生が地域の指導者とサポーターとともに活動している。日本古来のおもちゃや遊びを紹介するとともに、ボール等を用いた軽スポーツや体力づくりに繋がる運動も行っている。集団での人との関わり方を学ぶ場ともなっている。
・スポーツ少年団と連携して、サッカー、ソフトボール、野球、バレーボール、ミニバス、剣道、弓道の体験活動を行っている。
・だがしや体験の取組は、小学校のCSルームでの2回の準備活動を経て、6月上旬の「すくすくフェスタ」で実売体験を行っている。売上金は社会福祉協議会に寄付している。

【実施に当たっての工夫】

・町内出身の環境学習指導者や陶芸家、郷土史家といった専門家の協力を得て、地域に根ざした体験活動を実施している。
・地域学校協働活動推進員がコーディネーターの役割を果たし、サポーターの配置や保護者との連絡調整を行っている。
・なるべく多くの希望者のニーズに応えるため、学校と相談しながら日程調整を行っている。

【関係機関・団体等との連携状況】

・和木町コミュニティ・スクール委員会での「めざす子ども像」を反映させている。（指導者、コーディネーターが委員を兼ねている）
・放課後児童クラブや小学校とも連携をとり、その日の希望に応じて柔軟に参加できるようにしている。
・地域の福祉施設「わきあいあい苑」と連携した職場体験実習の実施。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・活動に参加している指導者やサポーターからは、「子どもたちと触れ合うことで元気になった」という声が聞かれる。また、子どもが屋外で活動するようになり、健康的になったという声もある。
・地域の様々な方からの温かい指導や支援を通して、子どもたちの自己肯定感が生まれ、落ち着いて生活できるようになってきている。
・スポーツ体験を経て、スポーツ少年団に入団する子どもも多く、自分のやりたいスポーツを見つけるよい機会となっている。
・昔あそびや自然観察では参加者が年々増加し、子どもたちのよい居場所となるとともに、保護者同士が交流できる場ともなってい

● その他

「コンビ学習」（コンビナートとコンビネーションをかけ合わせている）～ふしぎ探検隊　集まれ！未来の科学者たち～と称して、地元企業の三井化学（株）岩国大竹工場とのコンビネーションで小学校を会場にして科学実験教室を行っている。

「昔あそび」遊具の中にはサポーターの手作りのものもあります

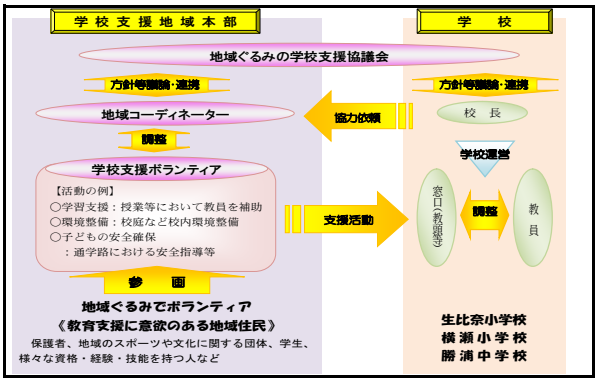
「コンビ学習」でのジャンボスライム作り

こんな活動です

地域ではぐくむ「勝浦っ子」　－地域の宝は地域で守り、育てる－

徳島県勝浦町	●活動名	●関係する学校名
	勝浦町学校支援地域本部	勝浦町立生比奈小学校 勝浦町立横瀬小学校 勝浦町立勝浦中学校

協働活動開始年度	平成　20　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年7月21日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 93人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	―				
●連絡先	勝浦町教育委員会	☎ 0885－42－2515			



●活動の概要・経緯

地域の未来を担う子供たちを健やかに育むため、地域全体で教育に取り組むことを目指し、平成20年度に「学校支援地域本部事業」を受託し、各学校には1名の地域コーディネーターを配置した。地域コーディネーターは、学校からの協力依頼を受け、学校と学校支援ボランティアをつなぎ、「地域でささえる学校」を目指し、「地域に根ざした学校づくり」を推進するための学習支援や環境整備、子供の安全確保活動等を展開している。

活動開始当初、1名の地域コーディネーターが、地域の人に「地域で子供たちを育てよう」と声をかけ、人を集めることから始まった活動も、今ではボランティアに参加する人自身のやりがいや生きがいにつながる事業となっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①【小学校：子供の安全確保】ボランティアによる登下校の見守り。交通安全教室の実施。
②【小学校：学習支援】地域の人々とともに稲作・芋植え体験。生産者による特産物等の授業。
③【小学校：伝統文化の継承】ボランティアによる阿波人形浄瑠璃の指導、お手玉演舞の指導、ビッグひな祭り人形飾り付け体験。
④【中学校：伝統文化の継承】ボランティアによるしめ縄づくり体験指導、地元民謡「勝浦音頭」の踊り指導。
⑤【中学校：学習支援】ボランティアによる読み聞かせ。
⑥【小中学校：環境美化】学校・家庭・地域連携による学校の愛校奉仕清掃作業。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては、地域コーディネーターが学校からの協力依頼を受け、目的を達成するためのボランティアの人選や連絡調整を行っている。また、その際には、地域の特性や地域人材（地域資源）等の情報を学校に提供し、学校の教育目標に沿った、よりよい活動となるよう取り組んでいる。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域コーディネーター、保護者代表、協力団体代表、学校管理職、町教育委員会事務局職員で構成する「勝浦町地域ぐるみの学校支援協議会」を平成23年度に設立し、年2回程度会議をもち、意見交換を実施している。また、月1回地域コーディネーター定例会を開催し、活動状況の確認や今後の活動に向けた情報共有を行い、ボランティアと学校の円滑な連携に努めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域コーディネーターが、長年、学校支援に携わった経験者であることから、学校の実情も熟知しており、地域と学校を繋ぐ際にも、学校側の意向を充分くみ取り、地域の特性等を教員へ助言することができるなど、きめ細かな取り組みができている。学校の環境美化作業等は、高齢者にとって外出・運動・歓談の場となり、引きこもり対策等にもなっている。学習支援では、地域の特産品である「みかん」栽培授業や稲作体験（田植え・稲刈り・お米パーティー）など生産者や地域住民による授業や体験指導により、郷土愛の育成や後継者育成に繋がっている。学校運営協議会の導入により、地域コーディネーターを通してボランティアの方が学校運営の方針を知ることで、地域からの支援の輪も広がり、より一層強固な活動になっている。

● その他

小学校では、年1回、学校支援に御協力いただいた方をお招きする感謝集会が行われ、児童による感謝状の贈呈や学習の成果発表が行われている。

ビッグひな祭り人形飾り付け体験

しめ縄づくり体験

こんな活動です

田滝だからできる　田滝にしかできない教育を地域とともに！

愛媛県西条市	●活動名	●関係する学校名
	田滝地域学校協働活動	西条市立田滝小学校

協働活動開始年度	平成　16　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和6年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 4人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 89人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	―				
●連絡先	徳田公民館	☎ 0898-68-7027			

●活動の概要・経緯

現在人口238人、児童数12人の田滝地区は農業が盛んで、あたご柿は全国有数の品質と出荷量を誇っている。少子高齢化により、平成15、16年度は入学児童が「0」となった。地区自治会は地域の核である小学校が無くなるという危機感を持ち、平成16年に「明日の田滝を考える会」を発足させ、学校と一緒に学校の存続を市に訴えた。平成21年度に通学区域の自由化特例校として認定され、校区外就学が5名になるなど実績もでき、学校と地域が一体感を味わうことができた。それ以降、毎月「明日の田滝を考える会」を開催し、学校・地域・保護者・公民館等が連携・協働して伝統行事の伝承に努めたり、ICTを活用した遠隔合同授業に取り組んだりして地域課題の解決に努めている。「田滝だからできる　田滝にしかできない教育」に向けて活動を行い、その魅力を収穫祭やホームページ等で市内外に継続的に発信し、地域活性化にも繋がっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

＜お簾踊り＞　県無形文化財の指定を受けている田滝地区の伝統芸能「お簾踊り」は、400年以上前から黒滝神社に奉納される田滝独特の雨ごい踊りである。小学校入学時にお簾踊り保存会から扇子一式が渡され、全児童が保存会員の指導を受けて、地域ぐるみで伝統芸能の継承に努めている。平成12年頃から週1回夜間に太鼓や踊りの練習を行い、三世代で踊りを継承していける仕組みを作っている。平成27年度から、学校行事「地域の人に学ぶ会」でお簾踊りの歴史や踊りを学び、盆踊り大会や地域ぐるみ運動会をはじめ、他地区の敬老会や市公民館フェスティバルでも踊りを披露し、市内外でお簾踊りの紹介に努めている。

【実施に当たっての工夫】

「明日の田滝を考える会」で学校の課題や要望について学校と地域が検討し、学校や地域の未来を見据えて活動している。行事後には地域住民・教員・児童が交流会を持ち、絆を深める場を設けている。公民館では地域ぐるみの運動会等を行い、連携・協働して地域づくりの支援を行っている。また、収穫祭や小学校のホームページ・PRチラシを通じ、継続した魅力発信に努めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

田滝の収穫祭では、自治会・小学校・婦人会・老人クラブなどで実行委員会を構成しており、JA周桑や田滝青果出荷組合、丸滝農産等の協力を得ている。学習面では、地元の丹原高校の生徒と教員が出前授業に訪れ交流を行ったり、ICT教育支援では市教育委員会と連携を取りながら実施したりしている。放課後子ども教室の運営委員に児童クラブ指導員も入っており、放課後等の子どもの活動を児童クラブと一体的に取り組んでいる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

誕生日を迎える独居高齢者宅に全校児童が訪問し、歌や手作りプレゼントを渡す「ハッピープロジェクト」をはじめ、地域住民との交流や体験活動を通じて生き方を学び、生きる力を育んでいる。地域住民にとっても、児童との交流は生きがいになっている。地域による学校支援の充実が、学校による地域貢献に繋がり、地域と学校の信頼関係がより強くなった。地域全体で子どもを育てる基盤ができ、優しくたくましい子、地域や人を大切にする子に成長している。ICT教育支援では、近隣小規模校4校との遠隔合同授業を通して、教師の授業改善に役立ったり、児童の学びの質が高まったりしてきている。「田滝だからできる　田滝にしかできない教育」を目指し、地域と学校が連携・協働した組織的・継続的な仕組みづくりが構築され、地域も活性化されている。

● その他

放課後子ども教室「タタッキー子ども教室」では教員OBや保護者、地域の方等の協力を得て、放課後にプログラミングや軽スポーツ・手芸を、土曜日には、東予園芸農業協同組合と連携して実施しているフラワーアレンジやトールペイント、クッキーデコなど多様な活動を行っている。

「地域の人に学ぶ会」でお簾踊り保存会や地域の方とお簾踊りを練習

小学校・保護者・児童クラブの協力で実施したプログラミング教室

こんな活動です

光り輝け　城南プライド
～地域住民とともに～

愛媛県宇和島市	●活動名	●関係する学校名
	城南中学校地域学校協働活動	宇和島市立城南中学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日	地域学校協働本部	有	
			平成31年4月1日設置			
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成			
	地域未来塾	―				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	―		4人			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有	
	220人					
参考URL	https://uwajima-jonan-j.esnet.ed.jp/					
●連絡先	宇和島市教育委員会　生涯学習課	☎ 0895－24－1111				

●活動の概要・経緯

平成28年3月に宇和海中学校との統合により、12小学校からなる全国でも有数な広大な校区を持つ中学校となった。そこで、平成31年度から学校運営協議会を設置すると同時に地域学校協働本部を立ち上げ、地域コーディネーターが関わりながら、各学年毎に総合的な学習の時間を充実させ、校区における偉人の発掘（古谷和夫氏）や地域課題の発見及び解決を行ってきた。これらの活動を通じて、「夢を持って社会の中で生き生きと働くことのできる人材育成」、「郷土愛を持ち、社会に貢献できる人材育成」に力を入れ、「自立」「自律」「共生」の力を持つ生徒の育成の充実を図っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

各学年ごとにテーマを決め、総合的な学習の時間に地域の特色を学習している。1年生は12の小学校区に出向き、地域の方々から自然・歴史・文化・産業について学んでいる。2年生は、主権者教育・防災教育・人権教育・環境教育・福祉教育を通して「宇和島で暮らす」ことについて学んでいる。3年生は職業講話、職場体験学習を行っている。地元企業の話を聞くだけでなく、実際に体験することにより、より深く地域産業について学んでいる。また、全校生徒による避難訓練を、城南中学校がある文京町近隣の幼稚園、小・中・高校（6校1園）、消防署、行政と合同で行うことにより、地域に愛着と誇りを持ち、よりよい社会の担い手となるための意識を育んでいる。

【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会委員が中心となり、既存の学校支援ボランティア以外に多様な人材や活動団体・グループを学校教育諸活動に取り入れ、より効果的な学習活動を行っている。特に地域学習分野では、校区内にある12小学校区ごとにグループを作り、それぞれ自然、歴史、文化、産業を学び、成果を劇やARで発信することで子どもたちの学習を深めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会の委員が主催するNPO法人「うわじまグランマ」と連携し防災教育を行っている。その学習の中で、西日本豪雨災害被災地のボランティアに対する応援メッセージ入り土のう袋について知り、本校の生徒会の呼び掛けで、宇和島市内の全ての小中学校が、3000枚のメッセージ入り土のう袋を作り、被災地へ寄贈した。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

1年生は「12Colors」なる学習に地域の住民の協力を得ることで、各小学校区ごとの地域の自然、歴史、文化、産業を学び、劇やARにまとめることでより深く学習することができた。2年生は「市民生活学」として宇和島市で暮らすことを学んだ。市議会傍聴、市議会議員との交流や天然記念物「ハマユウ」（植物）の保全活動等を行い（1975年から宇和海中学校が行っていたが廃校により、統合先の城南中学校が引き継いで現在まで活動）、地域に密着した学習ができた。3年生は職業体験学習、職業講話を通して、宇和島地域での仕事についてより深く学習した。

● その他

1年生の「12Colors」の学習をきっかけに、近年途絶えていた石応地区の盆踊りを地域の方と共に復活させる活動を行った。また、2年生の防災教育で御協力いただいた、「うわじまグランマ」が主催する「子ども食堂」に、生徒がボランティアとして参加した。

石応地区の盆踊り。同地区の中学生がいないため、他地区の生徒が取り組んだ。

子ども食堂。全校生徒に参加希望を募り、多くの生徒が参加した。

こんな活動です

地域とともにある小中一貫教育の推進
～地域とともにある学校・学校とともにある地域づくりを目指して～

愛媛県大洲市	●活動名	●関係する学校名
	平野小・中学校地域学校協働活動本部	大洲市立平野小学校 大洲市立平野中学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 4人		
ボランティアの数	延べ登録人数 188人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	①https://hirano-j.esnet.ed.jp　②https://hirano-e.esnet.ed.jp				
●連絡先	大洲市教育委員会　生涯学習課	☎ 0893-24-1735			

いころの里通信マスコットキャラクター「ほたるん」

地域と合同で実施している「平野ふれあい運動会」の選手宣誓は、幼・小・中に子どもがいる家族が行います。

●活動の概要・経緯

【活動の経緯】
平成29年度に大洲市小中一貫教育推進モデル校の指定を受け、「平野小・中学校地域学校協働活動本部」を開設。
平成30年度、「放課後子ども教室」開設。
【活動の概要】
幼・小・中が同敷地内にあるという環境の中、　①ふるさと学習を軸とし、系統性を重視した小中一貫教育の推進　②義務教育9年間を連続した期間ととらえ、発達段階に応じた一貫性のある指導の支援　③学校・家庭・地域が今まで以上に連携・協働し、地域住民等の幅広い参画により、子どもたちの成長を支えることを目的として、様々な活動を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

郷土学習を軸として、学校・地域・家庭が今まで以上に連携・協力し、子どもたちの成長とふるさと平野を愛する子どもを育てる学校目標のもと様々な活動を実施している。中学生は学校田の「徳馬田」で米作り。もみの消毒から始まり、苗を育て、田植えや草引き、肥料やり、稲刈り、脱穀、精米、販売までを年間をとおして実施し、小学生も、田植えや稲刈り、餅つき体験、清掃体験、子ども祭りの手伝いなどの活動をしている。
　また、小中連携の「ほたるプロジェクト」は、子どもたちから出たアイデアである。小学生がほたる祭りのお手伝いを、中学生が減少しているほたるを増やそうと養殖にチャレンジしている。専門的な部分は外部講師で対応している。

【実施に当たっての工夫】

〇地域コーディネーターが地域との連絡調整や人材確保、外部講師等の活用、新たな企画や調整を行うので、教職員の負担が軽減した。
〇広報誌「いころの里通信」発行により、「子どもたちの様子がよく分かる」と地域住民から好評を得ている。（学校HPにも掲載）
〇毎年恒例の活動も多いが、新しいことにも、「どうしたらできるのか」を考え、地域と連携して取り組むので、住民も快く参加している。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会において、「平野地区で育てたい子ども像」について意見交換ができたことにより、目標の実現や課題解決についての共通意識をもつことができた。地域の団体や地元企業も、毎年の活動に積極的に協力している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇子どもたちと触れ合う機会が増えることで、地域住民が今まで以上に学校教育諸活動に関心をもち学校支援に関わり、やりがいも感じている。また、広報誌等で周知することにより、新規のボランティアも増えている。
〇様々な活動の中で、子どもたちは自分たちが住んでいる地域の良さを再認識し、地域の中で自分たちができることは何かを考え行動できるようになった。中学生は、愛媛県発祥の「シトラスリボンプロジェクト」に賛同し、いち早く活動を開始している。
〇放課後子ども教室では、文武両道の活動（俳句・音楽・バランスボール・習字）があり、子どもたちがバランスよく伸びていると感じる。特に俳句では、2つの大きな大会での上位入賞者が複数人あり、子どもたちの成長は素晴らしいと感じる。

● その他

小中連携の「ほたるプロジェクト」は、子どもたちから出たアイデアである。小学生がほたる祭りのお手伝いを、中学生が減少しているほたるを増やそうと養殖にチャレンジしている。専門的な部分は外部講師で対応している。

中学生の米作りは、もみの消毒から始まり、苗を育て、田植えから稲刈り、脱穀、精米、販売までを経験します。

毎年恒例の小学6年生の炭焼き体験。窯出し・窯入れの手伝い後の手作りうどんが楽しみです。

こんな活動です

学校・家庭・地域の協働を基盤に地域を担う人材育成

高知県黒潮町	●活動名	●関係する学校名
	三浦の子どもを育てる会	黒潮町立三浦小学校

協働活動開始年度	平成　28　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成28年2月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 57人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.miura-e.town.kuroshio.lg.jp/				
●連絡先	黒潮町教育委員会　学校教育係	☎ 0880-43-0044			

●活動の概要・経緯

平成27年度から学校運営協議会を、平成28年度から学校支援地域本部を設置し地域学校協働活動に取り組んでいる。平成30年度からは、高知県版地域学校協働本部推進校として、地域学校協働活動の取り組みの充実を図りながら、民生委員・児童委員の参画による見守り体制を構築している。

本校は、以前から地域とのつながりが深く、その強みを生かして「三浦の子どもを育てる会」（コミュニティ・スクール）を中心とし、「ESD」（持続可能な社会づくりの担い手を育む教育）の視点を大切にしながら、黒潮町の進める「ふるさとキャリア教育」にも取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

地域防災への意識を高め、ともに行動できることを目指し、平成28年度から学校と地域が一緒になって「大人も子供も真剣に参加でき、また、楽しみともなる防災学習」に取り組んでいる。避難訓練や防災キャンプ、避難所運営訓練や「防災食」をテーマに身近な植物を使って調理するなど、毎年工夫を凝らした取組を計画し、地域住民とともに実施している。

また、10年以上続いている「3世代交流行事・学習発表会」を地域の個性を生かした教育の一つとして位置づけ、凧や門松、地域の料理作り、親子コンサート等の体験活動を通じて、伝統を伝えるとともに地域全体で子どもたちを見守り育てる取組を継続している。

【実施に当たっての工夫】

実施に当たっては、行事を行う前に、「三浦の子どもを育てる会」（コミュニティ委員会）で打ち合わせを行い、PTA役員や区長たちとも綿密に連携を図りながら、学校・家庭・地域が協働して有意義な活動が行えるよう取り組みを進めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会である「コミュニティ理事会」において基本方針や大まかな計画が協議され、その「コミュニティ理事会」での協議をもとに地域学校協働本部である「コミュニティ委員会」が具体的に活動に取り組んでおり、学校運営協議会と地域学校協働本部が一体的に推進する体制となっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇学校運営や地域づくりに関してコミュニティ・スクールで協議し、各部会（コミュニティ）で具体的な活動に取り組んでいくことで、取り組みを地域全体のものにでき始めている。
〇地域学校協働活動が地域住民にとってやりがいになっており、そのことが地域全体で子どもを見守り育てていこうという雰囲気の高まりにつながっている。
〇図書室の運営・学校環境の整備・地域での見守り活動などの地域住民によるボランティア活動を実施したことで、教員の活動時間を削減でき、児童への対応や授業準備等の教員の本来業務により注力できるようになった。

● その他

地域の社会福祉施設「生華園」との交流も行っている。学年ごとに、ゲームなどをしてふれ合ったり、いっしょにビン・缶拾いを行ったり、田植えや稲刈りなどを行ったりしている。学校全体としても、夏祭りや運動会、三世代交流会などを通して交流を深めている。

三世代交流会（豚汁づくり　5・6年生）

三世代交流会（学習発表　3・4年生）

こんな活動です

安心安全な学校・地域づくり

―できる時に できる人が できることを―

高知県香南市	●活動名	●関係する学校名
	東の子ども応援隊	香南市立野市東小学校

協働活動開始年度	平成　28　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		1人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	有
	92人				
参考URL	http://www.kochinet.ed.jp/noichihigashi-e/				

●連絡先　香南市教育委員会学校教育課　☎ 0887-50-3019

●活動の概要・経緯

本校は、平成28年度より学校支援地域本部をスタートさせた。初年度は、学校として何をしてもらいたいのかを明確にし、協力・支援していただく地域や保護者の方々の目線に立ち、無理せず継続できる取組を模索するにとどまった。平成29年度からは、地域学校協働本部として、「学習・活動(行事等)支援」「環境整備」「安全指導」「見守り活動」の4つを柱として、「できる時にできる人が できることを」をモットーに、教職員と保護者、地域の人々が、お互いに無理をしすぎず継続できる取組を推進し、現在に至っている。令和元年度からは、野市東小学校が目指す「安心安全な学校・地域づくり」に向け、児童虐待や不登校、いじめ等に関する、地域全体の見守りや情報共有を大切にし、福祉事務所との連携を深めながら課題の早期発見・課題解決に取り組んでいる。また、登下校や校外行事等での、交通安全指導も、地域コーディネーター(地域学校協働活動推進員)を中心として、計画的に実施している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成29年度から、算数の基礎的基本的な知識・技能の定着を目的として、全学年を対象とした「朝の学習丸付け補助」の取組を開始した。「東の子ども応援隊」ボランティアとして、登録された80名の地域住民と保護者参画のもと、週4日(月・火・木・金)、朝の15分間、算数プリントの丸付け活動を継続している。年間を通して延べ842名の丸付けボランティアの参画があり、その関わりが子どもたちの落ち着いた学校生活のスタートにつながるとともに、参加者の居場所ともなっている。

平成元年度からは、「安心・安全な学校・地域づくり」を目指した取組を強化し、民生主任児童委員でもある地域コーディネーターと日々児童の情報を共有するとともに関係機関と連携を図り、地域全体で見守り活動を展開している。

【実施に当たっての工夫】

○定期的に、地域コーディネーターとの打ち合わせを行っている。打ち合わせの際は、「してもらいたいことの焦点化」「協力していただける方の目線に立つ」「お互いに無理のない準備や方法」を基本とし、日程等を調整している。
○学期毎に、地域学校協働本部運営委員会を開催している。年間を通して取組のPDCAを行う。運営委員だけでなく、一部の保護者ボランティアの参加もあり、活発に意見交流をしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

○学校評議委員会の評議委員が、地域学校協働本部の運営委員を兼ねている方も多くいる。学校経営計画や学校評価計画等についても熟知しており、学校運営の一役を担っている。令和3年度からの学校運営協議会発足に向けて、下地は整っている。
○香南市福祉事務所からの情報は、個人情報が多いので、主任児童委員をされている地域コーディネーターと管理職の間で共有している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○学校教育活動全般に、地域や保護者の方々に関わっていただくことにより、教職員だけでなく多くの大人の目で見守ることができ、学校では把握できていなかった児童や家庭の情報を得ることができ、今後の対応に生かすことができた。児童虐待や不登校、いじめ等の早期発見・早期対応の一助にもなっている。
○地域や保護者の方々が学校の実情を知り、支援していただきたいことに対して、積極的に協力してくださる方が増えてきた。
○学校と地域、保護者との連携・協働の体制が整ってきており、学校運営協議会への移行に向けた準備ができてきている。
○朝の読書や朝学習の丸付けにより、落ち着いた学校生活のスタートが切れ、基礎学力の定着にもつながっている。

● その他

○毎年恒例、1・2年生の芋の苗植えから芋掘り、芋料理づくり(焼き芋など)では、地域の方やグループホームの方とも交流を深めている。
○パソコンクラブの活動支援や、卒業式の式次第、退場等の際の映像作成を運営委員が担っている。

「朝学習の丸付け」意欲的に算数の問題を解く姿がたくさん見られます。

「焼き芋づくり」甘くてホクホクの焼き芋をおいしくいただきました。

こんな活動です

学校・家庭・地域が一体となり、地域ぐるみで子供たちを見守り育てる

高知県土佐市	●活動名	●関係する学校名
	波介小学校地域学校協働本部	土佐市立波介小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和5年3月設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 85人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www.kochinet.ed.jp/hage-e/				

●連絡先　土佐市教育委員会生涯学習課　☎ 088－852－7696

●活動の概要・経緯

波介小学校地域学校協働本部は、平成29年度に学校支援地域本部として組織された。ボランティア登録者は79名で、地域や関係機関との連携により、「学習・図書支援」、「環境整備支援」、「学校行事支援」、「登下校安全指導支援」、「その他の支援」の活動を行っている。「学習・図書支援」については、図書の読み聞かせ、地域住民の知識や経験を生かした学習機会の提供を行い、子どもたちの学ぶ意欲の促進に繋げている。「登下校安全指導支援」については、登下校時の安全指導の中心を担っている。「学校行事支援」と「環境整備支援」については、地域コーディネーターが中心となり、学校と地域のニーズを的確に把握し、関係づけることで創意工夫ある活動・行事等が展開されている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

学校行事支援活動のひとつ、さつきまつりは、地域学校協働本部を設置する以前の昭和41年から開催しており、時代と共に内容を変えながら現在まで受け継がれている。学校と保護者と地域・福祉をつなぎ、学校を核として波介の地区の和（輪）を広げることを目的に、当日は、約50名の児童が縦割り班にわかれ、防災教育学習、昔遊び体験や、オカリナをはじめ様々な楽器の体験、小学校のマスコットキャラクターにもなっている「さつき」をモチーフにした企画の実施など、地域資源を生かした豊かな活動を継続している。

登下校安全指導支援活動では、毎月第3木曜日のあいさつの日を中心に、地域の方に子どもたちに対する積極的な挨拶、声かけ等の支援をいただいているが、加えて、安全面に不安のある地区の児童と民生委員が一緒に登下校する取組も行われている。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーター（元PTA）が、地域・学校・家庭の連携・協働を深め、地域の未来を担う「ひと」づくりのために、毎月１回「地域協働本部だより」を発行するなどし、波介地区全世帯に活動内容を周知するとともに具体的な活動例を掲載したうえで支援者を募っている。また、年度初めのPTA総会等でも本部事業を紹介・支援を依頼することにより、保護者を含む地域住民の協力体制も万全であり、活動の充実につながっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

〇地域コーディネーターが地域教育協議会委員や学校評価委員を兼務しており、学校の課題改善に向けた意見交換ができている。
〇青少年育成土佐市民会議波介地区協議会や波介地区児童民生委員と定期的な協議の場を設け、事業内容や情報の共有を図ることができている。
〇市民を対象に幅広いスポーツ活動の支援を行っている「NPO法人総合クラブとさ」と連携し、陸上競技やよさこい踊りの指導等を受けることで、児童の体力づくりや技術力向上へ繋げている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇子どもたちにとっては、行事等を通して地域の方々と関わる中で、地域の伝統・文化を学び、社会性を育む良い機会となっている。
〇学校にとっては、地域の方々の様々な支援により、教職員が授業や生徒指導等、主たる学校運営に傾注できる環境が整っている。
〇地域にとっては、地域行事や運動会等で児童や保護者と一緒に活動することにより、地域の方々の繋がり・絆づくりになっている。
〇学校、保護者、地域がそれぞれ対等な関係を築いており、三位一体で子どもたちを見守る体制が整っている。また、地域コーディネーターを中心に、今後も柔軟に活動を継続していける関係性が構築されている。学校評価「児童・保護者・地域の意見を学校運営に反映」の肯定的評価80％以上。ボランティア登録者増（H30：68名→現在：85名）、卒業した児童の保護者も支援者として継続。

● その他

〇「さつきまつり」など、学校と地域が連携して開催しているイベントの中で、地域の方々で組織されている楽団「フューチャー」に演奏を披露してもらい、子どもたちが楽器に親しむ機会としている。

「さつきまつり」にてバケツリレーでの消火訓練

「総合クラブとさ」との連携

こんな活動です

「みとめ　はげまし　ほめる」 須玖小学校区

～地域学校協働活動推進員がつなぐ，コミュニティ・スクールと協働活動の一体化

福岡県春日市	●活動名	●関係する学校名
	須玖小学校　地域学校協働本部	春日市立須玖小学校

協働活動開始年度	平成　16　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成19年4月1日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 657人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://cssugusyo.jimdofree.com				
●連絡先	春日市教育委員会　教育部地域教育課こども共育担当	☎ 092-584-1111			

●活動の概要・経緯

平成16年度，地域子ども教室（現在の放課後子供教室）を開設。19年度，コミュニティ・スクール（CS）指定，実働推進組織を設置。22年度，「道徳教育推進CS」として，上記タイトルのとおり目指す地域像を設定。29年度，地域学校協働活動推進員（推進員）を設置。CS指定当初から放課後子供教室（放教）の関係者を学校運営協議会（運協）委員とする等，運協を基盤として教育目標，課題及び情報を共有するとともに，役割分担・協働して，CSと地域学校協働活動を一体的に推進している。校区内2地区から各一人委嘱された推進員は，関係者や活動の間をつなぐ機能（①学校・家庭・地域・児童の四者，②運協と実働推進組織，③CSとその他協働活動）を担っている。推進員を軸として，多様な担い手による幅広い活動が総合化・ネットワーク化し，「地域とともにある学校」が実現するとともに，市が標榜する「協働のまちづくり」にもつながっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

●地域人材としての心を育む，6年間の地域連携カリキュラム…①道徳教育推進，ライオンズクエスト，シニア・近隣幼保園との継続的交流等，②児童の幅広い地域行事への参画・貢献，③郷土の誇り・良さを知る「奴国ウォークラリー」（地域にある奴国の王墓等を縦割り班で児童が巡る）
●地域による多様な体験活動・居場所づくり…自治会・子ども会行事，放教（バドミントン，料理教室，地引網・社会見学等イベント他），子ども食堂（2地区で交互開催）
●総合化・ネットワーク化…①目指す地域像・家庭像を位置付けた学校経営構想，②事業の有機的連携（自治会行事の2地区合同化，子ども食堂と放教の同時開催等），③四者をつなぐきめ細かな情報発信（推進員と児童が地域情報掲示板を校内に共同作成。学校ウェブサイトに放教，子ども会・自治会行事等を掲載）

【実施に当たっての工夫】

●四者によるカリキュラム・マネジメント…児童代表を交えた運協での熟議を始め，四者の意見を反映するPDCAサイクルを随時実践。
●地域行事参加カード…スタンプを集めた児童が担任にほめられ，地域情報掲示板に写真が載る等「みとめ　はげまし　ほめる」仕組み。
●活動，体制等の洗練…①活動の教育課程内への位置付け，②CS実働推進組織と校務分掌の一体化，③事業の合同・同時開催（再掲）
●学校における働き方改革への理解…校長が関係者と対話を尽くしており，教職員の負担軽減に配慮されている。

【関係機関・団体等との連携状況】

●放教，自治会，PTAのキーパーソンに加え，近隣児童センター，保育所，主任児童委員等で構成された運協が協働活動の基盤となっている。
●地域の中核的役割を担う自治会は，①地域行事への児童受入れ，②学校支援，③放教・子ども食堂への公民館の無償貸与等を実施。
●現役自治会役員であり，放教，PTA等の豊富な経験を持つ推進員が，各地区との連携の太い軸となっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

●地域行事への参加児童数が最大2～3割増加し，活性化する等，学校と家庭・地域の双方がWIN-WINの関係となっている。
●推進員等のキーパーソンや数多くの担い手が連携・協働して，地域ぐるみで子どもたちの「生きる力」を育んでいる。
●PTA役員が退任後に自治会役員や協働活動の担い手になる等，人材の好循環が数多く発生し，地域活性化の基盤となるキーパーソンの育成につながっている。
●協働活動が異業種交流，生涯学習の場としても機能し，関係する大人の当事者意識，市民性等の向上が図られている。
●協働活動の洗練によって，学校・家庭・地域それぞれの「教育力向上」と「負担軽減」が両立されており，活動の持続可能性が高まっている。

● その他

●企業・NPO等連携…つくし中央ライオンズクラブ・青少年育成支援フォーラム（ライオンズクエスト支援。令和元年度は全国大会会場校），さわやか憩いの家春日（認知症サポーター養成講座），その他3NPO法人（講師招へい）　●学習支援…サマースクール，公民館寺子屋，丸付け等

奴国ウォークラリー。地域内以上の保護者ボランティア100人で参加。写真奥のドーム棺等を見学可能。

地域行事への児童参加増につながるとともに，推進員と児童の会話の糸口にもなっている。地域情報掲示板。

こんな活動です

地域を愛し，自分で考え自分で行動する子どもの育成
～小中一貫コミュニティ・スクールの推進を通して～

福岡県宗像市	●活動名	●関係する学校名
	日の里学園運営協議会	宗像市立日の里中学校 宗像市立日の里東小学校 宗像市立日の里西小学校

協働活動開始年度	平成　26　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和元年5月28日設置	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 5人		
ボランティアの数	延べ登録人数 161人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	―				
●連絡先	宗像市教育委員会　教育政策課	☎ 0940-36-5099			

学園，団地再生に関わる関係者（市役所，民間企業，市民団体）が総合の授業について協議を行う様子

●活動の概要・経緯

日の里地区では，平成13年度から日の里中学校で子育てサロンと連携し家庭科の妊婦体験（全国初）を実施し，登下校の見守り，昔遊び，野菜作り等の地域と連携した学校支援が長年行われてきた。また，地域でも「地域の子どもは地域で育てる」取組として，長年にわたって夏休みの寺子屋事業や花いっぱい活動，地域の祭り等，学校と連携した体験活動を充実させてきた。宗像市においては，平成18年度から小中一貫教育を推進し，日の里学園は中学校区（学園）で推進組織を整え，市全体のモデル推進校としての役割を長年担ってきた。令和元年度からは，これまでの学園単位による学校運営評議委員会に変えて，日の里学園運営協議会を設置し，「地域を愛し，自分で考え自分で行動する子ども」の育成を学園・地域・家庭の共通目標として，3者の連携・協働を推進し，より良い学校づくりに資するよう「小中一貫コミュニティ・スクール」に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

少子高齢化が進む本地域では，地域の未来を担う子供達のあるべき姿を育成するにあたり，学園・地域・家庭のそれぞれがどのような役割を果たすべきかを学園運営協議会で熟議してきた。これまで学校と地域が連携して実施してきた地域学校協働活動について，より教育効果が高まり，持続可能な取組になるよう教育支援活動，協働活動，地域貢献活動の3つに整理した（資料1）。教育課程内で行う協働活動を，生活科，総合的な学習の時間の9年間を通した小中一貫カリキュラムとして「日の里カリキュラム（資料2）」と編成し，実施・評価を行っている。主な内容は「A地域活性化学習」と「B福祉・防災学習」で構成され，子供自身がその解決の主体者になっていく段階までを意図的に配列し，「地域を愛し，自分で考え自分で行動する」過程を具現化したものである。

【実施に当たっての工夫】

カリキュラム編成の段階では学園の学習内容と地域の課題が一体的になることや発達段階を踏まえて系統的に配列すること，実施の段階では地域の人・もの・ことと協働的に学び，地域の一員としての自己の生き方についての考えを深めること，評価の段階では学園における学習の価値と子どもたちの成長を家庭や地域と共有し，次年度へと改善を行うよう工夫している。

【関係機関・団体等との連携状況】

日の里地区運営協議会を窓口に関連組織との連携が図られている。地域活性化の分野では，団地再生に取り組む市役所都市再生課や企業，市民団体と連携し，未来の日の里の在り方を共に考える学習を行っている。福祉・防災の分野では，社会福祉協議会と連携し，地域の独居高齢者と関わりながら，高齢化が進む日の里での自己の生き方を考え実践する学習を行っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

日の里学園運営協議会において，育てたい子供像について学園，地域，家庭が思い・願いを協議し設定することで，目標を共有化してそれぞれの役割を果たしながら子供を育てることに繋がっている。「地域を愛し，自分で考え自分で行動する子ども」を育てるために，地域学校協働活動を位置付けたカリキュラムの編成，実施，評価を行うことで，切実な課題意識をもって学習を行うことができ，「日の里のことが好き」「日の里をもっとよりよくするための行動を考えて行動したい」というアンケート項目に伸びが見られた。また，地域にとっても，独居高齢者と社会の関わりが生まれ高齢化が進む日の里の防災の在り方についての考えが深まったり，まちの景観が明るくなったり，地域の祭りに活気が生まれたりと様々な面で変化があり，地域の方から肯定的な評価をいただいている。

● その他

教育課程外で行う「地域貢献活動」では，地域主催の祭りである日の里まつりのヤングスタッフとして吹奏楽部や放送部が参加したり，日の里の50年の歴史を残す「記憶プロジェクト」の活動で標語，新聞を作成したりする等，積極的に地域で活躍している。

夏休みの寺子屋の活動（地域の方による習字，絵の専門的指導）

地域の高齢化の課題について，社会福祉協議会・民生委員と協議する様子

こんな活動です

みんなで支える桂川の学校 みんなで育てる桂川の子ども

福岡県桂川町	●活動名	●関係する学校名
	桂川町学校支援地域本部	桂川町立桂川小学校　桂川町立桂川東小学校 桂川町立桂川中学校

協働活動開始年度	平成　28　年度	学校運営協議会	指定・設置日	地域学校協働本部	有	
			令和2年4月1日設置			
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成			
	―	放課後子供教室				
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数			
	3人		8人			
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無	
	562人					
参考URL	―					
●連絡先	桂川町教育委員会　学校教育課	☎ 0948-65-1149				

●活動の概要・経緯

本町では、平成20年度から「生き生き桂川っ子」総合推進事業を始め、教育委員会と学校が中心となり、学校、家庭、地域、関係機関、団体と連携を図り、町内に存在する教育資源を生かしながら「町全体で、桂川町の子どもを育てること」の実現を目指している。平成28年度から、「桂川町まち・ひと・しごと創生総合戦略／人口ビジョン」をもとに、学校支援地域本部をスタートさせた。当該運営委員会は「生き生き桂川っ子」総合推進事業協議会をもって代替し、学校の支援に取り組んでいる。地域全体で学校を支援する仕組みを構築し、専門的な知識や技能を持った地域住民を学校に派遣することで、教育活動の活性化とともに地域住民の生涯学習や自己実現の推進を図っている。ボランティア人材の登録者が学校での授業や登下校での見守りなど子どもたちとのふれあいの中で、自分の存在感や成就感を感じてもらい、子どもの育成と地域の教育力の向上の相互利用を実施している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

専門的な知識や技能を持った人が学校支援ボランティアとして、学校への授業支援、朝の読み聞かせ、地元伝承の太鼓の指導、部活動指導等を行っている。また、交通安全見守り隊、おはよう会の地域の方々が、通学路での登校指導を行っている。令和元年度は、約4,258名(延べ人数)の方が学校支援活動を行った。

桂川町宿泊体験型施設「ゆのうら体験の杜」を活用して小学校5年生・中学校1年生が宿泊体験学習（セカンドスクール）を実施している。この宿泊体験学習では、自然豊かな場所で宿泊しながら、地元の土師焼の作品づくりなど、様々な体験を通して、人と人とのつながりの大切さを認識し、地域の魅力を認識することにより、子どもたちが生きる力を育むことをねらいとしている。

【実施に当たっての工夫】

地域住民の参画を促進するにあたって、コーディネーターが、地域で実施している講座などを参考に、地域の方々が自分の得意分野を発揮できるボランティア活動の募集チラシを作成し、広報を行っている。また、校長経験者をコーディネーターにすることで、学校運営や地域や家庭との連携のノウハウを生かし、地域の人材発掘を行っている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校支援活動、社会教育課の事業に携わった講師の情報を共有し、社会教育課・施設と連携を図っている。

学校支援活動においてボランティア代表者と連携して、事前の段階から学校の要望を踏まえて、打合せや準備を行い、効果的に支援活動を実施するようにしている。令和2年4月1日現在で12団体（137名）が学校支援ボランティアに登録している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

学校支援地域本部がスタートして、昨年度で4年目を迎え、支援活動も徐々に浸透してきた。朝の読み聞かせや授業支援等に500名(延べ人数)を超える地域の方々に支援を得た。地元伝承の太鼓指導を通じて、子どもたちが地域を誇りに思うきっかけづくりとなった。また、登校時の安全活動によって、子どもたちの安全な登校につながっている。

セカンドスクール(2泊3日の体験活動)が始まって2年目を迎え、セカンドスクールに対しての理解も進んできた。地域の人材や団体との連携・協働が見られ、順調に活動が進めることができた。活動の感想などから、子どもたちの中には、人と人とのつながりの大切さや地域の魅力を感じることができた。

● その他

交通安全見守り隊、おはよう会の地域の方々3,740名(延べ人数)が、通学路で登校指導を行っている。また、セカンドスクールでは、陶芸体験やグランドゴルフ体験学習を行っている。学校では経験できないことを体験し、子どもたちの活動の充実につながった。

毎朝の交通指導の様子

セカンドスクールでの体験学習

こんな活動です

みんなで育てる志原っ子　～地域の子どもは地域で育てる～

長崎県壱岐市	●活動名	●関係する学校名
	志原っ子育成協議会	壱岐市立志原小学校

協働活動開始年度	平成　23　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年6月4日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		1人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
	63人				
参考URL	―				
●連絡先	壱岐市教育委員会　社会教育課	☎ 0920-45-1113			

地域の方々との大きな交流の場となる「志原っ子まつり」で、学習の成果を発表すると共に地域の方々と栽培・収穫した農作物を使ったカレーを食す。

●活動の概要・経緯

本校は、平成30年度壱岐市の指定を受けて学校運営協議会を設立し、コミュニティ・スクールとして3年目を迎える。それ以前には「宮の原会」という学校支援組織があり、長年地域の協力の下での教育活動を行ってきた歴史がある。小規模校である本校は、地区民合同運動会をはじめ、学校行事や地域行事の運営において協力・連携し合いながら、学校と地域双方の活性化等を図ってきた。学校運営協議会「志原っ子育成協議会」では、学校の課題や保護者・地域の願い等について、共に知恵を出し合い連携を図りながら、「志…夢・希望を持って、進んで努力する子ども」「学力…進んで学び、自分考えを伝え合う子ども」「人間力…相手の立場に立って物事を考え、思いやりの心を持つ子ども」の共有目標の実現、学校経営方針にも掲げた「児童・保護者・地域・教職員、みんなが自慢できる学校づくり」の実現に向け、日々邁進しているところである。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①学校行事への参画・協働…栽培体験活動、運動会及び志原っ子まつり（学習発表会・栽培物を使った調理）への参画・協働
②学校の環境づくり支援…校庭の伐採や剪定、草刈り等の支援、図書ボランティアによる学習環境づくり支援
③地域行事への参画・協働、地域貢献…運動会及び志原っ子まつりにおける地域内2つの太鼓保存会と連携した太鼓の披露、地域クリーン活動における子どもたちの参加による地域貢献
④児童の活動に対する様々な支援…図書ボランティアによる読み聞かせ、地域企業チームによる綱引きの指導、ボランティアによる調理や製作活動等の授業サポート、登下校時や校外活動時の見守り活動、安全マップを活用した危険区域の把握と改善

【実施に当たっての工夫】

学校運営協議会を定期的に開催（令和元年度7回）し、情報共有を図りながら必要な取組について熟議を重ねている。志原地区公民館長が地域コーディネーター役を担うことで、学校教育活動に最適な人材や活動団体等をコーディネートすることができる。学校・PTA・学校運営協議会が三位一体となることで、より実践的な取組ができるように努めている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会において活動報告や検証等を行い、よりよい取組となるよう熟議を重ねている。学校運営協議会は、老人会等の地域団体の代表や社会体育（バレー・ソフトボール）の代表者も委員となっていることから、学校及び地域における教育活動全般についての「子どものよりよい成長」を共に考えることができている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○「子どもの成長」を中心として、学校・家庭・地域が日常的に顔が見える関係で連携できており、一体感が深まっている。
○地域の方々の協力・支援によって、児童の教育的効果が高まっている。また、地域の方々との関わりが増え、児童の地域への関心も高まり、地元への愛着・誇りも深まってきているように感じる。
○地域学校協働活動を通じて、地域防災についても共に考えることができ、集中豪雨等の緊急時の人と車の流れを協議・確認することができた。学校、保護者、地域、児童が、それぞれの役割を果たせるよう、今後も地域を挙げての防災・安全について貢献していきたい。

● その他

地元企業（玄海酒造）の綱引きチームと連携し、技術指導を受けたことで、児童の競技力の向上につながり、市の綱引大会で好成績を収めた。また、発表の場の一つである志原っ子まつりにおいて、パソコンを利用したプレゼン資料を作成し、保護者や地域の方々に紹介した。

小学校低学年と保育所が連携し、地域の有志及び老人会の協力を得ながら、いも植え、いも掘りを楽しんでいる。

地区農協青年部の協力の下、籾まきから田植え、稲刈り、脱穀までを経験し、食の大切さ、勤労の貴さを学んでいる。

こんな活動です

生きる力を身に付けた笑顔あふれる岐宿っ子の育成
～家庭・地域・学校の連携・協働を通して～

長崎県五島市	●活動名	●関係する学校名
	一歩前の会	五島市立岐宿小学校

協働活動開始年度	平成　31　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成31年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 130人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://kishikusho.tn.goto-tv.ne.jp/index.html				
●連絡先	五島市教育委員会生涯学習課	☎ 0959-72-7800			

●活動の概要・経緯

平成29年度に町内の3小学校を統合し、統合岐宿小学校としてのスタートを切るにあたり、地域と共にある学校づくりを目指し、県・市の指定を受け、地域の代表者と学校が会合を重ねながら学校運営協議会の設立に努めた。平成31年度に規則の整備が整ったことから、正式にCSとしての歩みを重ねている。学校の統合前から、各校において、図書ボランティアや登下校時の見守り、行事等への協力に熱心に協力しながら活動していたが、統合後も、人材マップに登録された地域住民が授業のGT（ゲストティーチャー）、VT（ボランティアティーチャー）として我が町の子供の教育に力を注いでいる。地域と学校の共催行事である「岐宿っ子祭り」に向け、学校運営協議会で熟議を重ねながら開催している。地域に伝わってきた伝統食や遊び方などを地域の方に教わりながら活動する本祭りには、440名を超える来場者があるなど、注目度も高い。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

第6学年の総合的な学習の時間に岐宿町の修学旅行生の受け入れについて調べることを通して、岐宿町や岐宿の人々のよさについて改めて知り、岐宿町を誇りに思い、岐宿町の一員として自分にできることを行動に移そうとする態度を育むことをねらいとした学習を設定した。学習を進めるにあたっては、GTとして岐宿支所の地域振興課の職員や民泊を受け入れている地域の方々を学校に招聘し、受け入れの様子について話をしていただき、地域の活性化に向けて尽力する人々の思いにふれながら学び続けている。

【実施に当たっての工夫】

民泊を実施している地域の方々をGTとして招聘した学習では、8名程のGTが児童3、4名の小グループに1名ずつ入り、対話の形式でコミュニケーションを十分に取ることができるようにしている。そうすることで、児童はGTの豊かな人間性を感じ、憧れへとつながっていくことが期待できる。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域コーディネーターを通して、岐宿支所の地域振興課に依頼し、民泊受入れ家庭のリストアップやGTを選定していただいているため、地域学習が円滑に進められている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

来校したGTの皆さんは、真剣に話に耳を傾ける子供たちの姿にとても感激して、帰って行かれる。学習後児童は、GTやVTに手紙を書き、感謝の気持ちを伝えている。このようなGTやVTを招聘した様々な学習が、子供と地域の方とのつながりを深めることにもつながっている。
GT・VTのふるさと岐宿を思う強い気持ちとその生き方や人としての魅力が、子供たちに「夢・憧れ・志」を抱かせることにつながっている。また、学校運営協議会委員やGT・VTが学校の取組や児童の様子を地域住民に伝えていくことにより、祭りの来場者が、280名から440名へ増加した。

● その他

地域課題解決学習や地域人材育成学習では、タブレットやパソコンを使って地域のことについて調べ、地域の課題や地域の未来について考えをまとめて発表した。

地域の方から学ぶ田植え

民泊を行う地域の方々との学習

こんな活動です

みんなでよってたかって笑顔輝く佐々っ子を育てよう

長崎県佐々町	●活動名	●関係する学校名
	佐々小応援団	佐々町立佐々小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年10月1日	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 96人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://academic4.plala.or.jp/sazasyo1/				
●連絡先	佐々町立佐々小学校	☎ 0956-62-2076			

●活動の概要・経緯

本校は、これまであった各種学校支援団体を組織的に統合・整理し、平成29年度から、コミュニティ・スクールとなった。年度当初の学校運営協議会において、校長が示す学校経営方針を踏まえ、学校と地域が協働して子どもを育てる教育目標を共有した上で、1年間の教育活動を進めている。地域と共に成長する学校として、地域から様々な支援活動を受けながら、子どもたちの地域を愛する心や誇りに思う気持ちの向上を目指して日々の活動に取り組んでいる。子どもたちの成長とやる気が更に地域の各支援団体の活性化にも役立っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

毎週火曜日には退職校長会によるサポートティーチャー支援が行われている。（年間計画に基づいて全学年）。同日の午後の算数の時間に習熟の時間を設け、学習内容の基礎・基本の定着を目指し、丸付けなどの支援を行っている。婦人会は、5年生の家庭科の裁縫や調理実習支援を行っている。また、毎年親子レクレーションのもちつき大会（5年）の手伝いや運動会の全校踊りの技術指導を行い、保護者や子どもたちをサポートしている。老人会においては、2年生の生活科（昔遊び集会）での学習支援をしたり、毎朝の登校時の見守りボランティアとして活動したりしている。また、図書ボランティアによる読み聞かせや親父の会主催で4泊5日の通学合宿（世知原少年自然の家活用）も行っている。

【実施に当たっての工夫】

学校コーディネーター（教務及び学年主任）が中心になり、各学級の学習内容の定着及び向上についての支援方法のニーズを把握し、サポートティーチャーの配当調整を行うシステムを作っている。また、地域人材確保のために「佐々っ子応援団」との連携を図っている。学校の必要性と地域の各種団体の活動が合致するものを精査し、実践するように心がけている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会（年3回実施）において活動の報告や検証などを行い、学校と地域・家庭の双方の意見を聞き、PDCAサイクルで見直しながら改善を図っている。また、年に一回、関係団体のボランティアを学校に招待して感謝の会を実施し、子どもたちから地域の方へ感謝の気持ちを伝えている。この会での交流が持続可能な活動につながっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域人材による各活動によって、子どもたちは地域との繋がりをより実感している。それぞれの活動で、子どもたちは励ましの言葉を地域の方々からもらい、より自己肯定感が高まり、地域を愛する心が育っている。また学力に関しては、基礎基本の定着が高まり、全国学力学習状況調査において、年々点数がアップしている。その成果を受けて、支援をいただいている地域の方々も子どもと向き合いながらその手ごたえとやりがい（生きがい）を感じ、元気をもらっている。また地域のあいさつ運動は、小・中・高校と長いスパンで子どもたちの成長を見守ってもらっており、その繋がりが非行防止、交通事故防止、不審者防止の面でも大いに役立っている。

● その他

放課後子ども教室として、年間30回ほど、地域や保護者の方々が子どもたちの学習支援を行っている。

婦人会による学習支援

通学合宿朝の登校の様子

こんな活動です

「ふるさとを愛し、夢をもって学び続ける児童の育成」
～学校運営協議会の活動を通して～

熊本県氷川町	●活動名	●関係する学校名
	氷川町立竜北東小学校 学校運営協議会	氷川町立竜北東小学校

協働活動開始年度	平成　21　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成21年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	ー	ー			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 459人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://es.higo.ed.jp/ryuhokue/				

●連絡先　氷川町立竜北東小学校　☎ 0965－62－3800

竜北東小学校 公式キャラクター「ゆめぽん」

右側が梨、左側がい草です。
私は、氷川町の特産品「吉野梨」や「い草」を大切にしたいです。
温かい心でつながっていたいという想いを込めて「ゆめぽん」を描きました。
現在：竜北中3年生 H.Tさん作
（当時：竜北東小6年生）

●活動の概要・経緯

氷川町立竜北東小学校の学校運営協議会では、これまで児童の学習支援や家庭教育支援等の課題について熟議を重ね、課題解決に向けた活動に取り組んできた。その原動力となったのが、11年目を迎えた地域学校協働本部である。3人の推進員が中心となり、学校運営協議会の充実・発展に大きな役割を果たしている。

現在は、学校運営協議会活動を更に進め、これまで地域から様々な支援を受けてきた児童が、今度は主体的に地域のためにできることを検討し、地域貢献活動を行うという取組に発展させることができている。また、平成30年度から地域の支援を得た起業体験活動にも取り組んでいる。児童の職業観や勤労観を育成する取組に地域の教育力を活用することで、児童が地域の良さを再発見し、郷土愛を育む取組となっている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〇地域学校協働活動の原点として、地域の思いを大事にすることを大切にして取り組んできた。児童が地域貢献活動を行う際にも、学校の思いだけでなく、地域住民の声を聞き、地域とともに活動を創り上げてきた。
〇中学校区拡大学校運営協議会を組織し、児童・生徒と学校運営協議会委員が地域の歴史や良さを学び、ふるさとの未来について語り合う交流会を毎年行っている。
〇地域住民の支援を得た起業体験活動では、地域の特産品（吉野梨等）を使った商品を地元の農業高校や企業等と連携して研究・開発を行い、本町の祭りである「氷川まつり」で披露・販売し、地域行事成功の一翼を担うことができた。
※中学校区拡大学校運営協議会：中学校区にあるすべての学校運営協議会が合同で行う協議会
※起業体験活動は、平成30年度文部科学省委託事業「小・中学校等における起業体験推進事業」による実践

【実施に当たっての工夫】

〇校長と学校運営協議会委員が熟議を重ねて目指す子ども像を共有し、それぞれの立場で受け止めた地域の願いを地域学校協働活動に反映させている。
〇中学生のリーダーシップの発揮と小学生が先輩への憧れを抱く「出会いの場」として企画した交流会で、推進員のコーディネートにより「ふるさとの繁栄をもたらした先人の努力と足跡を学ぶ講話」を設定した。
〇起業体験活動では、「夢」を持つことを大切にし、児童が多くの「人・もの・仕事」と出会えるように、3人の推進員が大きな役割を果たしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

〇地域学校協働推進員を学校運営協議会の委員として任命することで、熟議の段階から深く関わることができるようにすることで、一体的な実践が可能となるようにしている。
〇学校運営協議会委員に区長会、民生委員会、老人会、婦人会等の地域団体からのメンバーを選任することで連携強化を図るとともに、農業関係者、商工会、高校等との連携により活動内容の充実を図っている。

古墳手つなぎ編

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇保護者へのアンケートでは、地域学校協働活動について、「地域の方々の協力で、子供たちは大きく成長している。」「子供たちは地域から多くのことを学んでいる。」「様々な体験活動で、どの子も生き生きと活動していて感心した。元気をもらった。」等の意見が聞かれた。地域と一体となって行う地域学校協働活動は、児童の健全育成に効果を発揮している。
〇全国学力・学習状況調査の児童質問紙結果では、「今住んでいる地域の行事に参加していますか」という項目において肯定率88.9%（全国平均68.0%）であった。地域学校協働活動を充実させることにより、児童は地域への関心を高め、地域に貢献しようとする気持ちを持つようになり、ふるさとへの思いを大切にする子供たちが育っている。

● その他

〇起業体験活動では、児童が商品を販売するためにタブレットを活用し、チラシや商品ラベルを作成した。また、町役場と連携し開発商品の販売や地域の良さをPRする活動を実施。さらに、児童や地域住民の様子を動画発信した。
〇地域行事である「氷川まつり」で開発商品の販売を行い、多くの地域住民に喜んでもらうことができた。児童も祭りの成功に貢献できたという充実感を味わい、氷川町の一員として地域を活性化させる喜びを得ることができた。併せて、推進員をはじめ学校運営協議会委員、児童を支えた地域住民も「やりがい」「生きがい」を感じる場となり、地域全体が元気になった。

梨農家での収穫活動

地元の高校と連携した商品開発（収穫した梨を利用）

氷川まつりでの販売活動

こんな活動です

「未来創造」持続可能な社会を目指し行動する生徒の育成 ～五者連携の構築～

熊本県菊池市	●活動名	●関係する学校名
	菊池市立菊池南中学校地域学校協働活動	菊池市立菊池南中学校

協働活動開始年度	令和　元　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 208人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://www.city.kikuchi.lg.jp/school/kikuchiminami-jhs/				
●連絡先	菊池市立菊池南中学校	☎ 0968－25－2239			

●活動の概要・経緯

学校教育目標「生きる力を培い、未来を創造する生徒の育成」のもと、「SDGsの視点を踏まえた持続可能な社会を目指し行動する生徒の育成」を目指し、学校、家庭、生徒会、地域、行政の「五者」がその目標とビジョンを共有し、連携・協働する取組。生徒主体による「地域貢献活動」や行政や地元企業と連携した「地域人材の育成」を中心に様々な活動を行うとともに、地域学校協働活動推進員の役割の明確化と、体制の整備に取り組んでいる。

本校では、令和元年度から国立教育政策研究所の指定による「ESD」に取り組むとともに、菊池市教育委員会により地域学校協働活動推進員の配置と地域学校協働本部の整備が行われた。また、本年度から学校運営協議会を設置し、地域学校協働活動との一体的な推進に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〇地域活動委員会による取組・・・菊池市のことを知り、菊池市の未来を考え、菊池市と学校をつなぎ、菊池市のために動く委員会活動。生徒たちが地域住民に直接聞き取り調査を行い、課題を整理し、地域の様々な企業や団体との交流を通して、地域のためにできることを考えた。地域のイベント（菊まつり）におけるボランティアガイド（観光案内）などを実施した。

〇高齢者サポート事業の取組・・・3年生全員による「地域貢献活動」において、高齢者世帯に生徒が訪問し、草取りや窓ふき等の清掃活動を行った。地域の高齢者と中学生との交流の場となってる。

〇地域人材の活用・・・地域人材との連携を図り、ゲストティーチャーや講師として授業に招き、生徒の思考力・判断力・表現力を高める学習を行った。

【実施に当たっての工夫】

地域学校協働活動推進員の役割を明確化した。目標を「五者」で共有できるよう連携・協働の要として、地域人材の登用や地元企業との連絡調整、高齢者世帯の受け入れ先の交渉など、全て地域学校協働活動推進員がコーディネートするとともに、本部機能であるネットワーク化も図った。「地域の持ち味を発見し、活かすこと」「特別で、大きなことではなく、できることをこつこつと」を心がけた。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会の委員に地域学校協働活動推進員も位置付け一体的な推進を図っている。学校運営協議会では、地元企業連、JA、区長会、商工会、国際交流会協会、PTA役員の代表等も委員として参加し、さまざまな活動の報告や検証を行い、取組の改善を図るなど、PDCAサイクルも大切にしている。地域の持ち味を発見し、活かす場にもつながっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇地域の課題解決に目を向けた探究的な活動サイクルを展開することで、ふるさとに目を向け社会に貢献しようとする生徒の姿が見られるようになり、地域人材の育成にもつながっている。

〇活動の成果を報告する機会を設けることで、「コミュニケーション力」「他者と協力する態度」の育成につながっている。

〇地域人材や地元企業、各種団体の発掘、交渉、連絡調整など、地域学校協働活動推進員の役割を明確化し、併せて学校の地域連携担当者と協力したことで、教員の負担軽減につながり、子供にとってスムーズで効果的な学習となった。

〇学校と地域が目標とビジョンを共有し、地域全体で「未来の創り手」の成長を支えることを共通認識する良い機会となった。

● その他

JA菊池や菊池観光協会、その他、多くの企業と連携して活動した。職場体験学習では、48の事業所と連携した。また、学習成果発表会では、学んだことをわかりやすく伝えるために、ICTの効果的な活用を意識した。

地域行事「菊まつり」で「ボランティアガイド」を実施

地域住民への聞き取り調査の様子。

こんな活動です

『玉陵は一つ』 未来へつなぐ！地域学校協働活動
～地域の教育力を生かした小中一貫教育～

熊本県玉名市	●活動名	●関係する学校名
	玉名市立玉陵小中学校 学校運営協議会	玉名市立玉陵中学校 玉名市立玉陵小学校

協働活動開始年度	平成 21 年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成22年4月1日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 101人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://es.higo.ed.jp/gyokuryo/（玉陵小学校） https://jh.higo.ed.jp/gyokuryo/（玉陵中学校）				

●連絡先 玉名市教育委員会コミュニティ推進課 ☎ 0968-75-1312

●活動の概要・経緯

玉名市立玉陵中学校は、平成21年度に文部科学省「コミュニティ・スクール調査研究校」に指定され、翌年、学校運営協議会が設置された。平成30年度には、本中学校区内6小学校が統合し、玉陵小学校としてスタートし、施設一体型小中一貫教育校となった。同時に学校運営協議会も小中合同の協議会になり3年目をむかえた。令和2年度からは学校運営協議会委員の内2名が、地域学校協働活動推進員として委嘱された。このことにより、旧6小学校区の垣根を越えた連携が加速し、『玉陵は一つ』を合言葉に、中学校を含めた地域学校協働活動がさらに充実するようになった。本市教委及び地域学校協働本部の指導助言のもと、地域の教育力を生かした小中一貫教育を行っており、「9年間で子供を育てる」強固な基盤が整った。現在、多くの学校支援やあいさつ運動、環境整備、地域との交流活動など、地域と学校が連携・協働した「双方向」の取組を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①小中合同あいさつ運動…今年度で7年目となる活動であり、学校運営協議会委員と地域住民、児童・生徒会が毎朝行っている。実施後は、それぞれの立場で反省・評価などの振り返りを行うことで「コミュニティの場」にもなっている。
②学校のニーズに沿った支援…水泳、家庭科、キャリア教育講師など専門的な指導が必要な支援に対して、地域人材の発掘・提供を行っている。
③環境スクールボランティア…月1回、地域住民により学校内外の環境整備活動を実施。校内外は花で溢れ、活動日以外も花の手入れをする姿が見られる。また、JR九州新玉名駅には、開業と同時に設置された学校花壇を、子供達が常に整備している。
④「金栗四三」子供ボランティアガイド…日本初の五輪選手「金栗四三氏」の元住家でのボランティアガイドを小中学生が実施。本市地域学校協働本部を通じて、本市金栗四三PR推進室とタイアップした地域貢献活動。

【実施に当たっての工夫】

○大人は、あいさつとともにその子供に応じた「声かけ」を行っており、子供達は、地域ぐるみで見守られていることを実感している。
○地域学校協働活動推進員が小中学校に2名配置され、常時情報の共有化を図り、地域や学校の要望に迅速に対応している。
○環境スクールボランティアは、紙媒体とともに学校のHPからの発信を積極的に行い、登録人数が2年間で12％増加した。
○子供ボランティアガイドは、行政に協力依頼を行った結果、市の広報誌にも採用され、地域学校協働活動が広く周知された。

【関係機関・団体等との連携状況】

地域学校協働活動推進員を通して、地区安全協会や玉名市民生委員と連携した交通安全教室や毎日の見守り活動があり、不審者事案や交通事故等の未然防止に寄与している。また、学校運営協議会内の部会と校区読み聞かせグループ（名称：「たまよりひめの会」25名）が連携し、毎月小中学校全学級に読み聞かせを実施し、読書環境の充実および読書意欲の喚起を図っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○環境が人をつくる…美しく整備された環境のもと、地域住民から毎日声をかけてもらうことで、子供達は安心して生活でき、落ち着いた学校生活を送ることができている。結果として、教職員の負担軽減がなされるようになり、働き方改革につながった。
○地域が一つに…学校支援をはじめとした地域学校協働活動の取組が、統合後の旧6小学校区をつなぐ取組に変化している。学校運営協議会委員や地域学校協働活動推進員が学校で熟議を重ねながら、「地域どうしをつなぐ」役割を担うようになった。
○地域と学校の「双方向」の深まり…各教科、学校行事での支援が充実しており、地域住民の教育力が、生きがいや自己実現の場になっている。一方、児童・生徒は地域住民から「してもらう」だけでなく、流鏑馬や神楽といった地域の祭り、敬老会の手伝いなどのボランティア活動に参加・参画する人数が年々増加し、積極的に貢献しようとする態度が見られるようになってきている。

● その他

「近所の人に会ったときは自分からあいさつをしていますか」（とても＋だいたい）…本校：95.7％（全国：77.3％）（R元県学力調査）
地域の大人からの声かけが、児童生徒の瞳を輝かせている。あいさつ運動や地域との連携が大きく寄与していることは確かである。

スクールボランティア…JR九州新玉名駅で地域住民とともに花植え作業

地域貢献活動…「金栗四三住家」子供ボランティアガイド

こんな活動です

ふるさとの伝統芸能で学校と地域をつなぐ取組み

大分県佐伯市	●活動名	●関係する学校名
	本匠地区協育ネットワーク会議	佐伯市立本匠中学校 佐伯市立本匠小学校

協働活動開始年度	平成　23　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和元年5月9日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 269人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://tyu.oita-ed.jp/saiki/honjyou/				
●連絡先	佐伯市教育委員会社会教育課生涯学習推進係	☎ 0972-22-3245			

本匠地区のマスコット
ホタルのホタッピィ

●活動の概要・経緯

当市では平成20年度から、公民館を中心に全ての中学校区に校区コーディネーターの配置を進め、子どもに関わる各種団体、組織で構成する「協育」ネットワークを構築してきた。本匠校区では、平成23年度4月に校区コーディネーターが配置され、同年8月には本匠地区協育ネットワーク会議を設置し、学校、家庭、地域が連携して子どもたちを育てるという目標を掲げ、コーディネーターが関わりながら地域学校協働活動を行ってきた。具体的には、学校の環境整備、学習支援、放課後子ども教室、野外での体験活動などの取組みである。

令和元年には学校運営協議会も設置され、協育ネットワーク会議と連携しながら、地域の活性化をも視野に入れた取組みを進めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成30年度に国民文化祭の大分大会が開催されることとなり、これを契機に本匠校区で文化芸術の振興に対する機運が高まった。そこで、これまで個別に行っていた文化祭を小・中学校、公民館及び文化協会の合同の文化芸術祭として開催することになった。開催にあたり、小・中学校の取組みとしてふるさとの伝統芸能である「神杖（かみつえ）踊り」「小半団七（おながらだんしち）、扇子踊り」を学習し、文化芸術祭で踊りを披露することが決まった。そのためコーディネーターが窓口となり、地域学校協働活動の一環として地域住民等の幅広い参画により、伝統芸能の継承を軸とした活動を行なった。

この取組みは令和元年度も行われ、今後も続けていく方針となっている。

【実施に当たっての工夫】

公民館が事務局となり、小・中学校、行政、地域の文化協会による実行委員会を平成30年度より結成している。文化芸術祭の会場は、収容人数や観客の集まりやすさを考慮し中学校の体育館とその周辺に設置した。そうすることで飲食コーナーや特産品の販売コーナーを設置でき、学校と地域の交流の場を作ることができた。

【関係機関・団体等との連携状況】

公民館を中心に学校と地域との協議が行われ、文化芸術祭までの活動計画を決めている。令和元年度からは学校運営協議会もこの取組みに加わり、学校と地域の双方の意見を聞きながら熟議を重ね取組みを進めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

伝統芸能の継承がきっかけで、学校と地域との交流がより活発となった。地域住民にとっては次世代へ伝統芸能の継承ができたことで、子ども達の役に立っているという気持ちを持つことができ、数年来開催されていなかった地区の祭りも行われた。一方、子どもにとっては、自分が地域の中で地域の一員としての役割を果たしているのだという自信につながった。

またこの活動をとおして、子ども達の中で伝統芸能に対する興味・関心が高まり、学習意欲が向上した。その結果、令和元年度は、中学生が地域の歴史研究者から情報提供を受けながら伝統芸能に関する調べ学習を行い、文化芸術祭で学習の成果を発表した。

● その他

地域の子どもが少なくなり、子ども同士や子どもと地域住民との交流が少なくなる中で、公民館が中心となり、こども園と小学校合同の「いも植え・いも掘り」や、こども園と地域の更生保護女性会が合同で七夕飾りを作る交流事業などを行っている。。

杖踊りの練習をする小学生

中学生と地域の方との集合写真

こんな活動です

地域が学校と子どもを支える！ ～笑顔と元気をもらいながら～

大分県宇佐市	●活動名	●関係する学校名
	西馬城放課後チャレンジ教室	宇佐市立西馬城小学校

協働活動開始年度	平成　19　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 124人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://www.usacoco.jp/parenting/afterschool/challengeclassroom/				
●連絡先	宇佐市教育委員会　社会教育課	☎ 0978-27-8198			

●活動の概要・経緯

西馬城地区は地域全体で小学校を支えていく風習があり、地区と学校が合同で開催する「ふれあい運動会」での昼食の炊き出しカレーや「特認校発表会」での西馬城太鼓、歴代PTA会長・OB会からなるゲストティチャーとしての学校支援、「高齢者学級ありがとうの会」など、学校と地域との関わりが長年にわたり密接である。平成6年に「西馬城の子どもを育てる会」が結成され、年々減少していく児童数に歯止めをかける目的で同会により平成17年度に「西馬城児童クラブ」が発足した。平成19年度には「西馬城放課後子ども教室」、21年度には「学びの教室」（28年度終了）事業が相次いで開設され、月曜から金曜日を通した放課後の子どもの居場所づくりと安心・安全な見守り体制ができ、地域住民主体で14年間にわたり活動を継続している。

なお、西馬城小学校は平成13年4月に宇佐市小規模校特認校となり、校区外からの児童の受け入れを市内で唯一実施している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成19年度から「放課後子ども教室」を開設し、市内の教室の中でも活動年数が長い。コーディネーターやサポーターは現在関わっている6名中4名も開設当初から在籍し長年指導にあたっている。「チャレンジ教室」は年間40日、毎週水曜日15時～18時の開催で、5年程前からサポーターの得意分野を活かし、年間通じて書道・囲碁・将棋に内容を特化し、コーディネーターを中心にそれぞれ担当を決めてプログラムを組み専門的に指導している。また、校区外から通学する児童の放課後の受け皿として保護者にも負担が少なく好評となっている。さらに学校支援活動として、鍛錬遠足では地域ボランティアとともに環境整備の清掃も併せて登山をしている。

【実施に当たっての工夫】

学校の管理職とコーディネーターが連携し活動方針の共有に務め、学校便りでの参加者募集や活動紹介、申込み受付、開・閉級式での校長挨拶などが行われている。また、学校支援活動を通じ地域ボランティアとの交流が盛んに行われている。さらに「チャレンジ教室」が生活時程表に記され、児童の学校での生活サイクルの一部として認識されている。

【関係機関・団体等との連携状況】

「チャレンジ教室」のコーディネーターやサポーターは「児童クラブ」の活動の企画や見守りにもあたっている。このため、水曜日の放課後の見守りは「チャレンジ教室」が、月、火、木、金曜日は「児童クラブ」が担当している。「チャレンジ教室」のみの利用や、どちらも利用するなど、家庭のニーズに合わせて選択する事ができる。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

「チャレンジ教室」では、特に高学年は低学年の頃より毎週活動に取組んでいるので、囲碁・将棋は技術面においても成長している。また、書道では、3年連続で全国版の「入木公募展」で「チャレンジ教室」参加児童が毛筆・硬筆の部において金賞・銀賞・努力賞など全員入賞した。授業中での態度も落ち着いて取り組めており、他の児童の見本となっている。また「チャレンジ教室」の活動だけでなく、全校の児童がコーディネーターやサポーターをはじめ多くの地域の大人と接することにより、活動場所の清掃や片づけ、日頃からのあいさつ、礼儀作法、靴そろえ、下級生への指導など基本的なマナーや社会性を学んでいる。

● その他

住民自治組織である「西馬城まちづくり協議会」から備品等の援助を受けている。また児童とのふれあいは、サポーターの健康増進・生きがい、さらに地域の活性化にも繋がっている。なお、「児童クラブ」は地域住民の出資による自主財源のみで運営されている独自の取組である。

手作り将棋盤で対局指導中

今年の木工教室は椅子作り

こんな活動です

故郷「蓬原」のよさを未来につなぐ「よもぎっ子」の育成

鹿児島県志布志市	●活動名	●関係する学校名
	蓬原小学校運営協議会	志布志市立蓬原小学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年5月11日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 613人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://424.ciao.jp/futsuhara-els/date/2019/12/				
●連絡先	志布志市教育委員会生涯学習課	☎ 099-472-1111			

●活動の概要・経緯

地域全体で子どもを守り育てる活動を，校区公民館を中心に，学校，PTA，地域や関係団体が連携し，活動を行っている。地域行事である校区内神社の神舞や校区内集落の棒踊り等，地域の伝統芸能保存会員が指導者となり，子どもたちへの伝承活動に取り組んでいる。

また，青少年育成の日と定めている毎月第3土曜日には，校区公民館教養部が中心となって，教職員・長寿会やイチゴ生産者等を指導者に，『キラリ輝く「しぶしっ子」育成事業（土曜体験広場）』を開催し，イチゴ収穫や天体観望会，芋掘りやミニ門松作り等多様な活動を展開している。

なお，平成30年度からは学校運営協議会が設置され，地域学校協働活動推進員も運営委員に委嘱されている。

学校応援団，青少年育成事業等，以前から取り組んでいた活動も，関係団体等との連携を図りながら，さらに充実した内容を展開している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

① 伝統芸能の伝承…担い手不足に悩む伝統芸能保存会が，学校で児童へ棒踊りや神舞を指導している。小学校・校区合同運動会やふつはらまつりにて，地域住民に披露することにより，伝統芸能を伝える機会となっている。地域の役に立ちたいと希望する教職員が伝統芸能を伝承する担い手ともなっている。

② 地域全体で取り組む青少年育成活動…毎月第3土曜日に校区公民館が中心となって，教職員や長寿会，イチゴ生産者を指導者にイチゴ収穫や芋掘り，天体観望会，ミニ門松作りなどの体験活動を行っている。

③ 見守り活動…子供たちの登校時に校区内全ての自治会の代表者が通学路で立哨指導をするとともにあいさつ運動を行っている。

【実施に当たっての工夫】

校区公民館副館長が地域学校協働活動推進員となり，学校と地域とのコーディネート役を担っているため，担任からの授業支援の希望や職員からの要望が伝わりやすく，素早い対応が可能となっている。子どもたちも認識のある地域のサポーターのため安心して学習に取り組めている。子どもたちとの交流を楽しみにしているサポーターが増えている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会において，学校教育活動の状況，PTA活動の共有，地域活動の報告等を行い，学校・家庭・地域の連携が図れるようになってきた。また，郷土「蓬原」地域の素材を活用した活動（文化財フィールドワークやいも作り体験，長寿会とのグラウンド・ゴルフ交流等）が関係団体の支援の元に充実できている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

校区公民館を中心に，学校，PTA，地域や関係団体の連携による多様な活動により，普段，学校教育活動で困難な体験活動にも取り組み，子どもたちにとって貴重な経験につながっている。さらに，これらの活動を通して，「地域とともにある学校づくり」と「学校を核とした地域づくり」につながっている。

また，見守り活動として，子どもたちの登校日には，必ず横断歩道で安全確保に努めてもらっており，安全安心な登校につながっている。公民館活動としても校区内の全ての自治会の代表者が毎月通学路に立ち，子どもたちへの「あいさつ運動」に取り組む等，心豊かな「よもぎっ子」の育成に地域ぐるみで推進している。

● その他

青少年育成の日（第3土曜日）に地域活動を推進していることから，校区公民館教養部が中心となり，教職員・長寿会やイチゴ生産者等を指導者に，「キラリ輝く「しぶしっ子」育成事業（土曜体験広場）」を実施している。イチゴ収穫や天体観望会，芋掘りやミニ門松作り等多様な活動を展開している。

地域の生産者から学ぶ　イチゴの収穫体験

地域の素材を生かした　ミニ門松作り

こんな活動です

地域の中に学校，学校の中に地域を！！
～地域ぐるみによる子どもの育成～

鹿児島県指宿市	●活動名	●関係する学校名
	今和泉小学校区地域学校協働活動	指宿市立今和泉小学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成28年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 50人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://www5.synapse.ne.jp/imaizumi-e/				
●連絡先	指宿市教育委員会社会教育課	☎ 0993-23-1023			

●活動の概要・経緯

今和泉小学校区は大河ドラマでも話題になった篤姫ゆかりの地である。小学校は今和泉島津家の館跡地に建てられており，目の前には松林と石垣，鹿児島湾が広がりとても美しい環境である。少子高齢化が進み小学校の児童数も87名となっているが，指宿市で平成23年度から実施している「いぶすき学校応援団」の取組において，今和泉小学校区では地域の歴史・文化と豊かな環境を生かし様々な活動を展開している。学校が困っていることや課題には，地域全体で協力しようという意識が高く，校区の目標として「地域ぐるみによる子どもの育成」を掲げ，地域コーディネーター（校区公民館主事）を中心に，ボランティア登録者だけでなく，学校・PTA・小学校に隣接している高校など様々な地域住民や団体が連携して活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①小牧地区の高齢者（茶いっぺサロン）とのふれあい活動…総合的な学習の時間に児童が公民館を訪問し，一緒にころばん体操やお茶会を行ったり，学校に高齢者を招待し，歌やダンス，ゲームをしたり，手作りのお菓子とお漬物を振る舞ったりするなど双方向の交流活動を行っている。
②書写指導の補助…地域の書写指導者が年間を通して3～6年生の毛筆の授業の補助指導をしている。令和元年度には硬筆展に出品するため，硬筆の指導も行い，上位入賞者を多数輩出している。また，放課後子ども教室でも，毛筆・硬筆の指導を行っている。
③隣接する高校との連携…放課後子供教室に高校生がボランティアとして協力し，児童の学習支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

地域コーディネーターとして公民館主事をあてることで，公民館長をはじめ地域と学校の連携が緊密になっている。地域コーディネーターは，学校が作成する年間計画表をもとに積極的に学校やボランティアと打ち合わせをしたり，地域住民の特技を把握し，学校へ提案をしたりしている。ボランティア募集のため，回覧板の活用や，隣接している高校へ訪問し協力依頼を行っている。また，活動の推進や充実を図るために，学校応援団協議会を年2回開催している。

【関係機関・団体等との連携状況】

・学校運営協議会に地域コーディネーターが委員として出席し，学校応援団活動の情報共有・提供を行っている。学校運営協議会で出された学校の課題等について学校応援団で解決できないか検討している。
・校区公民館，校区自治公民館連絡協議会，校区内の老人会，中・高等学校，保育園，子ども園，郵便局や地元のJAと協力し，今和泉小学校において校区文化祭を開催している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇小牧茶いっぺサロンと3年生の「そば打ち体験」から始まった交流が，現在では，1，2年生の「昔あそび体験」，4年生の「高齢者とのふれあい活動」へと他の学年にも広がっている。高齢者の方々は様々な活動を通して児童とふれあい，楽しさ嬉しさを共感し，どの活動においてもやりがいを感じており，生きがいづくりにつながっている。
〇書写指導について，授業支援や放課後子ども教室で専門的な指導のおかげで，令和元年度に出品した硬筆展において，児童25名が上位入賞，学校も奨励賞を受賞した。「書写を習いたい」と放課後子ども教室へ入会を希望する児童も多くなっている。令和2年度は学校の依頼で1，2年生の硬筆の授業支援も行っている。

● その他

他にも支援活動として，裁縫指導・そろばん指導・オクラの紙すき体験・木工の釘打ち体験・郷土菓子作り・各地域に伝わる郷土芸能を学ぶ活動などを行っている。小学校と隣接している高校の生徒がボランティアとして奉仕作業や放課後子ども教室に協力している。

書写の授業支援の様子

放課後子ども教室で活躍する高校生ボランティア

こんな活動です

地域のあたたかい見守りで，安心・安全・牛尾っ子

鹿児島県伊佐市	●活動名	●関係する学校名
	牛尾校区コミュニティ協議会	伊佐市立牛尾小学校 伊佐市立大口中央中学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 41人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://ja-jp.facebook.com/ushiocomunity				
●連絡先	伊佐市教育委員会　社会教育課	☎ 0995-26-1554			

・平成25年に子供を含む地域住民に公募，投票により決定。
・着ている服は牛尾棒踊りの衣装

牛尾校区コミュニティ協議会マスコット「うしおぼう」

●活動の概要・経緯

児童への声掛け事案をきっかけに，平成26年に地域高齢者クラブに協力をお願いし，「牛尾っ子見守り隊」を結成。平成21年から活動している「青パト隊」と連携し，毎日の登校見守り活動及び毎週水曜日の「山坂達者の日」に併せた見守り活動を行っている。また，学校運営協議会の発足を機に「牛尾っ子サポーター」として，学習支援などを行っている。平成25年度から青少年健全育成を目的に取り組んでいる「ふるさと学寮」は高齢の支援者の生きがいづくりにも繋がっている。

平成20年から地域の伝統芸能である「郡山棒踊り」と「牛尾棒踊り」の保存活動を行っている。現在は「郡山棒踊り」の指導者不足により，「牛尾棒踊り」のみであるが，学校支援の一環として，後継者育成を目的に指導を継続し，運動会で地域住民へ披露している。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①見守り活動…地域高齢者クラブと協力し，「牛尾っ子見守り隊」を結成して児童の毎日の登校や毎週水曜日の「山坂達者の日」に合わせて見守り活動を行っている。
②土曜授業の支援…子供たちの創造性や主体性の向上を目的に，土曜授業に田植え・稲刈り，凧あげ大会，鶴田ダムなどの社会科見学などの体験活動を数多く企画している。
③コミュニケーションの場の設定…PTA主催の愛校作業後にそうめん流しを実施し，学校，児童，地域住民とのコミュニケーションの場を設けている。
④郷土学習支援…地域の高齢者を「ふるさと先生」として派遣し，「郡山棒踊り」「牛尾棒踊り」の歴史について授業支援を行っている。

【実施に当たっての工夫】

牛尾コミュニティ協議会が地域の全世帯に配布するコミュニティ広報紙で，行事や活動内容の周知や報告をしている。また，牛尾校区出身者及び関係者向けに，地域に住んでいなくても牛尾校区の活動が分かるよう活動報告などについて，SNSを活用した情報発信をしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

伊佐市で取り組んでいる「伊佐さわやかあいさつ運動」では，教育委員会社会教育課や青パト隊，牛尾っ子見守り隊と連携し，見守り活動・あいさつ指導を行っている。
牛尾棒踊り保存会とは，運動会での披露に向けての練習期間の調整，児童の習得度確認など常時連携をとっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

コミュニティ協議会としての活動をはじめてから11年が経過した。地域住民にそれぞれの活動が浸透し，協力的な住民が増えてきている。
同時に，児童と地域住民の交流が盛んになり，顔馴染みの関係を築くことにより，青少年の健全育成の効果も高まっている。また，高齢者にとっては見守り活動や学習支援が楽しみとなり，地域住民の生き甲斐にもなっている。
学習支援や伝統芸能の「牛尾棒踊り」の歴史授業，カヌー体験，食育の授業等，多岐に渡る積極的な支援は，子供たちの心豊かな成長につながっている。

● その他

・「牛尾っ子サポーター」が，新型コロナウイルス感染症の予防のため，全児童に手作りマスクを送った。
・校区のシンボルでもある高熊山公園の清掃作業を「高熊山緑の少年団」の活動の一環として年4回行っている。

「牛尾っ子見守り隊」による交通安全教室

運動会での「牛尾棒踊り」披露

こんな活動です

笑顔と緑と夢のある学校　信頼される学校を目指して ～地域と共にある学校の推進～

沖縄県名護市	●活動名	●関係する学校名
	緑風学園学校運営協議会	名護市立小中一貫教育校緑風学園

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	ー		
	ー	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 75人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://sw.city.nago.okinawa.jp/ryokufu/				
●連絡先	名護市教育委員会　学校教育課	☎ 0980-53-1212			

国指定天然記念物「嘉陽層の褶曲」
8･9年生褶曲観察カヤック

●活動の概要・経緯

名護市立小中一貫教育校緑風学園学校運営協議会は、名護市のコミュニティ･スクールのモデル校として平成30年4月にスタートをした。学校･家庭･地域の連携、融合を図りながら「ふるさとを愛し、たくましく生きぬく、緑風の子の育成」の理念の下、活動を行っており、地域の過疎化･環境保全活動･伝統行事の継承などの地域課題の解決、地域づくりの一環として学校運営に取り組んでいる。地域学校協働活動の活動母体である「緑風ファミリーネット」の3部会（学習支援部会、地域連携部会、調査研究部会）と綿密に連携をし、9年間の学びを意識した「緑風スタンダード」を活用した日常的な授業改善に取り組んでいる。 特に、学習支援部会主体のふるさと学習、読み聞かせ、地域連携部会主体の清掃活動の緑風グリーンDay、地域行事への参加参画、地域ボランティア活動の支援を積極的に行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

･緑風学園は、少子高齢化（H31年二見以北10区高齢化率：37.0％）の影響を受け、9年前に4つの小規模小学校と1つの中学校が統合をして誕生した。このような背景の中で、「児童生徒が主体的に”地域で”学び、探究的な見方･考え方を働かせ、系統的･継続的な学習を通して課題を解決し、自己の生き方を考えることができるようになること」を目的に地域と学校が協働活動を行っている。
･9年間の学びを、前期「気づき･知る」、中期「深める」、後期「広げる」の3段階に分け、段階的で継続した地域の学習を組み込んでいる。その中で二見以北10区の区長及び地域住民をはじめとした多くの皆様（●人的資源）の協力を得て、「●地域資源（自然･文化歴史等）、●地域の連携機関（社会関係資源）の多方向から指導支援体制を整え、協働活動を推進している。

【実施に当たっての工夫】

･地域資源に精通した地域学校協働活動推進員が授業づくりに参画･視察を行っている。9年間の学びのねらいを「地域連携協働授業シート」を活用しながら教員と共有し、綿密な協働･改善しながら総合学習を行っている。更に、学校と地域との橋渡しを推進員が行い、教員が年々変わっても安定した学びの場の提供を実現している。

【関係機関・団体等との連携状況】

･学校運営協議会として地域情報（人口の推移等）を丁寧に考察することで、地域が求める児童の未来像を丁寧に拾い上げ、授業の狙いとの相乗効果をいかにして出すかを常に意見交換し、協働できるよう配慮している。
･地域性を生かした多様な人的資源及び多様な連携機関と「地域連携協働授業シート」を基に授業のねらいを明確化し、協働して学習習熟度の向上に努めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

･海、川、山、歴史文化と多様な環境に恵まれた小規模校である特色を生かし、ふるさと学習（総合学習）の充実を目指した特色ある教育環境であることから小規模特認校として校区外からの児童生徒の受け入れが進んでいる。校区内の児童生徒数が減少傾向の中、小規模特認校制度を活用した校区外（通称：新区）からの学校の児童数が増加し、在籍数の減少に歯止めが効いている。
･前述した校区外（通称：新区）在籍児童生徒及び保護者の組織化に取り組み、地域との繋がりの造成に励んでいる。
･ふるさと学習「褶曲カヤック」体験時の生徒の感想では、自然の豊かさや人々とのふれあいに感動すると共に、その担い手としての心構えを感じさせるものが多かった。

● その他（連携機関）

企業：沖縄美ら島財団（美ら島自然学校）、わんさか大浦パーク、じゅごんの里、じんぶん学校、JA久志支店
地域団体：二見以北10区各区公民館及び老人会等団体、NPO法人久志地域観光交流協会、名護漁港汀間支部
行政機関等：周辺教育機関（高専/大学等）、地域包括支援センター、名護市（久志支所/教育委員会/文化財課等）

地域企業との連携による
3年生ふるさと学習
「ウミガメについて」

地元農家との連携による
5年生ふるさと学習
「お米作り」

こんな活動です

地域に誇りと愛着を持ち、たくましく生き抜く屋我地っ子の育成を目指して

沖縄県名護市	●活動名	●関係する学校名
	屋我地ひるぎ学園学校運営協議会	名護市立小中一貫教育校屋我地ひるぎ学園

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 33人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://sw.city.nago.okinawa.jp/yagaji-s/				
●連絡先	名護市教育委員会　学校教育課	☎ 0980-53-1212			

令和元年度　美ら島タイム（総合学習）
地域ガイドとアジサシ観察（5年）

●活動の概要・経緯

平成28年度から2年間の学校運営協議会設置推進検討懇話会活動を経て、平成30年に学校運営協議会を設置。「地域に誇りと愛着を持ち　たくましく　生き抜く　屋我地っ子の育成」を基本理念に掲げ、「ひるぎネット」の学習支援部会・地域活動部会・安全環境部会と連携を取りながら、名護市教育委員会指定のコミュニティスクール実践研究指定校として取り組みの充実を図ってきた。　主な活動として、●学習支援部会：「屋我地島で学ぶ」9年間、学びと育ちの宝島屋我地♡Islandの継続、美ら島タイム（総合学習）の支援　●地域活動部会：「学校・地域連携カレンダー」の継続、地域のすべての字（あざ）への行事参加・地域貢献活動参加への支援　●安全環境部会：PTA環境整備部とリンクした取り組み（朝の見守り活動、月１回の環境整備作業、夜間のパトロール）を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

総合的な学習の時間の取り組みとして、美ら島タイムがある。恵まれた地域資源を活用した体験的な活動や探究的な学習を通して、総合的に追及する方法を身に付け、地域の特徴や現状の中からより深めたい課題を主体的に設定し、多様な他者と協働して課題を解決するとともに、地域に対する誇りと愛着をもち、自己の生き方を考えることができるようになる授業づくりのサポートを全面的に行っている。

学年ごとに地域学習の内容は様々で、担当する地域の住民の方と教員が連携を取り、学びの狙いを共有しつつ、9年間の横断的な学習の場を協働して行っている。

【実施に当たっての工夫】

9年間で地域の方が授業や学校経営にどのように関わっているかを示した、「屋我地島で学ぶ」9年間、を作成。一目で学校、児童、地域のかかわりを理解できる一覧表があることで、学校経営に関わる全ての教員、保護者、地域住民が情報交換や連携を取りやすくなっている。地域の顔が見えることで、児童生徒を地域が見守り・育む、主体的な意識が年々高まっている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会にて授業の取り組み、地域行事との連携状況を共有し、企業、地域住民とより良い取り組み、連携が取れるように更なる協議を行っている。青少協や区長、青年会など、各地域の代表者が委員として委嘱されているため、それぞれの立場の意見を的確に協議に反映し、改善に取り組むことができている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

●地域と連携した指導体制が評価され、児童・生徒の人数が増加傾向にある。（平成28年：99名⇒令和元年：158名）
●学校アンケートの設問で、「自分には良いところがありますか」「人の役に立つ人間になりたいか」の問いに100%の児童が「はい」と答えている。年間を通した地域学習、地域との協働活動を行うことで、地元の自然、地域資源に関する興味、を基礎とした自己肯定感が育まれている。

● その他

児童・生徒に対する「美ら島タイム」（総合的な学習の時間）の指導体制に、屋我地支所、愛楽園、名護博物館、JAおきなわ、美ら島財団、GODAC、名桜大学、沖縄高専、地域の企業や各公民館との連携が大きな役割を担っている。

令和元年　屋我区地域ボランティア活動

地域事業者との連携による美ら島タイム　みつばち教室（４年）

こんな活動です

学校と家庭と地域が協働し、地域の子供とともに再発見！
～人と人がつむぐきずなの実感～

沖縄県うるま市	●活動名	●関係する学校名
	南原小学校地域学校協働本部	うるま市立南原小学校

協働活動開始年度	平成　24　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成24年5月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 1088人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://minamihara-sho.edu.city.uruma.okinawa.jp/				
●連絡先	うるま市教育委員会　生涯学習スポーツ振興課	☎ 098-989-3110			

●活動の概要・経緯

学校のPTAや子供会、自治会の方々が「自分たちの住んでいる学校の助けになりたい」という気持ちから地域学校協働活動を開始。小学校の放課後子供教室から始まった当活動も、登下校の見守り、放課後学習支援、授業の補助と、年々活動の幅を広げている。また、本校の敷地内にある放課後学童クラブの連携事業や、地域コーディネーターと学校職員で協働し、学校の授業の中での活動も取り入れている。参加協力団体も、公民館や行政だけではなく、民間企業と連携することで、学校内だけの活動にとどまらず、世界遺産を活用してのイベントや地域のボランティア活動などの取り組みも行ってきた。

平成30年度からは地元企業と連携した地域振興活動も開始したほか、平成31年度からは学校運営協議会（コミュニティースクール）が設置され、地域コーディネーターや民生員、地域の区長をはじめ地域の社会教育団体も運営委員に委嘱されている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

「地域の子供たちは地域の大人たちで育てよう」を合言葉に学校運営協議会のメンバーに区長や区の社会教育関係団体の長が入っていることで学校の課題や要望にすぐ対応できる。特に子供教室では、学校内だけの活動ではなく、積極的に地域人材を発掘したり、教育委員会や民間企業のイベントに参加をし、安心安全な子どもの活動拠点を設け、学習やスポーツ・文化活動、地域振興の交流等の機会を年間170回提供した。地域の方々のボランティアの熱意も高く、多くの子供たちが学校の内外で活動を支えてもらい、その保護者も積極的に関わっていく変容も見られた。

土曜日や長期休暇を活用して地域文化の継承を目的とした方言大会への参加や和太鼓の活動も開催している。

【実施に当たっての工夫】

実施にあたっては地域コーディネーターが学校と常に連絡調整し、地域の人材をコーディネートしながらプログラムを作成している。その際、学校の授業内容やねらいなども意識することで学校と地域の取組がつながるようにしている。また、学校内に地域連携室という場所を確保し、地域の方がいつでも気軽に活用できるよう工夫をしている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会において活動の報告や検証などを行い、学校と地域の双方の意見を聞きながら毎年より良いものにできるよう取り組んでいる。また、放課後学童クラブの代表や居場所づくりの事業所も運営委員となっていることから、放課後の活動についても連携・協働しながら検討し、実践をサポートしている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

地域学校協働活動に参加してくださる方々は退職後の楽しみとして見守り活動や放課後子供教室のボランティアを積極的にを引き受けていただいており、地域住民の生きがいになっている。また、学校としても放課後の安全対策や子供たちの学力向上、豊かな成長の助けになるということで積極的に協力していただいており、よりよい関係性を築けている。特に、この取組により地元企業等と学校がつながったことで、学校本来の授業（職業体験等）でもそのネットワークの活用ができている。

子供たちに対しては、毎年実施しているアンケートで、「地域の方に支えられている」という回答が年々増加しており、昨年度のアンケートでは8割以上の児童が「地域の人に支えられている」と回答していたため、取組の成果を実感している。

● その他

地域にある世界遺産の勝連城跡で、ラジオ体操やナイトウォークラリーなどのイベントの実施。

地域人材を活用した英語学習

地域の工房で染め物体験

こんな活動です

豊かな心と豊かな学びを育む地域学校協働活動
～スクールサポートネットワークを活かして～

埼玉県さいたま市	●活動名	●関係する学校名
	谷田小学校スクールサポートネットワーク	さいたま市立谷田小学校

協働活動開始年度	平成　22　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 637人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://yada-e.saitama-city.ed.jp/				
●連絡先	さいたま市立谷田小学校	☎ 048-882-2980			

●活動の概要・経緯

創立148年の本校は，代々本校卒業生の家庭が多く，日頃の支援のほか創立記念行事では地域を挙げて祝うなど，学校への惜しみない協力の精神に溢れている。平成10年以降は，平成16年度「特色ある学校づくり指定校」として芝生ボランティアが発足し，校庭全面の緑美しい芝生を維持し続けている。平成17年には，防犯ボランティアと読み聞かせボランティアが発足し，組織的・継続的な活動を展開している。また，平成21年に学校地域連携コーディネーターが配置され，平成22年度にはスクールサポートネットワーク(SSN)を立ち上げ，関係団体の連携・協働による学校支援体制が確立した。平成22年度にチャレンジスクールが開設され，箏教室開設時には各家庭から50面以上の箏が提供された。平成31年度からは，コミュニティ・スクールの準備を始め，令和2年度に学校運営協議会準備委員会を発足し，令和3年度に学校運営協議会を設置する。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

⑴チャレンジスクール(月，木，土)は専門講師を招いて，箏や囲碁等の常設教室，陶芸等の体験教室，租税・主権者教育等多様な講座を実施している。⑵芝生ボランティアは，毎日芝生の手入れを行い，緑化整備も行っている。⑶「なでしこ読み聞かせの会」は，定期的な読み聞かせのほかPTAや教職員と協働の「読み聞かせフェスタ」等の開催，図書環境整備等を行っている。⑷育成会は，「やだっ子広場」や「凧作り・凧揚げ大会」等世代を超えた児童・保護者・地域の交流を深めている。⑸PTAや地域の様々な学校支援ボランティアが定着し，SSN会議を中心に情報を共有しながら，毎日の見守りや挨拶運動など，精力的な活動を展開している。

【実施に当たっての工夫】

⑴SSNを通して関係団体等の調整を図ることで計画的・組織的な連携が図られている。⑵①校長等による毎日の地域巡回，地域行事等への参加・協力等相互関係の構築②毎月の学校だより等の個別配布や学校Webページの活用等の積極的な広報活動③学校行事への招待や感謝の会の開催等により，相互の関係性が深まった。

【関係機関・団体等との連携状況】

⑴SSN会議や広報活動を通して，NPO法人や民間等と連携した体験学習を開催する等，各団体の強みが生かされ情報共有が図られて，地域学校協働活動が活性化し，充実してきている。⑵令和3年度からは学校運営協議会とSSN会議の有機的な連携を図り，今まで以上に地域の意見を反映させた取り組みを推進していく。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

⑴チャレンジスクールが充実し，開設当初は年35回60人程度だったが，現在は年50回145人で定員を超える。⑵「やだっ子広場」等の行事が児童・保護者に大変喜ばれ定着している。⑶「やりがいがある」「元気がもらえる」と運営協力者がやりがいを感じており，地域の活性化に役立っている。⑷感謝の会等の交流を通して，日頃も地域の方に御礼を言ったり手伝ったりする児童が増え，地域の方から褒められることが増えた。⑸以前は会議に不参加だった方々が参加するようになる等，積極的な協力者が増え，和やかな校風が築かれている。⑹令和元年度学校評価で，学校・保護者・地域の連携・協働を良好と評価する保護者が99．7%と大変多く，そのうち最も良いA評価でも77．3%に達していた。

● その他

平成30年度より，土曜チャレンジスクールで日本漢字能力検定試験コースを加えたことで，谷田小学校の全児童を対象としたチャレンジスクール主催の漢字検定試験を，谷田小学校を会場として行い，毎年120人程度の児童が受検している。

日本陸連ジュニアコーチの卒業生を特別講師として開催した「かけっこ教室」

青少年育成谷田地区会を中心として毎年開催しているお祭り「やだっ子広場」

こんな活動です

さくら草　明日に夢ネット！
～ノーマライゼーション社会の基点として，地域との共生意識の涵養～

埼玉県さいたま市	●活動名	●関係する学校名
	さくら草スクールサポートネットワーク	さいたま市立さくら草特別支援学校

協働活動開始年度	平成　24　年度	学校運営協議会	指定･設置日 令和4年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 98人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://sakurasou.saitama-city.ed.jp/				
●連絡先	さいたま市立さくら草特別支援学校	☎ 048－712－0395			

本校高等部の生徒と市立浦和南高等学校漫画研究部が交流及び共同学習を通じて考案したマスコットキャラクター「プリムローズ　そら・くう・さく・さら」

●活動の概要・経緯

本校は，小学部･中学部･高等部で構成され，肢体不自由と知的障害を併せ有する児童生徒37名が在籍し，開校9年目を迎える。開校以来，児童生徒が近隣地域宅に訪問し，学校だより等を届ける活動，地元の福祉施設や企業での社会体験活動を展開してきた。触れ合いが深まるに連れ，地元の住民や自治会はじめ，社会福祉協議会，近隣の高校，専門学校，大学の学生による支援活動の和が広がってきた。現在では，校地内の花卉栽培，学校行事の運営支援，コンサートや交流作品展など，地域や諸機関と学校との協働活動が定着しつつある。また，地域のロータリークラブやプロスポーツチーム，民間企業，障害児福祉施設などとの連携も進められている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

地元住民や地元ボランティア団体，手話サークル，ロータリークラブ，近隣幼稚園などと連携し，「ふれあいコンサート」を定期的に開催している。プログラムは，手づくり楽器による全員合奏，手話披露，ＰＴＡ合唱や園児の踊りなど，児童生徒とのふれあいを中心とする全員参加型とし，地域ぐるみの文化音楽活動を展開し，学校理解を図るとともに連携協働体制の深化に繋げている。また，高等部では，福島県いわき市で展開されている地域活性化事業「オリーブプロジェクト」に協力するため，地域のボランティアの方々とともにオリーブの挿し木作業に取り組み，育てた苗木を現地に届ける活動を展開している。

【実施に当たっての工夫】

学校地域連携コーディネーター（地域学校協働活動推進員等）が中心となって，学校と地元自治会や社会福祉協議会，関係する団体との連絡調整を担い，学校の狙う目的に沿うような活動内容となるよう擦り合わせをしている。また，活動の事前打合せ会や事後評価の情報提供などに配慮し，持続可能な取組に繋がるように工夫している。

【関係機関・団体等との連携状況】

スクールサポートネットワーク協議会で，日常の教育活動の様子や地域の方々や関係機関等と児童生徒の係わり状況などについて，動画や写真による報告にもとづいた意見を交換することによって，協働活動の工夫改善点が得られるとともに，メンバー間の相互理解や信頼関係が深まり，学校との連携体制が一層強くなってきている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

本校は，歴史が浅く通学区域が広範囲に渡っており，所在地近隣住民に対して，特別支援教育への理解促進と連携協力体制の構築が大きな課題の一つとなっていた。地域宅への訪問活動や学校行事等への積極的で粘り強い参加協力依頼，教育活動の積極的な情報発信を通して，応援団体が年々増えてきた。現在では，25の団体や機関から支援を受けており，幅広い年齢の多様な方々とのふれあい活動に繋がっている。また，年度末に実施している学校評価結果においても，地域との連携した教育の効果については，教職員，保護者ともに肯定的な割合が増えている。地域学校協働活動によって，児童生徒，保護者，教職員，参加者の皆さんの笑顔が増えてきており，地域に根ざした学校となりつつある。

● その他

地域の方との交流を大切にしている。毎年地域の方を招いて「ふれあいコンサート」を開催している。令和元年度はさいたま欅ロータリークラブと共催でズーラシアンブラスの演奏を楽しんだ。また，浦和レッズとの交流では校内の花壇にバラの植栽を行った。

地域へのお手紙配り

ボランティアの方々とのオリーブ挿し木作業

こんな活動です

学校運営協議会を核とした地域の絆づくり活動

埼玉県さいたま市	●活動名	●関係する学校名
	桜山中学校スクールサポートネットワーク	さいたま市立桜山中学校

協働活動開始年度	平成 23 年度以前	学校運営協議会	指定・設置日 令和元年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 61人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://sakurayama-j.saitama-city.ed.jp/				
●連絡先	さいたま市立桜山中学校	☎ 048-794-4061			

●活動の概要・経緯

桜山中学校では，桜山中学校スクールサポートネットワーク協議会を設置し，学校と地域諸団体等との連携・協働推進の要となる学校地域連携コーディネーターのコーディネートのもと，諸団体間での情報交換や，地域学校協働活動等を行っている。さらに，平成31年度，さいたま市教育委員会より桜山中学校・東岩槻小学校連携のコミュニティ・スクールモデル校の指定を受け，令和元年度より小・中連携のコミュニティ・スクール実践校として，学校運営協議会を設立した。桜山中学校・東岩槻小学校の児童生徒の健全育成をねらいとしながら，「基礎学力の向上」と「豊かなかかわりの充実」をテーマに，学校運営協議会として出来ることを探究・実践している。桜山中40周年を学校・地域で祝うことや，両校の土曜チャレンジスクールでも連携していくとの学校運営協議会の決議を受け，学校運営協議会主催による音楽会を実施したり，小学校で実施している漢検を中学校の土曜チャレンジスクールでも導入・実施したりする等，小・中連携を意識して地域とかかわり合いながら様々な地域学校協働活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①「あいさつが大事。」をモットーに，小・中両校で「あいさつ運動」を実施している。中学校では，登下校時に教職員が挨拶に立ち，生徒会・保護者も「あいさつ運動」を行なっている。また，冬季に小・中学生が合同で「あいさつ運動」を展開している。

②土曜チャレンジスクールでは，地域住民等のボランティアが自主学習をサポートし，生徒の学びの向上を支えている。小学校で実施している「漢検」を導入する等，新たな取組も行っている。

③「豊かなかかわりの充実」の一環として，学校運営協議会主催の音楽会を開催し，小・中両校と地域住民の協働による「地域とともにある学校づくり」を進めた。吹奏楽団による演奏や，楽団と児童生徒との競演等，本物の芸術に触れさせることにより，子どもたちの豊かな感性をはぐくむことができた。

【実施に当たっての工夫】

・学校も各地域諸団体もそれぞれ独自に活動を行っているため，連携行事は前年度に協議し，次年度の日程を決定。

・学校地域連携コーディネーターが活動時の事故がないように，事前打ち合わせの際に手順や進め方，安全面等について助言・指導。

・地域の活動を充実させるため，参加人数を確保できるよう，効果的な広報を実施。

【関係機関・団体等との連携状況】

桜山中学校スクールサポートネットワークでは，学校運営協議会と密接な連携を図っている。学校運営協議会のメンバーは，地域自治会長，民生児童委員，福祉協議会長，幼稚園，保育園，養護施設園長，両校PTA会長等の29名で構成される。前述のとおり，学校運営協議会の決議を受け，令和元年度は，「学校運営協議会主催音楽会」等の地域学校協働活動を実施した。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

桜山中学校・東岩槻小学校の学校運営協議会を中心に，両校関連の連携・協働が進み，地域にも活気が生まれている。小・中合同で開催した音楽会は，児童生徒，教職員，保護者，地域住民や教育長，区長等合わせて730人が参加する盛大なもので，夢の時間を共有することができた。参加者からは，「地域で実現した音楽会のモデルケースとなったと思う。」「音楽会で唄い踊っていた子どもたちの表情は忘れられません。」等の声が聞かれた。従来の学校評議委員会の枠組みよりも，学校運営協議会はスケールが大きいため，実行力もある。今後も学校運営協議会とスクールサポートネットワークとが密接な連携や情報交換を図りながら，地域学校協働活動を実施していく。

● その他

中学生職場体験事業「未来（みら）くるワーク体験」では，地域の事業所が生徒を受け入れてくれている。（令和元年度受入れ事業所数：20）

学校運営協議会主催の音楽会

土曜チャレンジスクール

こんな活動です

地域と学校をつないで西が岡の子どもたちに大きな心の財産を！
～色とりどりの豊かな活動「地域交流室」～

神奈川県横浜市	●活動名	●関係する学校名
	西が岡小学校地域学校協働活動	横浜市立西が岡小学校

協働活動開始年度	平成　23　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成23年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人		
ボランティアの数	延べ登録人数 35人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/nishigaoka/				
●連絡先	横浜市立西が岡小学校	☎ 045-814-3603			

●活動の概要・経緯

3名の学校・地域コーディネーターが中心となり、学校と、地域の人材・各方面の団体・学校運営協議会等をつなぎ、様々な実りある活動を実現してきた。平成23年11月より、9年にわたり毎月第4土曜日の午前中、子どもたちや保護者と地域の方の憩いの場となるよう、図書室等を「地域交流室」として開放し、ミニコンサートや夏休み親子木工教室・プログラミング教室・卓球教室など、潤いのある豊かなイベントを企画・運営し、多いときには100名を超える児童や保護者が参加している。また、年間を通じ、地域の人材を、生活科や総合的な学習等における「昔遊び」「昔体験」「畑づくり」「ジャム・パンの開発・販売」などに積極的に「地域の先生」として招聘し、子どもたちのより意欲的かつ主体的な学習活動を実現し、それが子どもたちの心の財産となるよう地域連携に力を入れている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

【地域交流室】子どもたちや保護者と地域の方の憩いの場として、図書室を開放してイベントを企画運営（令和元年度の実施内容：ミニ音楽会、夏休み親子工作教室、本のメンテナンス、ロボラボプログラミング教室＆トライサイエンス教室、卓球教室など）
【学校運営支援】中学校との交流、「総合的な学習の時間」の成果を地域で発表、地域清掃、地域防災拠点訓練との連携、シニアクラブ見守り隊による下校時間に合わせたパトロール
【教育活動支援】読み聞かせボランティア「おはなしクレヨン」、昔遊び体験、ガーデニングボランティア、クラブサポーター、家庭科サポーター

【実施に当たっての工夫】

〇3名の学校・地域コーディネーターが、学校を拠点として、地域の力を生かした学校運営支援を目的に、学校と地域のパイプ役として活動している。
〇地域学校協働活動推進員のきめ細やかなコーディネート力により、学校運営協議会において地域学校協働活動についての検討・周知・共通理解が行われ、学校運営協議会と地域学校協働本部の一体化が図られている。

【関係機関・団体等との連携状況】

「学校・地域コーディネーター便り」を年間通して発行し、学校運営協議会において活動の報告や情報共有をしている。学校と地域の双方の意見を聞きながら毎年よりよいものにできるよう取り組んでいる。また、地域交流室においては、建設業人材育成支援センターやICT関連NPO「ユーオス・グループ関東支部」の支援を頂きながら、毎年継続的に企画・運営してきた。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〇協力的な保護者、地域人材により、活発な活動が行われている。
〇毎年充実した学校ホームページが作られ、学校の様子や取り組みを地域や保護者とともに共有している。
〇学校・地域コーディネーターの企画・運営する土曜事業は、100名以上参加する会もあり、毎回盛況である。地域と触れ合うことで、子どもたちが自分たちの町を大切に思う気持ちが育っており、令和元年度学力・学習状況調査の生活意識調査において、「まちの行事に参加していますか」の回答は横浜市の平均を超えている。生活意識全6項目の中で、校内では最も高い得点であった。

● その他

平成23年度より始まった「地域交流室」の様子。開催された教室は、すでに70回を超える。

神奈川土建横浜戸塚支部の職人さんの指導のもと、マガジンラックなどの作品を、親子で作り上げた。

令和元年十月に行われたロボプログラミング教室＆トライサイエンス教室。79名が参加した。

こんな活動です

地域や保護者の想いを集めた「したのやおひさまクラブ」による教育の創造

神奈川県横浜市	●活動名	●関係する学校名
	下野谷小学校地域学校協働活動	横浜市立下野谷小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成30年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 7人		
ボランティアの数	延べ登録人数 229人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/shitanoya/				
●連絡先	横浜市立下野谷小学校	☎ 045-501-2312			

●活動の概要・経緯

「したのや　おひさま　クラブ」は、学校・地域ボランティアの総称である。約15年前から学校とPTAによる協力を「チームしたのや」とし、「おひさま」をマスコットとしていたが、ここ数年で関わりが減少している様子が見られた。そこで、職員室アシスタントを地域コーディネーターの方に依頼し、地域や保護者によるボランティア団体を立ち上げたところ、登録者は140人を超えた。 新1年生入学後の新生活のサポートとして、地域や保護者によるボランティアが2年目を迎える。1年生より「おひさま先生」と名付けられ、成果を上げることができた。また、令和2年度も、それぞれの学年に合わせた生活支援、学習支援、校外活動の引率など、学校生活を豊かにする環境づくりを目指し、幅広く活動している。その結果、PTA活動も多くのボランティア活動として引き継がれ、PTA活動の負担軽減につながった。また、参加児童が減少していた地域行事に学校全体で参加する体制を作り、地域の活性化と連携強化につながった。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〇「おひさま先生」新1年生の生活サポートで開始。結果、年間を通して1年生、2年生の全クラスに毎日生活支援と学習支援に。
〇教室等での学習支援、給食・清掃時の見守り、校外学習の引率補助、七輪体験や調理実習、ミシン縫いの補助等の支援。
〇絵本の読み聞かせ、体育館での発表会、休み時間の折り紙教室等を通しての地域との交流。
〇校内環境美化支援活動や地域防災訓練等への児童や教職員の積極的な参加。
〇日曜日の地域行事を登校日に設定し、全校で参加。また、自治会やPTAによる「したのやまつり」にブース出展
上記のような様々な場面でのボランティア活動は、学校生活の安全・安心及び子どもたちの豊かな学びにつながるものである。

【実施に当たっての工夫】

学校は、低学年から地域の大人に安心して見守られる幸福感を持たせたいという願いを地域と共有しスタートしたところ、多くの賛同を得られ、協働活動となった。学校の現状を十分に理解した元PTA会長がコーディネーターのメンバーの中心となり、ボランティア登録を進めた。

【関係機関・団体等との連携状況】

〇区の補導員の方とつながりをもてたことで、毎日、全クラスの見守りパトロールをしてくれている。
〇地域におられる学援隊の皆様との日々の交流を広げ、年度の始めと終わりに全校での感謝の会につなげている。メダカをいただいたり、消防団を題材に授業化することにつながった。しかし、学援隊の活動に対する保護者理解が深まっていなかったので、地域の校外委員の皆様が学援隊の方にインタビューしたり、想いや願い、ご苦労などを伺ったりして、「校外だより」として保護者に発信し、保護者の理解を深めることができた。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

多くの大人が、子どもたちにしっかりと向き合って話を聞いてあげることができるようになったこと、そのうえで地域とともに規範意識の醸成を図ったことが子どもたちの安心と安全につながった。地域学校協働本部は、学習支援や校外学習の見守りのほか、学校の指導の意図を汲み、家庭教育のハブとして、地域や家庭とをつなぐ役割を果たしている。また、環境整備や学習ボランティアの活動により、子どもたちが落ち着いて学習し、体験的な豊かな学びの中で、学校生活を楽しむことができている。各学級で支援を必要とする児童も多い中で、一人一人に寄り添って生活面や学習面でのサポートが手厚くなり、学級集団に落ち着きと成長が見られるようになってきた。

● その他

上記のボランティアとは別に、横浜市の事業である特別支援教育支援員として地域の方が10名ほど登録してくださり、支援を必要とする児童に対して、よりかかわりをもつ機会を増やすことにつながっている。

「おひさま先生」による学習支援は、会話も弾み、笑顔が教室に広がります。

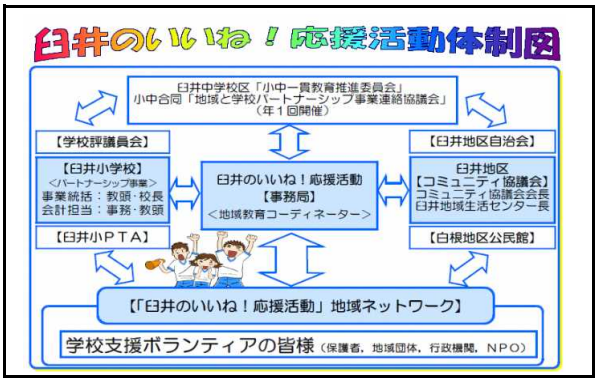
「したのやまつり」午前中は学習発表会、午後は模擬店が出展されます。地域の方が感謝状を贈呈しています。児童が

こんな活動です

「臼井のいいね！」を発見・体験・実感して発信しよう ～臼井小だからこそできる特色ある教育活動の推進～

新潟県新潟市	●活動名	●関係する学校名
	臼井小学校地域学校協働本部	新潟市立臼井小学校

協働活動開始年度	平成　22　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和4年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		4人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
	３１６人				
参考URL	http://blog.city-niigata.ed.jp/usuiweblog/html/				
●連絡先	新潟市教育委員会地域教育推進課	☎ 025-226-3277			



●活動の概要・経緯

学校に対して非常に協力的な地域・保護者に見守られながら，子供たちは健やかに成長している。そのような状況を受け，学校は，子供を地域・保護者と共に育てていくという理念を掲げ，地域行事や伝統芸能等への積極的な参加を推進し，相互補完による連携を図ってきた。近年は，「社会に開かれた教育活動」の実現に向けて，『「臼井のいいね！」を発見・体験・実感して発信しよう』をテーマに，当校だからこそできる特色ある教育活動を推進している。主に，生活科や総合的な学習の時間において，地域の方々とかかわり合いながら地域を調べたり，体験したりする活動を通して，臼井のよさを発見し，体験し，実感したことを発信する活動に取り組んでいる。また，ボランティアによる「読み聞かせ」や，各種外部団体と連携した「親子料理教室」や地域と連携した「防災教育」等，たくさんの外部人材に支えられながら，教育活動を進めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

○各学年が，「ひと・もの・こと」とかかわり合いながら地域を調べたり，体験したりする活動を位置付けている。1年生は「昔の遊び体験」や「花の苗植え」，2年生は「野菜栽培」や「まち探検」，3年生は地域行事の「狸の婿入り行列」への参加，4年生は臼井地区を流れる「信濃川学習」に取り組み，その重要性を学んだ。また，3・4年生では伝統芸能の「臼井棒踊り」を地域の方からご指導いただき各種行事で披露した。5年生は「稲作体験」や「食用バラ」，6年生は地域での「職場見学・体験活動」等，様々な活動に取り組んだ。
○文化祭では，「臼井のいいね！体験活動」をテーマに，公民館，スポーツ振興会，臼井棒踊り振興会等の方々からご協力を得て，子供たちがそれぞれの体験ブースで，プラネタリウムによる天体観測や凧揚げ体験に取り組んだ。

【実施に当たっての工夫】

○地域と学校パートナーシップ事業推進会議を中学校区合同で行うことで，臼井地区の各種団体や有識者らとともに，広く意見交換ができるようにして，さらなるボランティアのネットワーク拡充に努めている。
○地域と学校が共に教育活動を推進している成果を，パートナーシップ通信や学校便り，HP，校内アピールサロンで広報している。

【関係機関・団体等との連携状況】

○臼井地区公民館と連携し，夏休みや文化祭では，プラネタリウム教室やレジン作り講座を実施した。
○地域教育コーディネーターを中心に，学校，保護者，臼井地区自治会・公民館，そして各種団体が，子供をサポートすることを目的とした「臼井のいいね！応援活動」というネットワークを形成し，相互補完の連携を図っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○3年生が臼井地区まつり「狸の婿入り行列」で披露した「ポン太のハッピー音頭」が，運動会の全校・保護者・地域種目へと発展し，異学年グループで踊る子供たちの輪の中に保護者や近隣住民も一緒に入り，地域が一体となる雰囲気が生まれた。
○5，6年生の「臼井のいいね！発見活動」発表会を，南区教育支援センター指導主事や地域の参観者を招いて行った。子供たちは，地域の方々とのかかわりの中でさらに学びを深めることができた(生活意識調査：「地域の方々からの話やアドバイスを聞いて分かったりできたりすることがよくある」のアンケート項目の肯定的評価が前年比で5ポイント上昇し，96％となった)。

● その他

上記の他にも，読み聞かせ団体の「どんぐりコロコロ」「臼井地区青少年育成協議会」「臼井地区樽砧振興会」「臼井地区みどりの会」「臼井地区桜寿会」「ふるさと未来創造堂」等，たくさんの団体・施設と連携・協働している。

「臼井地区樽砧振興会」による樽太鼓体験を楽しむ子供たち

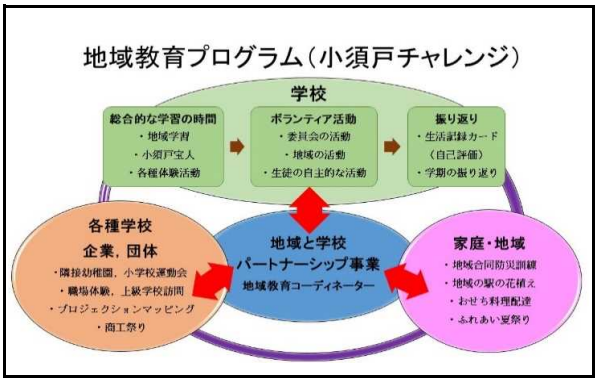
「ふるさと未来創造堂」による地域合同防災訓練に参加する子供たち

こんな活動です

小須戸チャレンジ 地域に貢献
～中学生の私たちも地域の一員～

新潟県新潟市	●活動名	●関係する学校名
	小須戸中学校地域学校協働本部	新潟市立小須戸中学校

協働活動開始年度	平成　22　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和4年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 442人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://www.kosudo-jh.city-niigata.ed.jp/				
●連絡先	新潟市教育委員会地域教育推進課	☎ 025-226-3277			



●活動の概要・経緯

学校の所在する小須戸地区は，信濃川の船着き場から栄えた在郷町（ざいごうまち）である小須戸地域と，北国街道が通った里山がある矢代田地域からなる。小須戸地域は，在郷町の町屋景観の保護，矢代田地域は里山などの地域資源の活用を中心に，それぞれ町おこしに取り組んでいる。また，小須戸地域では夏の「商工会祭り」や「小須戸灯籠祭り」，矢代田地域は「山の手地区ふれあい夏祭り」を行い地域住民のつながりが強い。しかし，少子高齢化が進行し，子どもたちにとって多様な人々とのふれ合いや活動できる場が少なくなってきている。このような現状において，地域の担い手である子どもたちが地域を知り，地域の活動に参加し，地域の課題解決に向けた地域貢献活動やボランティアに取り組むことは，子供達が将来に渡って夢や志を持ち自己実現を図ることや地域人材の育成の面からも必要な取組と捉え，「小須戸チャレンジ」を実施するに至る。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①地域の自治会と協力し，地域ごとに学年縦割り班をつくり，地域合同防災訓練を実施。
②地域教育コーディネーターが講師となり地域の自然や町屋の見学，地域で活躍する人物（小須戸の宝人）や企業の取材。
③地域貢献活動として，「通学路のゴミ拾い」，「駅のプランターや花壇の花植え」を幼稚園・小学校と合同で実施。
④地域で開催される祭り（ふれあい夏祭り，商工祭り）にボランティアとして参加し，会場準備やゲームコーナーを担当。
⑤幼稚園や小学校の運動会の準備や道具の出し入れなどの支援活動にボランティアとして参加。
⑥コミュニティ協議会と中学生が協力し，75歳以上の単身の高齢者世帯および障がい者世帯を訪問し，おせち料理を配達。

【実施に当たっての工夫】

○ボランティア活動を①「ボランティアの良さを知る」→②「地域で実践」→③「自ら進んでボランティア」と段階的に進めている。
○ボランティア活動の取組の様子を，生徒会の広報（壁新聞）や昼の放送で全校生徒に伝え，参加者の意識を高めている。
○振り返り活動を重視し，ボランティアを行った後は，振り返りカードや生活の記録に記入させ，自身の成長を意識させている。

【関係機関・団体等との連携状況】

○地域教育コーディネーターが学校と地域の橋渡しとなって，地域合同防災訓練では，（NPOふるさと未来創造堂，新潟薬科大学，地域の自治会），駅の花植えでは，（山の手花の会，花水隊，幼稚園，小学校），地域の祭りでは，（小須戸・山の手コミュニティ協議会）（小須戸商工会）などと連携を深めている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

○地域学習で小須戸地区で活躍する人物（小須戸の宝人）や企業の代表者からの取材を通して，キャリアを形成する上で，夢や志を持つことの大切さを子どもたちは意識するようになった。**（学校評価：将来の夢やなりたい仕事がある生徒（2年）前52.1%→後55.6%と増加）**
○地域の自治会と協力した地域合同防災訓練の際，地域住民との話し合いで，地域の避難所周辺の様子や住民の年齢構成を知り，中学生が地域における役割の重要性を認識し，「何ができるか。何をしなければならないか。」を考えるようになった。
○ボランティアの段階的な働きかけで，地域ボランティア活動「幼，小運動会ボランティア」「祭りボランティア」「おせち料理配達」への参加者が増加し，他の活動にも積極的に取り組むようになった。**（学校評価：ボランティアを前向きに捉える生徒 前83.1%→後85.7%と増加）**

● その他

○小須戸コミュニティ協議会の企画で，中学1年生が小須戸地域で取材を行い，子どもの視点で「今」の小須戸の現状分析や「未来」の町づくりに関する夢のあるアイディアを町の役場の壁面に投影し，プレゼンテーションを行うなど新しい試みも行っている。

山の手花の会・花水隊の皆さんや地元の園児・小学生と一緒に駅の花植え活動

一人暮らしのお年寄り世帯や障がい者世帯へおせち料理を配達する活動

こんな活動です

創立150年　山階地域の底力

～「であい・ふれあい・ささえあい」 すべては地域の子どものために～

京都府京都市	●活動名	●関係する学校名
	山階学校運営協議会 「あいあい山階」	京都市立山階小学校

協働活動開始年度	平成　17　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成17年9月2日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 8人		
ボランティアの数	延べ登録人数 86人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=109109				
●連絡先	京都市教育委員会　生涯学習部	☎ 075-251-0456			

●活動の概要・経緯

平成13年度生活科全国大会・平成14年度学習指導要領の改訂に向け，生活科や総合的な学習の時間の研究に取り組むため，地域の協力を得て「地域に学び」「地域を愛する」子どもを育てる教育を推進。平成14年度には創立130周年を迎え地域・保護者・学校の絆が深まり，クラブ活動等にも地域の方が参画。平成15年・16年には，「お話の会すずかけ」「みまもり隊」「なかよし菜園」も活動を開始するなか，平成17年に，児童の実態と学校教育目標を明確にし，学校評価を進めながら地域・保護者・学校が共通認識を持ち一体となって活動できるよう，「であい」「ふれあい」「ささえあい」を合言葉として，山階学校運営協議会「あいあい山階」が設立された。理事会を柱として，4委員会（学びを拓く委員会・心を育む委員会・体を鍛える委員会・やすらぎを守る委員会）と8部会（学習支援・幼小中連携・読書活動・栽培活動・文化活動・スポーツ活動・健康活動・防犯防災美化）で構成。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

学びを拓く委員会では，生活科の学習で「地域の先輩」として子どもたちに季節ごとの活動や昔あそびを教えたり，インタビューに答えたりしている。心を育む委員会では，「お話の会すずかけ」が朝の読み聞かせや図書貸し出し・整備を実施。また，「なかよし菜園」で季節ごとに野菜について教わり各学年の畑で育て収穫し，一部の野菜は夏まつりや冬のおもちつきの会で児童が販売したり，将棋・音楽・理科・自然観察・子ども劇団・伝統の6つのクラブ活動で地域と一緒に活動したりしている。体を鍛える委員会では，放課後部活動である卓球とサッカーを地域指導者が中心となって実施。やすらぎを守る委員会では，「みまもり隊」が毎日10名程度登下校時に道に立ち子どもたちに声掛け。子どもの様子や安全に関する情報も学校へ提供。

【実施に当たっての工夫】

・年3回，理事会を開催し，教育活動や子どもたちの様子，あいあい山階の活動状況等について話し合い，改善を検討。
・年2回，あいあい山階の総会を行い，理事・委員をはじめ，各回に保護者の約半数が参加。全体会で取組や課題等について認識を共有し，その後8部会に分かれ，理事を中心に地域の方・保護者・教職員が一緒になり，あいあい山階の活動について話し合う。

【関係機関・団体等との連携状況】

理事会のメンバー構成が，地域に顔が広い，山階校区の諸団体（自治連合会・自主防災会・少年補導委員会等）の代表者やおやじの会会長，放課後まなび実行委員長など非常に多様。さらに，現役世代の保護者と太いパイプを持つ，過去にPTA会長をしておられたOB・OG・現役保護者が加わり，学校の取組に地域や保護者の協力を得るための土台が整っている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

本校の児童の学校生活には，地域の方々が広く深く関わってくださっている。子どもたちは，入学したその日から登下校や学校での様々な活動で地域の大人に見守られ，支えられる経験を通して，自分が地域の一員として愛され，大切にされていることを実感している。また，地域の方々や保護者も，学校の取組や子どもたちとの活動に主体的に参画していくことで，学校運営や子どもたちの成長に直接携わることができる喜びを感じてくださっているようである。学校運営協議会が発足して16年目。地域と保護者を巻き込んだ多様な取組が充実期を迎え，学校目標にある「ふるさと山階 なかまと共に」の具現化と，「地域に学び 地域を愛する」子どもたちの育成が成果として順調に表れていると感じている。

● その他

学校に関わってくださる方々を日頃から意識できるよう，玄関付近に写真を掲示している。また，子どもたちからも感謝の気持ちを伝えるため，3年生の総合的な学習の時間「山階のすてき」等を活用して，お世話になっている方々に感謝状やメダル等を作成し渡す取組をしている。

【親しみをもつ】最も目立つ玄関の掲示板に「みまもり隊」や「地域の先輩」の写真と名前を掲示。

【感謝を伝える】3年生の総合的な学習の時間「山階のすてき」で感謝状とメダルを作成しプレゼント。

こんな活動です

「結いの里」大原で，子どもたちと地域の未来をつくる
～「ふるさと」と「つながり」をキーワードに～

京都府京都市	●活動名	●関係する学校名
	京都大原学院学校運営協議会	京都市立大原小中学校

協働活動開始年度	平成　19　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成19年2月7日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	地域人材育成		
	地域未来塾	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 14人		
ボランティアの数	延べ登録人数 102人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://cms.edu.city.kyoto.jp/weblog/index.php?id=106504				
●連絡先	京都市教育委員会　生涯学習部	☎ 075-251-0456			

開設10周年に学院生が描いた壁画が地域の力でトートバッグになりました

●活動の概要・経緯

京都大原学院（大原小中学校）は，平成21年に開設された施設一体型小中一貫教育校である。学校運営協議会はその3年前に設立され，「新しい学校づくり」が検討された。少子高齢化，若者の流出，過疎化など，地域の課題を，学校を中心として解消していこうと進めてきた。「地域文化の継承」と「地域リーダーづくり」が学校の役割に追加。学校教育目標の「大原のゆとりある心を自信を持って伝えられる子に！」は，大原の「良さ」を見つけ，それを自らの自信として，ふるさと大原を誇れる子にすること。そのためつけたい力である「規律規範意識」「科学的思考」「コミュニケーション力」を，地域の教育資源（地域の自然，施設，産業，人々）を使って身につけさせ，卒業させることが目標になっている。したがって，多くの教育活動を「地域と共に」「地域のために」という理念に基づいて実践しており，また「地域に返す」取組を行ってきた。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・三千院学習（5年生「地域を知る」学習）：この学習は，①地元寺院である三千院での写経・清掃体験，②今は廃校になっている百井分校まで歩く百井登山，③そこでの清掃・地域の方からのお話，④地元産業の草木染め体験を行う。登山には地域の方が付き添い，子どもたちの安全を守る。企画から当日の危機対応まで，学校運営協議会の企画推進委員会が学校と協働して行う。
・大原提言（9年生が地域の課題解決に向けて提言するもの）：9年生が考えた「大原の人口を増やすために」「観光客にやさしい工夫」などのテーマを提言に変えるため，企画推進委員が中間発表での助言や取材協力，報告会に向けて地域への広報活動を行います。報告会後，実現可能な提案は、自治会や観光保勝会で実際に活用する。

【実施に当たっての工夫】

毎月行われる学校運営協議会理事会で，取組の目的・概要・獲得目標を地域・学校でしっかり確認し，成果を得られるように進めている。常に地域と学校との連携を考え，委員は会議以外でも学校に足を運び，子どもたちの様子を見て，打ち合わせをしていく。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会から，警察・消防・病院・サポートセンターなど公共施設への協力を依頼し，事故のない活動を行えるようにしている。また，学校行事を最優先にして，観光保勝会や大原里の駅での地域行事の日を考え，それぞれの行事が重ならないように調整している。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・地域を教材にした授業が増えたため，学校に関わる地域の方々が増えた。特にお年寄りの方が学校に関わることで，やりがいや居場所を見い出している。大原外に住んでいた人も，「我が子をこの学校に通わせたい」と地域に戻り，学校の人数減の歯止めになった。
・「大原提言」「大原大掃除」などを見た地域の大人たちが，「子どもたちが頑張っているのだから我々も」と，「大人の大原提言」や「地域の大原大掃除」が始まった。子どもたちの姿を見て大人たちが行動を起こしている。
・子どもたちにとっても，地域のありがたさと良さを感じる機会を得て，地域貢献や社会貢献に目を向けられるようになった。

● その他

・NPO法人里づくり協会は，ゲストティチャーなどで関わっている。また，本校のハワイ大学交流にも協力していただいている。本校ではICT活用も充実させ、令和2年コロナ禍で休校の際には，7年生以上がオンラインによる学習を行うことができた。

地域文化継承
運動会で八朔踊りを踊る

大原提言
地域から学び、地域に返す

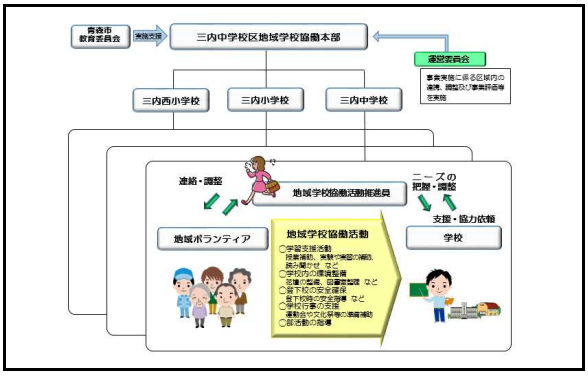
こんな活動です

学校と家庭・地域をつなぎ合わせてつくる教育環境

青森県青森市	●活動名	●関係する学校名
	三内中学校区地域学校協働本部	青森市立三内中学校 青森市立三内小学校 青森市立三内西小学校

協働活動開始年度	平成　20　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和元年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動		―	―	
	―		放課後子供教室		
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―		地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 3人	
ボランティアの数	延べ登録人数 155人	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	―				

●連絡先　青森市教育委員会事務局文化学習活動推進課　☎ 017-718-1376



●活動の概要・経緯

学校と地域が一体となって、次世代の子どもの健全な育成をめざす体制を整えるために、平成20年10月に「学校支援地域本部」を設置した。学校は、社会に開かれた教育課程の実践のため、地域人材や地域素材を活用した良質できめ細やかな教育活動を展開している。

地域学校協働活動推進員は、学校と地域ボランティア間の連絡調整を行っており、学校のニーズに応じたコーディネートを実践するために、保護者を始め地域住民の参画に向けたリスト（ボランティアバンク）を作成するほか、地域にある諸団体等とのコミュニケーションを密にし、積極的に地域からの情報収集及び情報発信に努めている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

平成20年度から学校支援地域本部事業として活動を開始し、登下校の見守りや授業補助等の「学校における働き方改革」を踏まえた活動に加えて、田植え体験、地域の歴史学習、卒業生を講師に招いてのねぶた絵制作体験など、地域の特色・人材を活かした多様な活動を行っている。

地区を担当する地域学校協働活動推進員の熱意も非常に高く、ＰＴＡや町会などの地域団体へも積極的に参加してコミュニケーションをとり、近隣学区の推進員とも連絡・連携し、幅広い地域住民・団体等の参画を得ることで、さらに地域の特色を活かした、より子どもたちに魅力あるものへと活動の幅を広げている。

【実施に当たっての工夫】

地域住民（町会など）からの情報や、過去の学校支援活動への参加実績を基にして、予め活動内容に応じて対応可能な地域ボランティアを「ボランティアバンク」としてリスト化し、担当教員や地域学校協働活動推進員の交代があってもボランティア等の人材探しに苦慮せずに継続的に運営できるような体制を構築している。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校運営協議会に学校（学校長）、地域住民（町会長など）及びその2者間の調整役となる地域学校協働活動推進員が参画し、協議会の中での話し合いを通じて、学校からの支援ニーズ、地域の人材についての情報を共有し、活動の企画・調整に役立てている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

【学校の教育力アップ】 子どもたちが多様な経験・体験をしたことにより、学習意欲の喚起につながっている。また、活動に参加するなかでの地域住民との触れ合いを通し、子どもたちの規範意識やコミュニケーション能力の向上につながっている。

【地域の教育力アップ】 地域住民が自らの経験を学校教育に活かすことで、自己実現につながっている。また、より多くの地域住民が活動に参加することにより、地域住民同士のコミュニケーションが深まり、地域の活性化及び学校を核とした「地域全体」で子どもを育てる体制づくりにつながっている。

● その他

毎年実施している「田植え・稲刈り学習」、「学区内探検」や「地域の歴史学習」（総合的な学習）などには多数の地域住民が参加し、子どもたちはもとより、指導にあたる地域住民も児童との触れ合いを楽しみにしており、活動に参加することが地域住民の生きがいとなっている。

地域ボランティアによる「田植え学習」の様子

学校ＯＢによる「ねぶた絵制作体験」の様子

こんな活動です

子どもを見守る5部会による「えのきコミュニティ」

群馬県高崎市	●活動名	●関係する学校名
	えのきコミュニティ	高崎市立北小学校

協働活動開始年度	平成　18　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成18年4月1日指定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 8人	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 12人		
ボランティアの数	延べ登録人数 47人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://swa.city.takasaki.gunma.jp/kita_sho/				
●連絡先	高崎市立北小学校	☎ 027-322-3515			

子どもを見守る5部会を柱とした「えのきコミュニティ」

●活動の概要・経緯

平成18年度に高崎市コミュニティ・スクールの指定を受け、児童の健やかな成長を見守り、学校の教育力の向上を図ることを目的に活動を開始し、地域と学校が一体となった活動を継続的に実施。学習コーディネータが算数の授業に毎日参加し、きめ細かな見取りや支援を行い、子どもの学習意欲が途切れないように援助している。また、ハックベリークラブのボランティアグループによる読み聞かせ等を実施し、読書好きな子どもの育成に努め、学力向上の底上げを図っている。さらに、区長会や地域ボランティアによる校区内パトロールや下校時の保護者のグループパトロールを実施して登下校時の見守りを強化している。そして、朝学習や放課後学習を学習コーディネータが中心となって、地域ボランティアグループを作り、学ぶ意欲を育む実践を行っており、地域・保護者・学校が一体となって、学校教育活動や校内教育環境整備への積極的な協働活動を行っている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

〇コミュニティ・スクールを支える「子どもの見守り」5部会
①子どもの学習への見守り(学習支援部会)：朝・放課後学習（えのき学習）と常時授業支援ボランティア（算数、英語支援）
②子どもの読書習慣への見守り(読書支援部会)：ハックベリークラブによる読書環境の整備と読み聞かせ
③子どもの豊かな体験活動実施への見守り(体験活動支援部会)：親子キャンプや校庭緑化整備、校内清掃等の実施（親父クラブ）
④子どもの健康・安全への見守り(健康・安全支援部会)：学校保健委員会（年5回、学校三師の協力）開催、下校時の児童も安全見守りパトロール（区長会や地域ボランティアとの連携と保護者のパトロール活動）
⑤児童の俯瞰的な見守り(情報発信部会)：児童の学校活動における情報の収集・見守りと活動記録の発信

【実施に当たっての工夫】

〇学校運営協議会の場で、子どもの見守りについて、様々な視点で協議。具体的な方策や案を検討し、実施の方向性を探る。
〇コーディネーターや準コーディネーター、管理職、教務主任等が連携し、計画立案や修正等を調整しながら迅速に計画を策定している。
※学校運営協議会には、PTA会長や歴代PTA会長も委員として参加している。

【関係機関・団体等との連携状況】

〇子どもを見守る5部会の活動（PTA・地域・関係機関）
〇地域住民や保護者で構成される図書ボランティア（ハックベリークラブ）や体験活動支援ボランティア（えのきクラブ）との連携を積極的に実施しており、校内の教育環境の整備が円滑に行われている。
〇学校運営協議会には、区長会長や青少年健全育成協議会長が委員として参加しており、地域の安全確保や子どもたちの見守り等への協力を頂いている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

高崎市では、「元気アップ高崎」による健康教育や、学力向上を図るための放課後学習等を積極的に推進しており、本校でも、健康教育に積極的に取り組むとともに、学力向上に向けて朝学習「えのき730」や放課後学習「えのき320」の実践に努めている。これらの実践の支援には、地域協働活動による地域人材の協力が欠かせないものとなっており、緊密な連携による協働活動は、子どもたちの資質・能力の向上を目指す上で重要な力となっている。

また、令和2年度に開催された学校運営協議会では、地域をよく知る委員からの助言により、子どもの安全を見守るための手立てを協議し、多くの示唆を頂くことができ、交通事故や不審者の遭遇等、子どもの安全を脅かす事案は減少傾向が見られる。

● その他

学習支援活動では、朝学習「えのき730」や放課後学習「えのき320」の実践に努めていることが本校の特徴となっている。また、普段の算数の授業には、学習コーディネータが常時、授業でのサポートを行っており、学力向上の大きな力となっている。

【警察署スクールサポーターによる訓練】

【地域消防団による放水体験】

【学級活動（地震に備えて自他の命を守ろう】

【引き渡し訓練】

こんな活動です

SSSによる地域の教育力UP
－学校で学んだことを生かして地域に参画する児童の育成－

埼玉県川口市	●活動名	●関係する学校名
	幸町小学校・学校応援団	川口市立幸町小学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 平成29年4月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 2人		
ボランティアの数	延べ登録人数 372人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	有
参考URL	http://sky.netcommons.net/saiwaichou/htdocs/				

●連絡先　川口市教育委員会教育総務部生涯学習課　☎ 048-259-7655

学校運営協議会における熟議の様子
（学校応援コーディネーターが委員として活躍）

●活動の概要・経緯

川口市立幸町小学校の「学校応援団」（幸町小サポートスタッフ（SSS））は、学校応援コーディネーターを中核に、学習やクラブ活動支援、環境整備、安全見守り活動などの「学校支援活動」や、公民館（学校と合築）の利用団体を講師とする特別授業の実施及び学びの循環の推進といった「地域人材育成」に取り組んでいる。

教育活動や教育環境の一層の充実を図るだけでなく、教員が子供と向き合う時間の増加、地域住民等の学習成果の活用機会の拡充、家庭・地域の教育力の活性化などもねらいとし、SSSの体制づくりを推進している。

また、平成29年度に学校運営協議会が設置され、学校応援団との連携体制を構築している。特に、学校応援コーディネーターを学校運営協議会の委員として委嘱し、地域学校協働活動と学校運営協議会のスムーズな連携及び活動の充実を実現させている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①学校応援団（SSS）による学校支援活動：保護者や地域住民等の参画及び大学との連携により、各教科におけるサポート、学校行事の運営補助、登下校や校外学習での見守り活動など、幅広く継続的に支援活動を行っている。
②社会に開かれた教育課程の実現：学校で学んだことを生かして地域の活動に積極的に参画する児童の育成を目指し、地域の祭りへの音楽提供、地区防災訓練や地区運動会への参加など、地域と学校の連携・協働体制が構築されている。
③学校運営協議会との連携体制：学校運営協議会を地域と学校の目標共有の場として明確に位置付け、地域学校協働活動について協議するなど、連携体制が整っている。

【実施に当たっての工夫】

・HPやメールによる積極的な周知活動により、SSSへの登録人数が倍増し、多くの地域住民等の参画を得ることができた。
・学期ごとに活動のまとめを行うとともに学校運営協議会で報告するなどPDCAサイクルを構築し、持続可能な活動を実現している。
・地区運動会開催に向けてCMを作成し、校内で放送したことにより、多くの児童の参加につながった。

【関係機関・団体等との連携状況】

・学校運営協議会において地域と学校とが目標を共有するとともに、学校応援団の活用について熟議し、地域学校協働活動の充実を図っている。
・順天堂大学と連携し、学生がSSSとして授業補助などを行っている。学生が卒業しても次の学生が関わるため、継続した活動が可能となっている。
・公民館と連携し、公民館利用団体も学習支援活動を行っている。地域住民等の学習成果の活用機会となっている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・幅広い地域住民等の参画を得る体制が整い、学校応援団の活動が充実してきている（学校応援団参加延べ人数が前年度比200%）。また、学校HPのアクセス数が年間20万を超えるなど、保護者や地域の学校に対する関心が高まっている。
・児童は、学習支援や見守り活動等でSSSと関わったり、地域行事に参画し地域住民等と関わったりすることで、地域の一員としての自覚を高めることができている。（地区運動会参加児童数　前年度比150%）
・見守り活動により登校時の事故0を達成。交通量の多い都市部という地域の改善・充実につながっている。さらに、教職員の負担軽減にもなり、子供に向き合う時間が増えるなど、「学校における働き方改革」としても効果が表れている。

● その他

・学校応援団の環境整備では、配膳台カバーやトイレットペーパーホルダーカバーの作製手順等をHPで公開することにより、SSSが自分の都合よい時間に作業できるようになり、効率化につながった。

学校応援団（SSS）による学習支援

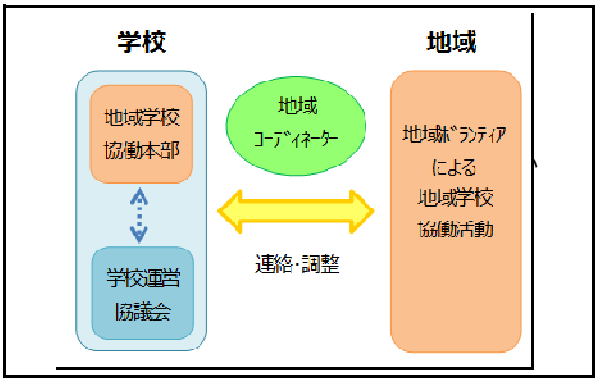
地区運動会に積極的に参画する児童

こんな活動です

地域みんなで学び支えあう　地域学校協働活動

石川県金沢市	●活動名	●関係する学校名
	金沢市立城南中地域学校協働本部	金沢市立城南中学校

協働活動開始年度	平成　29　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和2年9月1日設置	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	地域人材育成		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 ―	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数 1人		
ボランティアの数	延べ登録人数 35人	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
参考URL	http://cms.kanazawa-city.ed.jp/jyounan-j/				
●連絡先	金沢市教育委員会生涯学習課	☎ 076－220－2441			



●活動の概要・経緯

平成23年度に城南中学校支援地域本部を立ち上げ、学校支援活動を実施。実施7年目となる平成29年度より、金沢市立城南中地域学校協働本部として新体制を整え、学校支援活動で培ったノウハウを活かしながら地域学校協働活動を展開。また、本事業を土台とし、令和2年9月よりコミュニティ・スクールの運営を開始。2つの事業を一体的に推進し、学校・保護者・地域団体が連携・協働しながら様々な活動に取り組んでいる。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

・合格祈願餅つき：受験など新たな旅立ちに向かう3年生とその保護者に向け、目標達成を祈願する激励会を開催。生徒の意識向上を図るとともに、地域住民・PTA・生徒の参加者全員が協働することで、親子の絆や地域の方との繋がりを強める機会とする。また、生徒に餅つきや太鼓演奏を体験させ、日本の良き伝統文化に触れ、継承する機会とする。
・花植え活動：生徒と地域の方々、保護者が協働し、土の準備や花植え、花壇周辺の清掃を行い、学校玄関前を明るく整える。
・伝統芸能教室：地域の「加賀万歳」継承者と保存会の方々より説明と体験を実施。
・夏季補充授業：夏季休業中の補充授業において、実施教科を得意とする地域の方による学習指導を行う。

【実施に当たっての工夫】

・従事する方が活動に充実感、満足感を得られるよう、予め、適材適所の役割分担を決める、作業の手順を配布・掲示する、など手持ち無沙汰感なくスムーズに作業が進むよう工夫している。また、そのために関係者と事前の打ち合わせを細かく行っている。

【関係機関・団体等との連携状況】

・地域の花植えボランティアグループとの協働を実施

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

・餅つきを経験したことがない生徒たちが、手慣れた地域の方々からやり方などを教えてもらうことによって、自然にコミュニケーションが取れ、お互いに笑顔が溢れている。「楽しかった！」「みんなに合格して欲しい。」「また来年ね！」との声が聞かれ、地域の方に学校や生徒たちを身近に感じてもらえた。生徒にとっては、地域のたくさんの人から見守られていることを感じ、意欲UPと地域への愛着心醸成に繋がっている。
・生徒たちが日々花の成長を育て、見守る経験を通じ、生徒たちの心に優しさや思いやりの気持ち、落ち着きが増しているように思われる。また、生徒たちが花の成長を楽しんでいる様子が伺える。

● その他

図書ボランティア活動、公民館文化祭への学校紹介と生徒作品展示、生き方教室

合格祈願餅つき（餅をつく生徒と地域のお手伝いの方々）

環境整備（花植え活動）

こんな活動です

地域の学校、地域も学校
-学校・家庭・地域がひろげる「はまっこ　まんまるねっと」-

兵庫県尼崎市	●活動名	●関係する学校名
	浜小学校地域学校協働本部	尼崎市立浜小学校

協働活動開始年度	平成　30　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	有
活動区分	学校支援活動	―	―		
	―	放課後子供教室			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		2人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	有	ＩＣＴ機器活用	無
	8040人				
参考URL	―				
●連絡先	尼崎市立浜小学校	☎ 06-6499-1536			

地域学校協働本部会議で、「学校のニーズ」と「地域ができる支援」について話し合っています。

●活動の概要・経緯

平成30年度に地域学校協働本部を設置し、PTA、学校支援ボランティア、主任児童委員、地域団体の方々が集まり、年3回以上の地域学校協働本部会議を開催するとともに、定期的に発行している「コーディネーター通信」で会議の内容を紹介している。

本部の設置前から、図書ボランティアや見守り活動が行われていたが、本部の設置後は各ボランティアの活動に留まらず、学校の目標「心豊かな子どもを育てる」を地域と共有し、校長が発信する「運営方針」や「育てたい子ども像」を地域が理解した上で、学校が求める支援と地域としてできる支援をすり合わせながら、地域全体で学校の思いに寄り添って活動を行なっている。

具体的な教育活動の支援としては、生命の大切さに向き合う人権学習や職業の体験学習等の子どもの心の成長に繋がる様々な活動が展開されている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

①図書ボランティアは図書室の環境整備のみならず、学校の教育ニーズを理解し、読み聞かせ、大型紙芝居に取り組んでいる。
②「心と命を大切にする」という学校の教育ニーズに応え、地域学校協働活動推進員がコーディネートし、「パラスポーツ選手による講義」「体験・赤ちゃんと生命の授業」等を実施。
③校区内における歩道橋及び周辺の大規模工事により通学路を変更した際は、子どもたちの安全確保を第一に、地域学校協働本部で安全策を検討するとともに地域の方々による登下校の見守り体制の強化に取組んでいる。

【実施に当たっての工夫】

学校長と地域学校協働活動推進員を核として、地域学校協働本部会議で「子どもたちのために何ができるのか」を念頭に話し合いを進めている。また、地域学校協働活動推進員が「コーディネーター通信　はまっこ　まんまるねっと」を発行し、会議の内容や地域学校協働活動について地域に発信し、広く活動を周知することにより、認知度を高め、協力者の増加につなげている。

【関係機関・団体等との連携状況】

学校行事等への支援は、PTAと取組方針を共有し、連携して行っている。また、市長部局の小田地域課に配置されている小学校区担当職員と連携し、地域人材や地域活動団体の紹介、連携について協力を得ている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

①地域の方々が学校や子どもに対する支援を体験することで子どもたちと関わる喜びを感じ、貢献したいという意識が高まるとともに、地域の方々同士々のつながりも生まれている。
②地域学校協働活動推進員が学校の「まち探検」の授業において、探検先としての受入れを地域の企業・事業者に呼びかけを行うことで探検先が増え、バラエティに富んだものとなり、受入れ企業・事業者も学校や地域の子どもに対する関心を高め、地域学校協働活動に対する理解を深めている。

● その他

地域の企業の協力を得て「まち探検」や「キャリア教育」を実施したことで、子どもたちと企業の方が挨拶を交わすようになるとともに、子どもたちの職業観や地元愛の醸成に繋がっている。企業からも「今後も子どもの学習に協力したい」という声があがっている。

「まち探検」地域の企業に訪問

「キャリア教育」ブース型講義

こんな活動です

子どもたちに朝食を！「しらさぎキッチン」

～地域ぐるみでゲーム依存を予防し、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣づくり～

香川県高松市	●活動名	●関係する学校名
	鶴尾校区学校運営協議会	高松市立鶴尾小学校 高松市立鶴尾中学校

協働活動開始年度	令和　元　年度	学校運営協議会	指定・設置日 令和3年4月1日設置予定	地域学校協働本部	無
活動区分	学校支援活動	地域課題解決学習	―		
	―	―			
統括的な地域学校協働活動推進員等の数	配置人数	地域学校協働活動推進員等の数	配置人数		
	―		3人		
ボランティアの数	延べ登録人数	企業・ＮＰＯ等との連携	無	ＩＣＴ機器活用	無
	35人				
参考URL	http://www.edu-tens.net/syoHP/turuoHP/				
●連絡先	高松市立鶴尾小学校	☎ 087－867－2564			

●活動の概要・経緯

本校区は高松市の中心市街地に位置しており広い校区にも関わらず、近年大きく児童生徒数が減少している。その背景としては、地域産業の衰退や公営団地の老朽化、生活スタイルの変化等があるが、近隣校区と比較しても大きな減少幅からは、複雑な地域事情を抱えていると言わざるを得ない。そのような背景の下、1小学校・1中学校に加え、家庭、地域、幼保、文化センター等までが一体となって、魅力ある校区を作ろうと設立されたのが、「鶴尾校区学校運営協議会」である。

本協議会では、中学校卒業時の子どもたちの姿を「15の春」という目標値として共有し、実践を重ねてきているが、校区審議会での議論を経て2021年3月には中学校が閉校し、小学生進学先として近隣4中学校からの選択制が採り入れられた。以後は小学校がコミュニティと文化の中心となり、地域学校協働活動の役割を大きく担っていくことが期待されている。

● 活動の特徴・工夫

【地域学校協働活動としての特徴的な取組】

子どもたちに朝食を！「しらさぎキッチン」 ～地域ぐるみでゲーム依存を予防し、「早寝・早起き・朝ごはん」の生活習慣づくり～

学校運営協議会では、進学先中学校を選択していく小学生の課題として学力低下が話題にされていた。そこで、その原因の一つとして生活習慣の乱れが取り上げられ、地域全体でこの問題の解決にあたろうと、毎日朝食をとることを目的とした「子ども食堂」を実施することとした。2019年10月に第1回を実施し、コミュニティ協議会等とも連携しながら関係団体から食材の提供を受ける等して、月2回開催している。年度末までに計8回実施し（その後は感染症不安の為中断）、全校児童の半数以上が参加している。子どもたちの早起き効果にとどまらず、地域での子育てという観点で、各種団体や保護者が意識を共有できるようになってきている。

【実施に当たっての工夫】

地域社会内の貧困家庭への課題対応と考えられることの多いいわゆる「子ども食堂」を、生活習慣の改善という視点から、全校児童を対象として実践するという、発想の転換を行った。そのためには、教育課程開始前の早朝の学校内施設を利用した。運営にあたっては、地域、保護者、教職員等、趣旨に賛同いただける方の募集を広く呼びかけ、毎回30人を超えるスタッフで開設できている。

【関係機関・団体等との連携状況】

開設準備にあたり、高松市保健所、高松市子育て支援課、高松市教育委員会、高松市社会福祉協議会等、行政各部署より指導をいただいた。運営にあたっては、コミュニティ協議会の「にぎわい創出事業」と連携することで、地域で栽培された野菜を食材として提供してもらっている。さらに、日赤奉仕団をはじめ個人有志からも寄付をいただき運営資金に充てている。

● 地域学校協働活動を実施しての効果・成果

〔5回の「しらさぎキッチン」を実施しての保護者アンケート結果から〕　―生活習慣改善のきっかけとなっている―

回答家庭の52%が「しらさぎキッチン」のある日は、朝早く起きていると回答した。82%が朝食のことを家庭の話題とした。

（以下自由記述回答）・ 友だちとの朝食を楽しみに早起きをしている。　・ 友だちと楽しそうに朝食を食べている姿を見て、よい一日のスタートが切れそうだと思った。　・ 早起きのきっかけづくりになっている。　・ 家でも朝食を食べて小学校に行けるようになったらいいと思った。　・ これを機会に朝食を作る方にも参加してみたい。

〔学級担任の報告から〕　―遅刻児童が減少している・学習への集中力が維持している―

● その他